

管理者ガイド

Sun™ ONE Portal Server

6.0

817-2511-10
2003 年 3 月

Copyright © 2002-2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、iPlanet、iPlanet のロゴ、Solaris、Java、Java 2、JavaScript、JavaServer Pages、JSP、Java Development Kit、JDK、J2EE、Enterprise JavaBeans、EJB、および StartOffice は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。Netscape と Netscape N のロゴは、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。その他の Netscape のロゴマーク、製品名、およびサービス名は、Netscape Communications Corporation の商標であり、国によっては登録商標となっている場合があります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions

本書で言及している製品の使用、複製、配布およびデコンパイルの制限はライセンス同意書に明記されています。Sun Microsystems, Inc. および該当するライセンス所有者の書面による事前の同意をなくしては、本書の一部または全体を、いかなる手段によっても複製することは禁止されています。

このマニュアルは「現存の状態」で提供され、商用性、特定用途の適合性、または侵害がないことの暗黙的な保証を含むすべての明示的または暗黙的な条件、表現、および保証は、法的に無効と見なされない範囲で放棄されます。

目次

本書について	15
対象読者	15
お読みになる前に	15
内容の紹介	16
表記上の規則	18
モノスペースフォント	18
太字のモノスペースフォント	18
イタリックフォント	19
角括弧	19
コマンド行プロンプト	19
ユーザーインターフェイスに共通の動詞	19
関連マニュアル	20
オンラインマニュアル	20
第 1 章 Sun™ ONE Portal Server	
の管理の概要	21
アーキテクチャの概要	21
ポータルアクセスの概要	22
サービス設定の概要	24
iPlanet Directory Server Access Management Edition サービス	24
Sun ONE Portal Server サービス	25
デスクトップ	25
リライタ	25
検索エンジン	26
NetMail	26
Sun ONE Portal Server サービスのための設定メカニズム	26
管理の概要	29
iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールの使用方法	29
コマンド行ユーティリティの使用方法	31

第 2 章 認証、ユーザー、およびサービスの管理	33
iPlanet Directory Server Access Management Edition の概要	34
iPlanet Directory Server Access Management Edition 機能の概要	34
比較: Portal Server 3.0 と Portal Server 6.0	35
iPlanet Directory Server Access Management Edition の制約	40
iPlanet Directory Server Access Management Edition インタフェース	41
iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソール	41
iPlanet Directory Server Access Management Edition のコマンド行	42
iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールへのログイン	42
IP アドレスを使用した管理コンソールへのログインの設定	43
基本情報の表示	44
Sun ONE Portal Server の起動および停止	44
iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスの管理	45
インストールおよび Sun ONE Web Server のパッケージ化	45
ユーザー管理	46
シングルサインオン / 認証	46
サービス管理	46
Sun ONE Portal Server ユーザーの管理	47
組織、サブ組織、およびロールの設計	48
組織およびサブ組織	48
ロール	49
ユーザー	49
シナリオ 1: サブ組織とロールから構成される階層構造	49
シナリオ 2: 平坦なツリー構造	51
組織およびサブ組織の新規作成	52
新規の組織あるいはサブ組織を作成する	53
サービスを登録する	54
サービスのテンプレートを作成する	55
新規ユーザーを手動で追加する	55
新規ロールを作成する	56
ロールをユーザーに割り当てる	57
既存のユーザーの Sun ONE Portal Server へのアクセスを有効化する	57
デフォルトの組織のユーザーの有効化	58
デフォルト以外の組織のユーザーの有効化	62
ポータル組織の新規作成	64
認証の構成	68
認証メニューを構成する	69
外部ディレクトリに LDAP 認証を構成する	70
匿名認証の構成	71
匿名認証を構成する (匿名ユーザー セッション方式)	73
匿名認証を構成する (認証なしのユーザー ID 方式)	74
UNIX 認証を構成する	74
Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要	75

デスクトップポリシーを作成する	76
NetMail ポリシーの作成	77
組織にポリシーを割り当てる	77
Sun ONE Portal Server デスクトップへのログイン	78
サンプルのデスクトップにログインする	78
サブ組織にログインする	78
匿名認証を使用してログインする	79
ロギングの管理	79
第 3 章 管理の委任の設定	81
管理の委任の概要	81
委任管理ロール	82
管理の委任モデルの開発	84
管理の委任の設定	85
Role Administrator Roles の ACI 設定の定義	85
コマンド行を使用した ACI の定義	86
管理コンソールを使用して ACI を定義する手順	87
委任モデルのための管理ロールの新規作成	88
ロール管理者ロールを割り当てる	88
ロール管理者ロールの追加制限の設定	89
第 4 章 デスクトップサービスの管理	91
デスクトップの概要	92
デスクトップ用語集	92
デスクトップアーキテクチャおよびコンテナ階層	92
デスクトッププロバイダ	95
デスクトップサービス	95
サンプルデスクトップ	95
デスクトップのカスタマイズ	96
チャンネルのホットデプロイメントの概要	96
プロバイダアーカイブの概要	97
デスクトップサービスの管理	97
デスクトップサービスの登録	98
デフォルトデスクトップサービステンプレートの作成	99
デスクトップポリシーを作成してユーザーに割当て	100
ログインユーザーをデスクトップ URL に正しくリダイレクトする	101
ログインユーザーをデスクトップ URL (グローバル) に正しくリダイレクトする	102
デスクトップサービス属性の値を修正する	102
デスクトップサービス属性 (グローバル) の値を修正する	103
サンプルのデスクトップにログオンする	103
デスクトップログを確認する	104
par ファイルの管理	105

新規の par ファイルを作成する	105
既存の par ファイルを修正する	106
par ファイルを配備する	106
第 5 章 ディスプレイプロファイルの管理	109
ディスプレイプロファイルの概要	109
ディスプレイプロファイルと管理コンソール	111
ディスプレイプロファイルドキュメントの構造	112
DisplayProfile ルートオブジェクト	113
プロバイダオブジェクト	113
チャンネルオブジェクト	115
コンテナオブジェクト	116
ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約	118
ディスプレイプロファイルオブジェクトの検索	119
ディスプレイプロファイルのプロパティ	120
ディスプレイプロファイルのプロパティのタイプ	120
ドキュメントタイプの定義要素の属性	120
ディスプレイプロファイルのプロパティの指定	123
プロパティのネスト	123
名前を付けられていないプロパティ	123
ディスプレイプロファイルのプロパティの伝搬	124
ディスプレイプロファイルのマージ	127
マージプロセスの仕組み	128
ディスプレイプロファイルのマージタイプ	129
remove の例: remove マージによるコンテナの選択したチャンネルリストの修正	130
replace の例: replace マージによるすべてのユーザーの表示からのチャンネルの削除	131
fuse の例: fuse マージによるロールベースのチャンネルリストの作成	132
マージロック	134
マージロックの例: lock マージによるすべてのユーザーに対するプロパティ値の強制	134
マージロックの例: lock マージによるすべてのユーザーの表示からのチャンネルの強制削除	135
表示プロファイルドキュメントの優先順位	135
ドキュメントの優先順位の例 1	137
ドキュメントの優先順位の例 2	138
ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位設定の要約	140
ディスプレイプロファイルと iPlanet Directory Server Access Management Edition	140
ディスプレイプロファイルの管理	141
デフォルトの表示プロファイルドキュメント	144
ディスプレイプロファイルのロード	144
ディスプレイプロファイルをロードする (管理コンソール)	145
ディスプレイプロファイルをロードする (コマンド行)	146
ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードする	147
ディスプレイプロファイル全体を表示する	148
ディスプレイプロファイルを削除する	148

管理チャンネルへのチャンネルとコンテナ管理リンクの使用方法	149
チャンネルとコンテナ管理のデフォルトプロバイダ	149
チャンネルの追加	149
コンテナチャンネルの追加	151
ノートチャンネルについて	152
URL スクレイパーチャンネルでの cookie の使用方法	153
チャンネルまたはコンテナチャンネルを追加する	153
チャンネルまたはコンテナチャンネルのプロパティを変更する	154
チャンネルまたはコンテナチャンネルを削除する	155
コンテナの管理	155
dpadmin コマンドの使用方法	156
dpadmin コマンドの使用方法のガイドライン	158
ディスプレイプロファイルの修正	159
ディスプレイプロファイルのエラーメッセージの概要	159
ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する	160
コンテナのチャンネルを置換する	160
チャンネルのプロパティを置換する	161
コンテナにチャンネルを追加する	162
コレクションにプロパティを追加する	163
コレクションプロパティを追加する	164
チャンネルまたはコンテナからプロパティを削除する	165
プロバイダを削除する	166
コンテナからチャンネルを削除する	166
ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を変更する	167
チャンネルをコンテナで使用できるようにする	167
チャンネルをコンテナで使用不可にする	168
コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択する	169
コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択解除する	169
ディスプレイプロファイルテキストウィンドウの使用方法	170
ディスプレイプロファイルテキストウィンドウにアクセスする	170
第 6 章 NetMail サービスの管理	173
NetMail の概要	173
NetMail サービスの管理	173
NetMail サービスの登録	174
デフォルトの NetMail サービステンプレートの作成	174
ユーザーへの NetMail ポリシーの作成と割り当て	175
Netmail のサービス属性の変更 (特定の組織)	176
Netmail のサービス属性の変更 (すべての組織)	177
NetMail Lite で新しいウィンドウを開く設定	177
リモートアドレス帳の使用方法 (LDAP)	178

第 7 章 リライタサービスの管理	181
リライタサービスの概要	181
相対 URL の絶対 URL への拡張	182
URLScaperProvider の制限	182
ゲートウェイ URL を既存の URL の前に指定	183
サポートされる URL	184
リライタルールとルールセットの定義	184
HTML コンテンツのルール	185
HTML コンテンツの属性ルール	186
HTML コンテンツの JavaScript トークンルール	186
HTML コンテンツのフォームルール	187
HTML コンテンツのアプレットルール	188
JavaScript コンテンツのルール	188
JavaScript 変数	189
JavaScript 関数パラメータ	190
XML コンテンツのルール	192
XML のタグテキスト	192
XML の属性	193
リライタサービスの管理	193
SSL 用のリライタ URLScaperProvider の設定	194
デフォルトテンプレートからルールセットを新規作成	195
既存のルールセットの編集	195
ルールセットのダウンロード	196
ルールセットのアップロード	196
既存のルールセットの削除	197
デフォルトのルールセットの復元	197
第 8 章 検索エンジンサービスの管理	199
検索エンジンの概要	199
検索データベース	200
検索ロボット	200
データベース分類カテゴリ	201
検索チャネルの設定	202
検索サーバーの初期設定	203
検索 URL の定義	204
検索エンジンの管理	205
検索エンジン操作の表示、管理、監視	205
基本設定の表示または管理	205
詳細設定の表示または管理	206
検索エンジンの活動の監視	206
ロボットの管理	207
ロボットの開始と停止	207
ロボットを開始および停止する	208

サイトの定義	208
ロボットでインデックスを作成するサイトの定義	209
ロボットのクロージングの制御	209
ロボットのクロージングを制御する	209
ロボットデータのフィルタリング	210
新規フィルタ定義を作成する	211
既存のフィルタ定義の変更	212
フィルタを有効または無効にする	212
インデックス作成の属性の定義	212
インデックス作成の属性の定義	213
ロボットユーティリティの使用方法	213
サイトプロブユーティリティの実行	213
シミュレータの実行	214
ロボットのスケジュールの設定	214
ロボットをスケジューリングする	214
データベースの管理	215
データベースへのインポート	215
インポートエージェントを作成する	216
既存インポートエージェントを編集する	217
インポートエージェントをすぐに実行する	217
処理するインポートエージェントのスケジュールを設定する	218
RDの編集	218
RDを編集する	218
データベーススキーマの編集	219
データベーススキーマを編集する	220
スキーマの別名の定義	221
スキーマを別名で定義する	221
データベース分析の表示	221
データベース分析情報を表示する	222
データベースのインデックスの再作成	222
データベースのインデックスを再作成する	222
データベースの期限切れ	223
データベースを期限切れにする	223
データベースの破棄	223
サーバーから期限切れのRDを破棄する手順	224
データベースのパーティションの作成	224
データベースの最適化	225
データベース分類の管理	225
カテゴリの設定	225
子カテゴリの作成	225
兄弟カテゴリの作成	226
カテゴリの更新	226
カテゴリの削除	227

分類規則の定義	227
分類規則を定義する	227
カテゴリツリーのインデックスの再作成	228
カテゴリツリーのインデックスの再作成	228
第 9 章 検索エンジンロボットの管理	229
検索エンジンロボットの概要	229
ロボットの動作の仕組み	230
ロボット設定ファイル	231
ロボットプロセスパラメータの設定	232
フィルタリング処理	232
フィルタ処理の段階	233
フィルタの構文	235
フィルタディレクティブ	236
フィルタの書き込みまたは修正	236
ユーザが変更できるパラメータ	237
サンプルの robot.conf ファイル	244
第 10 章 定義済みのロボットアプリケーション関数	245
ソースおよびデスティネーション	246
セットアップ段階で使用可能なソース	246
メタデータフィルタリング段階で使用可能なソース	246
データ段階で使用可能なソース	247
列挙、生成、およびシャットダウン段階で使用可能なソース	248
有効化パラメータ	248
セットアップ関数	249
filterrules-setup	249
setup-regex-cache	249
setup-type-by-extension	250
フィルタリング関数	250
filter-by-exact	251
filter-by-max	252
filter-by-md5	252
filter-by-prefix	253
filter-by-regex	253
filterrules-process	254
サポート関数のフィルタリング	254
assign-source	255
assign-type-by-extension	256
clear-source	256
convert-to-html	257
copy-attribute	257

generate-by-exact	258
generate-by-prefix	259
generate-by-regexp	259
generate-md5	260
generate-rd-expires	260
generate-rd-last-modified	261
rename-attribute	261
列挙関数	262
enumerate-urls	262
enumerate-urls-from-text	263
生成関数	263
extract-full-text	264
extract-html-meta	264
extract-html-text	265
extract-html-toc	266
extract-source	266
harvest-summarizer	267
シャットダウン関数	267
filterrules-shutdown	267
第 11 章 Sun ONE Portal Server システムの管理	269
Secure Sockets Layer (SSL) の設定	269
Sun ONE Portal Server で SSL を設定する	270
SSL を使用する既存の Sun ONE Portal Server インストールの変更	272
SSL を使用する Sun ONE Portal Server インスタンスの設定	273
Sun ONE Portal Server の設定のバックアップと復元	275
Sun ONE Portal Server の設定のバックアップ	275
Sun ONE Portal Server の設定の復元	276
Sun ONE Portal Server のネットワーク設定の変更	277
複数の UI ノードインストールの管理	277
サーバーリストへの Portal Server の追加	278
HTTP プロキシを使用する Sun ONE Portal Server のインスタンスの設定	278
Sun ONE Portal Server ログの管理	279
ファイルにログを記録する設定	279
データベースにログを記録する設定	279
Sun ONE Portal Server のデバッグ	280
iPlanet Directory Server Access Management Edition のデバッグレベルの設定	280
第 12 章 コマンド行ユーティリティ	283
dpadmin	284
説明	284
構文	285

短い名前の形式	285
長い名前の形式	285
サブコマンド	285
list	286
modify	288
add	297
remove	300
batch	304
オプション	306
par	308
説明	308
構文	308
短い名前の形式	308
長い名前の形式	308
サブコマンド	308
containers	309
describe	309
export	310
import	311
オプション	312
引数	313
エクスポートファイル	314
操作	315
par ファイル	317
par ファイルのコンテンツ	317
rwadmin	319
説明	319
構文	319
短い名前の形式	319
長い名前の形式	319
サブコマンド	319
list	320
store	320
get	321
remove	321
オプション	322
rdmgr	323
説明	323
構文	323
サブコマンド	324
リソース記述サブコマンド	324
データベース保守サブコマンド	328
使用方法メッセージおよびバージョンのサブコマンド	332

リターンコード	332
sendrdm	332
説明	332
構文	333
オプション	333
例	333
StartRobot	334
構文	334
オプション	334
付録 A 構成ファイル	335
Sun™ ONE Portal Server 構成ファイルの概要	335
デスクトップ構成プロパティ	336
検索構成プロパティ	339
付録 B XML リファレンス	345
Sun ONE Portal Server デスクトップ サービスの定義	347
Sun ONE Portal Server NetMail サービスの定義	354
Sun ONE Portal Server リライターサービスの定義	366
Sun ONE Portal Server 検索サービスの定義	367
ディスプレイプロファイル DTD	368
リライタルールセット DTD	371
デフォルトルールセット	373
付録 C デスクトップの属性	377
デスクトップ グローバル属性	377
デスクトップダイナミック属性	380
付録 D NetMail 属性	383
NetMail のダイナミック属性	383
付録 E リライターの属性	391
付録 F 検索の属性	393
サーバー	394
設定	394
詳細	395
ロボット	396
コントロール	397
サイト	398
クローリング	404

インデックス作成	409
シミュレータ	411
サイトプローブ	411
スケジュール	412
データベース	412
インポート	413
編集	416
スキーマ	417
インデックスの再作成	421
破棄	421
期限切れ	421
分析	422
スケジュール	422
カテゴリ	423
カテゴリエディタ	423
分類ルールエディタ	424
再インデックスの作成	425
レポート	425
開始位置	425
除外された URL	426
ロボットの詳細レポート	426
ログファイルの表示	427
頻度の高い検索	428
付録 G スキーマリファレンス	429
Sun ONE Portal Server デスクトップスキーマ	429
Sun ONE Portal Server NetMail スキーマ	433
Sun ONE Portal Server 検索スキーマ	437

本書について

このマニュアルでは、Sun™ ONE Portal Server 6.0 の管理方法について説明します。Sun ONE Portal Server は、組織の統合データ、知識管理、およびアプリケーションのポータルを作成するプラットフォームを提供します。Sun ONE Portal Server プラットフォームは、企業間、企業対社員、および企業対顧客を含む、すべての種類のポータルを構築および導入するための総合的なインフラストラクチャソリューションを提供します。

この章には、次の節があります。

- 対象読者
- お読みになる前に
- 内容の紹介
- 表記上の規則
- 関連マニュアル
- オンラインマニュアル

対象読者

このマニュアルは、Sun ONE Portal Server のインストール、管理、および設定を担当するユーザーを対象にしています。

お読みになる前に

Sun ONE Portal Server の管理を行う場合は、次の概念について理解していることが必要です。

- Solaris™ 管理の基本的な手順
- LDAP
- Sun™ ONE Directory Server
- iPlanet™ Directory Server Access Management Edition
- Sun™ ONE Web Server

注

Sun™ ONE 製品ファミリーは、以前の iPlanet ブランドから名称変更されたものです。この製品と、製品ファミリーのその他の製品は、本製品の発売直前に商標および名称が変更されました。最近行われた製品の商標変更および名称変更では、最終的にいくつかの新製品の名称が Sun ONE に統合されずに残されています。特に、GUI や製品マニュアル内で、iPlanet Directory Server Access Management Edition として Sun™ ONE Identity Server が参照されていることがあります。このリリースでは、Sun ONE Identity Server と iPlanet Directory Server Access Management Edition を、同じ製品とみなします。

内容の紹介

このマニュアルには、次の章および付録が含まれています。

- 本書について (この章)

- 第 1 章 『Sun™ ONE Portal Server の管理の概要』

Sun ONE Portal Server 6.0 のアーキテクチャ、プロトコル、およびインタフェースについて説明します。また、製品の管理およびカスタマイズの概要について説明します。

- 第 2 章 『認証、ユーザー、およびサービスの管理』

iPlanet Directory Server Access Management Edition を使用して、認証、ユーザー、およびサービスを管理する方法を説明します。

- 第 3 章 『管理の委任の設定』

Sun ONE Portal Server の代理管理を設定する方法を説明します。

- 第 4 章 『デスクトップサービスの管理』

Sun ONE Portal Server デスクトップサービスを管理する方法について説明します。

- 第 5 章 『ディスプレイプロファイルの管理』

Sun ONE Portal Server display profile コンポーネントを管理する方法について説明します。
- 第 6 章 『NetMail サービスの管理』

NetMail サービスを管理する方法について説明します。
- 第 7 章 『リライタサービスの管理』

リライタサービスを管理する方法について説明します。
- 第 8 章 『検索エンジンサービスの管理』

検索エンジンのサービスの設定および管理方法について説明します。
- 第 9 章 『検索エンジンロボットの管理』

検索エンジンロボットと対応する設定ファイルについて説明します。
- 第 10 章 『定義済みのロボットアプリケーション関数』

事前定義のロボットアプリケーション関数について説明します。これらの関数を使用して、フィルタ定義を作成および変更できます。
- 第 11 章 『Sun ONE Portal Server システムの管理』

Sun ONE Portal Server システムの管理に関連のあるさまざまな管理作業について説明します。
- 第 12 章 『コマンド行ユーティリティ』

Sun ONE Portal Server で使用するコマンド行ユーティリティについて説明します。
- 付録 A 『構成ファイル』

Sun ONE Portal Server の設定ファイルのリファレンスです。
- 付録 B 『XML リファレンス』

この付録では、基本的な XML ファイルについて説明します。これらのファイルでは、デスクトップ、リライタ、NetMail、検索サービスの定義を定義した XML ファイルを含む Portal Server と、display profile とリライタ Document Type Definition (DTD) に関するスキーマを定義しています。
- 付録 C 『デスクトップの属性』

デスクトップサービス属性のリファレンスです。
- 付録 D 『NetMail 属性』

NetMail サービス属性のリファレンスです。

- 付録 E 『リライタの属性』

リライタサービス属性のリファレンスです。

- 付録 F 『検索の属性』

検索エンジンサービス属性のリファレンスです。

- 付録 G 『スキーマリファレンス』

Sun ONE Portal Server スキーマ定義のリファレンスです。

表記上の規則

モノスペースフォント

モノスペースフォントは、コンピュータ画面に表示されるテキスト、またはユーザが入力するテキストを表します。また、ファイル名、識別名、関数、およびコード例にも使用します。

太字のモノスペースフォント

太字のモノスペースフォントは、コード例中のユーザが入力するテキストを表します。たとえば、次のように使用されます。

```
./pssetup
*****
Sun(TM) ONE Portal Server (6.0 release)
*****
Installation log at /var/sadm/install/logs/pssetup.13343/install.log
This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a Binary
Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to legally use
this product.
Do you accept? yes/[no] Starting install wizard in graphical mode
この例では、./pssetup がコマンド行から入力する文字列でその他は結果として
表示される内容です。
```

イタリックフォント

イタリックフォントは、インストール状況に応じた固有の情報(変数など)を使用して入力するテキストに使用されます。サーバーのパスや名前、およびアカウント ID などに使用します。

角括弧

角括弧 [] で囲まれているパラメータは、省略可能です。たとえば、このマニュアルでは、`dpadmin` コマンドの使用例が次のように示されます。

```
dpadmin [subcommands] [options] [arguments]
```

この [subcommands]、[options]、および [arguments] は、`dpadmin` コマンドに追加できるオプションパラメータがあることを示しています。

コマンド行プロンプト

このマニュアルの例では、コマンド行プロンプト (C シェルの `%`、Korn シェルまたは Bourne シェルの `$` など) は示していません。これは、使用するオペレーティングシステム的环境によって、それぞれ異なるコマンド行プロンプトが表示されるためです。ただし、コマンドは特に指定されていないかぎり、このマニュアルに示されているとおりに入力してください。

ユーザーインターフェイスに共通の動詞

クリックは、画面上のポインタが UI 要素上にあるときに、ユーザーにマウスを押してから放し、UI 要素を起動するように指示します。

ダブルクリックは、ユーザーにマウスボタンを連続して 2 度クリックするように指示します。

右クリックは、ポインタが UI 要素上にあるときにユーザーにマウスの右ボタンをクリックするように指示します。

選択は「OK」のクリックを準備する間に、あるいはアクションの選択を準備する間に、(チェックボックスをハイライトしてチェックし、またはラジオボタンをクリックして) UI オプション内で選択項目を指定するようにユーザーに指示します。

または、メニュー項目を選択した場合など、選択内容が即時に動作状態に移行する UI オプションを選択するようにユーザーに指示します。

入力は UI フィールドに適切な文字を入力するようにユーザーに指示します。

関連マニュアル

Sun ONE Portal Server には、このマニュアルのほかに、管理者向けの補足情報、および開発者向けのマニュアルが用意されています。Sun ONE Portal Server のすべてのマニュアルは、次の URL に掲載されています。

<http://docs.sun.com/ab/prod/s1portalsrv?l=ja#hic>

次のマニュアルも利用できます。

- *Sun ONE Portal Server 6.0 リリースノート*
- *Sun One Portal Server 6.0 Deployment Guide* (英語のみ)
- *Sun ONE Portal Server 6.0 インストールガイド*
- *Sun ONE Portal Server 6.0 管理者ガイド* (本書)
- *Sun ONE Portal Server 6.0 Desktop Customization Guide* (英語のみ)
- *Sun ONE Portal Server 6.0 Developer's Guide* (英語のみ)
- *Sun ONE Portal Server 6.0 Migration Guide* (英語のみ)

オンラインマニュアル

『*Sun ONE Portal Server 6.0 管理者ガイド*』は、PDF 形式および HTML 形式をオンラインで参照できます。以下の URL をご利用ください。

<http://docs.sun.com/prod/s1portalsrv>

Sun™ ONE Portal Server の管理の概要

Sun™ ONE Portal Server 6.0 製品は、企業がさまざまなソースからコンテンツを引き出し、特定のユーザーまたはユーザーグループ用にコンテンツをパーソナライズし、これらの複数のソースのコンテンツを Web ブラウザなど特定ユーザーのデバイスに合わせて単一の出力形式に集約する一連の統合ソフトウェア製品です。

この章では、製品群のアーキテクチャ、ポータルへのエンドユーザーインターフェイス、Sun ONE Portal Server ソフトウェアが実行するサービス、およびこれらのサービスの設定方法、製品の管理に使用するツールの基本的な情報を提供します。この章には、次の節があります。

- アーキテクチャの概要
- ポータルアクセスの概要
- サービス設定の概要
- 管理の概要

アーキテクチャの概要

Sun ONE Portal Server は Sun™ ONE アーキテクチャの一部を構成します。Sun ONE アーキテクチャ内で Portal Server はコンテンツの検索、接続、集約、提示、通信、パーソナライズ、通知、および配信を行うテクノロジーを提供します。Sun ONE 内のコンテンツは、Web サービスで提供されます。Portal Server は Web サービス自体を提供しません。Portal Server はユーザーインターフェイスを Web サービスに関連付けるための、また Web サービスをユーザーにとって便利なものにするメカニズムです。

Sun ONE Portal Server 製品アーキテクチャは、統合可能なソフトウェア製品から構成されます。これによって Sun ONE Portal Server はその内部コンポーネントおよび外部サポート製品を使用する事により、機能とサービスを高めることができます。Sun ONE Portal Server 自体には、デスクトップ、NetMail、リライタ、検索の各内部コンポーネントが統合されています。外部サポート製品には、Sun™ ONE Web Server、Sun™ ONE Directory Server、および Sun™ ONE Identity Server (旧名 iPlanet Directory Server Access Management Edition) が含まれます。Sun ONE Portal Server は、Web アプリケーション、コンテナ、ユーザー、サービス、ポリシー管理、認証とシングルサインオン、管理コンソール、ディレクトリスキーマ、データストレージ、およびプロトコルサポートを Sun ONE Portal Server 製品内に実装するのではなく、外部製品から活用します。例えば、Sun ONE Portal Server 製品は、デフォルトの Web コンテナとして Sun ONE Web Server を使用します。

注 Sun ONE Portal Server は、デフォルト Web コンテナとして Sun ONE Identity Server に統合された Sun ONE Web Server を使用します (また Java™ 実行時環境では Java™ Development Kit を使用します) が、Sun™ ONE Application Server、IBM Websphere Application Server、および BEA Weblogic Application Server も使用できます。

また、その他の Portal Server アドオンソフトウェアもインストールできます (Sun™ ONE Portal Server: セキュアリモートアクセスなど)。Sun ONE Portal Server アーキテクチャに関する詳細については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Deployment Guide*』(英語のみ)を参照してください。

ポータルアクセスの概要

通常、ユーザーは Web ブラウザを通じて、ポータルのホームページの URL を要求し、Sun ONE Identity Server 認証サービスで認証されることで、ポータルコンテンツにアクセスします。認証されると、ユーザーの Sun ONE Portal Server デスクトップが表示されます。

23 ページの 図 1-1 に Sun ONE Portal Server 6.0 のデスクトップのサンプルを示します。

図 1-1 Sun ONE Portal Server サンプルデスクトップ

Sun ONE Portal Server

- ホーム
- タブ
- テーマ
- ヘルプ
- ログアウト

My Front Page Samples Search

コンテンツ レイアウト

ユーザー情報

Welcome!
 test
 最終更新日:
 2003/06/11 14:26
 残り時間は 119 分です
 最大アイドル時間は 30 分です

個人のブックマーク NO.2

以下に URL を入力してください:

[Sun home page](#)
[Everything you want to know about Sun ONE...](#)
[Sun ONE home page](#)

Sun ONE の情報

News and information about Sun

- The latest word from Sun ONE...
- The latest word from Sun

サンプル JSP チャンネル

JSPProvider コンテンツプロバイダは、[JavaServer Pages](#) を使ってデスクトップチャンネルを作成するのに使用できます。このチャンネルは、JSP を使ってできるものの一例です。セッションの属性を変更するには、チャンネルの「編集」ボタンをクリックしてください。

JSP:	samplecontent.jsp
JSP の実際のパス:	/etc/opt/SUNWwps/desktop/default
リクエストパラメータ:	None
セッションの属性:	None
選択したユーザー属性:	名 (givenname) = test 姓 (sn) = test

XML テストチャンネル

company22.com		NASDAQ, 15.47	
最値	16.240000	開く	16.8
変更	-0.85	前日終値	17.090000
変化率 (%)	-4.97%	買入気配	16.94

デスクトップは、ポータルコンテンツとのプライマリユーザーインターフェイスです。デスクトップサービスは、サブレット、プロバイダ API、チャンネル、その他の各種サポート API、およびユーティリティを通じて実装されます。デスクトップは、プロバイダと呼ばれるプログラム上のエンティティを使用してコンテンツを生成します。コンテンツの 1 つの単位はチャンネルと呼ばれます。複数のチャンネルのコンテンツは、コンテナチャンネルに集約し、デスクトップ上でテーブルまたはタブなどのさまざまな形式に編集できます。ユーザーがポータルにアクセスする場合、デスクトップはユーザーのコンテンツの生成に使用されたコンテンツプロバイダとチャンネルデータを格納したディスプレイプロファイルを参照し

ます。ディスプレイプロファイルは、混乱する場合がありますが、デスクトップでユーザーに表示される全体的なレイアウト、表示、あるいは組織を実際には定義しません。基本的に、ディスプレイプロファイルはチャンネルのプロパティ値を提供するためだけに存在します。実際には、デスクトップは Sun ONE Directory Server のさまざまなレベルまたはノード (最上位、組織、ロール、およびユーザーレベル) に LDAP 属性として格納された複数のディスプレイプロファイルを使用して、ユーザーに表示するコンテンツを決定します。各レベルのディスプレイプロファイルのプロパティの定義、およびプロパティ値の LDAP ノードへのアップロードには、XML ドキュメントが使用されます。実行時に、各レベルで定義されたディスプレイプロファイルのプロパティをマージして、ユーザーのディスプレイプロファイルが作成されます。ディスプレイプロファイルドキュメントは各レベルで定義できますが、各レベルにディスプレイプロファイルドキュメントを指定する必要はありません。

サービス設定の概要

Sun ONE Portal Server は iPlanet Directory Server Access Management Edition アプリケーションであるため、そのサービスは iPlanet Directory Server Access Management Edition Service Management System (SMS) を使用して定義および管理されます。サーバーに固有ではないサービス関連のデータは、SMS Document Type Definition (DTD) に従った Extensible Markup Language (XML) ファイルを使用して定義されます。サーバー固有のデータは、特定のサーバー上でローカルなプロパティファイルに保存できます。各 Sun ONE Portal Server サービス (Desktop、Netmail、リライタ、検索) にはサービス固有のデータを表現し、修正するための独自の XML とプロパティファイルがあります。

iPlanet Directory Server Access Management Edition サービス

21 ページの「アーキテクチャの概要」で説明したように、Sun ONE Portal Server は Sun ONE Portal Server 自体には含まれていない Sun ONE アーキテクチャのサポート製品を使用して、多くの機能およびサービスを実装します。特に、以前のバージョンの Portal Server が多くの管理機能を内部に実装していたため、iPlanet Directory Server Access Management Edition との統合により、Sun ONE Portal Server は iPlanet Directory Server Access Management Edition 製品から次の管理ツールおよびサービスを引き継いでいます。

- 管理コンソール
- サービス管理
- ユーザー管理
- 認証 / シングルサインオン

iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスの管理についての詳細は、第2章「認証、ユーザー、およびサービスの管理」を参照してください。

Sun ONE Portal Server サービス

標準の iPlanet Directory Server Access Management Edition サービス以外に、Sun ONE Portal Server は iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して、内部サービス (デスクトップ、NetMail、リライタ、検索) を管理します。

デスクトップ

前の節で述べたように、デスクトップは Sun ONE Portal Server のためのプライマリエンドユーザーインターフェイスを提供します。デスクトップは、プロバイダアプリケーションプログラミングインターフェイス (PAPI) を使用して拡張可能なコンテンツ集約のためのメカニズムを提供します。デスクトップは、コンテナ階層と特定のチャンネルを構築するための基本構築ブロックが使用できるさまざまなプロバイダを持っています。コンテンツプロバイダとチャンネルデータを保存する場合、デスクトップは iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスのトップでディスプレイプロファイルデータ保管メカニズムを実行します。ディスプレイプロファイルとその他のデスクトップサービスのデータは、管理コンソールを通じて編集できます。デスクトップとディスプレイプロファイルの管理の詳細については、第4章「デスクトップサービスの管理」と第5章「ディスプレイプロファイルの管理」を参照してください。

リライタ

リライタは、HTML、JavaScript™、WML などの各種 Web 言語、および HTTP Location ヘッダー (切り替え) 形式の URL 参照を書き換えるための Java クラスライブラリを提供します。どのように書き換えるかと書き換えるデータを定義する規則を保存するために、リライタは iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスを定義します。リライタ規則は管理コンソールを通じて編集できます。リライタの管理についての詳細は、第7章「リライタサービスの管理」を参照してください。

検索エンジン

検索エンジンサービスは、デスクトップに基本的検索と拡張検索およびブラウザチャンネルを提供します。検索エンジンサービスは、イントラネットで利用できるドキュメントのリソース記述を作成するためにロボットを使用し、これらのリソース記述をインデックス付きデータベースに格納します。リソース記述 (RD) は、他のサーバーまたはバックアップ SOIF (Summary Object Interchange Format) ファイルからインポートすることもできます。検索エンジンには、リソース記述を提出したりデータベースを検索したりするための Java および C API が含まれています。検索エンジンデータベースはまた、他のコンテンツプロバイダのための共有コンテンツキャッシュのような他の任意のコンテンツを格納する場合にも使用できます。検索エンジンサービスデータは、管理コンソールを通じて編集できます。検索の管理についての詳細は、第 8 章 「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。

NetMail

NetMail サービスは、電子メールクライアントの NetMail (Java) および NetMail Lite を実装しています。これらのクライアントは、標準の IMAP および SMTP サーバー環境で動作します。NetMail サービスデータは、管理コンソールを通じて編集できます。NetMail の管理についての詳細は、第 6 章 「NetMail サービスの管理」を参照してください。

Sun ONE Portal Server サービスのための設定メカニズム

Sun ONE Portal Server はさまざまな設定メカニズムを使用して、サービスを定義、保存、管理します。この節では、Sun ONE Portal Server の各内部サービスで使用される設定メカニズム 5 つの表で説明します。

26 ページの表 1-1 にデスクトップサービスの設定メカニズムを示します。この表では設定メカニズムとその説明を示します。設定メカニズムではメカニズムを、説明ではメカニズムの目的を説明します。

表 1-1 Sun ONE Portal Server デスクトップ設定メカニズム

設定メカニズム	説明
デスクトップサービスの定義	デスクトップサービスのための iPlanet Directory Server Access Management Edition 設定属性を定義します。詳細については、付録 B 「XML リファレンス」を参照してください。

表 1-1 Sun ONE Portal Server デスクトップ設定メカニズム (続き)

設定メカニズム	説明
デスクトップディスプレイプロファイル XML DTD	プロバイダとチャンネルオブジェクト、およびそれらのプロパティを定義することで、デスクトップの表示設定を定義します。詳細については、付録 B 「XML リファレンス」を参照してください。
デスクトップ管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server サービスを iPlanet Directory Server Access Management Edition フレームワークで管理する際に用いる手段を提供します。デスクトップサービス設定属性の管理についての詳細は、第 4 章 「デスクトップサービスの管理」を参照してください。ディスプレイプロファイルの管理についての詳細は、第 5 章 「ディスプレイプロファイルの管理」を参照してください。
デスクトップ CLI	製品管理のための dpadmin および par コマンドユーティリティを提供します。詳細については、第 12 章 「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。
デスクトップ設定プロパティファイル	デスクトップサービスのサーバー固有のパラメータを定義します。詳細については、付録 A 「構成ファイル」を参照してください。

表 1-2 に検索サービスの設定メカニズムを示します。この表では設定メカニズムとその説明を示します。設定メカニズムではメカニズムを、説明ではメカニズムの目的を説明します。

表 1-2 Sun ONE Portal Server 検索設定メカニズム

設定メカニズム	説明
検索サービス定義	検索サービスのための iPlanet Directory Server Access Management Edition 設定属性を定義します。付録 G 「スキーマリファレンス」を参照してください。
検索管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server 検索サービスデータを iPlanet Directory Server Access Management Edition フレームワークで管理する際に用いる手段を提供します。詳細については、第 8 章 「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。
検索 CLI	製品管理のための rdmgr、sendrdm、および StartRobot コマンドユーティリティを提供します。詳細については、第 12 章 「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。
検索設定プロパティファイル	検索サービスのサーバー固有のパラメータを定義します。詳細については、付録 A 「構成ファイル」を参照してください。

表 1-2 Sun ONE Portal Server 検索設定メカニズム (続き)

設定メカニズム	説明
ロボット設定ファイル	検索エンジンロボットの動作を定義します。4つのロボット設定ファイルがあります。詳細については、第9章「検索エンジンロボットの管理」と第10章「定義済みのロボットアプリケーション関数」を参照してください。

表 1-3 にリライターサービスの設定メカニズムを示します。この表では設定メカニズムとその説明を示します。設定メカニズムではメカニズムを、説明ではメカニズムの目的を説明します。

表 1-3 Sun ONE Portal Server リライター設定メカニズム

設定メカニズム	説明
リライターサービス定義	リライターサービスのための iPlanet Directory Server Access Management Edition 設定属性を定義します。付録 G 「スキーマリファレンス」を参照してください。
リライター規則 XML DTD	詳細については、付録 B 「XML リファレンス」を参照してください。
リライター管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server リライターサービスデータを、iPlanet Directory Server Access Management Edition フレームワークで管理する際に用いる手段を提供します。詳細については、第7章「リライターサービスの管理」を参照してください。
リライター CLI	製品管理のための <code>rwadmin</code> コマンドユーティリティを提供します。詳細については、第12章「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。

表 1-4 に NetMail サービスの設定メカニズムを示します。この表では設定メカニズムとその説明を示します。設定メカニズムではメカニズムを、説明ではメカニズムの目的を説明します。

表 1-4 Sun ONE Portal Server NetMail 設定メカニズム

設定メカニズム	説明
NetMail サービス定義	NetMail サービスのための iPlanet Directory Server Access Management Edition 設定属性を定義します。付録 G 「スキーマリファレンス」を参照してください。

表 1-4 Sun ONE Portal Server NetMail 設定メカニズム (続き)

設定メカニズム	説明
NetMail 管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server NetMail サービスデータを、iPlanet Directory Server Access Management Edition フレームワークで管理する際に用いる手段を提供します。詳細については、第 6 章 「NetMail サービスの管理」を参照してください。

管理の概要

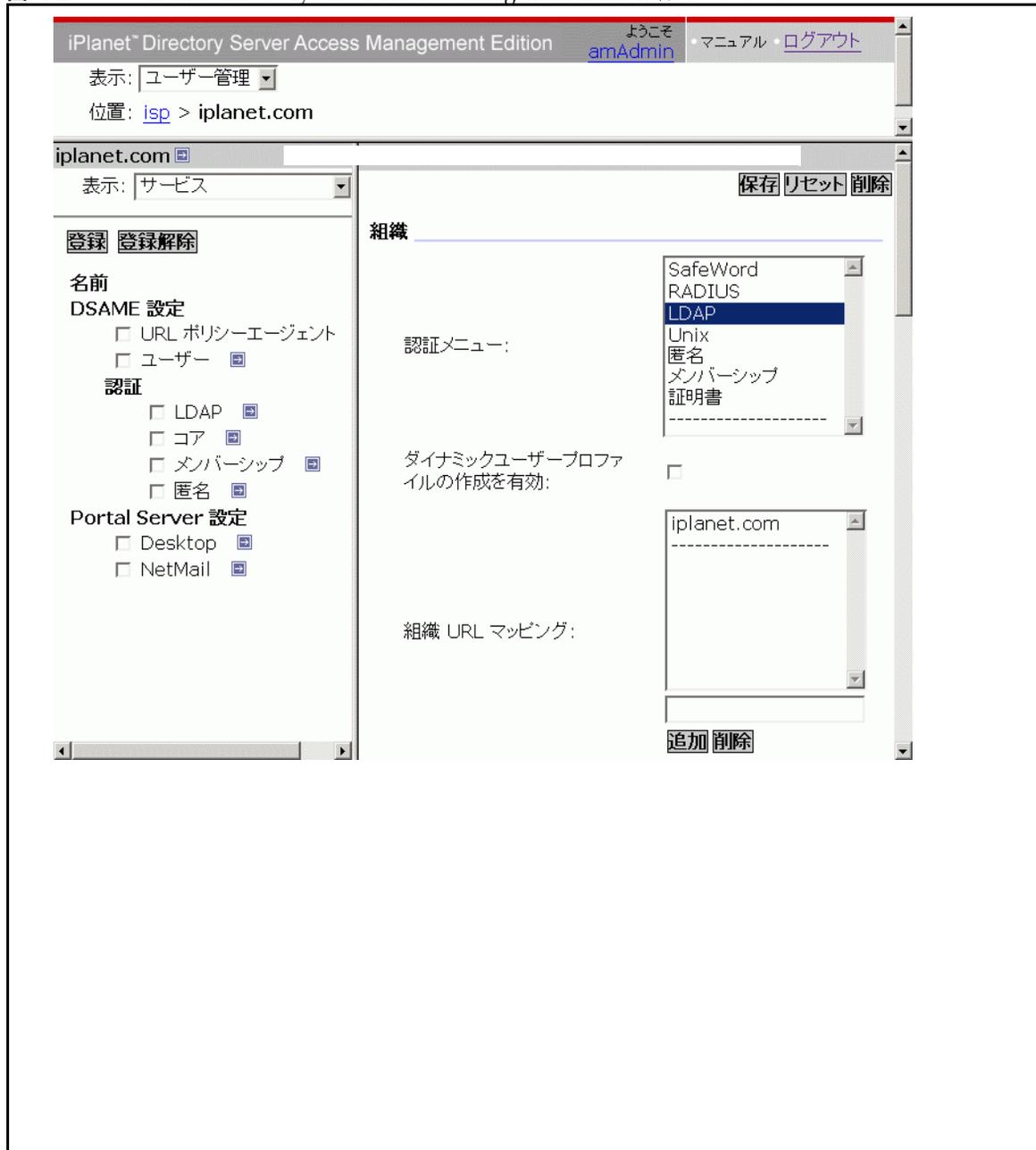
この節では、iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールとコマンド行の両方から Sun ONE Portal Server を管理するための概要を説明します。

iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールの使用方法

Sun ONE Portal Server と iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスは、iPlanet Directory Server Access Management Edition で提供される HTML ベースの管理コンソールを通じて管理します。Sun ONE Portal Server は Sun ONE Portal Server 固有のサービスの管理モジュールを追加して、iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールを拡張します。コンソールを使用して実際に行う作業の詳細については、本書の各章を参照してください。

iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールは、位置区画、ナビゲーション区画、データ区画の 3 つのセクションに分割されています。3 つの区画すべてを使用して、管理者はディレクトリを移動し、ユーザーおよびサービスの設定を実行し、ポリシーを作成することができます。30 ページの 図 1-2 に管理コンソールを示します。

図 1-2 iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソール



位置区画

位置区画は、コンソールの上部に表示されます。最上部の「表示」メニューを使用すると、管理者は次の3つの異なる管理ビューを切り替えることができます。

- サービス管理
- ポリシー管理
- ユーザー管理

「位置」フィールドには、管理者がディレクトリツリー内で移動した位置の証跡が示されます。このパスはナビゲーションに使用されます。

「ようこそ」の下には、現在コンソールを実行しているユーザー名とそのユーザープロフィールへのリンクが表示されます。

「マニュアル」リンクは、『Attribute Reference Guide』の付録 C、D、E、F の HTML バージョンを収めたブラウザウィンドウを開きます。

「ログアウト」リンクを使用すると、ユーザーは iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールからログアウトできます。

ナビゲーション区画

ナビゲーション区画は、コンソールの左側部分です。区画の上部に「ディレクトリオブジェクト」部分があり、ここに現在開かれているディレクトリオブジェクトの名前とそのプロパティへのリンクが表示されます。「表示」メニューは選択したディレクトリオブジェクト内のディレクトリをリストします。サブディレクトリの数により、ページングメカニズムが機能します。

データ区画

データ区画は、コンソールの右側部分です。オブジェクト属性とその値がここに表示され、設定できます。それぞれのグループ、ロール、組織について、この区画でエントリが選択されます。

コマンド行ユーティリティの使用法

Sun ONE Portal Server コマンド行インターフェイスは、iPlanet Directory Server Access Management Edition と Sun ONE Portal Server で提供されるユーティリティから構成されます。

Sun ONE Portal Server コマンド行ユーティリティの完全なリストと構文については、第 12 章 「コマンド行ユーティリティ」 を参照してください。コマンド行ユーティリティについての詳細は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 製品のドキュメントを参照してください。

認証、ユーザー、およびサービスの管理

この章では、iPlanet™ Directory Server Access Management Edition を使用して、認証、ユーザー、およびサービスを管理する方法について説明します。この章は、iPlanet Directory Server Access Management Edition のすべてを説明するものではありません。ここでは、Sun™ ONE Portal Server に関する側面に重点を置きます。詳細については、iPlanet Directory Server Access Management Edition のマニュアルを参照してください。

この章には、次の節があります。

- iPlanet Directory Server Access Management Edition の概要
- iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールへのログイン
- 基本情報の表示
- Sun ONE Portal Server の起動および停止
- iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスの管理
- Sun ONE Portal Server ユーザーの管理
- 認証の構成
- Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要
- Sun ONE Portal Server デスクトップへのログイン
- ログインの管理

iPlanet Directory Server Access Management Edition の概要

Sun™ ONE Portal Server 3.0 (旧名 iPlanet™ Portal Server 3.0) では、認証方法の管理、ドメイン、ロール、およびユーザーの作成、プロファイルの属性やログなどのその他のデータの管理を行います。また iPlanet Portal Server 3.0 API を使用して、カスタムアプリケーションの開発も行います。

Sun ONE Portal Server 6.0 製品で、以前は iPlanet Portal Server 3.0 にあった iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理機能と API を使用します。iPlanet Directory Server Access Management Edition は、Sun™ ONE Directory Server の管理とセキュリティに活用する一連のツールです。iPlanet Directory Server Access Management Edition の目的は、Sun ONE Directory Server を使用して、ユーザーオブジェクト、ポリシー、およびサービスを管理するためのインタフェースを提供することです。

iPlanet Directory Server Access Management Edition では、次のことが行えます。

- Sun ONE Directory Server による、データセキュリティを向上させたユーザー認証およびシングルサインオンの実行
- 管理者による、ロールに基づくユーザーエントリ管理、ユーザーエントリでは属性として表示されるエントリグループ化メカニズムの起動
- 開発者による、多数のデフォルトおよびカスタマイズされたサービスの設定パラメータの定義および管理

グラフィカルユーザーインタフェースである Web ベースの iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを通じて、これらの3つの機能にアクセスします。また、コマンド行インタフェース `amadmin` を使用して、ディレクトリサーバーでバッチ管理タスクを実行できます。たとえば、新規サービスを作成、登録、および起動できます。また、組織、ピープルコンテナ、グループ、ロール、およびユーザーの作成、削除、および読み取り (取得) ができます。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 機能の概要

iPlanet Directory Server Access Management Edition には、次の管理コンポーネントがあります。これらのコンポーネントは、Sun ONE Portal Server 3.0 フレームワーク本体に含まれていたものです。

- **ユーザー管理**—ユーザー関連オブジェクト (ユーザー、ロール、グループ、ユーザーコンテナ、組織、サブ組織、および部署オブジェクト) を作成します。これらのオブジェクトは、iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールまたはコマンド行インタフェースのどちらかを使用して、定義、修正、または削除できます。
- **認証**—ユーザー認証にプラグインソリューションを提供します。特定のユーザーを認証するのに必要な条件は、Sun ONE Portal Server エンタープライズの各組織に設定された認証サービスに基づきます。Sun ONE Portal Server セッションへのアクセスが許可されるには、ユーザーは、正常に認証にパスする必要があります。
- **シングルサインオン**—ユーザー認証は一度行われると、iPlanet Directory Server Access Management Edition シングルサインオン (SSO) の API に継承されます。認証されたユーザーが保護されたページへのアクセスを試行するたびに、SSO API は、ユーザーが認証証明書に基づくアクセス権を持っているかどうかを判断します。ユーザーが有効であれば、追加認証なしでページへのアクセスが許可されます。無効であれば、ユーザーに再認証を求めるメッセージが表示されます。
- **サービス管理**—Sun ONE Portal Server 製品自体のデフォルトおよびカスタムメイドサービス (デスクトップ、リライタ、検索、NetMail) を含むデフォルトおよびカスタマイズされたサービスの設定パラメータを指定します。
- **ポリシー管理**—ビジネスリソースへのアクセスを制御する規則を定義、修正、または削除します。これらの規則は、ポリシーとして一括して参照されます。ポリシーは、ロールあるいは組織に基づき、特権を提供するか、制約を定義することができます。

比較 : Portal Server 3.0 と Portal Server 6.0

36 ページの表 2-1 では、Portal Server 製品の主要な変更点について説明します。Sun ONE Portal Server 3.0 (以前は iPlanet Portal Server 3.0) 製品の一部であった多くの関数および機能が、iPlanet Directory Server Access Management Edition の一部になりました。この表では、1 列目に概念または用語を示し、2 列目に Sun ONE Portal Server 3.0 製品での特徴や機能を定義し、3 列目で Sun ONE Portal Server 6.0 製品で対応する特徴や機能について説明します。

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.0 との比較

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.0
ロールツリー	<p>ユーザーおよびアプリケーションを組織するために Sun ONE Portal Server 3.0 内で構成する階層。ロールツリーには、次の 4 段階があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ルート • ドメイン • ロール • ユーザー 	<p>ロールツリーの概念は適用されません。</p> <p>iPlanet Directory Server Access Management Edition は、Sun ONE Directory Server の機能を使用し、ディレクトリ情報ツリー (DIT) により、ユーザー、組織、サブ組織などを構成します。</p>
ドメイン / 組織	<p>社員あるいは顧客など、一般的な関係を持つユーザーの最上位グループ化。これは、DNS ドメインではないが、Sun ONE Portal Server 3.0 がユーザーを論理コミュニティにグループ化するのに使用することを意味します。</p>	<p>ドメインの概念は適用されません。代わりに、iPlanet Directory Server Access Management Edition の組織が、エンタープライズが部門およびリソースの管理に使用する階層構造の最上位を表します。</p> <p>インストール時に、iPlanet Directory Server Access Management Edition は最上位の組織を動的に作成し (デフォルトは o=isp)、iPlanet Directory Server Access Management Edition のエンタープライズ構成を管理します。インストール後に、追加の組織を作成して、別のエンタープライズを管理することができます。作成された組織はすべて最上位組織の下に配置されます。これらのサブ組織内には、ほかのサブ組織をネストできません。ネストされる構造の深さに制限はありません。</p>

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.0 との比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.0
ロール	機能によってドメインのメンバーを分ける。ロールには、ユーザーのデスクトップポリシーを定義する一連の属性およびポリシーがあります。	<p>各ロールには、1人または複数のユーザーに与えることができる1つまたは一連の特権があります。これには、Sun ONE Directory Server に保存された ID 情報のアクセスと管理、および iPlanet Directory Server Access Management Edition ポリシーモジュールで保護された特権へのアクセスが含まれます。また iPlanet Directory Server Access Management Edition ロールは、それをサービスクラスのテンプレートに保存されているプロファイルと関連付けます。</p> <p>ロールは iPlanet Directory Server Access Management Edition で別々に定義され、以前サポートされていなかった、単一ユーザーが複数のロールを持つ機能があります。</p> <p>ロールの特権はアクセス制御命令 (ACI) で定義されます。iPlanet Directory Server Access Management Edition には、いくつかの事前定義されたロールがあります。iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールにより、ロールの ACI を編集して、ディレクトリ情報ツリー内でアクセス特権を割り当てることができます。</p>

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.0 との比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.0
属性	<p>2 種類の属性をサポートします。グローバル属性とユーザー設定可能な属性です。グローバル属性はプラットフォーム全体に適用され、スーパー管理者によるのみ設定されます。ユーザーが設定可能な属性は、次の節で説明するように、ロールツリーの基礎に適用されます。代理のドメイン管理者は、ドメイン、親ロール、子ロール、およびユーザーレベルにこれらの属性を設定できます。ロールツリーのユーザーレベルで、いくつかの属性は必要に応じてユーザーごとにカスタマイズできます。</p>	<p>iPlanet Directory Server Access Management Edition 属性では、次のタイプの属性を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グローバル - グローバル属性に適用される値は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 設定全体に適用され、またすべての構成済みの組織に継承されます。 • 動的 - 動的属性は、iPlanet Directory Server Access Management Edition で構成済みのロールあるいは組織に割り当てることができます。ユーザーにロールを割り当てる場合、または組織でユーザーを作成する場合は、動的属性がそのユーザーの特性になります。 • 組織 - これらの属性は、組織だけに割り当てられます。この点で、これらは動的属性として機能します。ただし、これらはサブツリーのエン트리によって継承されるため、動的属性とは異なります。 • ユーザー - これらの属性は直接各ユーザーに割り当てられます。これらの属性は、ロールあるいは組織から継承されず、通常はユーザーごとに異なります。 • ポリシー - ポリシー属性は、特権属性です。一度ポリシーが構成されると、ロールあるいは組織に割り当てられます。これは、動的属性およびポリシー属性間での唯一の違いであり、動的属性は直接ロールあるいは組織に割り当てられ、ポリシー属性はポリシーの構成に使用されてからロールあるいは組織に割り当てられます。

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.0 との比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.0
ポリシー	アプリケーション、デスクトップ、NetFile、Netlet などにポータルアクセスポリシーを構成します。	<p>どのリソースに誰が何を行うかを定義する規則です。iPlanet Directory Server Access Management Edition Policy Service により、組織はこれらの規則あるいはポリシーを設定できます。通常、ポリシーは組織 (あるいはサブ組織) レベルで作成され、組織のツリーを通じて使用されます。指定のポリシーを作成するには、まずポリシーの作成先となる特定のポリシーサービスが組織に登録されている必要があります。</p> <p>iPlanet Directory Server Access Management Edition 5.1 では、ポリシーサービスは、許可あるいは拒否された URL のリストだけで構成されます。これは、Portal Server がコンテンツ用にポリシーベースのデスクトップを構築するには不十分です。これは、チャンネルアクセスのポリシーがデスクトップのディスプレイプロファイルに構築されるためです。Portal Server 6.0 デスクトップは、複数のロールからのチャンネルのリストのマージできるディスプレイプロファイルをサポートします。たとえば、25 のロールがあり、それぞれにそのロールに関連する少数のチャンネルがある場合、任意の数のロールを持つようにユーザーを構成して、ユーザーが取得するデスクトップがそれらのすべてのロール集合を提供するようにできます。マージ動作は、各種ロールからのチャンネルの集合またはマージの方法を制御します。ディスプレイプロファイルをマージするために、Portal Server でロールに階層順序が課せられます。マージは、もっとも低い優先度のドキュメント (もっとも小さい番号) で始まり、もっとも高い優先度プロファイルであるユーザー (ベース) に到達するまで、優先度番号の昇順に進みます。表示プロファイルのマージについての詳細は、第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」を参照してください。</p>

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.0 との比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.0
コンポーネント / サービス	Portal Server 3.0 の 4 つの主要コンポーネントとは、サーバー自体、プロフィールサーバー、ゲートウェイ、およびファイアウォールです。	<p>コンポーネントは、共通の名前で定義された属性のグループです。iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスに置き換えられています。属性は、サービスが組織に提供するパラメータを定義します。iPlanet Directory Server Access Management Edition は、サービスフレームワークです。</p> <p>Sun ONE Portal Server 6.0 は、Portal Server 固有のサービス (デスクトップ、NetMail、リライタ、および検索) のフレームワークでの実行以外に、認証、ユーザー管理、およびポリシー管理などのコアサービスの提供において iPlanet Directory Server Access Management Edition に依存します。</p>
管理インタフェース	<p>Portal Server 3.0 コンポーネントのみを管理するための独自の管理コンソールを提供します。</p> <p>コマンド行インタフェースは、ipsadmin です。</p>	<p>iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して、Sun ONE Portal Server 固有のサービス (デスクトップ、Sun ONE Portal Server、リライタ、および検索) だけでなく、iPlanet Directory Server Access Management Edition のサービス、ユーザー、およびポリシーを管理します。</p> <p>ipsadmin に代わるコマンド行インタフェースは、amadmin、dpadmin、および rwadmin です。</p>

iPlanet Directory Server Access Management Edition の制約

iPlanet Directory Server Access Management Edition を使用する場合は、次の制約があります。

- 事前定義された iPlanet Directory Server Access Management Edition ロールは、複数の並列組織をスパン化できません。ただし、ロールは、ロールが関連する組織の子組織に属するユーザーに割り当てることができます。また、複数ドメインのリソースへアクセスすることで、カスタムロールを作成し、また必要な ACI を定義して、必要な特権をロールで付与することができます。
- ユーザーは、組織に属する必要があり、その組織にだけ属することができます。
- 階層型ロールはサポートされません。たとえば、ロール A およびロール B の和集合に等しいものとしてロール C を作成することはできません。また、ロール C を持つユーザーは、明示的にロール A に割り当てられていない限り、ロール A のリソースにアクセスできません。
- RoleAdministratorRole のアクセス権は、対応する ACI を直接編集した場合にのみ設定できます。
- ロール管理者 (代理の管理者) が iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールにログインする場合、ロール管理者に修正する権限がない場合でも、同じ組織にあるロール、および関連するサービスとプロパティのすべてを表示できます。

iPlanet Directory Server Access Management Edition インタフェース

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソール

このブラウザベースのコンソールは、グラフィカルユーザーインタフェースを提供して、Sun ONE Portal Server サービスなどの iPlanet Directory Server Access Management Edition エンタープライズを管理します。管理コンソールには、サービス、ポリシー、およびユーザーの作成および管理に使用する、異なるレベルの特権を持つ複数のデフォルトの管理者が用意されています (ロールに基づき、追加の代理管理者も作成できます)。詳細については、第 3 章 「管理の委任の設定」を参照してください。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールは、3 つのセクションに分割されています。位置区画、ナビゲーション区画、およびデータ区画です。3 つの区画を使用して、ディレクトリを移動したり、ユーザーおよびサービスの構成を実行したり、またポリシーを作成したりします。

詳細については、29 ページの「iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールの使用方法」を参照してください。

iPlanet Directory Server Access Management Edition のコマンド行

iPlanet Directory Server Access Management Edition コマンド行インタフェースは、サーバーを管理する `amadmin` と、サーバーの処理を停止と開始を行う `amserver` です。`amadmin` は、XML サービスファイルをディレクトリサーバーにロードし、ディレクトリツリーでバッチ管理タスクを実行するのにも使用します。Sun ONE Portal Server 3.0 のコマンド行インタフェースの `ipsadmin` および `ipsserver` は、現在使用されていません。

`amadmin` についての詳細は、iPlanet Directory Server Access Management Edition のマニュアルを参照してください。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールへのログイン

iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールへは、次のどちらかの方法でログインできます。

- 固有の URL を使用する
- HTTPS を経由する

管理コンソールにログインする場合、表示される機能は、ユーザーのアクセス権によって異なります。アクセス権は、ACI あるいはユーザーに割り当てられたロールによって決まります。たとえば、スーパーユーザーには、管理コンソールのすべての機能が表示されます。一方、代理管理者には、通常、サブ組織についてのこの機能のサブセットだけが表示されます。またエンドユーザーは、特定のユーザー ID に関するユーザー属性だけが表示されます。

現在、管理コンソールへは、次のどちらかの URL でログインできます。

- `http://host:port/amconsole`
- `http://host:port/amserver`

`/amconsole` URL は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールの HTML ページを明示的に要求します。`/amconsole` を使用してログインすると、管理コンソールが起動し、ユーザーは URL が `/amserver/login` に変更されたことを確認して、認証されます。構成に関係なく、この URL を管理コンソールへのアクセスに使用できます。

/amserver URL は、iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスの HTML ページを要求します。Sun ONE Portal Server のインストールの際に設定されるデフォルトでは、この URL にリダイレクトして管理コンソールにログインすることになっていますが、/amserver URL は、iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスにアクセスするため、この URL はコンソール以外のその他のサービスを利用するために使用できます。たとえば、次のようになります。

- ユーザーが無効なセッションを持つアプリケーションにアクセスする場合、アプリケーションは、/amserver URL 要求を goto パラメータで amserver/login に転送する場合があります。たとえば、Sun ONE Portal Server デスクトップ は、iPlanet Directory Server Access Management Edition エージェントと同様にこの転送を行います。
- カスタマは、いくつかのアプリケーションあるいはポータルへの開始位置として amserver/login にユーザーを転送する場合があります。また、デフォルトのリダイレクト URL が、ポータルアプリケーションあるいはカスタムアプリケーションになる場合があります。
- カスタムアプリケーションが、amserver/login を直接呼び出し、認証する場合があります。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールにログオンするには、次のように入力します。

- 固有の URL を使用する場合：
http://*host:port*/amserver/ を入力します。
あるいは
http://*host:port*/amconsole/ を入力します。
- HTTPS を使用する場合：
https://*host:ssl_port*/amconsole/ を入力します。

IP アドレスを使用した管理コンソールへのログインの設定

サーバーの IP アドレスを使用して、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールにログインすることはできません。これは iPlanet Directory Server Access Management Edition での cookie のドメイン設定によるものです。

ただし、管理コンソールの「cookie ドメイン」のリストに、ローカルホストの IP アドレスを追加することはできます。

1. 「表示」メニューから「サービス管理」を選択します。
 2. 「プラットフォーム」をクリックします。
 3. 「Cookie ドメイン」にローカルホストの IP アドレスを追加します。
- これでドメイン名ではなく、IP アドレスで管理コンソールにアクセスできます。

基本情報の表示

スクリプトにより、jar ファイルのバージョンおよびビルドの日付だけでなく、Sun ONE Portal Server のバージョンやビルドの日付など、製品についての基本情報を表示することができます。バージョンスクリプトは、**BaseDir**/SUNWps/bin ディレクトリにインストールされます。ここでの **BaseDir** は、Sun ONE Portal Server をインストールしたサーバーのルートディレクトリです。デフォルトは /opt です。

製品情報を表示するには、次のようにします。

1. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd BaseDir/SUNWps/bin
```

2. Sun ONE Portal Server についての情報を表示するには、次のように入力します。

```
./version
```

3. Sun ONE Portal Server の jar ファイルについての情報を表示するには、次のように入力します。

```
./version JarName
```

ここで **JarName** は、jar ファイルの名前です。

Sun ONE Portal Server の起動および停止

この節では、Sun ONE Portal Server の停止および起動方法について説明します。Sun ONE Portal Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition に依存するため、Sun ONE Portal Server を直接起動したり、停止したりはしません。iPlanet Directory Server Access Management Edition サーバー自体を再起動する必要があります。

- Sun ONE Portal Server を起動するには、次のように入力します。
`/etc/init.d/amserver start`
- 複数インスタンスの Sun ONE Portal Server を起動するには、次のように入力します。
`/etc/init.d/amserver startall`
- Sun ONE Portal Server を停止するには、次のように入力します。
`/etc/init.d/amserver stop`

注 再起動する前に、サーバーを停止する必要はありません。すでに起動中のサーバーを起動すると、そのサーバーは停止してから再起動します。

Sun ONE Portal Server は、さまざまなプラットフォームのロケールをサポートしています。Sun ONE Portal Server をインストール済みのデフォルト値以外で起動する方法については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Developer's Guide*』を参照してください。

iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスの管理

この節では、Sun ONE Portal Server が使用する iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスについて説明します。詳細については、『iPlanet Directory Server Access Management Edition』のマニュアルを参照してください。

インストールおよび Sun ONE Web Server のパッケージ化

- Sun ONE Portal Server インストーラは、iPlanet Directory Server Access Management Edition がインストールされていない場合、iPlanet Directory Server Access Management Edition インストーラを実行します。
- Sun ONE Portal Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition と Web コンテナを共有します。Web コンテナは、並行性、配置、寿命管理、セキュリティ、トランザクション、その他のサービスを含む Web コンポーネントの実行時環境を指定します。

- Sun ONE Portal Server は、JVM™ および iPlanet Directory Server Access Management Edition が提供するその他のコンポーネントを使用します。

ユーザー管理

- Sun ONE Portal Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition API を使用して、自身のプロファイル情報を iPlanet Directory Server Access Management Edition に格納します。
- Sun ONE Portal Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition の複数のロールサポートを利用します。
- Sun ONE Portal Server は、たとえば givenName など、オープンで所有者のいない標準のスキーマの属性を使用します。
- iPlanet Directory Server Access Management Edition は、LDAP ディレクトリへの直接アクセスを提供します。

シングルサインオン / 認証

- Sun ONE Portal Server 6.0 では、認証は、iPlanet Directory Server Access Management Edition によって管理されます。
- iPlanet Directory Server Access Management Edition は、すべての認証モジュールを提供します。
- Sun ONE Portal Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition のポリシーの属性を使用して、アクセスを制限します。

サービス管理

Sun ONE Portal Server 6.0 は、次の iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスを定義します。

- デスクトップポータルフロントエンドを提供します。また、ポータルへのプライマリエンドユーザーインターフェースです。デスクトップの設定および管理についての詳細は、第4章「デスクトップサービスの管理」を参照してください。

- NetMail –インターネットで IMAP および SMTP メールサーバーにアクセスし、ポータルを通じてユーザーが電子メールにアクセスできるようにします。NetMail の設定および管理についての詳細は、第 6 章「NetMail サービスの管理」を参照してください。
- リライター管理者が設定する規則を実装し、適切にアクセスできるように URL をリライトします。リライターのセットアップおよび管理についての詳細は、第 7 章「リライターサービスの管理」を参照してください。
- 検索–使用可能なドキュメントの基本および詳細検索機能を Sun ONE Portal Server に提供します。検索サービスの設定および管理についての詳細は、第 8 章「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。

Sun ONE Portal Server ユーザーの管理

ディレクトリ情報ツリー (DIT) は、ユーザー、組織、サブ組織などを論理構造または階層構造に編成します。これによって、これらのロールを想定したユーザー、または組織内に属しているユーザーに適切なアクセスを効率よく管理して、割り当てることができます。この節では、組織、サブ組織、ロールの機能についての情報を提供します。また、組織、ロール、ユーザーの作成と管理の手順を示して、Portal Server の実装の基本となるディレクトリ構造またはツリーの設計に役立つ情報を提供します。

注 Sun ONE Portal Server 6.0 は組織をサポートします。この組織については、以前の Sun ONE Portal Server 3.0 では、ドメインのコンセプトを使用していました。

iPlanet Directory Server Access Management Edition では、組織ツリーの最上位は、デフォルトで `isp` になっていますが、インストールの際に変更または指定できます。インストール後に、追加の組織を作成して、別のエンタープライズを管理することができます。作成された組織はすべて最上位組織の下に配置されます。これらのサブ組織内で、他のサブ組織をネストできます。ネストされる構造の深さに制限はありません。

注 ツリーの最上位を `isp` と呼ぶ必要はありません。任意の名前を付けることができます。ただし、`isp` など一般的な最上位で編成されたツリーでは、ツリー内の組織はロールを共有できません。

ロールは、より効果的で簡単にアプリケーションを使用するように設計された新しいグループ化メカニズムです。それぞれのロールはメンバー、あるいはロールを保有するエントリを持ちます。グループの場合と同じく、ロールのメンバーは明示的またはダイナミックに指定できます。ロールメカニズムにより、そのエントリがメンバーになっているすべてのロール定義の DN を含む nsRole 属性が自動的に生成されます。各ロールには、1 人または複数のユーザーに与えることができる 1 つまたは一連の特権があります。Sun ONE Portal Server 6.0 では、複数のロールを単一のユーザーに割り当てることができます。ロールの特権はアクセス制御命令 (ACI) で定義されます。Sun ONE Portal Server には、いくつかの事前定義されたロールがあります。iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソールでは、ロールの ACI を編集して、ディレクトリ情報ツリー内でアクセス特権を割り当てることができます。組み込みの例には SuperAdmin Role ロールや TopLevelHelpDeskAdmin ロールがあります。組織間で共有できるその他のロールを作成することもできます。

組織、サブ組織、およびロールの設計

DIT 構造を設計する場合、階層型ツリーあるいは平坦なツリーのどちらを使用するかを決定する必要があります。一般的な規則として、ツリーをできるだけ平坦にします。ただし、ユーザアクセスを付与または管理しやすくするには、組織の成長の大きさに合わせて、ある程度の数の階層があることが重要になります。DIT 構造を構築するための iPlanet Directory Server Access Management Edition の主要な 3 つのキー構造エンティティは、組織 (サブ組織)、ロール、およびユーザーです。構造を設計する前に、これらの各エンティティの機能、特性、および相互関係について理解する必要があります。

組織およびサブ組織

- エンタープライズまたは組織の階層を表したりモデル化したりすることができる階層関係を作成できます。
- 対応する管理者によって作成される特定のユーザーを含めることができます。これにより、管理およびアクセス制御の目的で、ユーザーをグループ化する方法が提供されます。通常、同じような必要性を持つユーザーをグループ化すると、アクセスの管理および制御がより簡単になります。
- 管理コンソールを通じて管理者は、親組織またはサブ組織で簡単に作成し、また削除することができます。ただし、すべて削除されると、すべての下位組織およびユーザーも削除されるため、名前や構造を変更する予定がある場合には適していません。

ロール

- 1人または複数のユーザーに1つまたは一連の特権を割り当てることができます。組織内では、複数ロールを定義して特定の特権をユーザーに設定することができます。
- 直接編集する必要があるアクセス制御命令 (ACI) を通じて許可を定義します。一度定義すると、組織、サブ組織、またはユーザーに、簡単に割り当てや割り当ての取り消しができます。1つのエンティティからのロールの割り当ての取り消しは、そのエンティティにだけ適用されます。ロールは引き続き存在し、割り当てられたままで他のエンティティに割り当てし直すことができます。そのためアクセスの変更が頻繁に必要な組織により適しています。
- チャンネルの可視性およびユーザーのチャンネル上書き機能を制御します。XML Display Profile 内で、XML ドキュメントのチャンネルの可視または不可視をデフォルトに設定できます。また、XML ドキュメントのデフォルトのチャンネルが上書きされないようにすることもできます。

ユーザー

- 人物の ID を表します。管理者が組織またはサブ組織内に作成できます。
- 複数のロールに関連付けられますが、ユーザーは、ロールスコープの範囲内にある必要があります。またユーザーは、サブ組織から属性を継承します。
- 1つの組織またはサブ組織のみに属しますが、管理者に権限があれば、ユーザーをある組織から別の組織に簡単に移動できます。
- チャンネルの可視性をパーソナライズできます。

シナリオ 1: サブ組織とロールから構成される階層構造

構造をできるだけ平坦にする必要はありますが、階層によっては、必要なグループ化を行うのに役立ちます。階層構造を作成するための行動な手順は次のとおりです。

1. 最上位組織の作成。
2. エンタープライズのユーザーの機能グループまたは組織グループをすべて識別し、DIT 構造エンティティを作成するのに必要なグループ、すなわち固有の特権を持つ必要があるグループを決定します。通常、これはエンタープライズで唯一最大の下位部門で、管理者が管理する必要があります。一般的あるいは機能的な名前を使用して、再編成および名前の変更に問題が発生しないようにします。

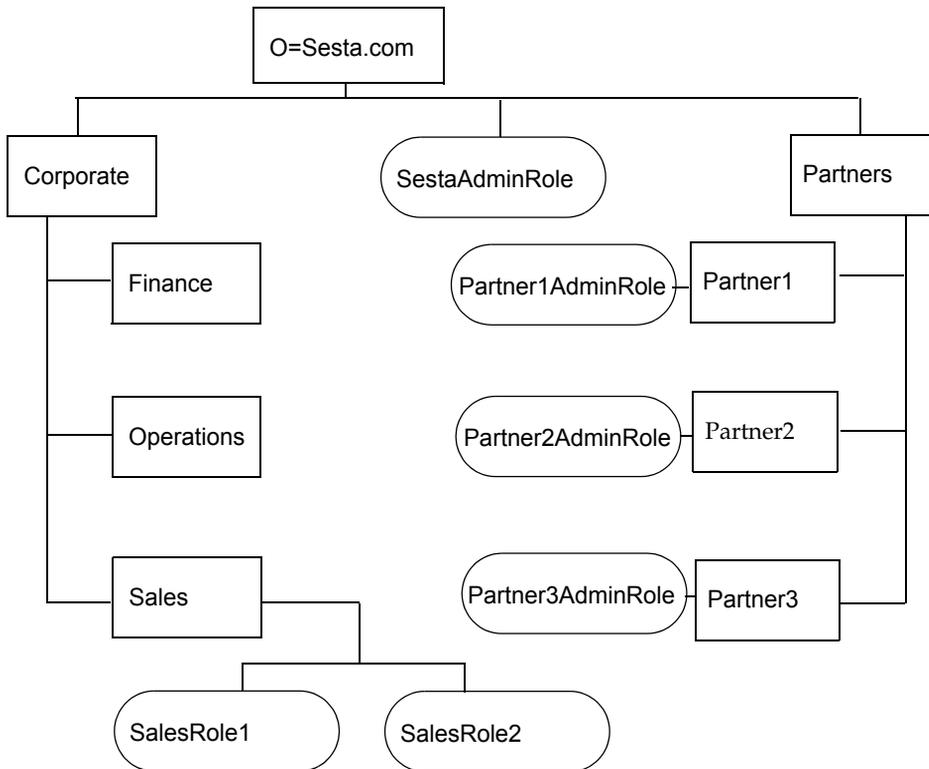
3. 最上位組織と何らかの関係がある各 DIT エンティティについて、そのエンティティにサブ組織 (つまり、iPlanet Directory Server Access Management Edition の中の組織の下位組織)、あるいはロールを作成します。

次のガイドラインを使用して、サブ組織あるいはロールを使用するかどうかを判断します。

- 同様のアクセスの必要性を持つユーザーのグループ化を含むエンティティにサブ組織を定義します。通常、これは、一組の許可を割り当てることができる共通の機能エンティティまたは組織エンティティです。
 - 子組織のユーザーがこのロールを持つ必要があり得る場合は、ロールを定義します。すべてのユーザーは、1つの組織あるいはサブ組織に属します。割り当てられたロールがない場合は、常駐する組織から許可を継承します。このため、属する組織および任意の親組織の両方の属性をユーザーがに持たせる場合は、ロールメカニズムを使用して、複数のロールを割り当てする必要があります。
4. ロールごとに、RoleAdministratorRole を定義してロールを管理します。次に ACI を適切に設定します (管理特権: ユーザーの追加および削除、ロール属性の修正など)。
 5. エンタープライズにアクセスするユーザーを定義します。ユーザーが組織の特権を継承している場合は、ユーザーを適切な組織に配置します。ユーザーがロールの割り当てを通じて特権を受け取る場合は、ロールの範囲内、つまり組織内に入るか、ロールが定義されている組織の子になるように配置する必要があります。

図 2-1 は、階層型ディレクトリ構造を示しています。この図では、最上位組織は Sesta.com です。最上位の1つ下には、組織と Corporate と Partners のサブ組織を管理する SestaAdminRole が置かれます。Corporate 組織には、Finance、Operations、および Sales の3つのサブ組織があります。Sales 組織には、複数のタイプのユーザーが属するため、SalesRole1 および SalesRole2 の2つのロールが定義されています。Partners 組織内には、Partner1、Partner2、および Partner3 の3つのサブ組織があります。これらの組織にはそれぞれ独自の管理者が必要であるため、3つのロールが定義され、それぞれが適切な組織に関連付けられています。パートナーロールは、PartnerAdmin1、PartnerAdmin2、および PartnerAdmin3 です。

図 2-1 階層型ディレクトリ構造

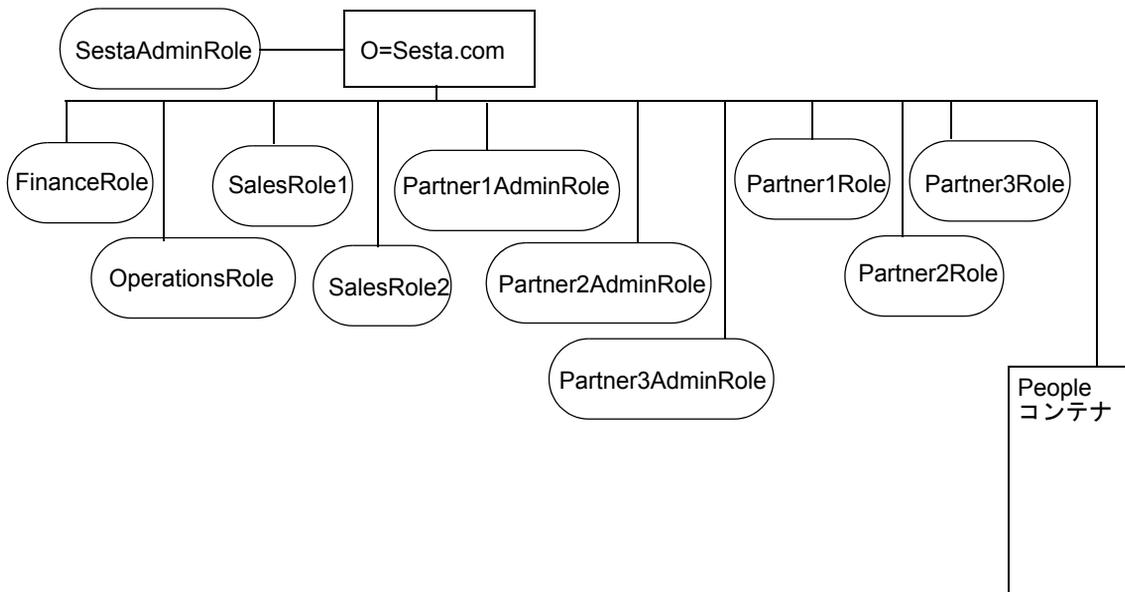


シナリオ 2: 平坦なツリー構造

組織を頻繁に変更する場合は、より平坦な、あるいは全体として一様に平坦なツリー構造が適しています。1つのピープルコンテナを含む1つの組織と、すべてが同じレベルのロールから構成される構造は、エンタープライズを頻繁に変更する際に役立つことがよくあります。1つの組織では、エンタープライズの変更が DIT に影響を及ぼすことはありません。すべてのアクセス権は、ロールを使用して定義され、すべてのユーザーが単一のピープルコンテナに格納され、すべてのロールが同じレベルにあるため、任意のユーザーに任意のロールを割り当てることができます。

図 2-2 は、平坦なディレクトリ構造を示しています。この図では、最上位の唯一の組織は Sesta.com です。すべてのエンティティは、この最上位組織の下に直接定義されます。これらのエンティティには、SestaAdminRole があり、組織や、Finance、Operations、Sales1、および Sales2 ユーザーが必要とするさまざまなエンタープライズ機能の 4 つのロール、およびパートナーが必要とするユーザー機能の 6 つのロールである Partner1Role、Partner2Role、Partner3Role、Partner1AdminRole、Partner2AdminRole および Partner3AdminRole を管理します。

図 2-2 平坦なディレクトリ構造



組織およびサブ組織の新規作成

組織とサブ組織を使用すると、管理やアクセス制御のためにユーザーを構造化およびグループ化できます。エンタープライズの階層または構造を決定した後、それを実装するために必要な組織とサブ組織を作成する必要があります。組織あるいはサブ組織を新しく作成する場合、デフォルトで定義されるサービス、ポリシー、ユーザー、またはロールはありません。このため、新しい組織あるいはサブ組織を作成する場合は、常に、次の高度な手順で設定を行う必要があります。

1. 組織で有効にするサービスをすべて登録します。詳細については、54 ページの「サービスを登録する」を参照してください。通常、少なくとも次のサービスを登録します。
 - 認証。コア認証サービスおよび組織のユーザーが認証に使用する任意の認証サービス (LDAP、匿名)。詳細については、68 ページの「認証の構成」を参照してください。
 - URL ポリシーエージェント。
 - ユーザー。
 - Portal Server のコンフィグレーション。組織のユーザーについて有効にする Portal Server の任意のサービス (デスクトップおよび NetMail)。
2. 登録された各サービスにテンプレートを作成します。55 ページの「サービスのテンプレートを作成する」を参照してください。
3. 組織内のユーザーにアクセス特権を付与する必要があるポリシーを作成します。ポリシーの使用についての詳細は、75 ページの「Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要」を参照してください。
4. ユーザーを組織に追加します。詳細については、55 ページの「新規ユーザーを手動で追加する」を参照してください。
5. 組織で必要な任意のロールを作成し、割り当てます。詳細については、56 ページの「新規ロールを作成する」と57 ページの「ロールをユーザーに割り当てる」を参照してください。
6. 組織で有効なサービスを設定します。デスクトップの設定については、第4章「デスクトップサービスの管理」を参照してください。NetMail の設定については、第6章「NetMail サービスの管理」を参照してください。

単一の線形手順で組織を新規作成し、ポータルを使用するように組織を設定する方法については、64 ページの「ポータル組織の新規作成」を参照してください。

新規の組織あるいはサブ組織を作成する

Sun ONE Portal Server 用に、組織およびサブ組織を設計する推奨の方法については、48 ページの「組織、サブ組織、およびロールの設計」を参照してください。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。

2. デフォルトでは、ログイン時に「表示」メニューの「ユーザー管理」、「表示」メニューの「組織」が選択されます。
作成したすべての組織がナビゲーション区画に表示されます。
3. サブ組織を作成する場合は、ナビゲーション区画を使用して、サブ組織を作成する組織を選択します。
4. ナビゲーション区画で「新規」をクリックします。
「組織の作成」テンプレートがデータ区画に表示されます。
5. 「組織の作成」テンプレートで、組織あるいはサブ組織の名前を入力します。
6. 「組織のステータス」の「有効」あるいは「無効」を選択します。
デフォルトは、「有効」です。ステータスは、組織あるいはサブ組織が存在する間は、プロパティの矢印を選択していつでも変更できます。「無効」を選択すると、組織あるいはサブ組織へのログインが無効になります。
7. 「作成」をクリックします。
新規の組織あるいはサブ組織がナビゲーション区画に表示されます。

サービスを登録する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
3. サービスを登録する組織あるいはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. 「登録」をクリックします。
6. データ区画から登録する1つまたは複数のサービスを選択して、「登録」を選択します。「すべて選択」ですべてのサービスを選択できます。

サービスのテンプレートを作成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
3. 登録したサービスがある組織あるいはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. 登録されたサービスの横にあるプロパティの矢印を選択します。
6. 「このサービスに使用可能なテンプレートがありません」というメッセージが表示された場合は、「作成」をクリックします。
7. サービスのデフォルトの属性値を使用するか、あるいは変更し、「保存」を選択します。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 固有のサービス属性の設定についての詳細は、『*iPlanet Directory Server Access Management Edition Administrator's Guide*』を参照してください。Sun ONE Portal Server 固有のサービス属性の設定についての詳細は、このマニュアルの該当する付録を参照してください。

新規ユーザーを手動で追加する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. デフォルトでは、ログイン時に「表示」メニューの「ユーザー管理」、「表示」メニューの「組織」が選択されます。
3. ユーザーの作成先である組織あるいはサブ組織に移動します。

4. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択し、「新規」を選択します。
「ユーザーの作成」テンプレートがデータ区画に表示されます。

注 ドロップダウンメニューに「ユーザー」ではなくピープルコンテナが表示される場合は、「ピープルコンテナの表示」属性を組織に対して、または特定のポイントの最上位で設定していることを確認します。これは「DSAME 設定」の「管理」に設定されます。

ユーザーは常にピープルコンテナに格納されますが、「ピープルコンテナの表示」属性を選択していない場合は、組織の1つ下にユーザーを表示し、操作することができます。「ピープルコンテナの表示」はデフォルトでは設定されていません。

5. ユーザーに割り当てるサービスを選択して、「次へ」を選択します。
通常、最低でもデスクトップ、NetMail、セッション、URL ドメインアクセス、および URL ポリシーエージェントサービスをほとんどのユーザーに対して登録する必要があります。
6. ユーザー情報を入力して、「作成」をクリックします。
新規ユーザーがナビゲーション区画に表示されます。

新規ロールを作成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. デフォルトでは、ログイン時に「表示」メニューの「ユーザー管理」、「表示」メニューの「組織」が選択されます。
3. ロールの作成先である組織あるいはサブ組織に移動します。
4. 「表示」メニューから「ロール」を選択し、「新規」を選択します。
「ロールの作成」テンプレートがデータ区画に表示されます。
5. ロール情報 (名前、説明、タイプ、アクセス権) を入力し、「作成」を選択します。
新規ロールがナビゲーション区画に表示されます。

注 代理の管理用にカスタマイズされたロールを作成している場合は、あらかじめそのロールに ACI 特権を定義する必要があります。詳細については、第3章「管理の委任の設定」を参照してください。

ロールをユーザーに割り当てる

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
3. ロールの作成先である組織あるいはサブ組織に移動します。
4. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択します。
5. ロールの割り当て先であるユーザーの横にあるプロパティの矢印を選択します。
データ区画にユーザープロフィール情報が表示されます。
6. 「このユーザーのロール」で「追加」を選択して、割り当て可能なすべてのロールのリストを表示します。
「ロールの追加」テンプレートが表示されます。
7. 割り当てるロールの横にあるボックスをオンにして、「実行」を選択します。
「このユーザーのロール」ボックスが、割り当てられたロールで更新されます。
8. 「保存」をクリックし、変更内容を保存します。

既存のユーザーの Sun ONE Portal Server へのアクセスを有効化する

Sun ONE Portal Server を既存の iPlanet Directory Server Access Management Edition のインスタンスにインストールする場合、ユーザーは、Sun ONE Portal Server デスクトップを使用するには登録されていません。ユーザーがデスクトップにアクセスできるようにするには、ユーザーを有効にする必要があります。次の手順で、デフォルトの組織あるいは別の組織のユーザーを有効にします。

デフォルトの組織のユーザーの有効化

設定する前に、いくつかの構成情報を取得する必要があります。構成の詳細が不明な場合は、`/var/sadm/pkg/SUNWps/pkginfo` ファイルからスクリプトを使用して情報を取り出すことができます。

1. `/var/sadm/pkg/SUNWps/pkginfo` ファイルから、次の情報を確認または取り出します。
 - ディレクトリマネージャの識別名 (`DS_DIRMGR_DN/` で参照)。デフォルト値は `cn=Directory Manager` です。
 - ディレクトリマネージャのパスワード (`DS_DIRMGR_PASSWORD/` で参照)。
 - ディレクトリサーバーのフルドメイン名 (`DS_HOST/` で参照)。
 - ディレクトリサーバーが実行するポート (`DS_PORT/` で参照)。デフォルト値は 389。
 - ディレクトリツリーのルートサフィックス (`DS_ROOT_SUFFIX/` で参照)。デフォルト値は `o=isp` です。
 - Sun ONE Portal Server インストールのデフォルトの組織 (`DS_DEFAULT_ORG/` で参照)。デフォルト値は `o=domain-name` です。
 - Sun ONE Portal Server インストールのベースディレクトリ (`/BaseDir/` で参照)。デフォルト値は `/opt` です。

構成情報が不明な場合は、次のスクリプトを実行して出力を参照し、この手順を完了するのに必要な情報を取得してください。

```
#####
# ファイルから設定を取得
#####

GrabConfig() {
    GRABCONFIG_KEY=$1
    GRABCONFIG_FILE=$2
    GRABCONFIG_SEPARATOR=$3
    ANSWER_CONFIG=`$GREP "^$GRABCONFIG_KEY$GRABCONFIG_SEPARATOR"
$GRABCONFIG_FILE | $UNIQ | $SED -e
"s/$GRABCONFIG_KEY$GRABCONFIG_SEPARATOR//" | $SED -e "s/^ //"`
}

#####
# PS6 設定を取得
#####

GetPS6Settings() {
    if [ -f $PKGINFO ]; then
        # Ldap の設定
    #
        GrabConfig "DS_HOST" $PKGINFO "="
        DS_HOST=$ANSWER_CONFIG
        echo "DS_HOST=$DS_HOST"
        GrabConfig "DS_PORT" $PKGINFO "="
        DS_PORT=$ANSWER_CONFIG
        echo "DS_PORT=$DS_PORT"
    fi
}
```

```

GrabConfig "DS_DIRMGR_DN" $PKGINFO "="
    DS_DIRMGR_DN=$ANSWER_CONFIG
    echo "DS_DIRMGR_DN=$DS_DIRMGR_DN"
GrabConfig "DS_DIRMGR_PASSWORD" $PKGINFO "="
    DS_DIRMGR_PASSWORD=$ANSWER_CONFIG
    echo "DS_DIRMGR_PASSWORD=$DS_DIRMGR_PASSWORD"

#####
# PS6 設定を取得
#####

GetPS6Settings() {

    if [ -f $PKGINFO ]; then

# Ldap の設定
#
GrabConfig "DS_HOST" $PKGINFO "="
DS_HOST=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_HOST=$DS_HOST"
GrabConfig "DS_PORT" $PKGINFO "="
DS_PORT=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_PORT=$DS_PORT"
GrabConfig "DS_DIRMGR_DN" $PKGINFO "="
DS_DIRMGR_DN=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_DIRMGR_DN=$DS_DIRMGR_DN"
GrabConfig "DS_DIRMGR_PASSWORD" $PKGINFO "="
DS_DIRMGR_PASSWORD=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_DIRMGR_PASSWORD=$DS_DIRMGR_PASSWORD"

```

```

# Dsame の設定
#
GrabConfig "IDSAME_BASEDIR" $PKGINFO "="
IDSAME_BASEDIR=$ANSWER_CONFIG
echo "IDSAME_BASEDIR=$IDSAME_BASEDIR"

AMCONFIG="{IDSAME_BASEDIR}/SUNWam/lib/AMConfig.properties"
if [ -f $AMCONFIG ]; then
    DS_ROOT_SUFFIX=`$GREP "^com.iplanet.am.rootsuffix="
$AMCONFIG |`
    $SED -e "s/com.iplanet.am.rootsuffix=//"`
    echo "DS_ROOT_SUFFIX=$DS_ROOT_SUFFIX"
    DS_DEFAULT_ORG=`$GREP "^com.iplanet.am.defaultOrg="
$AMCONFIG | \
        $SED -e "s/com.iplanet.am.defaultOrg=//"`
    echo "DS_DEFAULT_ORG=$DS_DEFAULT_ORG"
else
    print "`$GETTEXT 'Error - Cannot find DSAME configuration
file,
please verify PS6 installation.'"
    exit 1
fi
else
    print "`$GETTEXT 'Error - Cannot find SUNWps package
information
files, please verify PS6 installation.'"
    exit 1
fi

```

2. ディレクトリを iPlanet Directory Server Access Management Edition ユーティリティのディレクトリに変更します。たとえば、ベースディレクトリが /opt の場合は、次のように入力します。

```
cd /IDSAME_BaseDir/SUNWam/bin
```

3. ディレクトリサーバーとデフォルトの組織のルートサフィックスが同じでない場合は、次のコマンドを実行します。

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w  
/DS_DIRMGR_PASSWORD/ -b "ou=People,/DS_DEFAULT_ORG/,/DS_ROOT_SUFFIX/"  
"(uid=*)" dn | /usr/bin/sed 's/^version.*//> /tmp/.tmp_ldif_file1
```

4. ディレクトリサーバーとデフォルトの組織のルートサフィックスが同じである場合は、次のコマンドを実行します。

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w  
/DS_DIRMGR_PASSWORD/ -b "ou=People,/DS_ROOT_SUFFIX/" "(uid=*)" dn | /usr/bin/sed  
's/^version.*//> /tmp/.tmp_ldif_file1
```

5. 次のコマンドを実行します。

```
grep "^dn" /tmp/.tmp_ldif_file1 | awk '{  
print $0  
print "changetype: modify"  
print "add: objectclass"  
print "objectclass: sunPortalDesktopPerson"  
print "objectclass: sunPortalNetmailPerson\n" }' >  
/tmp/.tmp_ldif_file2
```

6. 次のコマンドを実行します。

```
./ldapmodify -c -h DS_HOST -p DS_PORT -D DS_DIRMGR_DN -w  
DS_DIRMGR_PASSWORD -f /tmp/.tmp_ldif_file2
```

7. すべての一時ファイルを削除します。

```
rm /tmp/.tmp_ldif_file1 /tmp/.tmp_ldif_file2
```

デフォルト以外の組織のユーザーの有効化

1. /var/sadm/pkg/SUNWps/pkginfo ファイルから、次の情報を確認または取り出します。
 - ディレクトリマネージャの識別名 (*DS_DIRMGR_DN/* で参照)。デフォルト値は `cn=Directory Manager` です。
 - ディレクトリマネージャのパスワード (*DS_DIRMGR_PASSWORD/* で参照)。
 - ディレクトリサーバーのフルドメイン名 (*DS_HOST/* で参照)。

- ディレクトリサーバーが実行するポート (*DS_PORT/* で参照)。デフォルト値は 389。
 - ディレクトリツリーのルートサフィックス (*DS_ROOT_SUFFIX/* で参照)。デフォルト値は `o=isp` です。
 - ユーザーを更新する Sun ONE Portal Server インストールの組織 (*DS_ORG_TO_UPDATE/* で参照)。デフォルト値は "。
 - Sun ONE Portal Server インストールのベースディレクトリ (*BaseDir/* で参照)。デフォルト値は `/opt` です。
2. 有効にする既存のユーザーを含む組織またはサブ組織のサービスを登録します。手順の詳細については、54 ページの「サービスを登録する」を参照してください。
 3. 登録するサービスごとにテンプレートを作成します。手順の詳細については、55 ページの「サービスのテンプレートを作成する」を参照してください。
 4. サービスごとにポリシーを作成して割り当てます。詳細については、76 ページの「デスクトップポリシーを作成する」、77 ページの「NetMail ポリシーの作成」、および 77 ページの「組織にポリシーを割り当てる」を参照してください。
 5. 認証ユーザーの組織からの転送先に URL を設定します。101 ページの「ログインユーザーをデスクトップ URL に正しくリダイレクトする」を参照してください。
 6. ディレクトリを iPlanet Directory Server Access Management Edition ユーティリティのディレクトリに変更します。たとえば、ベースディレクトリが `/opt` の場合は、次のように入力します。

```
cd /IDSAME_BaseDir/SUNWam/bin
```

7. 組織内のユーザーまたは組織を有効にするには、次のどちらかを実行します。
 - 特定の組織内のユーザーだけを有効にするには、*DS_ORG_TO_UPDATE/* として定義し、次のコマンドを使用します。

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w
/DS_DIRMGR_PASSWORD/ -b "ou=People,/DS_ORG_TO_UPDATE/,/DS_ROOT_SUFFIX/"
"(uid=*)" dn | /usr/bin/sed 's/^version.*//' > /tmp/.tmp_ldif_file1
```

- すべての組織のユーザーを有効にするには、次のコマンドを使用します

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w
/DS_DIRMGR_PASSWORD/ -b "/DS_ROOT_SUFFIX/" "(uid=*)" dn | /usr/bin/sed
's/^version.*//' > /tmp/.tmp_ldif_file1
```

8. 次のコマンドを実行します。

```
grep "^dn" /tmp/.tmp_ldif_file1 | awk '{
print $0
print "changetype: modify"
print "add: objectclass"
print "objectclass: sunPortalDesktopPerson"
print "objectclass: sunPortalNetmailPerson\n" }' >
/tmp/.tmp_ldif_file2
```

9. 次のコマンドを実行します。

```
./ldapmodify -c -h DS_HOST -p DS_PORT -D "DS_DIRMGR_DN" -w
DS_DIRMGR_PASSWORD -f /tmp/.tmp_ldif_file2
```

10. すべてのテンプレートファイルを削除します。

```
rm /tmp/.tmp_ldif_file1 /tmp/.tmp_ldif_file2
```

11. ディレクトリを Portal Server のユーティリティのディレクトリに変更します。

```
cd /IDSAME_BaseDir/SUNWps/bin
```

12. 次のコマンドを実行して、デフォルト以外の組織の表示プロファイルをロードします。

```
./dpadmin modify -u
"uid=amadmin,ou=people,DS_DEFAULT_ORG,DS_ROOT_SUFFIX" -w
DS_DIRMGR_PASSWORD -d
"NON_DEFAULT_ORG,DS_DEFAULT_ORG,DS_ROOT_SUFFIX"
IDSAME_BaseDir/SUNWps/samples/desktop/dp-org.xml
```

13. 別の組織のユーザーを有効にするには、Step 7 から Step 13 までを繰り返します。

ポータル組織の新規作成

次のタスクでは組織を新規作成し、ポータル用途用に有効にする手順を説明します。

1. 組織を新規作成します。
 - a. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
 - c. 「新規」をクリックします。

「組織の作成」テンプレートがデータ区画に表示されます。

- d. 新規組織名を入力します。「組織のステータス」を「有効」にする必要があります。「作成」をクリックします。

ナビゲーション区画に、新規作成した組織が表示されます。

2. 組織のサービスを登録します。

- a. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択し、新規作成した組織を選択します。
- b. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
- c. 「登録」をクリックします。

「サービスの登録」テンプレートがデータ区画に表示されます。最低でも以下のサービスのチェックボックスを選択し、「登録」をクリックします。

- コア
- LDAP
- URL ポリシーエージェント
- ユーザー
- デスクトップ
- NetMail

新規登録されたサービスがナビゲーション区画に表示されます。

3. 登録されたサービスのテンプレートを作成します。

- a. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択します。
新規作成された組織が選択されている必要があります。
- b. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
- c. サービスの隣のプロパティの矢印アイコンを1つ1つクリックし、テンプレートを作成します。

コアサービスについては、「ユーザーのデフォルトリダイレクト URL」の値を /portal/dt に変更します (サンプルポータルが表示されるようにします)。デフォルトは /amconsole/base/AMAdminFrame になります。また「認証」メニューで適切な認証方式を選択します。

4. デスクトップポリシーを作成します。

- a. 「表示」メニューから「ポリシー管理」を選択します。

- b. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
 - c. 「新規」をクリックし、新しいポリシーを作成します。
「ポリシーの作成」テンプレートがデータ区画に表示されます。
 - d. 「名前」に「Desktop Access Policy」と入力します。「サービス」として「Desktop」を選択します。「作成」をクリックします。
 - e. 「ルールの追加」をクリックします。「デスクトップ実行権限を所有」が選択されていることを確認し、「保存」をクリックします。
 5. 新規作成したデスクトップポリシーを割り当てます。
 - a. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択します。
新規作成された組織が選択されている必要があります。
 - b. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
 - c. 「割り当て」をクリックします。
「ポリシーの割り当て」テンプレートがデータ区画に表示されます。
 - d. 新規作成された「デスクトップアクセスポリシー」のチェックボックスを選択し、「割り当て」をクリックします。
ナビゲーション区画が割り当てられたポリシーで更新されます。
 6. NetMail ポリシーを作成します。
 - a. 「表示」メニューから「ポリシー管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
 - c. 「新規」をクリックし、新しいポリシーを作成します。
「ポリシーの作成」テンプレートがデータ区画に表示されます。
 - d. 「名前」に「NetMail Access Policy」と入力します。「サービス」として「NetMail」を選択します。「作成」をクリックします。
 - e. 「ルールの追加」をクリックします。「NetMail 実行権限」が選択されていることを確認し、「保存」をクリックします。
 7. 新規作成した NetMail ポリシーを割り当てます。
 - a. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択します。
新規作成された組織が選択されている必要があります。
 - b. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。

- c. 「割り当て」をクリックします。
「ポリシーの割り当て」テンプレートがデータ区画に表示されます。
 - d. 新規作成された「NetMail Access Policy」のチェックボックスを選択し、「割り当て」をクリックします。
ナビゲーション区画が割り当てられたポリシーで更新されます。
8. 新しい組織にディスプレイプロファイルをロードします。
- a. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択します。
新規作成された組織が選択されている必要があります。
 - b. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
 - c. 「Desktop」の隣のプロパティの矢印をクリックします。
「デスクトップ」のテンプレートがデータ区画に表示されます。
 - d. 「XML のダウンロード」と「XML のアップロード」リンクを使用して、LDAP にディスプレイプロファイルをロードします。完了したら「保存」をクリックします。

注 LDAP にディスプレイプロファイルをロードする場合は、`dpadmin` コマンドも使用できます。

9. 新しい組織でテストに使用する新規ユーザーを作成します。
- a. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
 - c. 新規作成した組織を選択します。
 - d. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択します。
 - e. 「新規」をクリックします。
「ユーザーの作成」テンプレートがデータ区画に表示されます。
 - f. サービスの隣チェックボックスをクリックし、「次へ」をクリックします。
 - g. ユーザー情報を入力して、「作成」をクリックします。
10. 新しい組織のデスクトップにアクセスします。
- a. 管理コンソールからログアウトします。

- b. ブラウザウィンドウを開き、次のように入力します。

`http://server:port/amserver/login?org=neworg`

ユーザーのデスクトップが表示されます。

認証の構成

この節では、Sun ONE Portal Server 認証の構成について説明します。iPlanet Directory Server Access Management Edition には、認証のフレームワークがあります。認証は、ユーザーの ID を確認するプラグインモジュールを通じて実装されます。iPlanet Directory Server Access Management Edition には、コア認証モジュールをはじめ 7 つの異なる認証モジュールがあります。iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して、デフォルト値を設定し、認証サービスを登録し、組織の認証テンプレートを作成し、サービスを有効化します。コア認証モジュールは認証のための設定全般を提供するため、どの特定の認証モジュールを設定する前にでも、コア認証モジュールを登録し、コア認証モジュールのテンプレートを組織別に作成しておく必要があります。

インストール中に、コア認証が登録され、デフォルトの組織にテンプレートが作成されます。また、インストールにより、次の認証モジュールが登録され、テンプレートが作成されます。

- LDAP – LDAP 認証により、ディレクトリツリーの検索ベース内にある有効なユーザーはすべて、Sun ONE Portal Server にログインできます。これにより自動的にユーザーが特定のロールに割り当てられます。
- メンバーシップ – メンバーシップ認証により、ユーザーはアカウントを作成し、管理者の補助がなくてもそのアカウントをパーソナライズできます。ユーザーはこの新しいアカウントを使用して、登録ユーザーとしてアクセスできます。
- 匿名 – 匿名認証により、ユーザーは、ユーザー名あるいはパスワードを示すことなく、ログインし、アクセス権を得ることができます。匿名アクセスは、特定の種類のアクセス (たとえば、読み取り用のアクセス、検索用のアクセスなど)、または、ディレクトリ内の特定のサブツリーあるいは個別のエントリに制限できます。

注 インストールは、コア、LDAP、メンバーシップ、および匿名モジュールからなる基本認証の実装を構成しますが、新しい組織を作成したり、外部 LDAP ディレクトリを認証する機能など追加の認証機能をセットアップする場合には、手動で認証を構成する必要があります。

認証モジュールを設定する高度な手順は次のとおりです。

1. 各組織にコア認証サービスを登録します。サービスを登録する手順については、54 ページの「サービスを登録する」を参照してください。
2. コア認証サービスにテンプレートを作成します。サービスにテンプレートを作成する手順については、55 ページの「サービスのテンプレートを作成する」を参照してください。
3. 各組織にサポートする認証サービスを登録します。サービスを登録する手順については、54 ページの「サービスを登録する」を参照してください。
4. 認証サービスに組織でサポートするサービステンプレートを作成します。認証サービスにテンプレートを作成する手順については、55 ページの「サービスのテンプレートを作成する」を参照してください。サービスの属性の設定についての詳細は、『*iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理者ガイド*』の第 5 章「認証オプション」を参照してください。
5. 認証メニューを設定します。メニューを設定する手順については、69 ページの「認証メニューを構成する」を参照してください。

認証メニューを構成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
3. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. 「コア」の隣のプロパティの矢印を選択します。

6. 「組織」セクションの「認証メニュー」フィールドで適切な認証モジュールを選択して有効にします。

デフォルトでは、Sun ONE Portal Server インストールにより、LDAP およびメンバーシップが有効になります。

7. 「保存」をクリックします。
8. 次の URL を使用して、管理サーバーにログインし、認証メニューが適切な選択肢と一緒に表示されることを確認します。

`http://host:port/amserver/login`

これがデフォルト認証ではない場合は、次の URL を使用して組織の認証メニューを確認します。

`http://host:port/amserver/login?module=LDAP&org=org_name`

注 ユーザーおよび管理者の両方にサブ組織の認証が継承されます。

外部ディレクトリに LDAP 認証を構成する

Sun ONE Portal Server をインストールすると、インストールプログラムによりディレクトリインスタンスへの LDAP 認証が自動的に設定されます。インストールプログラムにより、ローカルサーバーにディレクトリの内部インスタンスをインストールし、その内部ディレクトリに対する LDAP 認証を設定するか、またはディレクトリの既存の外部インスタンスへの LDAP 認証を設定できます。初期設定を行うと、外部 LDAP ディレクトリへの認証を設定するいくつかのシナリオが想定されます。たとえば、パフォーマンスまたはセキュリティ上の理由から、特定の組織の認証情報を専用の LDAP サーバーに分離することができます。

注意 amadmin ユーザーを含む組織については、外部 LDAP に認証を構成しないでください。これは、amadmin ユーザーの認証を妨げ、管理コンソールに入れなくなる可能性があるためです。誤って amadmin ユーザーを含む組織を構成してしまった場合は、amadmin の完全 DN を使用してログインし、LDAP テンプレートを修正する必要があります。amadmin DN は、AMConfig.properties ファイルの `com.iplanet.authentication.super.user` プロパティに一覧表示されます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。

2. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
3. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. コアの隣のプロパティの矢印を選択します。
6. 「ダイナミックユーザープロファイルの作成を有効」をオンにし、「保存」を選択します。
7. LDAP の隣のプロパティの矢印を選択します。
8. サーバーに適切な LDAP 属性を設定します。次の例では、ou=people、dc=sesta、dc=com の検索開始位置で、また匿名バインドを使用して、ポート 389 の LDAP サーバー ds-sesta1.sesta.com にアクセスを設定します。

プライマリ LDAP サーバーおよびポート : ds-sesta1.sesta.com:389
セカンダリ LDAP サーバーおよびポート : ds-sesta1.sesta.com:389
ユーザー検索を開始する DN: ou=people,dc=sesta,dc=com
root ユーザーバインドのための DN: 空白
root ユーザーバインドのパスワード : 空白
ユーザーネーミング属性 : uid
ユーザーエントリ検索属性 : employeenumber
ユーザー検索フィルタ : 空白
検索範囲 : サブツリー
LDAP サーバーに対する SSL を有効にする : オフ
認証においてユーザー DN を返す : オフ
認証レベル : 0
9. 「保存」を選択します。

匿名認証の構成

Sun ONE Portal Server は、匿名認証の実装について次の 2 つのメソッドをサポートしています。

- 認証なしのユーザー ID の属性を使用する場合、デスクトップ URL にアクセスしているユーザーは、自動的に認証され、デスクトップへのアクセス権を与えられます。

- 匿名ユーザセッションを使用する場合、ユーザーは、「認証」メニューから「匿名」を選択して、anonymous としてログインし、デスクトップへのアクセス権を得ます。

Sun ONE Portal Server 製品をインストールすると、インストールプログラムは、デフォルトで、認証なしのデフォルトユーザー ID の各属性を使用して、デフォルトの組織のデスクトップへの匿名認証を有効にします。この機能を実装するには、Sun ONE Portal Server インストールプログラムで、ユーザーアカウント authlessanonymous を作成して、次の 2 つのデスクトップサービスのグローバル属性で、このユーザーについてのアクセスを設定します。

- 承認された認証なしユーザー ID
- デフォルト認証なしユーザー ID

Sun ONE Portal Server は、次の操作を実行できるという点において、認証なしと匿名認証の同時設定をサポートします。

1. デスクトップを認証モードでの動作に設定します。
2. 選択肢の 1 つとして「匿名」が表示されるように、認証メニューを設定します。
3. ブラウザ A でデスクトップにアクセスします。この場合は認証なしモードでのアクセスになります。
4. ブラウザ B で `http://server/amserver/login` にアクセスし、「匿名」を選択します。デスクトップが表示されます。

この時点では、ブラウザ A で認証なしモードを使用し、ブラウザ B では匿名モードを使用しています。

デスクトップにアクセスする方法は 2 とおりです。一方の認証なしの方法は `/portal/dt` を直接参照しますが、もう一方 (匿名) では間接的に `/amserver/login` を使用します。

iPlanet Directory Server Access Management Edition のメニューに匿名ログインのみを設定すると、iPlanet Directory Server Access Management Edition の「ログイン」メニューを省略することができます。

認証なしと匿名の両方の認証方式が同時にサポートされることはありません。このため、iPlanet Directory Server Access Management Edition セッションを開始せずに `/portal/dt` にアクセスする場合、次のどちらかのみが実行されます。

- a. デスクトップは `/amserver/login` をリダイレクトします。これによって自動的に匿名ログインが行われ、ユーザーが `/portal/dt` にリダイレクトされる場合があります。

b. Desktop は認証なしモードで実行されます。

認証なしを使用する場合、匿名認証を無効にする必要はありません。ただし、上記の項目 a を実行する場合は、認証なしモードを無効にする必要があります。

匿名認証を構成する (匿名ユーザー セッション方式)

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. 「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
データ区画に Desktop の属性が表示されます。
4. 「承認された認証なしユーザー ID」属性でリストに表示された値を選択し、「削除」を選択します。
5. 「デフォルト認証なしユーザー ID」属性の値を削除します。
6. 「保存」をクリックします。
7. 「表示」メニューから「ユーザー管理」を選択します。
8. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
9. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
10. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
11. 「匿名」を登録して、構成します。
54 ページの「サービスを登録する」と 55 ページの「サービスのテンプレートを作成する」を参照してください。
12. 「認証」メニューに「匿名」を追加します。
69 ページの「認証メニューを構成する」を参照してください。
13. anonymous ユーザーアカウントを作成します。
55 ページの「新規ユーザーを手動で追加する」を参照してください。

匿名認証を構成する (認証なしのユーザー ID 方式)

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. パスワード `authlessanonymous` で `authlessanonymous` ユーザーアカウントを作成します。
55 ページの「新規ユーザーを手動で追加する」を参照してください。
3. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
4. Desktop の横にあるプロパティの矢印をクリックします。
データ区画に Desktop の属性が表示されます。
5. 「承認された認証なしユーザー ID」属性に `authlessanonymous` ユーザーの完全識別名を追加します。たとえば、次のようになります。
`uid=authlessanonymous, ou=People, o=sesta.com, o=isp`
6. 「デフォルト認証なしユーザー ID」属性で `authlessanonymous` ユーザーの完全識別名を指定します。
7. 「保存」をクリックします。

ブラウザを閉じて再起動し、新しく構成した認証なしのユーザー ID 方法を使用してデスクトップにアクセスする必要があります。認証なしのユーザー ID 方法により、問い合わせ文字列でユーザーアカウントの UID を指定できます。たとえば、デフォルト組織 `sesta.com` からデスクトップにアクセスする場合は次の URL を使用します。

```
http://server:port/portal/dt?dt.suid=uid= authlessanonymous,  
ou=People,o=sesta.com, o=isp
```

UNIX 認証を構成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
3. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。

4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. 「登録」をクリックします。
6. データ区画で「UNIX」をオンにして、「登録」をクリックします。
7. UNIX の隣のプロパティ矢印をクリックします。
8. 「作成」をクリックします。
9. サーバーに適切な UNIX 属性を設定します。
10. 「保存」をクリックします。
11. コアの隣のプロパティ矢印をクリックします。
12. 「認証」メニューに「UNIX」を追加します。

69 ページの「認証メニューを構成する」を参照してください。

Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要

この節では、iPlanet Directory Server Access Management Edition のポリシー管理機能の使用法について説明します。ポリシーの作成、修正、および削除を行う実際の手順については、iPlanet Directory Server Access Management Edition のマニュアルを参照してください。

iPlanet Directory Server Access Management Edition のポリシーサービスにより、規則を定義したり、リソースにアクセスしたりすることができます。ポリシーは、ロールあるいは組織に基づき、特権を提供したり、制約を定義したりすることができます。Sun ONE Portal Server には、次の 2 つのポリシーが内蔵されています。

- SunONE デスクトップ実行機能 - ユーザーがデスクトップを表示できるようにします。
- SunONE NetMail 実行機能 - ユーザーが NetMail を実行できるようにします。

注 第 4 章「デスクトップサービスの管理」と第 6 章「NetMail サービスの管理」では特定のポリシーの割り当てに関する詳細を説明しています。

ポリシーを使用するための高度な手順は、次のとおりです。

1. 組織のポリシーサービスを登録します (これは、インストール時に指定した組織について、自動的に行われます)。サブ組織は、親サービスを継承しないため、サブ組織のポリシーサービスを登録する必要があります。詳細については、54 ページの「サービスを登録する」を参照してください。
2. ポリシーを作成します。ポリシーは、ポリシー管理インタフェースを通じて作成されます。一度指定したポリシーが作成されると、ユーザー管理インタフェースを通じて、ロールあるいは組織を割り当てることができます。デフォルトのデスクトップおよび NetMail ポリシーを使用する場合は、この手順を省略できます。詳細については、76 ページの「デスクトップポリシーを作成する」と 77 ページの「NetMail ポリシーの作成」を参照してください。
3. ユーザーにポリシーを割り当てます。一度ポリシーを指定して、作成すると、組織あるいはロールを割り当てることができます。これは、ユーザー管理インタフェースを使用して行います。組織レベルでポリシーを割り当てると、組織のすべてのエントリで属性が有効になります。ロールにポリシーを割り当てると、ロールの属性を持つすべてのユーザーに属性が有効になります。詳細については、77 ページの「組織にポリシーを割り当てる」を参照してください。

デスクトップポリシーを作成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ポリシー管理」の「表示」メニューで、「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
3. ポリシーを作成する組織あるいはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
4. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
5. 「新規作成」を選択します。
6. 「名前」フィールドに「Portal Server デスクトップを実行可能」と入力します。
7. サービスの種類として「Desktop」を選択します。
8. 「作成」を選択します。

9. 「競合の解決レベル」を設定します。
競合の解決レベルの設定についての詳細は、付録 C 「デスクトップの属性」を参照してください。
10. 「ルールを追加」、「保存」の順に選択します。

NetMail ポリシーの作成

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ポリシー管理」の「表示」メニューで、「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。
3. ポリシーを作成する組織あるいはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
4. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
5. 「新規作成」をクリックします。
6. 「名前」フィールドに「Portal Server NetMail を実行可能」と入力します。
7. サービスの種類として「NetMail」を選択します。
8. 「作成」をクリックします。
9. 「競合の解決レベル」を設定します。
競合の解決レベルの設定についての詳細は、付録 C 「デスクトップの属性」を参照してください。
10. 「ルールを追加」、「保存」の順に選択します。

組織にポリシーを割り当てる

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
ナビゲーション区画に作成したすべての組織が表示されます。

3. ポリシーを割り当てる組織あるいはサブ組織に移動します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
4. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
5. 「割り当て」を選択します。
6. 割り当てるポリシーの横にあるチェックボックスをオンにして、「割り当て」を選択します。

Sun ONE Portal Server デスクトップへのログイン

サンプルポータルをインストールしている場合は、ユーザーはサンプルのデスクトップにログインできます。また、Sun ONE Portal Server は、その他のユーザーのさまざまなログインをサポートしています。この節では、Sun ONE Portal Server にログインする方法について説明します。

サンプルのデスクトップにログインする

サンプルデスクトップにアクセスするには、次の URL を入力します。

`http://server:port/portal/dt`

サブ組織にログインする

ユーザーに組織へのアクセス権がある場合、組織内のサブ組織にログインすることもできます。たとえば、ユーザーがサブ組織 B を持つ組織 A にアクセスできる場合、次の URL を入力してサブ組織 B にログインします。

`http://server:port/amserver/login?org=B`

匿名認証を使用してログインする

注 匿名認証をサポートする場合、匿名認証モジュールを登録する必要があります。匿名認証モジュールの登録と有効化については、71ページの「匿名認証の構成」を参照してください。

1. 次の URL を使用してログインします。
`http://server:port/portal/dt`
2. iPlanet Directory Server Access Management Edition 認証ページで、「匿名」をクリックします。
3. サンプルのデスクトップが表示されます。
4. 必要に応じて、またメンバーシップ認証モジュールが登録されている場合、「ログイン」画面でユーザー ID を作成し、登録します。

ロギングの管理

Sun ONE Portal Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition ロギングおよびデバッグ API を使用します。

デフォルトでは、Sun ONE Portal Server のログファイルおよびデバッグファイルは、次のディレクトリに格納されています。

- /var/opt/SUNWam/logs
- /var/opt/SUNWam/debug

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールにより、次のロギングの属性を定義できます。

- ログの最大サイズ
- 履歴ファイルの数
- ログの場所
- ロギング タイプ
- データベース ユーザー名
- データベースユーザーパスワード

- データベースドライバ名

詳細については『*iPlanet Directory Server Access Management Edition* 管理者ガイド』を参照してください。

管理の委任の設定

この章では Sun™ ONE Portal Server の管理の委任を設定する方法について説明します。

この章には、次の節があります。

- 管理の委任の概要
- 管理の委任モデルの開発
- 管理の委任の設定

管理の委任の概要

企業が作成するポータルが大規模かつ複雑になるに従い、中央集中型管理モデルはもはや実現不可能です。管理の委任、すなわち Line of Business (LOB) 管理は、管理作業を実際のポータル ユーザーに委任または分散することで、この問題に対処しています。

Sun ONE Portal Server では、ロールを使用して管理機能をユーザーに委任できます。企業はロールベースの管理によって、規模の小さな組織または LOB に事業を分割できます。これによって異なるユーザーがユーザーのロールに基づいて組織、サブ組織、ユーザー、ポリシー、ロール、チャンネル、および LOB のデスクトッププロバイダを管理できます。

82 ページの表 3-1 に、Sun ONE Portal Server で適用されるいくつかの重要な管理の委任のリストと定義を示します。この表には用語とその簡単な説明が示されています。

表 3-1 管理の委任の用語

用語	説明
権限	単一のリソースと、そのリソースに基づいて実行できる単一のアクションの組み合わせ (たとえば、静的な Web ページの表示、給料アプリケーションへの支払い控への表示、給料アプリケーションの W-4 データの修正など)。
アクション	アクションはあるリソースで実行できる手順または操作です (たとえば、カタログの読み出し、カタログの記述、POP による電子メールの入手、IMAP による電子メールの入手など)。
リソース	リソースはソフトウェアで抽象的に表現でき、アクセスが制御および保護されるものです。iPlanet™ Directory Server Access Management Edition では、リソースは URL Access のみを示します。
スーパー管理者ロール	ポリシーと ID のすべての設定に対して完全な管理権限を持つロール。
組織管理者ロール	特定の組織のポリシーと ID のすべての設定に対して完全な管理権限を持つロール。
Line of Business (LOB)	LOB 機能はビジネス アナリストまたは同等の地位の者が実行できる管理機能です。LOB 管理者は Super 管理機能が必要としない管理作業を実行できます。通常、リソースへのアクセス権を与えるロールにユーザーを追加する、またはそのロールからユーザーを削除するなどの LOB 機能は対象範囲内でのみ使用できます。
ロール管理者ロール	ロール管理者ロールは、その他の特定のロールと特定のユーザー オブジェクトセットを管理するためのアクセス権を持つロールです。たとえば、ロールへのユーザーの追加と削除、または属性のロール レベルの編集などです。
ロール管理者	ロール管理者はロール管理者ロールが割り当てられたユーザーです。

委任管理ロール

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールは、ロールベースの管理の委任の機能を異なる種類の管理者に割り当て、指定されたアクセス権に基づいて組織、ユーザー、ポリシー、ロール、チャンネル、および Desktop プロバイダを管理します。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールには、管理機能を委任するためのいくつかの管理者ロールがあらかじめ設定されています。これらのロールは次のとおりです。

- Super Admin

- Group Admin
- Organization Admin
- Organization Help Desk Admin
- People Container Admin
- Organizational Unit Admin
- Organizational Unit Help Desk Admin
- Top Level Admin

これらのロールについての詳細は、iPlanet Directory Server Access Management Edition の製品マニュアルを参照してください。

注 また、iPlanet Directory Server Access Management Edition はその他に 3 つのロールを実行します。Top-level Admin、Top-level Help Desk Admin、および Deny Write Access です。これらのロールはインストール時に作成され、インストールのルートにのみ存在します。新たに作成された組織には、これらのロールはありません。デフォルトでは、組織が新規作成されると、3 つのロール、すなわち Organization Admin、Organization Help Desk Admin、および People Admin が作成されます。

これらの事前に定義された管理者ロールを使用して、ロールの機能がニーズに合う場合は委任管理の実装を設定できます。たとえば、1 つの組織の下に複数のサブ組織があるディレクトリ構造のモデルを使用している場合、Organization Admin を複数のユーザーに割り当て、サブ組織ごとに委任管理者を作成することができます。ただし、企業の組織構造がより複雑な場合は、特定のニーズに的を絞った管理の委任を作成する方がよい可能性があります。この場合、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して、特定の業務上のニーズに合わせて委任管理者ロールを定義できます。

企業に合った管理の委任モデルを実装する場合、3 つの重要な概念ロールがあります。

- Super Admin Role
- Organization Admin Role
- Role Administrator Role

Super Admin Role と Organization Admin Role は、システムまたは新規組織が設定されたときに、自動的に作成されます。Role Administrator Role は、委任管理モデルの要件に基づいて作成するロールです。Role Administrator Role のアクセス権は、対応する アクセス制御命令 (ACI) を直接編集して定義します。

管理の委任では、次の原則が適用されます。

- ユーザー権限はユーザーのロールによって許可されます。
- 権限は個々のユーザーに基づいて、要求される権限を持つロールを定義し、このロールを個々のユーザーに割り当てることで許可されます。
- 特定のロールを1つ割り当てることで、一連のユーザーをグループ化できます。これらのユーザーは権限セットが許可され、そのロールに定義されている動的な属性の値を継承します。
- ユーザーは複数のロールまたは集約ロールを持つことができます。複数のロールを持つユーザーは、すべてのロールの機能の組み合わせにアクセスできます。集約されたロールで許可される機能で競合が起これば、それらのロールの各サービスに定義された競合の解決レベルを通じて設定された優先順位に基づき、競合が解決されます。競合の解決は、「最も高い」から「最も低い」までの7段階に設定できます。複数のロールから複数のデスクトップテンプレートとして属性の競合が統合されると、最も高い競合の解決レベルに設定されたテンプレートの属性が返されます。

管理の委任モデルの開発

Sun ONE Portal Server の管理機能を適切に委任するために、企業が要求する管理ロールを決定する際に役立つ、管理の委任モデルを開発する必要があります。モデルを開発する場合、次の点に注意してください。

- 企業のビジネス要件を絞り込みます。一般に、ロールベースの委任管理に提案されるソリューションは、ビジネス上の要件に沿ったものにする必要があります。
- ユーザーが必要なリソースにアクセスし、ユーザーの管理上のニーズを委任された管理者が管理できるように、ユーザーをグループ化するためのディレクトリ構造を開発します。
- すべての事業要件に対応しながら、事業エンティティを可能な限り標準的なツリー構造に合わせるように試みます。組織とサブ組織を階層化した構造、または平坦なディレクトリ ツリー構造を使用できます。平坦なディレクトリ構造では、すべてのエンティティは最上位の組織の1つ下に定義され、すべて

のロール (Role Administrator Roles を含む) は組織階層としてはお互いに同位になります。たとえば、事業部門に関連するすべてのユーザーは最上位組織の下のユーザー コンテナに作成されます。モデルに必要なアクセス ロールと管理ロールのそれぞれについて、トップレベルで対応するロールが作成します。

管理の委任の設定

Sun ONE Portal Server で管理の委任を設定するための高度な手順は、次のとおりです。

1. Role Administrator Roles の ACI 設定を定義します。
2. 委任モデルのための Admin Roles を新規作成します。
3. Role Administrator Roles をユーザーに割り当てします。
4. ロールへの追加制限を設定します。

Role Administrator Roles の ACI 設定の定義

委任モデルに特定したロール管理者ロールに適切な権限を設定するために、委任モデルの固有の各ロールについて、ACI で適切な権限を定義する必要があります。ロールの ACI 権限テンプレートは、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールまたは Directory Server コンソールを使用して定義します。ldapmodify コマンドを使用すると、特定のロールに対して ACI を定義できます。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールまたは Directory Server コンソールで ACI 権限テンプレートを定義する場合は、次のフォーマットを使用します。

```
aci_name | aci_desc | dn:aci ## dn:aci ## dn:aci
```

ここで

aci_name はロール名です。

aci_desc はこれらの ACI で許可されるアクセスの詳細です。

dn:aci は DN と ACI のペアを表し、## で区切られます。iPlanet Directory Server Access Management Edition は各 ACI を関連する DN エントリに設定します。

このフォーマットは、値を代入できるタグもサポートします。この値は ACI では ROLENAME、ORGANIZATION、GROUPNAME、および PCNAME といった文字で指定する必要があります。これらのタグを使用することで、デフォルトとして使用できる十分な柔軟性を備えたロールを定義できます。デフォルトロールに基づいてロールが作成されると、ACI のタグはロールの DN から引き出された値で解決されます。

ACI の設定についての詳細は、iPlanet Directory Server Access Management Edition の製品マニュアルを参照してください。

注 これらの ACI 定義の例では、sesta.com 組織はデフォルトの最上位組織 o=isp の下に置かれています。

コマンド行を使用した ACI の定義

1. ldapmodify コマンドで使用する ACI 設定を保存したテキストファイルを作成します。たとえば、次の acis.ldif ファイルには、JDCAdmin と呼ばれるロールの ACI 定義が格納されています。

```
dn:o=sesta.com,o=isp
changetype:modify
# aci for JDCAdmin role
# This role can add/delete users from JDC role.
add:aci
aci: (target= "ldap:///ou=people,o=sesta.com,o=isp") (targetattr =
"*)(version 3.0; acl "Allow JDCAdmin Role to read and search users"; allow
(read,search) roledn = "ldap:///cn=JDCAdmin,o=sesta.com,o=isp";)
-
add:aci
aci: (target="ldap:///o=sesta.com,o=isp")
(targetfilter="(entrydn=cn=JDC,o=sesta.com,o=isp)") (targetattr="*") (version
3.0; acl "Allow JDCAdmin Role to read and search JDC Role";allow (read,search)
roledn="ldap:///cn=JDCAdmin,o=sesta.com,o=isp";)
-
add:aci
aci:
(target="ldap:///ou=people,o=sesta.com,o=isp") (targetattr="nsroledn") (targetfi
lter="(!(|(
nsroledn=cn=SuperAdminRole,o=isp) (nsroledn=cn=iPlanetAMTopLevelHelpDeskAdminRo
le,o=isp) (nsroledn=cn=iPlanetAMOrgAdminRole,o=sesta.com,o=isp)))") (targetattrfil
ters="add=nsroledn:(nsroledn=cn=JDC,o=sesta.com,o=isp),del=nsroledn:(nsroledn=
cn=JDC,o=sesta.com,o=isp)") (version 3.0; acl "Allow JDCAdmin Role to
add/remove users to JDCRole"; allow
(write)roledn="ldap:///cn=JDCAdmin,o=sesta.com,o=isp";)
```

2. ディレクトリを iPlanet Directory Server Access Management Edition ユーティリティのディレクトリに変更します。たとえば、次のようになります。

```
cd /BaseDir/SUNWam/bin
```

3. 次のコマンドを実行します。

```
./ldapmodify -D "DS_DIRMGR_DN" -w DS_DIRMGR_PASSWORD -f /tmp/acis.ldif
```

4. Sun ONE Portal Server を再起動します。

```
/etc/init.d/amserver start
```

管理コンソールを使用して ACI を定義する手順

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition の管理コンソールに Super Admin としてログインします。

2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。

3. 「管理」サービスの横にあるプロパティのアイコンを選択します。

データ区画に管理の属性が表示されます。

4. [デフォルトロールアクセス権 (ACI)] 入力フィールドに、ACI 定義を入力し「追加」をクリックします。たとえば、以前に定義された JDCAdmin ロールの場合、次のように入力します。

```
o=sesta.com,o=isp:aci:(target=
"ldap:///ou=people,o=sesta.com,o=isp") (targetattr =
"*) (version 3.0; acl "Allow JDCAdmin Role to read and search
users"; allow (read,search) roledn =
"ldap:///cn=JDCAdmin,o=sesta.com,o=isp");)##o=sesta.com,o=isp:aci
:(target="ldap:///o=sesta.com,o=isp")
(targetfilter="(entrydn=cn=JDC,o=sesta.com,o=isp)") (targetattr="
"*) (version 3.0; acl "Allow JDCAdmin Role to read and search JDC
Role";allow (read,search)
roledn="ldap:///cn=JDCAdmin,o=sesta.com,o=isp");)##(target="ldap:
//ou=people,o=sesta.com,o=isp") (targetattr="nsroledn") (targetfi
lter="(!(|(
nsroledn=cn=SuperAdminRole,o=isp) (nsroledn=cn=iPlanetAMTopLevelH
elpDeskAdminRole,o=isp) (nsroledn=cn=iPlanetAMOrgAdminRole,o=sesta
.com,o=isp)))") (targetfilters="add=nsroledn:(nsroledn=cn=JDC,
o=sesta.com,o=isp),del=nsroledn:(nsroledn=cn=JDC,o=sesta.com,o=i
sp)") (version 3.0; acl "Allow JDCAdmin Role to add/remove users
to JDCRole"; allow
(write) roledn="ldap:///cn=JDCAdmin,o=sesta.com,o=isp");)
```

「デフォルトロールアクセス権 (ACI)」リストに新しい ACI が表示されます。

5. 「保存」を選択します。

委任モデルのための管理ロールの新規作成

委任管理ロールの権限を定義する ACI を作成した後、その ACI 定義を使用するためのロールを作成する必要があります。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition の管理コンソールに Super Admin または Organization Admin としてログインします。
2. デフォルトでは、ログイン時に「表示」メニューの「ユーザー管理」、「表示」メニューの「組織」が選択されます。
3. ロールの作成先である組織あるいはサブ組織に移動します。

注 これが新規組織の場合、すべてのサービスを登録し、適切なテンプレートを作成する必要があります。52 ページの「組織およびサブ組織の新規作成」を参照してください。

4. 「表示」メニューから「ロール」を選択し、「新規」を選択します。「ロールの作成」ページがデータ区画に表示されます。
5. ロールの名前と説明を入力します。
6. 「タイプ」から「管理」を選択します。
7. 「アクセス権」を選択します。
 - a. 管理コンソールを使用してロールの ACI 定義を作成している場合、「アクセス権」リストから作成したロールを選択します。
 - b. コマンド行を使用してロールの ACI 定義を作成している場合、「アクセス権」リストにロール名が表示されていないため「アクセス権なし」を選択します。
8. 「作成」をクリックします。

新規ロールがナビゲーション区画に表示されます。

ロール管理者ロールを割り当てる

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。

2. 「ユーザ管理」の「表示」メニューから「組織」を選択します。
3. ロールの作成先である組織あるいはサブ組織に移動します。
4. 「表示」メニューから「ロール」を選択します。
5. 割り当てるロールを選択します。
6. 「追加」をクリックします。
「検索」ページがデータ区画に表示されます。
7. 「検索」フィールドで割り当てるユーザーを検索するための値を指定し、「検索」を選択します。
ユーザーのリストが表示されます。
8. ロールを割り当てるユーザーの隣のボックスをチェックするか、「全て選択」を選択してすべてのユーザーを選択します。
9. 「実行」を選択します。
「このロールのユーザー」ボックスのリストが割り当てられたユーザーで更新されます。

ロール管理者ロールの追加制限の設定

機能が制限されたロールを設定できます。一般的な制限として、表示プロファイルの修正およびコンテンツ管理機能の実行に対するロールへの制限がありますが、この場合、Desktop 属性の他の表示が制限されます。

また委任された管理者を開始 DN ビューとともに設定することもできます。開始 DN ビューは、委任された管理者がエンティティを確認して修正できるディレクトリの場所です。

ロールに追加制限を設定する手順は、次のとおりです。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. デフォルトでは、ログイン時に「表示」メニューの「ユーザー管理」、「表示」メニューの「組織」が選択されます。
3. 設定するロールが格納された組織あるいはサブ組織に移動します。
4. 「表示」メニューから「ロール」を選択します。
5. 設定するロールを選択します。

6. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
7. プロファイルまたはチャンネル管理機能のみを表示するようにロールを制限するには、次の手順に従います。
 - a. ナビゲーション区画の「Desktop」プロパティの矢印を選択します。
 - b. このロールでサービスのテンプレートを作成します。
「デスクトップ」ページがデータ区画に表示されます。
 - c. 「Show Desktop Attributes」チェックボックスの選択を解除します。
 - d. 「保存」を選択します。

注 「Show Desktop Attributes」チェックボックスの選択が解除されている場合、このロールが割り当てられたユーザーが「Desktop」サービスにアクセスしても [Desktop] 属性が表示されません。「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクが表示されるだけです。さらに、ロールレベルで定義されたチャンネルとコンテナのみが表示されます。

8. 特定の開始 DN にロールを制限するには、次の手順を実行します。
 - a. ナビゲーション区画の「ユーザー」プロパティの矢印をクリックします。
 - b. ロールのテンプレートを作成します。
「ユーザー」ページがデータ区画に表示されます。
 - c. [Admin DN Starting View] に DN を指定します。たとえば、cn=JDC, o=sesta, o=isp. のように指定します。
 - d. 「保存」をクリックします。

デスクトップサービスの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server のデスクトップ サービスの管理方法について説明します。

この章には、次の節があります。

- デスクトップの概要
- チャンネルのホットデプロイメントの概要
- プロバイダアーカイブの概要
- デスクトップサービスの管理
- par ファイルの管理

デスクトップの概要

この節では、デスクトップコンポーネントとその基本構造、およびその管理方法について説明します。

デスクトップ用語集

表 4-1 にデスクトップに関連する用語を説明します。

表の最初の列に用語を一覧表示し、2 列目に用語の定義を示します。

表 4-1 デスクトップ用語集

用語	定義
デスクトップ	Sun ONE Portal Server にプライマリエンドユーザインタフェースを提供する
プロバイダ	特定のタイプのフォーマット (XML プロバイダ)、またはテクノロジー (JSP™) プロバイダのコンテンツを作成する
チャンネル	デスクトップにコンテンツを表示する。通常は行と列に配置する。実行時にチャンネルは、チャンネルのサポートに必要なプロバイダオブジェクト、構成ファイル、およびすべてのデータファイル (JSP、HTML テンプレートなど) で構成される
コンテナまたはコンテナチャンネル	主に、ほかのチャンネル (子チャンネルと呼ばれる) のコンテンツを含めたり、集約したりすることでコンテンツを生成するチャンネル

デスクトップアーキテクチャおよびコンテナ階層

デスクトップは、Sun ONE Portal Server のプライマリエンドユーザインタフェースです。デスクトップはサーブレットで実装され、さまざまな API とユーティリティ (iPlanet™ Directory Server Access Management Edition API、リソースバンドル、プロパティファイル、およびメールサーバを始めとするバックエンドサーバなど) によってサポートされています。

デスクトップは、プロバイダアプリケーションプログラミングインタフェース (PAPI) を使用してコンテンツを拡張、集約するメカニズムを提供します。コンテンツプロバイダ、またはプロバイダは、コンテナ階層、および一部のチャンネルを構築するための基本のビルディングブロックを有効にします。通常、チャンネルは行と列に配置しますが、コンテナチャンネルを実装することで、この配置を変更することもできます。プロバイダは、コンテンツを生成するプログラムエンティティで、チャンネル中に表示されます。生成したコンテンツは、ページ全体、フレーム、またはチャンネルなどの任意のマークアップで構成できます。

ポータルコンテンツ量が増加した場合にも、ポータルの構成、開発、および一般ユーザによる使用実績は、参照するコンテンツのグループの格納方法によって簡略化できます。Sun ONE Portal Server は、コンテンツの集約においてコンテナプロバイダの柔軟で拡張性の高いセットを提供します。

図 4-1 ではデスクトップコンテナ階層の例が示されています。この図では、Tab コンテナは最上位コンテナです。タブコンテナには、2つのタブチャンネル、タブ 1 とタブ 2 があります。タブ 2 はテーブルコンテナで、内部に5つのチャンネルを格納します。

図 4-1 サンプルデスクトップのコンテンツ階層

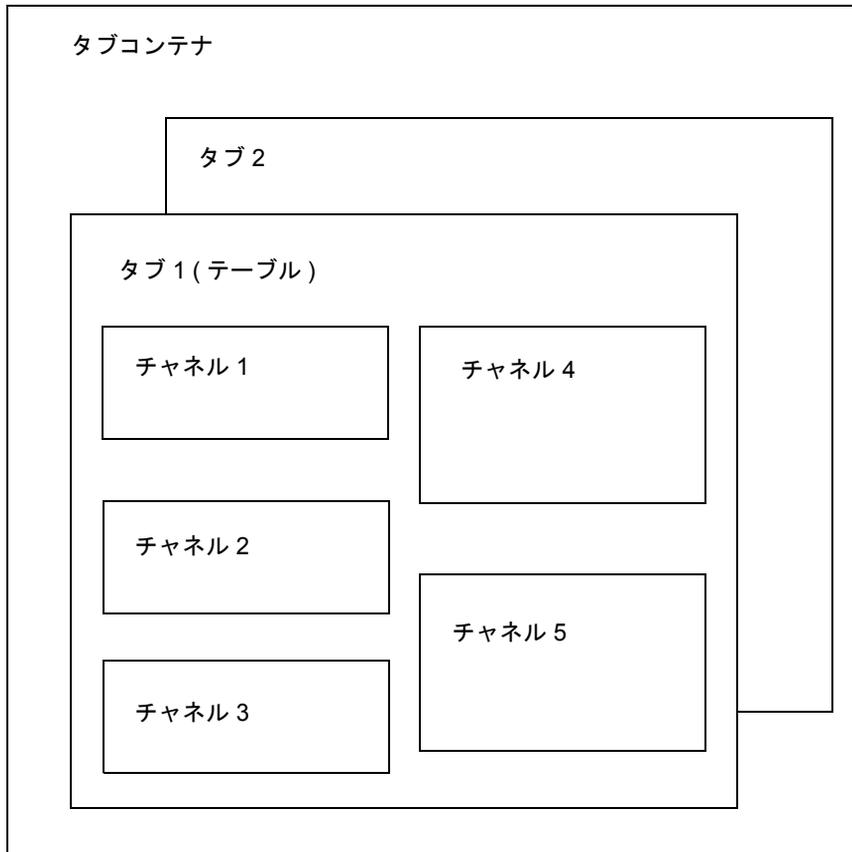


図 4-1 では、次の格納方法を示しています。

- **タブコンテナ** - 複数のテーブル、単一コンテナ、またはタブコンテナを格納します。このコンテナには、バナーおよびポータルのためのメニューバーも格納されます。
- **タブチャンネル** - チャンネルを切り替えるためにタブ付きのユーザーインターフェースを提供して、ほかのチャンネルの出力を集約します。実行時にタブコンテナの構成を修正して、表示するリーフチャンネルを変更できます。

- **テーブルコンテナ** - 他のチャンネルのコンテンツを行と列に集約します。このコンテナの機能は、Sun™ Portal Server 3.0 フロントプロバイダに相当します。このコンテナは他のチャンネルのコンテンツの入れ物と考えることができます。

デスクトッププロバイダ

Sun ONE Portal Server は、次の 2 種類のプロバイダを使用します。

- **ビルディングブロックプロバイダ** - 拡張可能なプロバイダで、そのインタフェースはパブリックです。これらのプロバイダは、顧客の要求に合わせてカスタマイズできます。これらのプロバイダでは、デスクトップに複数のチャンネルを作成できます。プロバイダとチャンネル間の関係は一对多数です。
- **コンテンツプロバイダ** - コンテンツを提供する非拡張型のプロバイダです。プロバイダとチャンネルの関係は必ず一対一になります。この種類のプロバイダは、ビルディングブロックプロバイダとは異なります。

デスクトップはコンテンツプロバイダ、およびチャンネルデータを格納するために表示プロファイルを実装しています。詳細については、第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」を参照してください。

デスクトップサービス

デスクトップは、デスクトップサービス経由で実装されています。これは、iPlanet Directory Server Access Management Edition フレームワークの一部です。iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して、デスクトップにアクセスする各組織やサブ組織に対してデスクトップサービスを登録します。次にディスプレイプロファイルポリシーを作成して、それをユーザーに割り当てます。また、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して、デスクトップ属性を修正できます。詳細については、付録 C「デスクトップの属性」を参照してください。

サンプルデスクトップ

Sun ONE Portal Server 6.0 は、サンプルポータルに 5 種類のデスクトップを提供します。サンプルのデスクトップを使用すれば、ポータルを自分で作成しなくても、Sun ONE Portal Server をインストールしてすぐにサンプルのポータルを表示できます。

サンプルデスクトップでは、Sun ONE Portal Server は次の「既成」のチャンネルを提供します。

- ブックマーク
- アプリケーション
- ユーザー情報
- 検索
- ノート
- メールチェック
- ログイン
- シンプル Web サービス
- 構成可能なシンプル Web サービス

これらのチャンネルは拡張できません。つまり、Sun ONE Portal Server では、これらのチャンネルの API を公開しません。

サンプルデスクトップは、本来は汎用デスクトップなので、配置目的に使用することはありません。Sun ONE Portal Server を特定の配置ニーズに合わせてカスタマイズする必要があります。

デスクトップのカスタマイズ

Sun ONE Portal Server を配置する場合、ポータルの開発と、カスタマイズが主な作業になります。まず、プロバイダ、チャンネル、およびコンテナチャンネルを作成、カスタマイズしてからオンラインヘルプを配置し、見た目と使い心地などを変更します。必要に応じて、サンプルデスクトップを、サイトのポータルをカスタマイズする際の出発点として使用できます。ポータルのカスタマイズの詳細については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Desktop Customization Guide*』を参照してください。

チャンネルのホットデプロイメントの概要

Sun ONE Portal Server を使用すると、再起動せずに稼働中のシステムでプロバイダとチャンネルを配置できます。すなわち「ホットデプロイメント」が可能です。この場合、ユーザーセッションに割り込みが起りません。

ホットデプロイメントを実現する3つのテクノロジーは次のとおりです。

- プロバイダクラスローダ - プロバイダ、およびプロバイダで使用するクラスをリロードします。プロバイダクラスローダを正しく実行するには、すべてのクラス(またはJARファイル)を定義済みのディレクトリに配置する必要があります。
- ディスプレイプロファイルの再表示 - iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソール、または dpadmin コマンドなどの外部ソースで変更する場合、メモリ内のデスクトップ設定、つまりディスプレイプロファイルを更新する。
- デスクトップテンプレート、および JSP のリロード - 設定されたデスクトップタイプに適切なテンプレート、および JSP ファイルを取得する。

プロバイダーアーカイブの概要

par コーティリティで、チャンネルとプロバイダ、および関連するすべてのファイルを Sun ONE Portal Server システムにパッケージ化したり、システムから移動したりすることができます。チャンネルまたはプロバイダは .par ファイル形式で格納します。.par ファイルにインクルードするファイルは次のとおりです。

- 表示プロファイルドキュメント
- クラスファイル
- 「プロパティ」ベースのファイル、すなわち JSP ファイル
- 静的なコンテンツファイル、すなわち HTML および画像ファイル

デスクトップサービスの管理

デスクトップはユーザーのディスプレイプロファイル内の情報を集約し、ログインに成功した時点でその結果をユーザーに表示します。ディスプレイプロファイルは、iPlanet Directory Server Access Management Edition 組織ツリーの異なるレベルで定義することができます。ツリーのさまざまなレベルの表示プロファイルドキュメントをマージまたは結合して、ユーザーのディスプレイプロファイルを作成します。たとえば、ユーザーのディスプレイプロファイルを形成するためにユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントは、ロール表示プロファイルドキュメント(ある場合)、組織の表示プロファイルドキュメント、およびグローバルな表示プロファイルドキュメントとマージされます。

デスクトップディスプレイプロファイルとその他の構成データは、iPlanet Directory Server Access Management Edition サービス管理フレームワーク内にあるデスクトップサービスのサービス属性として定義されます。組織が iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールでデスクトップサービスを登録する場合、組織内のすべてのユーザーはユーザープロファイルのデスクトップサービス属性を継承します。この場合、デスクトップサーブレットでこれらの属性を問い合わせ、情報をどのようにデスクトップに集約して、表示するかを決定することができます。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 組織のユーザーに対して、デスクトップサービスを構成するために必要な高度な操作手順は、次のとおりです。

1. 特定の組織、またはサブ組織にデスクトップサービスを使用可能に（登録）します。
2. デスクトップサービスのテンプレートを作成します。
3. デスクトップポリシーを作成してユーザーに割り当てます。
4. デフォルトのリダイレクト先 URL を割り当てます。
5. デスクトップサービス属性をカスタマイズします。

注 サンプルポータルをインストールすると、インストーラはサンプルに必要なディスプレイプロファイル XML ファイルをすべてインストールします。iPlanet Directory Server Access Management Edition コンソール、またはコマンド行インタフェースを使用すると、プロファイルのカスタマイズできます。詳細については、第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」を参照してください。

デスクトップサービスの登録

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザ管理」を選択して、「ユーザ管理」に移動します。
3. デスクトップサービスを登録する組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画で「登録」を選択します。

データ区画に、使用できるサービスのリストが表示されます。

6. 「Portal Server 設定」の「Desktop」のチェックボックスをオンにして、「登録」を選択します。

ナビゲーション区画が、「Portal Server 設定」に登録したデスクトップサービスに更新されます。

デフォルトデスクトップサービステンプレートの作成

デスクトップサービスを登録すると、デスクトップサービスのテンプレートを作成して、組織のすべてのユーザーにデフォルトのデスクトップ値を提供することができます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. デフォルトのデスクトップサービステンプレートを作成する組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「デスクトップ」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
6. このとき、データ区画のメッセージボックスに、サービスにサービステンプレートを作成する必要があるかどうかを確認するメッセージが表示されます。メッセージボックス内の「作成」をクリックし、テンプレートを作成します。
7. ページを送信してテンプレートが作成されると、データ区画にデスクトップサービス属性とデフォルト値があればその一覧が表示されます。必要に応じて値を修正します。完了したら、「保存」を選択してサービステンプレートの最新の値を保存します。

新規に作成したサービステンプレートの表示プロファイルは、「サービス管理」にある「デスクトップ」サービスの「ダイナミック」セクションに入力した値を取ります。それらの値が空白の場合、この新規テンプレートの表示プロファイルも空白になります。

注 「競合の解決レベル」属性のデフォルト値が「最も高い」になっています。登録したサービスに同じ優先順位でサービステンプレート（組織、ロールなど）を各レベルでセットアップすると、予想外の結果を招く可能性があります。

デスクトップポリシーを作成してユーザーに割当て

デスクトップサービスを登録し、デフォルトのサービステンプレートを作成した後、さらに新規のポリシーを作成してそれをユーザーに割り当てることで、組織内のすべてのユーザーがデスクトップサービスにアクセスできます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ポリシー管理」を選択して、「ポリシー管理」に移動します。
3. ポリシーを作成する対象の組織を選択します。

最上位の組織の管理者としてログインしている場合、ユーザー管理インターフェースが表示されているすべての構成組織の最上位にあることを確認してください。デフォルトの最上位の組織は `o=isp` です。

4. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。

デフォルトの場合、「表示」メニューに「組織」が表示されます。構成するすべてのサブ組織が、組織の下に表示されます。サブ組織にポリシーを作成する場合、サブ組織を選択して、「表示」メニューの「ポリシー」を選択します。

既存のポリシーの一覧が表示されます。割り当て済みのポリシーはチルダ (~) で示されます。

5. ナビゲーション区画で「新規」を選択します。
データ区画に現れるポリシーを作成します。
6. ポリシー名を入力して、「サービス」メニューのデスクトップを選択します。
7. 「作成」を選択して、新しいポリシーを作成します。
8. 「デスクトップ実行権限を所有」がオンであることを確認して、適切な「競合の解決レベル」を設定し、「保存」をクリックします。
9. ユーザーにポリシーを割り当てるには、「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
10. 該当する組織を選択します。
11. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。

選択した組織にポリシーがすでに割り当てられている場合は、そのポリシーがナビゲーション区画に表示されます。「ポリシーの割り当て」インターフェースが表示されない場合、「割り当て」を選択すると、割り当てられていないポリシーがすべてデータ区画に表示されます。

12. 割り当てられてないデスクトップポリシーの横のボックスを選択して「割り当て」を選択し、選択した組織のすべてのユーザーにポリシーを割り当てます。

ログインユーザーをデスクトップ URL に正しくリダイレクトする

ログインに成功すると、組織内のユーザーはデフォルトでデスクトップサービスの属性、および値を受け取ります。これらの値をデスクトップサブレットで問い合わせ、組織内の全ユーザーのデスクトップコンテンツを決定することができます。ユーザーがログインに成功したあと、iPlanet Directory Server Access Management Edition でデスクトップサブレットを自動的に呼び出すには、デフォルトリダイレクトの URL をデスクトップ URL に変更します。

デスクトップ URL への特定の組織のデフォルトリダイレクトを設定するには、次の手順に従います。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. デスクトップ URL を設定する組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「コア」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
6. データ区画で、属性「ユーザーのデフォルトリダイレクト URL」を検索します。
7. 「ユーザーのデフォルトリダイレクト URL」の値をデスクトップサブレットの URL に設定します。たとえば、/portal/dt はサンプルデスクトップの URL です。
8. 「保存」をクリックします。
9. デスクトップにログインして、デフォルトリダイレクト URL を確認します。

ログインユーザーをデスクトップ URL (グローバル) に正しくリダイレクトする

グローバル属性に適用される値は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 設定に適用され、また新規に作成されたすべての組織に継承されます。

デフォルトリダイレクト URL をデスクトップ URL にグローバルに設定するには、次の手順に従います。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「コア」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. データ区画で、属性「ユーザーのデフォルトリダイレクト URL」を検索します。
5. 「デフォルトリダイレクト URL」の値を /portal/dt などのデスクトップサーブレットの URL に設定します。
6. 「保存」をクリックします。

デスクトップサービス属性の値を修正する

サービス属性を修正することで、デスクトップサービスをカスタマイズできます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. 属性を修正する組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「デスクトップ」の横にあるプロパティの矢印を選択します。

ディスプレイプロファイル XML を含むデスクトップサービス属性の一覧が、データ区画に表示されます。

6. サービス属性値を修正します。

属性の詳細については、「デスクトップダイナミック属性」を参照してください。

7. 完了したら、「保存」を選択します。

特定のサブ組織またはロールのユーザーだけに変更は反映されます。

デスクトップサービス属性 (グローバル) の値を修正する

グローバルデスクトップサービスの属性値、すなわち、後でデスクトップサービスに登録する組織すべてに反映させる属性値を修正することもできます。

グローバル属性に適用される値は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 設定に適用され、また今後構成されるすべての組織に継承されます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「デスクトップ」の横にあるプロパティの矢印を選択します。

ディスプレイプロファイル XML を含むグローバルデスクトップサービス属性の一覧が、データ区画に表示されます。

4. サービス属性値を修正します。

属性の詳細については、377 ページの「デスクトップ グローバル属性」を参照してください。

5. 完了したら、「保存」を選択します。

この変更は、将来 デスクトップ サービスに登録するすべての組織に影響します。

サンプルのデスクトップにログオンする

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールからログアウトします。

2. 次の URL を使用してユーザアカウント (amadmin ユーザーではない) でログインします。

http://server:port/portal/dt

ユーザアカウントを作成する必要がある場合は、55 ページの「新規ユーザーを手動で追加する」を参照してください。

デスクトップログを確認する

デスクトップエラーがデバッグログファイルに記録されます。デフォルトでは、これらログファイルの位置は次のとおりです。

- /var/tmp/ipsdt.debug
- /var/opt/SUNWam/debug/desktop.debug
- /var/opt/SUNWam/debug/desktop.dpadmin.debug

これらのログファイルのエラーを調べます。下の例では、エラーは認証されていないユーザーがデスクトップを実行しようとしたことを示します。

```
06/20/2002 02:36:30:600 PM PDT: Thread[Thread-177,5,main]
ERROR: DesktopServlet.handleException()
com.sun.portal.desktop.DesktopException:
DesktopServlet.doGetPost(): no privilege to execute desktop
    at
com.sun.portal.desktop.DesktopServlet.doGetPost(DesktopServlet.j
ava:456)
    at
com.sun.portal.desktop.DesktopServlet.service(DesktopServlet.jav
a:303)
    at
javax.servlet.http.HttpServlet.service(HttpServlet.java:853)
    at
com.iplanet.server.http.servlet.NSServletRunner.invokeServletSer
vice(NSServletRunner.java:897)
    at
com.iplanet.server.http.servlet.WebApplication.service(WebApplic
ation.java:1065)
    at
com.iplanet.server.http.servlet.NSServletRunner.ServiceWebApp(NS
ServletRunner.java:959)
```

par ファイルの管理

par ユーティリティで、ある Sun ONE Portal Server から別の Sun ONE Portal Server へプロバイダまたはチャンネルを送信したり移動したりすることができます。par ユーティリティは、.par ファイルと呼ばれる特定のパッケージメカニズムを作成して、チャンネルおよびプロバイダをサーバー間で送受信します。.par ファイルは .jar ファイル形式の拡張形式で、マニフェスト情報を追加することで、ターゲットサーバーの Sun ONE Portal Server ディスプレイプロファイルに配置情報と XML ドキュメントを送ります。

par コマンド行ユーティリティを使用して par ファイルを作成、修正、配置します。export サブコマンドを使用すると par ファイルを作成、または修正できます。import サブコマンドを使用すると、Sun ONE Portal Server でプロバイダやチャンネルをインポートまたは配置できます。par コマンド構文の詳細については、308 ページの「par」を参照してください。

par ユーティリティを使用するには、エクスポートまたはインポートするファイルがある Sun ONE Portal Server に、superuser としてログインする必要があります。エクスポートする場合、チャンネルまたはプロバイダが要求するすべてのファイルを実際にエクスポートする必要があります。たとえば、チャンネルには静的コンテンツファイルを、プロバイダにはプロバイダが使用するすべてのクラスファイルをインクルードする必要があります。コマンド行が par ファイルに含まれるすべてのデータを指定すると操作が煩雑になるので、データに内容を示し行を付けた単純なテキストファイルを作成して、par ユーティリティでこの「エクスポートファイル」を呼び出すことができます。詳細については、314 ページの「エクスポートファイル」を参照してください。

新規の par ファイルを作成する

新規の par ファイルを作成してから、次の手順でチャンネルまたはプロバイダをエクスポートします。

1. Sun ONE Portal Server へログインし、そこからチャンネル、またはプロバイダをエクスポートします。
2. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd BaseDir/SUNWps/bin
```

3. コマンド行で `par export` コマンドとサブコマンドを次の引数を含めて入力します。作成する `par` ファイル名、エクスポートするディスプレイプロファイルドキュメントに対応するディレクトリサーバー名、および任意の数の (少なくとも 1 つ) のエクスポートファイルや `from` 以下に指定した引数を指定します。たとえば、`o=sesta.com,o=isp` から `mychannel.par` ファイルへ `mychannel` チャネルをエクスポートするには、次のコマンドを入力します。

```
./par export mychannel.par "o=sesta.com,o=isp" from: channel  
mychannel
```

構文の詳細については、第 12 章「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。

既存の par ファイルを修正する

既存の `par` ファイルを修正して、次の手順でチャネル、またはプロバイダをエクスポートします。

1. チャネルまたはプロバイダをエクスポートする Sun ONE Portal Server へログインします。
2. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd BaseDir/SUNWps/bin
```

3. コマンド行で `par export` サブコマンドに `modify` オプションと次の引数を指定します。修正する `par` ファイル名、エクスポートするディスプレイプロファイルドキュメントに対応するディレクトリサーバー名、および任意の数の (少なくとも 1 つ) のエクスポートファイル、または `from` 以下に指定した引数です。たとえば、`mychannel.par` ファイルを修正して静的コンテンツファイル `/mycontent.html` を含めるには、次のコマンドを入力します。

```
./par export --modify mychannel.par "o=sesta.com,o=isp" from=  
file /mycontent.html
```

par ファイルを配備する

Sun ONE Portal Server へ `par` ファイルをインポートし、次の手順でプロバイダまたはチャネルをシステムに配備します。

1. プロバイダまたはチャネルに `par` ファイルをコピーして Sun ONE Portal Server へインポートし、そこにプロバイダまたはチャネルを配備します。

2. Sun ONE Portal Server へログインし、チャンネルまたはプロバイダをインポートします。
3. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd BaseDir/SUNWps/bin
```

4. コマンド行で、auto オプションを使用して `par import` コマンドとサブコマンドを次の引数とともに入力します。インポートする `par` ファイル名、エクスポートするディスプレイプロファイルドキュメントに対応するディレクトリサーバー名、。たとえば、`mychannel.par` ファイルをインポートするには、次のコマンドを入力します。

```
./par import --auto myfile.par "o=sesta.com,o=isp"
```

par ファイルの管理

ディスプレイプロファイルの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server のディスプレイプロファイルコンポーネントとそのコンポーネントの管理方法について説明します。

この章は次の節から構成されます。

- ディスプレイプロファイルの概要
- ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約
- ディスプレイプロファイルオブジェクトの検索
- ディスプレイプロファイルのプロパティ
- ディスプレイプロファイルのマージ
- ディスプレイプロファイルと iPlanet Directory Server Access Management Edition
- ディスプレイプロファイルの管理

ディスプレイプロファイルの概要

この節では Sun ONE Portal Server のディスプレイプロファイルコンポーネントについて説明します。

ディスプレイプロファイルは、次の 3 つの項目を定義してデスクトップの表示設定を作成します。

- **プロバイダ定義** — プロバイダの名前と Java™ クラスを指定します。プロバイダは、コンテンツの生成を担当するプログラムエンティティで、チャンネルに表示されます。詳細については、114 ページの「プロバイダのタイプ」を参照してください。

- **チャンネル定義** — プロバイダクラスのインスタンスを指定します。チャンネルはコンテンツの単位で、通常は(必ずしもそうではありませんが)行と列で編成されます。またチャンネル内にチャンネルを持つことができます。すなわちそれはコンテナチャンネルです。
- **プロバイダとチャンネルのプロパティ定義** — プロバイダとチャンネルのプロパティに値を指定します。プロバイダに定義されたプロパティは、通常はプロバイダから導出されたチャンネルにデフォルトの値を指定します。チャンネルの表示設定には、タイトル、説明、チャンネル幅などのプロパティが含まれます。チャンネルに定義されるプロパティは、そのチャンネルに通常はデフォルトの値と異なる値を指定します。

コンテナプロパティは、コンテナ内に含まれるチャンネルの表示方法に関する表示定義を定義します。これには、コンテナのレイアウト(狭い-広い、広い-狭い、または狭い-広い-狭い)、コンテナ内のチャンネルのリスト、チャンネルの位置(行と列の番号)、およびコンテナ内のチャンネルのウィンドウ状態(最小または切り離し)が含まれます。

注

ディスプレイプロファイルは、実際にはユーザーのデスクトップに表示される全体的なレイアウトまたは構造を定義しません。ディスプレイプロファイルはチャンネルのプロパティの値を提供するためにのみ存在します。ただし、ディスプレイプロファイルは、テーブルコンテナの列レイアウトやテーブルコンテナがチャンネルをテーブルの中に描く方法のように、いくつかのチャンネルプレゼンテーションを間接的に制御します。

ディスプレイプロファイルは、チャンネルのプロパティが配置を決定する場合のレイアウトを決定します。たとえば、サンプルポータルテーブルプロバイダ定義のディスプレイプロファイルには、次のステートメントが指定されています。

```
<Integer name="layout" value="1"/>
```

これは「狭い-広い」列を参照します。ただし、ディスプレイプロファイルの構造には実際のレイアウトに関する情報はありません。

ディスプレイプロファイルは、XMLProviderがXMLを解析する方法などは制御しません。その中にある規則(XSLファイル)の種類のみが定義されています。

デスクトップは、iPlanet™ Directory Server Access Management Edition サービスのトップで表示プロファイルデータ保管メカニズムを実装し、コンテンツプロバイダとチャンネルデータを保存します。さらに、チャンネルとプロバイダについてプロパティが設定されます。

ユーザーのディスプレイプロファイルは、コンテナ管理とチャネルのプロパティを記述する一連の XML ドキュメントです (1 つのディスプレイプロファイルドキュメントが 1 つの XML ドキュメントと同等です)。ディスプレイプロファイルドキュメントは、iPlanet Directory Server Access Management Edition サービス層の一つの属性としてその全体の中に格納されます。すなわち、ディスプレイプロファイルドキュメントは Sun™ ONE Directory Server のインスタンスに常駐する LDAP 属性です。

ディスプレイプロファイルプロパティ値を変更する場合、プロバイダはプロバイダ API (PAPI) を使用して値を取得および設定します。チャネル値がディスプレイプロファイルに設定されると、PAPI 内部実装は iPlanet Directory Server Access Management Edition SDK を使用して、iPlanet Directory Server Access Management Edition デスクトップ サービス属性にディスプレイプロファイルドキュメントを設定します。

注意 iPlanet Directory Server Access Management Edition SDK を使用したディスプレイプロファイルの編集は、可能ですが行なわないでください。

ディスプレイプロファイルと管理コンソール

ディスプレイプロファイルとその他のデスクトップサービスのデータは、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールと dpadmin コマンドによって編集できます。ディスプレイプロファイルを編集する場合、プロバイダ、コンテナ、およびチャネルを追加、修正、削除し、プロパティを編集します。「XML のアップロード」と「XML のダウンロード」リンクを使用して、ディスプレイプロファイルドキュメントをアップロードおよびダウンロードします。また、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールは、チャネルとコンテナを追加し、既存のプロパティを編集するための「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを「Desktop」ページに表示します。チャンネルまたはコンテナが新規作成された場合、「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを使用してプロパティを定義します。また「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクは、チャンネルとコンテナの追加、修正、削除にも使用できます。詳細については、141 ページの「ディスプレイプロファイルの管理」を参照してください。

注 「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを使用した場合、ディスプレイプロファイルの一部にだけアクセスできるので、委任された管理者がこのリンクを使用すると想定されます。委任された管理者を設定する方法については、第3章「管理の委任の設定」を参照してください。

ディスプレイプロファイルドキュメントの構造

この節ではディスプレイプロファイルドキュメントの全体的な構造について説明します。ディスプレイプロファイルドキュメントの基本となるデータ形式はXMLです。表示プロファイル DTD 構文についての詳細は、付録 B「XML リファレンス」を参照してください。

ディスプレイプロファイル形式で、プロバイダとチャネルオブジェクト、およびそのプロパティが定義され、デスクトップの表示設定が決定されます。ディスプレイプロファイルは Sun ONE Directory Server の isp レベル (あるいは最上位ディレクトリノード)、組織レベル、ロールレベル、ユーザーレベルで保存されます。実行時にユーザーのディスプレイプロファイルは、ディレクトリツリー内のユーザー固有のプロファイルからディスプレイプロファイルドキュメントをすべて「マージ」したものであり、そのユーザーに関する特定のディスプレイプロファイルオブジェクトの値は、ディスプレイプロファイルの「マージ」動作により決定されます。

ディスプレイプロファイルオブジェクトは、オブジェクトを定義する XML タグに直接マッピングされます。例えば、<Channel name></Channel> XML タグはチャネルオブジェクトを定義します。

一般にディスプレイプロファイルのドキュメント構造は、次のようになります。

```
<DisplayProfile>
  <Properties>...global properties...</Properties>
  <Channels>...channel definitions...</Channels>
  <Providers>...provider definitions...</Providers>
</DisplayProfile>
```

<Properties>、<Channels>、および<Providers> はグループ化を実行するためのメカニズムです。これらのメカニズムは XML ディスプレイプロファイルドキュメントを詳細に構造化し、オブジェクトなどは各「バッグ」内に格納されます。「バッグ」についての詳細は、118 ページの「ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約」を参照してください。

次の節ではディスプレイプロファイルオブジェクトをより詳細に説明します。

DisplayProfile ルートオブジェクト

DisplayProfile root コンテナオブジェクトでは、デスクトップサーブレットはコンテナプロバイダとして機能し、プロバイダのハンドルの取得などを行います。チャンネルと関連付けられる実際のプロバイダクラスは存在しません。このチャンネルは他のディスプレイプロファイルオブジェクトから参照されることはありません。

DisplayProfile root オブジェクト XML 構文

```
<Container name="_desktopRoot" provider="none">
  <Properties />
  <Available />
  <Selected />
  <Channels/>
</Container>
```

プロバイダオブジェクト

プロバイダは、チャンネルがレンダリングされたときに実行時に実行されるソフトウェアエンティティです (このようにチャンネルは実行時にはプロバイダのインスタンスになります)。provider オブジェクトはディスプレイプロファイルプロバイダ定義のポインタです。プロバイダは ProviderContext クラスとチャンネルインスタンス (provider オブジェクト) との間の取り決めです。

<Provider name> 定義には、ディスプレイプロファイルのクライアントが Java™ クラス名などの provider オブジェクトを構築するために必要な情報が収められています。

<Provider name> 定義は、このプロバイダを示すすべてのチャンネルに対して、デフォルトのプロパティ値を設定します。チャンネル固有のプロパティが必要になるのは、プロバイダのデフォルトを上書きする必要がある場合のみです。プロバイダディスプレイプロファイルオブジェクトには、プロバイダ Java オブジェクトで使用されるすべてのプロパティに対するデフォルトの値を格納する必要があります。例えば、プロバイダ Java コードには次の値が格納されます。

```
getStringProperty("color")
```

プロバイダディスプレイプロファイルオブジェクトは color のデフォルトの値を持つ必要があります。

プロバイダのタイプ

Sun ONE Portal Server は、ビルディングブロックプロバイダとコンテンツプロバイダを区別します。ビルディングブロックプロバイダは、デスクトップに複数のチャンネルを作成できます。プロバイダとチャンネル間の関係は一对多数です。コンテンツプロバイダは、プロバイダとチャンネルとの間で一对一の関係のみを持ちます。この種類のプロバイダは、ビルディングブロックプロバイダとは異なります。

ビルディングブロックプロバイダにはリーフビルディングブロックプロバイダ (XMLProvider、URLScrapperProvider、JSPProvider)、およびコンテナビルディングブロックプロバイダ (JSPTabContainerProvider、JSPSingleContainerProvider) があります。リーフビルディングブロックプロバイダは、独自のコンテンツを生成します。コンテナビルディングブロックプロバイダを使用すると、デスクトップ内でチャンネルを集約できます。コンテナビルディングブロックプロバイダはブロックを構築しますが、このレベルのブロックは、コンテナプロパティを変更することでカスタマイズや異なる使用が可能です。

注 Sun ONE Portal Server がサンプルポータルで提供するプロバイダはコンテンツプロバイダです。これには BookmarkProvider、UserInfoProvider、SimpleWebServiceProvider などがあります。

ビルディングブロックプロバイダを使用すると、次のことができます。

- プロバイダ Java クラスを拡張することで、より詳細なカスタム機能を構築できます。
- 同じプロバイダに基づいて複数のチャンネルを作成できます。それぞれのチャンネルのプロパティを修正することで、異なる動作や表示をとるようにすることができます。

プロバイダオブジェクトXML 構文の例

```
<Provider name="XMLProvider" class="com.sun.portal.providers.xml.XMLProvider">

  <Properties>
    <String name="title" value="*** XML Provider ***"/>
    <String name="description" value="*** DESCRIPTION ***"/>
    <String name="width" value="thick"/>
    <String name="refreshTime" value="0" advanced="true"/>
    <Boolean name="isEditable" value="false" advanced="true"/>
    <String name="helpURL" value="desktop/xmlchann.htm" advanced="true"/>
    <String name="fontFace1" value="Sans-serif"/>
    <String name="productName" value="Sun ONE Portal Server"/>
    <String name="url"
value="file:///etc/opt/SUNWps/desktop/default/xml/getQuotes.xml"/>
    <String name="xslFileName" value="html_stockquote.xsl"/>
    <Integer name="timeout" value="100"/>
    <String name="inputEncoding" value="iso-8859-1"/>
    <String name="urlScraperRulesetID" value="default_ruleset"/>
    <Boolean name="cookiesToForwardAll" value="true"/>
    <Collection name="cookiesToForwardList">
    </Collection>
  </Properties>
</Provider>
```

チャンネルオブジェクト

channel オブジェクトは単一の表示要素を表します。channel オブジェクトに含まれるオブジェクトは、チャンネルのプロパティと考えることができます。

<Channel name> 定義には、プロバイダへのシンボル参照が含まれます。また、チャンネル固有のプロパティを定義して、プロバイダ定義で定義されるデフォルトの値を上書きすることができます。チャンネル名はディスプレイプロファイルドキュメント内で固有にする必要があります。

チャンネルオブジェクトXML 構文の例

```
<Channel name="SampleXML" provider="XMLProvider">

  <Properties >
    <String name="refreshTime" value="600" advanced="true"/>
    <String name="title" value="XML Test Channel"/>
    <String name="description" value="This is a test of the XML Provider
system"/>
    <String name="url"
value="file:///etc/opt/SUNWps/desktop/default/SampleXML/getQuotes.xml"/>
    <String name="xslFileName"
value="/etc/opt/SUNWps/desktop/default/SampleXML/html_stockquote.xsl"/>
  </Properties>

</Channel>
```

コンテナオブジェクト

container オブジェクトは、その内容を主に他の(子)チャンネルの内容を集約して生成する点を除き、channel オブジェクトと同一です。すなわち、コンテナは他のチャンネルから内容を取得するチャンネルです。container オブジェクトを使用すると、チャンネルリストの使用と選択が可能になり、リーフチャンネル定義を格納することができます。リーフチャンネルは、一般にページ上で他のチャンネルと集約されて、独自の内容を生成します。コンテナチャンネルは、主に、1つまたは複数のリーフチャンネルの内容を集約してその内容を生成します。

注 コンテナ内で定義されるリーフチャンネルは、そのコンテナのローカルになります。他のコンテナは、このリーフチャンネルにアクセスできません。

コンテナオブジェクトXML 構文の例

```
<Container
name="TemplateTableContainer"provider="TemplateTableContainerProvider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Template Based Table Container"/>
    <String name="description"
      value="This is the channel for the front provider"/>
    <Collection name="channelsColumn" advanced="true">
      <String name="SampleJSP" value="2"/>
      <String name="SampleXML" value="2"/>
      <String name="Notes" value="2"/>
    </Collection>
    <Collection name="channelsRow" advanced="true">
      <String name="MailCheck" value="3"/>
      <String name="SampleRSS" value="2"/>
      <String name="SampleXML" value="2"/>
      <String name="App" value="5"/>
      <String name="SampleSimpleWebService" value="6"/>
      <String name="Bookmark" value="4"/>
      <String name="Notes" value="3"/>
    </Collection>
    <Collection name="channelsIsRemovable">
      <Boolean name="UserInfo" value="false"/>
    </Collection>
  </Properties>

  <Available>
    <Reference value="UserInfo"/>
    <Reference value="MailCheck"/>
    <Reference value="SampleRSS"/>
    <Reference value="SampleJSP"/>
    <Reference value="SampleXML"/>
    <Reference value="App"/>
    <Reference value="SampleSimpleWebService"/>
    <Reference value="Bookmark"/>
    <Reference value="Notes"/>
  </Available>
```

```

<Selected>
  <Reference value="UserInfo"/>
  <Reference value="MailCheck"/>
  <Reference value="SampleRSS"/>
  <Reference value="SampleJSP"/>
  <Reference value="SampleXML"/>
  <Reference value="App"/>
  <Reference value="SampleSimpleWebService"/>
  <Reference value="Bookmark"/>
  <Reference value="Notes"/>
</Selected>

<Channels>
</Channels>

</Container>

```

ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約

root、provider、channel の各オブジェクトは、プロパティを関連付けることができます。ディスプレイプロファイルは、プロパティ「バッグ」の内部にプロパティをグループ化します。「バッグ」という用語は、その唯一の目的がプロパティの保持場所であることを示すために使用されます。プロパティは関連付けられたプロパティバッグを持ちません。プロパティ定義については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Desktop Customization Guide*』を参照してください。

チャンネル、プロバイダ、およびルートレベルのプロパティバッグは、異なるセマンティクスを持ちます。グローバルプロパティは、すべてのチャンネルで共有されます。グローバルプロパティとして定義されるプロパティは、ここではどのチャンネルからでもアクセスできます。テーマはグローバルプロパティの一例です。テーマデータはグローバルに定義されるため、すべてのチャンネル間で共有されます。

プロバイダで定義されるプロパティは、そのプロバイダに基づくチャンネルのデフォルトです。プロパティがチャンネルで定義されていない場合、デフォルトが使用されます。これはプロバイダがプロバイダ Java オブジェクトで使用されるプロパティをすべて定義する必要があることを示しています。この場合、Java コードの内容は次のようになります。

```
String f = getStringProperty("color");
```

ディスプレイプロファイル内の対応する <Provider name> 定義では、次のように定義する必要があります。

```
<String name="color" ... />
```

注 グローバルプロパティを、すべてのチャンネルのデフォルトとして使用しないでください。ディスプレイプロファイルプロバイダ定義は、プロバイダ定義を使用する provider オブジェクトが使用するプロパティインターフェイスを定義します。

チャンネルプロパティは、プロバイダ定義のデフォルトを上書きしてチャンネルをカスタマイズします。例えば、URLScaperProvider は url プロパティを定義します。デフォルトは、通常はチャンネルによって値が上書きされるため意味を持ちません。

ディスプレイプロファイルオブジェクトの検索

実行時に、システムは直接プロバイダにプロパティを照会しません。この要求は常にチャンネルに対して行われます。Java provider オブジェクトがプロパティを要求する場合、プロパティが見つかるか格納階層の最上位に到達するまで次の順序で、ディスプレイプロファイルを検索します。

1. チャンネルのプロパティ
2. チャンネルのプロバイダのプロパティ
3. チャンネルの親のプロパティ
4. チャンネルの親のプロバイダのプロパティ
5. チャンネルの親の親の(くり返し)プロパティ
6. ディスプレイプロファイル root 定義で定義されるグローバルプロパティバッグ

このようにチャンネルがプロパティの名前を照会すると、上記のすべてに該当するプロパティが取得されます。

provider オブジェクトに存在するプロパティは、チャンネルに対してデフォルト値の動作を持つように意図されています。例えば、プロパティ title を定義するプロバイダ xml について、プロバイダ xml から導出されるすべてのチャンネルは title プロパティを継承します。チャンネルがこのプロパティを上書きする場合、その独自のプロパティ内で値を設定できます。

ディスプレイプロファイルのプロパティ

この節では、ディスプレイプロファイルプロパティとそれらを指定する方法について説明します。

ディスプレイプロファイルのプロパティのタイプ

ディスプレイプロファイルプロパティのタイプは次のとおりです。

- ブール型 — ブール型の値を表す不可分なオブジェクト。
例 :<Boolean name="isEditable" value="false"/>
- 集合 — リストかハッシュテーブルのいずれかを表すオブジェクト。集合は他のプロパティを配置する一種のプロパティ、または名前付きのバッグです。
例 :<Collection name="channelsRow">
 <String name="MailCheck" value="4"/>
 <String name="App" value="5"/>
</Collection>
- 整数 — 整数値を表す不可分なオブジェクト。
例 :<Integer name="numberOfHeadlines" value="7"/>
- 文字列 — 文字列の値を表すオブジェクト。
例 :<String name="title" value="Table Container Channel 1"/>
- 参照 — チャンネル定義 (すなわち、コンテナの選択された使用可能なチャンネルリスト内のチャンネル名) を示すポインタを表すオブジェクト。参照は設計ツールに便利な名前のない文字列で、文字列を他のものと区別することができます。
例 :<Reference value="UserInfo"/>

ドキュメントタイプの定義要素の属性

デスクトップ DTD は、ディスプレイプロファイルとそのプロパティの使用を制御できる要素属性を定義します。121 ページの表 5-1 にドキュメントタイプの定義要素の属性を示します。この表には、最初の列に属性が、2 番目の列に簡単な説明が、3 番目の列に例が示されています。

表 5-1 表示プロファイルの属性

属性	定義	例
advanced	<p>true に設定した場合、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールの「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクでディスプレイプロファイルプロパティを「非表示」にします。ただし、「XML の編集」リンクまたは「XML のダウンロード」リンクを使用する場合、プロパティは非表示になりません。</p> <p>advanced 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性です。デフォルト値は false です。</p>	<pre><String name="refreshTime" value="0" advanced="true"/></pre>
lock	<p>優先順位の高いドキュメントを有効にし、優先順位の低いドキュメントによるマージ操作でディスプレイプロファイルの特定の機能を変更できないようにします。表示プロファイルオブジェクトがロックされると、優先順位の低いドキュメントによるマージ操作で影響を受けることがなくなります。</p> <p>lock 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性です。デフォルト値は false です。</p>	<pre><Selected merge="fuse"> ... <Reference value="EmployeeNews" lock="true"/> ... </Selected></pre>

表 5-1 表示プロファイルの属性 (続き)

属性	定義	例
merge	<p>異なる LDAP ノード (基本 DN、DN、ロール DN) のディスプレイプロファイルドキュメントをマージして単一の表現 (すなわちデスクトップ) を形成する場合に、プロパティの結合方法を制御します。</p> <p>許可される値は replace、remove、および false です。デフォルト値は false です。</p>	<p>replace、remove、fuse の例については、129 ページの「ディスプレイプロファイルのマージタイプ」を参照してください。</p>
priority	<p>表示プロファイルドキュメントの優先順位を設定します。低い数値は低い優先順位を表します。例えば、1 は 2 よりも優先順位が低くなります。</p> <p>許可される値は整数と、現在の表示プロファイルがユーザーレベルの表示プロファイルであることを示すキーワード user です。</p>	<pre><DisplayProfile version="1.0" priority="10"></pre>
propagate	<p>プロパティが非ローカルに読み出され、ローカルに設定される場合の、プロパティの処理方法を制御します。ブール型、集合、整数、文字列、および参照を含むすべてのディスプレイプロファイルプロパティは、propagate 属性に設定できます。</p> <p>propagate 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性です。デフォルト値は true です。</p>	<pre><String name="color" value="blue" propagate="false"/></pre>

ディスプレイプロファイルのプロパティの指定

ディスプレイプロファイルプロパティを指定する場合は、プロパティを「ネスト」する方法、集合に名前のないプロパティを使用する方法、およびプロパティを伝搬する方法を考慮する必要があります。

プロパティのネスト

ディスプレイプロファイルには、任意の深さにネストされたプロパティ (プロパティ内のプロパティ) を格納することができます。これによって、文字列の集合の集合の集合や、文字列と集合の集合などを作成することができます。例えば、次に示すのは集合の集合です。

```
<Collection name="people">
  <Collection name="john">
    <Integer name="age" value="31"/>
    <String name="eyes" value="hazel"/>
  </Collection>
  <Collection name="bob">
    <Integer name="age" value="35"/>
    <String name="eyes" value="blue"/>
  </Collection>
  ... etc ...
</Collection>
```

名前を付けられていないプロパティ

次のような不可分のプロパティのタイプ (ブール型、整数、文字列) は名前が付けられていない場合があります。

```
<String value="apple"/>
```

これは次の値に等しくなります。

```
<String name="apple" value="apple"/>
```

すなわち不可分のプロパティに名前が付けられていない場合、これはそのプロパティの文字列の値と同等になります。

これは実用するときには、集合の内部でのみ役立ちます。名前が付けられないことで、集合を使用してテーブルではなく順序設定されたセット (ほぼリストに近い) を表すことができるため、例えば、次に示すのは ZIP コードのリストを表す集合があります。

```
<Collection name="zipcodes">
  <Integer value="95112"/>
  <Integer value="95054"/>
  <Integer value="98036"/>
</Collection>
```

名前の付けられていないプロパティを使用する場合、テーブル (*name=value*) またはリストを集合で表すことができる点が重要です。

注 名前の付けられていないプロパティを、同じ集合内の別の名前のないプロパティと同じ値で作成しないでください。プロパティは作成されますが、名前が重複しているため、プロバイダは値にアクセスすることができません。

また、Sun ONE Portal Server は、名前のない論理値プロパティも同等に同じ名前を持つプロパティとして処理するため、同じ集合内で名前が重複するプロパティを間違えて作成してしまう場合があります。この場合も、最終的に他の同じ名前を持つプロパティにアクセスできなくなります。

ディスプレイプロファイルのプロパティの伝搬

論理値、集合、整数、文字列、および参照を含むすべてのディスプレイプロファイルプロパティは、propagate 属性と表示できます。propagate 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性です (デフォルトは true)。propagate 属性は、プロパティが非ローカルに読み出され、ローカルに設定される場合の、プロパティの処理方法を制御します。

例えば、チャンネルのプロパティセットは、次のすべてに該当するプロパティから構成されます。

- チャンネルのプロパティ (<Properties>) バッグにローカルに存在するプロパティのセット
- チャンネルの各子孫チャンネル (チャンネルの親、チャンネルの親の親、など) にローカルに存在するプロパティのセット
- チャンネルのプロバイダ (チャンネルで provider 属性が指定) にローカルに存在するプロパティのセット

- ディスプレイプロファイル root オブジェクトの下に存在するグローバルプロパティのセット

チャンネルがプロパティ値を要求すると、値はこれらの「リモート」の場所のいずれかから読み出されます。プロパティ値が設定されている場合、プロパティ値を格納する場所は2つのオプションから選択できます。

1. チャンネルのプロパティバッグ
2. リモートロケーション

propagate 属性は場所を制御します。propagate 属性を true に設定すると、プロパティはプロパティを設定するオブジェクトのローカルに保存されます(ほとんどの場合はチャンネル)。propagate 属性を false に設定すると、プロパティは所定の位置(読み出された場所)に設定されます。すなわち、false に設定された場合、既存の値は変更されますが、true に設定された場合、新規プロパティがローカルに作成されて、保存されます(すでにローカルになっている場合を除く)。

次のディスプレイプロファイル XML フラグメントを考えてみます。

```
<DisplayProfile>
  <Properties>
    <String name="color" value="blue"/>
  </Properties>
  ...
  <Channel name="testchannel" provider="..."/>
  <Properties/>
</Channel>
  ...
</DisplayProfile>
```

プロパティ color はグローバルプロパティバッグに存在します。propagate は設定されていないため(またデフォルトは true であるため)、チャンネル testchannel でプロパティ color が設定されると、次のような結果になります。

```

<DisplayProfile>
  <Properties>
    <String name="color" value="blue"/>
  </Properties>
  ...
  <Channel name="testchannel" provider="..."/>
  <Properties/>
    <String name="color" value="new value"/>
  </Channel>
  ...
</DisplayProfile>

```

プロパティは、これを設定したローカルオブジェクト(チャンネル)に伝搬されます。一方、グローバルプロパティバッグなどで propagate が false に設定されていると、次のようになります。

```
<String name="color" value="blue" propagate="false"/>
```

チャンネル testchannel 設定のプロパティ color の結果は次のようになります。

```

<DisplayProfile>
  <Properties>
    <String name="color" value="new value"/>
  </Properties>
  ...
  <Channel name="testchannel" provider="..."/>
  <Properties/>
  </Channel>
  ...
</DisplayProfile>

```

個々のプロパティの他に、プロパティバッグにも次のように propagate 属性を指定できます。

```

<Properties propagate="false">
  ...
</Properties>

```

プロパティが `propagate=false` と見なされる場合、以下は真である必要があります。

- プロパティの `propagate` 属性が `false` であるかまたは、プロパティのプロパティバグの `propagate` 属性が `false` である。
- プロパティをすべてマージしたものについて、上記の文は真である。

その他の場合は、`propagate` は真と見なされます。

最上位のプロパティにのみ `propagate` 属性を表記することができます。ディスプレイプロファイル DTD ではこのような表記が可能ですが、ディスプレイプロファイルコードはこれを無視します。

ディスプレイプロファイルのマージ

ディスプレイプロファイルは、XML ドキュメント階層から構成されます。Sun ONE Portal Server はユーザー用のディスプレイプロファイルドキュメント、ユーザーが所属する各ロール、およびユーザーの組織やサブ組織を格納できます。実行時に、システムはこれらの複数の表示プロファイルドキュメントをマージして、特定のデスクトップをユーザーに配信します。この表示プロファイルドキュメントのマージプロセスは、チャンネル、プロバイダ、プロパティ定義を変更する可能性があるため、最終的なディスプレイプロファイルに影響します。

ディスプレイプロファイルデータ形式には、これらのドキュメントの結合方法を定義する構文が収められています。この定義は、一般にマージ動作として知られています。

マージ動作は、異なる LDAP ノード (基本 DN、DN、ロール DN) のディスプレイプロファイルドキュメントをマージして単一の表現 (すなわちデスクトップ) を形成する場合に、属性の結合方法を制御します。マージ動作はディスプレイプロファイルドキュメントへのオーダーを想定しています。iPlanet Directory Server Access Management Edition はロールを階層構造化しません。その代わりに、ユーザーのロール構造は平坦です。すべてのロールは同位です。このため、Sun ONE Portal Server は iPlanet Directory Server Access Management Edition のロールに対して、階層構造をシミュレートするように補足オーダーを付加します。

ユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントセットは、ユーザーの LDAP 組織またはサブ組織ノードに存在するドキュメント、各ユーザーのロールノードに存在するドキュメント、およびユーザーのエントリノードに存在するドキュメントから構成されます。ドキュメントはこれらの各ノードで定義する必要はあり

ませんが、各ノードに1つ以上のドキュメントが定義されている必要があります。ドキュメントセットは、ディスプレイプロファイルドキュメントが定義する優先順位の値に従って格納されます。詳細については、135 ページの「表示プロファイルドキュメントの優先順位」を参照してください。

ディスプレイプロファイルドキュメントが積み重なるドキュメントのマージプロセスは、視覚化することができます。マージは名前の付いたチャンネル、プロバイダ、プロパティなどが重なり合う場所で起こります。マージはディスプレイプロファイルドキュメントで定義される XML 構造ではなく、ディスプレイプロファイルオブジェクトの名前に基づきます。名前の付いたチャンネルなどは、マージされるディスプレイプロファイルの格納階層内の異なるコンテナに存在できます。

注 あるコンテナのチャンネル定義は、別のコンテナから見ることできません。チャンネル定義がコンテナの内部にある場合、そのコンテナのみがそのチャンネルを格納できます。複数のコンテナに同じチャンネルを参照させる場合は、グローバルエリアまたは親コンテナにチャンネル定義を配置し、内包されたコンテナがグローバルエリアまたは親コンテナを参照できるようにします。

マージプロセスの仕組み

ユーザーが Sun ONE Portal Server にログオンし、認証が行われた後、システムは次の方法でユーザーのディスプレイプロファイルを判断します。

1. グローバルディスプレイプロファイル、LDAP の組織、サブ組織、ロール、およびユーザーが所属するユーザーノードを検索して、そのユーザーのすべてのディスプレイプロファイルドキュメントを探します。
2. 検索したディスプレイプロファイルドキュメントを一時領域に配置し、それをバッグとして視覚的に表示します。
3. 優先順位に基づいてバッグのディスプレイプロファイルドキュメントを最下位から順番にソートします。(ドキュメントを検索するノードは優先順のソートに影響しません。また、ユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントは常に最上位の順序になります。)
4. 最下位から順番にバッグからドキュメントを取り出し、このドキュメントの上に1つ上の順位のドキュメントを置き、マージとロック動作を適用します。
5. すべてのドキュメントがバッグから取り出されるまで手順 4 を繰り返し、ドキュメント内で見つかったすべてのオブジェクトのマージに等しい値が、システムからユーザーに返されるようにします。

ディスプレイプロファイルのマージタイプ

ディスプレイプロファイルは次の3種類のマージを使用して、ディスプレイプロファイルドキュメントの結合方式を決定します。

- **replace**— 優先順位の低いドキュメントで定義されたすべてのディスプレイプロファイルオブジェクトが高い順序のドキュメントで定義されたオブジェクトを完全に上書きします。高い順序のドキュメントにオブジェクトが存在しない場合、そのオブジェクトはマージ結果に追加されます。
- **remove**— 名前の付いたオブジェクトはこのポイントまでマージから除外されます。オブジェクトはディスプレイプロファイルに存在しません。優先順位の高いドキュメントで再定義できます。
- **fuse**— 順序の低いドキュメントのオブジェクトは、優先順位の高いドキュメントのオブジェクトと結合されます。

注 各マージタイプの正確な意味は、適用されるディスプレイプロファイルオブジェクトにより異なります。

チャンネルとプロバイダについては、**fuse** は特別な意味があります。チャンネルそのものは、実際には融合されません。ただし **fuse** はチャンネルまたはプロバイダのプロパティを結合する必要があることを指示します。**replace** 動作は、すべてのプロパティすべてを含むチャンネルまたはプロバイダ全体を置換します。**remove** 動作は、そのポイントまでチャンネルまたはプロバイダ全体をマージから削除します。

ディスプレイプロファイル <DisplayProfile> ルートノードは、マージ動作を持つことができます。**replace** 動作は、優先順位の低いドキュメントで定義されたすべての DP オブジェクトにより優先順位の高いドキュメントで定義されたオブジェクトを完全に上書きすることを意味します。そのポイントまでのすべてのマージは無効になり、順序の低いドキュメントはマージの新しい基準として使用されます。**remove** 動作は、そのドキュメントのポイントまでのすべてのマージ結果が破棄されることを示します。マージはソートされたディスプレイプロファイルドキュメントセットの次のドキュメントから開始します。チャンネルおよびプロバイダと同様に、**fuse** 動作はセット内のオブジェクト (チャンネルとプロバイダ) を結合する必要があることを意味します。

不可分のディスプレイプロファイルプロパティ (他のプロパティを格納できないプロパティ) は、**fuse** 動作を使用できません。これには文字列、整数、論理値、参照の各プロパティが含まれます。

チャンネルのプロパティセットは、チャンネルのプロパティとチャンネルのプロバイダのプロパティ、およびチャンネルの親のプロパティなどから構成されます。プロパティ全体は、チャンネルの単一のドキュメントプロパティと考えることができます。ドキュメントのマージとは、あるドキュメントの全プロパティセットが、チャンネルの各ドキュメントのプロパティを結合したものから構成され、それらのプロパティがユーザーのマージセットのすべてのドキュメントで使用されることを意味します。

remove の例 : remove マージによるコンテナの選択したチャンネルリストの修正

次の例はすべてのユーザーのマージセットが、次のディスプレイプロファイルフラグメントを持つ組織レベルのドキュメントからどのように構成されるかを示します。

```
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ... </Properties>

  <Available> ... </Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="UnixTipoftheDay"/>
  </Selected>
</Container>
```

「unix tip of the day」は、UNIX の使い方を説明しています。管理ロールに所属するユーザーは、このチャンネルがあまり有効ではないことに気が付いているようです。管理ロールを持つすべてのユーザーからこのチャンネルを削除するために、次のように管理ロールドキュメントで TemplateTableContainer チャンネルを定義します。

```

admin role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ... </Properties>

  <Available> ... </Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Outages"/>
    <Reference value="SolarisAdmin"/>
    <Reference value="AdminTipoftheDay"/>
    <Reference value="UnixTipoftheDay" merge="remove"/>
  </Selected>
</Container>

```

上記のサンプルでは、Reference value="UnixTipoftheDay" は管理ロール表示プロファイルから削除されます。

replace の例 : replace マージによるすべてのユーザーの表示からのチャンネルの削除

次の例では、特定のコンテナについて、ロール管理が組織レベルで定義されたすべてのチャンネルを無効にする方法を示します。組織定義は次のようになります。

```

organization display profile
<Container name=...>
  ...
  ...
  <Selected>
    <Reference name="X"/>
    <Reference name="Y"/>
    <Reference name="Z"/>
  </Selected>
</Container>

```

ロール管理は、そのロールが割り当てられたどのユーザーも X、Y、Z チャンネルを使用しないようにするために、コンテナは次のように定義されます。

```
admin role
<Container name=...>
  ...
  ...
  <Selected merge="replace">
    <Reference name="A"/>
    <Reference name="B"/>
    <Reference name="C"/>
  </Selected>
</Container>
```

ロールドキュメントのコンテナで選択されたリストは、組織のドキュメントのコンテナで選択されたリストと置換されます。

fuse の例 : fuse マージによるロールベースのチャネルリストの作成

通常は fuse マージ動作を使用して、不可分でないディスプレイプロファイルオブジェクトを結合します。これらのオブジェクトには collection と使用可能なチャネルリストまたは選択されたチャネルリストが含まれます。ここでは、fuse は不可分でないプロパティに格納されたすべてのプロパティもマージする必要があることを示しています。このように fuse を使用することで、ユーザーに最終的に表示される不可分でないプロパティを、さまざまなドキュメントから構築することができます。

次の例の表示プロファイルドキュメントは、管理、従業員、および movieFreak ロールに所属するユーザーに使用されます。最後に、ユーザーに選択されたチャネルが表示されます。

```
admin role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ... </Properties>

  <Available> ... </Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Outages"/>
    <Reference value="SolarisAdmin"/>
    <Reference value="AdminTipoftheDay"/>
  </Selected>
</Container>
```

```
employee role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ... </Properties>

  <Available> ... </Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Benefits"/>
    <Reference value="EmployeeNews"/>
  </Selected>
</Container>
```

```
movieFreak role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ... </Properties>

  <Available> ... </Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="NewMoviesReleases"/>
    <Reference value="MovieShowTimes"/>
  </Selected>
</Container>
```

ユーザーに選択されたチャンネルの最終的なリストは次に示すとおりです。使用可能なチャンネルリストは、マージが適用される順序で降順に並べられます。

```
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ... </Properties>

  <Available> ... </Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Outages"/>
    <Reference value="SolarisAdmin"/>
    <Reference value="AdminTipoftheDay"/>
    <Reference value="Benefits"/>
    <Reference value="EmployeeNews"/>
    <Reference value="NewMoviesReleases"/>
    <Reference value="MovieShowTimes"/>
  </Selected>
</Container>
```

マージロック

マージ可能なすべてのディスプレイプロファイルオブジェクトは、ロックすることもできます。オブジェクトがロックされると、優先順位の低いドキュメントでは、オブジェクトがマージ動作による影響を受けることがなくなります。これによって優先順位の高いドキュメントを有効にし、マージ動作を使用して優先順位の低いドキュメントでディスプレイプロファイルの特定の機能が変更されないようにします。

マージロックの例 : lock マージによるすべてのユーザーに対するプロパティ値の強制

次の例では、特定の組織に対してすべてのユーザーに「employee news」チャンネルを表示する方法を示します。ユーザーはこのチャンネルを表示から削除できません。組織レベルのドキュメントで、コンテナのチャンネルで選択されるリストは次のように定義されます。

```

<Selected merge="fuse">
  ...
  <Reference value="EmployeeNews" lock="true"/>
  ...
</Selected>

```

マージロックの例 : lock マージによるすべてのユーザーの表示からのチャンネルの強制削除

次の例に「online games」チャンネルを強制的に削除する方法を示します。このシナリオでは、ユーザーが各ユーザードキュメントの選択したチャンネルリストにこのチャンネルを追加していた場合、組織レベルのドキュメントの選択したチャンネルリストからチャンネルを削除するだけでは機能しません。従業員と組織のリストを統合すると、「online games」チャンネルが表示されます。組織内のすべてのユーザーからチャンネルを強制的に削除するには、選択したチャンネルリストを次のように定義します。

```

<Selected merge="fuse">
  ...
  <Reference value="OnlineGames" merge="remove" lock="true"/>
  ...
</Selected>

```

remove 動作はマージされた結果からチャンネルを削除し、lock は優先順位の低いドキュメントの値がマージされるのを防ぎます。

表示プロファイルドキュメントの優先順位

実行時に、ユーザーがログインすると、システムはユーザーの表示プロファイルドキュメントセットを構成するドキュメントセットを決定します。デスクトップにおけるディスプレイプロファイルの内部実装 (ディスプレイプロファイルを解釈する部分) では、ユーザーが所属する LDAP ノードすべてを検索して、このドキュメントセットを決定します。これは組織 DN (o=sesta.com)、サブ組織、ロール DN (cn=Role1,o=sesta.com)、

uid (uid=jtb,ou=People,cn=Role1,0=sesta.com)、およびグローバル表示プロファイルのいずれかになります。この場合、これらの LDAP ノードとグローバル表示プロファイルのそれぞれのディスプレイプロファイルドキュメントが読み込まれ (ドキュメントが存在する場合)、すべてのドキュメントが 1 つにまとめられます。システムはドキュメントの優先順位に従ってセットをソートします。低い数値は低い優先順位を表します。例えば、1 は 2 よりも優先順位が低くなります。ドキュメントは低い数値から高い数値にソートされます。このプロセスについての詳細は、128 ページの「マージプロセスの仕組み」を参照してください。

ユーザーレベルドキュメント (uid=jtb,ou=People,...) はベースドキュメントと呼ばれる特殊な例です。ベースドキュメントは優先順位が無限に等しいものと考えてください。したがって常に最高位の数値 (および最高の優先順位) になります。マージャーのすべては、ソート順でベースドキュメントと関連付けられ、ユーザードキュメントの優先順位の設定は常に最高位になります。

<DisplayProfile> タグで使用される priority 属性は特殊なキーワード user を使用して、現在のディスプレイプロファイルがユーザーレベルのディスプレイプロファイルであることを示します。

マージが発生した場合は、もっとも優先順位の低いドキュメント (もっとも低い数値) から開始され、ユーザー (基本) ドキュメントに達するまで、優先順位の数値を増加させながら処理されます。

この場合、ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位が意味するのは、実際に重要なのは優先順位の数値であることです。例えば、組織レベルのドキュメントの優先順位をロールレベルのドキュメントよりも高くできますが、必ずしもそのようにする必要はありません。優先順位の設定は、自分のサイトでこのようなドキュメントをどのような優先順位に設定する必要があるかによります。

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位は、XML ファイルに <DisplayProfile priority=syntax> タグを使用して指定します。優先順位は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールまたは dpadmin コマンドを使用して直接表示プロファイル XML を編集し、ディスプレイプロファイルをロードして変更します。dpadmin コマンドの詳細については、第 12 章「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。

注 2 つのディスプレイプロファイルドキュメントに同じ優先順位を設定しないでください。同じ優先順位を割り当てると、デスクトップが正しく表示されなくなります。製品は重複したドキュメントの優先順位を確認しません。

ドキュメントの優先順位の例 1

次の例では2つのディスプレイプロファイルを使用しています。1つは組織の acme に、もう1つは uid の bill に使用します。Bill (uid=bill) がデスクトップにログインすると、ブックマークチャンネル「Bill's Bookmarks」が次の3つのブックマーク(次の順序で)と共に表示されます。

- ACME
- Amazon
- EBay

```

ÉfÉBÉXÉvÉâÉCÉvÉçÉtÉ@ÉCÉã @ o=acme.com
<DisplayProfile version="1.0" priority="10">
  ...
  <Channel name="Bookmark" provider="BookmarkProvider" merge="fuse">
    <Properties>
      <String name="title" value="My Bookmarks" merge="replace" lock="false"
propagate="true"/>
      <String name="refreshTime" value="600" merge="replace" lock="false"
propagate="true"/>
      <Collection name="targets" merge="fuse" lock="false"
propagate="true">
        <String value="ACME home page|http://www.acme.com" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
      </Collection>
    </Properties>
  </Channel>
  ...
</DisplayProfile>

```

```

dp @ uid=bill,ou=people,o=acme.com
<DisplayProfile version="1.0" priority="1">
...
  <Channel name="Bookmark" provider="BookmarkProvider" merge="fuse">
    <Properties>
      <String name="title" value="Bill's Bookmarks" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
      <Collection name="targets" merge="fuse" lock="false" propagate="true">
        <String value="Amazon|http://www.amazon.com" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
        <String value="EBay|http://www.ebay.com" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
      </Collection>
    </Properties>
  </Channel>
...
</DisplayProfile>

```

ドキュメントの優先順位の例 2

次の例では、グローバルディスプレイプロファイル、組織 acme のディスプレイプロファイル、およびロール hradmin のディスプレイプロファイルを使用します。hradmin ロールに割り当てられたユーザーがデスクトップにログインすると、TemplateTableContainer が次のチャネルとともに表示されます。

- UserInfo
- MailCheck
- SampleSimpleWebService

```

dp @ global:
<DisplayProfile version="1.0" priority="0">
...
  </Properties>
  <Available>
...
  </Available>
  <Selected merge="fuse" lock="false">
    <Reference value="UserInfo"/>
  </Selected>
  <Channels/>
</Container>
...
</DisplayProfile>

```

```
dp @ global:
...
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties>
    ...
  </Properties>
  <Available>
    ...
  </Available>
  <Selected merge="fuse" lock="false">
    <Reference value="UserInfo"/>
  </Selected>
  <Channels/>
</Container>
...
</DisplayProfile>
```

```
dp @ o=acme.com:
<DisplayProfile version="1.0" priority="10">
...
  <Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties>
    ...
  </Properties>
  <Available>
    ...
  </Available>
  <Selected merge="replace" lock="false">
    <Reference value="Bookmark"/>
    <Reference value="Notes"/>
  </Selected>
  <Channels/>
</Container>
...
</DisplayProfile>
```

```

dp @ cn=hradmin,o=acme.com:
<DisplayProfile version="1.0" priority="5">
...
  <Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties>
    ...
  </Properties>
  <Available>
  <Selected merge="fuse" lock="true">
    <Reference value="MailCheck"/>
    <Reference value="SampleSimpleWebService"/>
  </Selected>
  <Channels/>
</Container>
...
</DisplayProfile>

```

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位設定の要約

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位は、定義要因にマージオーダーを考慮するか、ロック機能を考慮するかによって低くなったり高くなったりします。

ロックを考慮しない場合、低い数値のディスプレイプロファイルドキュメントは優先順位が低くなります。低い数値のディスプレイプロファイルドキュメントは最初にマージされるため、高い数値のドキュメントでそのエントリが上書きされます。低い数値のドキュメントは優先順位が低くなります。

ただし、低い数値のディスプレイプロファイルドキュメントはオブジェクトをロックできるため、高い数値のドキュメントによる影響を受けずに済みます。このため、低い数値のドキュメントは優先順位が高くなります。

ディスプレイプロファイルと iPlanet Directory Server Access Management Edition

ユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントセットは、以下のドキュメントから構成されます。

- ユーザーの LDAP 組織 (またはサブ組織) ノードに存在するドキュメント

- 各ユーザーのロールノードに存在するドキュメント
- ユーザーのエントリノードに存在するドキュメント
- グローバル表示プロファイルに存在するドキュメント

ドキュメントはこれらの各ノードで定義する必要はありませんが、各ノードに1つ以上のドキュメントが定義されている必要があります。ドキュメントセットは、ディスプレイプロファイルドキュメントが定義する優先順位の値に従って格納されます。詳細については、「表示プロファイルドキュメントの優先順位」を参照してください。マージ動作は、異なるノードのディスプレイプロファイルドキュメントをマージして単一の表示またはデスクトップを形成する場合に、属性を結合する方式を制御します。詳細については、「ディスプレイプロファイルのマージ」を参照してください。

管理者は **iPlanet Directory Server Access Management Edition** 管理コンソールを使用してディスプレイプロファイルを編集できます。委任された管理者を設定する場合には、**iPlanet Directory Server Access Management Edition** 管理コンソールでディスプレイプロファイルが表示されないようにできます。この設定はデスクトップサービステンプレートを作成する場合に行います。デスクトップサービスのテンプレートを作成する場合、「**Show デスクトップ Service Attributes**」ボックスを選択しなければ、ディスプレイプロファイルテキストが委任された管理者に表示されません。

ヒント 組織の管理者は、デスクトップサービスを通じて特定のロールと関連付けられたコンテナ（またはコンテナ階層）を定義できます。この場合、委任された管理者（ロール管理者）は、「**Desktop**」属性ページの「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを通じて、このコンテナ内に必要なチャンネルとコンテナを定義できます。詳細については、149 ページの「管理チャンネルへのチャンネルとコンテナ管理リンクの使用法」を参照してください。

ディスプレイプロファイルの管理

ディスプレイプロファイルとその他のデスクトップサービスのデータは、**iPlanet Directory Server Access Management Edition** 管理コンソールと `dpadmin` コマンドを通じて編集します。ディスプレイプロファイルを編集する場合、ディスプレイプロファイルのプロバイダ、コンテナ、およびチャンネルを追加、修正、削除し、プロパティを編集します。

また、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールは、チャンネルを追加し、既存のプロパティを編集するための「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクをデスクトップ属性ページに表示します。このリンクを使用すると、チャンネルを新規に作成したときに、プロパティを修正することもできます。

注 「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクは委任された管理者に合わせて調整され、管理者がコンテナおよびチャンネルの属性をこのリンクで追加および修正できます。システム全体の管理者は、委任された管理者が使用できるコンテナおよびプロバイダを追加することに対して責任を持つ必要があります。

142 ページの表 5-2 に異なるタイプのディスプレイプロファイルを示し、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用してそれらの表示プロファイル进行管理する方法について説明します。この表では、最初の列にディスプレイプロファイルのタイプを、2 列目に iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用してそのディスプレイプロファイルにアクセスする方法を、3 列目に簡単な説明を示しています。

表 5-2 表示プロファイルドキュメントのタイプ

表示プロファイルドキュメントのタイプ	iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して表示する方法	説明
グローバル表示プロファイルドキュメント	「サービス管理」を選択します。Desktop の隣のプロパティ矢印をクリックします。「Desktop」の「グローバル」セクションで、「XML の編集」をクリックします。	システムのすべてのユーザーに継承される表示プロファイル要素を、所属する組織やロールとは関係なく定義します (現在は実施していません)。全員が使用する共通プロバイダを定義するために、表示プロファイルの XML ドキュメントを表示する必要があります。
ダイナミック表示プロファイルドキュメント	「サービス管理」を選択します。Desktop の隣のプロパティ矢印をクリックします。「Desktop」の「ダイナミック」セクションで、「XML の編集」をクリックします。	コンテナ管理とチャンネルのプロパティを説明します。この表示プロファイルは、実行時にユーザーのデスクトップの生成に使用されませんが、新規に作成された各組織およびロールのデフォルトになります。デフォルトでは、ダイナミック表示プロファイルドキュメントは空白です。ダイナミックディスプレイプロファイルを使用するために、まずそれを実装する必要があります。

表 5-2 表示プロファイルドキュメントのタイプ (続き)

表示プロファイルドキュメントのタイプ	iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して表示する方法	説明
組織、サブ組織、またはロール表示プロファイル	「ユーザー管理」を選択します。適切な組織、サブ組織を選択し、必要に応じて「表示」メニューから「ロール」を選択します。「表示」メニューから「サービス」を選択します。「Desktop」の隣のプロパティ矢印をクリックします。デスクトップページで、「XMLの編集」をクリックします。	<p>選択した組織、サブ組織、またはロールのディスプレイプロファイルを表示します。組織、サブ組織、ロールを新規に作成した場合、このエンティティのテンプレートを作成します。デスクトップサービスにテンプレートを作成する場合、初期の表示プロファイルは上記に述べたダイナミック表示プロファイルドキュメントに設定されます。このように、ダイナミックディスプレイプロファイルが空白の場合、何も指定されていません。</p> <p>ほとんどの場合、このディスプレイプロファイルドキュメントを使用して、コンテンツ管理とチャネルのプロパティを異なる組織およびロールのニーズに合わせてカスタマイズします。</p>

Sun ONE Portal Server をインストールするときに、最初の組織を作成します。次にインストーラがディスプレイプロファイルグローバルレベルのドキュメントをインポートし、指定した内容に基づいてデフォルトのディスプレイプロファイルをインポートします。

その後、組織、サブ組織、またはロールを新規に作成しても、ディスプレイプロファイルは毎回自動的にロードされません。新規に作成された組織、サブ組織、またはロールについて表示プロファイルを手動でロードする必要があります。詳細については、「ディスプレイプロファイルをロードする (管理コンソール)」を参照してください。

ディスプレイプロファイルを管理するための高度な手順は、次のとおりです。

1. 新規に作成された組織、サブ組織、ロールのディスプレイプロファイルをロードします。(インストールプロセスの間に作成される組織については、この手順を実行する必要はありません。)
2. dpadmin コマンドや「XMLの編集」リンクを使用するか、または「XMLのダウンロード」と「XMLのアップロード」リンクを使用して保存およびロードされたファイルとしてディスプレイプロファイルを修正します。
3. チャネルとコンテンツを追加して、「チャンネルおよびコンテンツの管理」リンクを使用してそれらのプロパティを追加、削除、修正します。

デフォルトの表示プロファイルドキュメント

表 5-3 に、Sun ONE Portal Server デスクトップが /opt/SUNWps/samples/desktop ディレクトリにサンプルポータルとして提供しているディスプレイプロファイルドキュメントを示します。次の 2 列構成の表では、最初の列にディスプレイプロファイルドキュメント、2 列目にその説明を一覧表示します。

表 5-3 サンプルポータルで提供される表示プロファイルドキュメント

表示プロファイルドキュメント	説明
dp-anon.xml	認証なし匿名ユーザーによって使用されます。
dp-org.xml	デフォルトの組織レベルでロードされるサンプル表示プロファイル。組織で使用される組織とチャンネルの定義のためのグローバルプロパティをすべて定義します。
dp-org-final.xml	dp-org.xml のコピーと、ブックマークとアプリケーションのチャンネルで定義される NetMail リンク。このディスプレイプロファイルドキュメントは、NetMail サービスが作成されるときに使用されます。
dp-providers.xml	グローバルディスプレイプロファイルレベルでロードされるサンプルディスプレイプロファイル。このドキュメントは、すべてのプロバイダ定義を定義します。これらのプロバイダはすべての組織で使用されるため、システムは最上位でこのディスプレイプロファイルをロードし、すべての組織がそれらのプロバイダを使用できます。プロバイダ定義が 1 つの組織でのみ使用される場合、その組織レベルのディスプレイプロファイルでプロバイダを定義します。

これらのサンプルディスプレイプロファイルのカスタマイズについての詳細は、*Sun ONE Portal Server 6.0 Desktop Customization Guide* を参照してください。

ディスプレイプロファイルのロード

Sun ONE Portal Server を最初にインストールする場合、最初の組織を作成します。またインストーラがディスプレイプロファイルグローバルレベルのドキュメントをインポートし、指定した内容に基づいてデフォルトのディスプレイプロファイルをインポートします。サンプルポータルをインストールしない場合、サンプルディスプレイプロファイルドキュメントはインストールされません。

その後、組織、サブ組織、またはロールを新規に作成すると、ディスプレイプロファイルは自動的にロードされません。新規に作成された組織、サブ組織、またはロールについてディスプレイプロファイルを手動でロードする必要があります。

ディスプレイプロファイルのロードには、基本的に3つの方法があります。

- iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールの「XMLの編集」リンクを使用します。この方法では、「XMLの編集」リンクと組織の既存のディスプレイプロファイルを使用します。この表示プロファイルは、新規に作成した組織、サブ組織、またはロールの空の表示プロファイルにコピーアンドペーストします。145ページの「ディスプレイプロファイルをロードする(管理コンソール)」を参照してください。
- コマンド行を使用します。この方式では、dpadmin コマンドを使用してディスプレイプロファイルをロードします。146ページの「ディスプレイプロファイルをロードする(コマンド行)」を参照してください。dpadmin コマンドを使用する前に、158ページの「dpadmin コマンドの使用法のガイドライン」を参照してください。
- iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールの「XMLのダウンロード」リンクと「XMLのアップロード」リンクを使用します。この方法では、ディスプレイプロファイルをファイルにダウンロードし、ファイルから表示プロファイルをアップロードします。147ページの「ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードする」を参照してください。

注 Netscape 4.x のブラウザを使用している場合は、管理コンソールから直接ディスプレイプロファイルのXMLを編集できません。

ディスプレイプロファイルをロードする(管理コンソール)

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
4. ディスプレイプロファイルをコピーする組織またはサブ組織を選択します。
5. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
6. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。

データ区画にデスクトップの属性が表示されます。

ヒント 「デスクトップ」が表示されない箇所は、スクロールして表示します。

7. 表示プロファイルをコピーします。
「XML の編集」をクリックして、ディスプレイプロファイルのテキスト全体を選択してコピーします。
8. ディスプレイプロファイルをロードする組織、サブ組織、またはロールを選択します。
「ユーザー管理」を選択して「ユーザー管理」に移動し、適切な組織またはサブ組織を選択します。ロールを表示するには、「表示」メニューから「ロール」を選択し、リストから適切なロールを選択します。
9. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
10. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
ディスプレイプロファイル XML があるデスクトップサービス属性の一覧が、データ区画に表示されます。
11. 「XML の編集」をクリックします。
ディスプレイプロファイルの XML ドキュメントがテキストウィンドウに表示されます。
12. コピーしたディスプレイプロファイルをディスプレイプロファイルウィンドウにペーストします。
13. 完了したら、「保存」を選択します。
この変更は、特定の組織内のユーザーだけに反映されます。

ディスプレイプロファイルをロードする (コマンド行)

ディスプレイプロファイルをロードする場合は、`dpadmin` コマンドの `add` サブコマンドを使用します。

例えば、次のコマンドはディスプレイプロファイル (`dp-org.xml`) をロードします。

```
dpadmin add -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" dp-org.xml
```

注 -r または --dryrun オプションをファイル名の前のコマンドの最後に追加すると、実際に変更内容を LDAP に書き込む前に、コマンドが成功するかどうかを確認できます。

ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードする

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
4. ディスプレイプロファイルをコピーする組織またはサブ組織を選択します。
5. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
6. ナビゲーション区画の「デスクトップ」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
データ区画にデスクトップの属性が表示されます。

ヒント デスクトップが表示されない箇所は、スクロールして表示します。

7. 「グローバル」セクションの「XML のダウンロード」をクリックして、ファイルに表示プロファイルを保存します。
8. ディスプレイプロファイルをアップロードする組織、サブ組織、またはロールを選択します。
「ユーザー管理」を選択して「ユーザー管理」に移動し、適切な組織またはサブ組織を選択します。ロールを表示するには、「表示」メニューから「ロール」を選択し、リストから適切なロールを選択します。
9. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
10. ナビゲーション区画の「デスクトップ」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
11. 「XML のアップロード」をクリックして、ロードするファイルを指定します。
12. 「アップロード」をクリックします。
表示プロファイルのアップロードの完了を示すメッセージが表示されます。

13. 「閉じる」をクリックします。

この変更は、特定の組織内のユーザーだけに反映されます。

ディスプレイプロファイル全体を表示する

- `dpadmin` コマンドと `list` サブコマンドを実行して、次のようにディスプレイプロファイル全体を表示します。

```
dpadmin list -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d  
"o=sesta.com,o=isp"
```

ディスプレイプロファイルを削除する

破壊など、何らかの理由でディスプレイプロファイルを削除する必要がある場合、`dpadmin` コマンドと `remove` サブコマンドを使用します。

例えば、ルートからディスプレイプロファイル (`dp-org.xml`) 全体を削除する場合、次のように指定します。

```
dpadmin remove -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d  
"o=sesta.com,o=isp" -t root
```

ルートから、またはディスプレイプロファイルが必要なノードからディスプレイプロファイルを削除する場合、新しいディスプレイプロファイルをロードする必要があります。例えば、上記のように `dp-org.xml` ディスプレイプロファイルを削除した場合、`dp-org-final.xml` ディスプレイプロファイルのように類似した別のディスプレイプロファイルをロードする必要があります。ディスプレイプロファイルのロードについては、146 ページの「ディスプレイプロファイルをロードする (コマンド行)」を参照してください。

管理チャンネルへのチャンネルとコンテナ管理リンクの使用方法

管理は「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを使用して行います。

- プロパティ – グローバル表示プロファイルのプロパティを定義および追加できます。
- コンテナ – コンテナのコンテンツコンテナを追加または削除できます。またコンテンツコンテナのプロパティを修正することもできます。
- チャンネル – コンテナのチャンネルを追加または削除できます。
- またチャンネルのプロパティを修正することもできます。

注 現在、「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを使用して、チャンネルとコンテナ、およびそれらのプロパティを操作することができます。このリンクでプロバイダの操作は実行できません。

「デスクトップ」の属性ページを使用する場合、委任された管理者には「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクのみが表示されます。他のすべてのディスプレイプロファイルの属性は非表示になっているので安全です。

注 ディスプレイプロファイルドキュメントでは、<channels/> タグはチャンネルが指定されていないことを意味します。

チャンネルとコンテナ管理のデフォルトプロバイダ

「Desktop」の「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクには、コンテナチャンネルまたはコンテンツチャンネルの追加または削除ができる管理画面が表示されます。

チャンネルの追加

「チャンネル」リストの「追加」リンクを使用すると、デフォルトのコンテンツプロバイダのリストから、追加するコンテンツプロバイダを選択できます。150 ページの表 5-4 に追加できるプロバイダチャンネルを示します。この表には、プロバイダとその簡単な説明が示されます。

表 5-4 デフォルトのプロバイダチャンネル

プロバイダ	説明
AppProvider	ユーザーはアプリケーションのリストからアプリケーションを追加または削除できます。
BookmarkProvider	ユーザーはブックマークのリストから URL を追加または削除できます。
JSPProvider	1 つまたは複数の JSP™ ファイルからコンテンツを取得します。
LoginProvider	ユーザーがログインできるように、匿名ユーザーのデスクトップに「ログイン」チャンネルが表示されます。
MailCheckProvider	ユーザーのメールステータスに関する情報を表示します。
NotesProvider	管理者が許可したユーザーが、Notes チャンネルのすべてのユーザーのデスクトップにメッセージを投稿できます。
SearchProvider	Sun ONE Portal Server Search Engine を使用した検索機能を提供します。
SimpleWebServiceConfigurableProvider	エンドユーザーチャンネルで、エンドユーザーが設定できる簡単な Web サービスが利用できるようにします。
SimpleWebServiceProvider	エンドユーザーチャンネルで、簡単な Web サービスを使用できるようにします。
URLScrapperProvider	リライタを使用して、URL 情報とその表示方式を説明する XML ファイルを構築します。
UserInfoProvider	ディスプレイプロファイルと iPlanet Portal Server Access Management Edition から情報を収集します。あいさつ文、ユーザー名、タイムゾーン、ロケールが表示され、ユーザーの IMAP データと SMTP データにアクセスできます。
XMLProvider	表示用に別の形式に変換される XML ファイル形式のコンテンツを表示します。

コンテナチャネルの追加

「コンテナチャネル」リストの「追加」リンクを使用すると、デフォルトのコンテナプロバイダのリストから、追加するコンテナプロバイダを選択できます。表 5-5 に使用可能なデフォルトのコンテナチャネルプロバイダを示します。この表では、最初の列にプロバイダ名、2 列目にその簡単な説明を一覧表示します。

表 5-5 デフォルトのプロバイダコンテナチャネル

プロバイダ	説明
JSPFrameCustomTableContainerProvider	JSPTabContainer がユーザーの JSP フレームセットベースのデスクトップでフレームを新規作成するために内部で使用するプロバイダ。
JSPSingleContainerProvider	コンテナビルディングブロックプロバイダと JSP コンテナプロバイダの拡張機能。このプロバイダは内部の単一のチャネルを表示します。
JSPTabContainerProvider	コンテナビルディングブロックプロバイダと JSP プロバイダの拡張機能。このプロバイダは複数のタブで構成されるチャネルとタブのタイトルを表示します。
JSPTabCustomTableContainerProvider	JSPTabContainer が、ユーザーの JSP タブベースのデスクトップでタブを新規作成するために内部で使用するプロバイダ。
JSPTableContainerProvider	コンテナビルディングブロックプロバイダと JSP プロバイダの拡張機能。このプロバイダはテーブル内のコンテンツチャネルを表示します。
TemplateEditContainerProvider	テンプレートベースのコンテナ (TemplateTabContainer と TemplateTableContainer) が編集プロバイダとして内部で使用するプロバイダ。チャネルの editType が edit_subset の場合、このプロバイダは「編集」ページのフレーム描画に使用されません。
TemplateTabContainerProvider	コンテナビルディングブロックプロバイダとテンプレートベースのタブコンテナ。このプロバイダはいくつかのタブのサポートを格納します。
TemplateTabCustomTableContainerProvider	テンプレートベースのコンテナ (TemplateTabContainer と TemplateTableContainer) がタブを新規作成するために内部で使用するプロバイダ。

表 5-5 デフォルトのプロバイダコンテナチャネル (続き)

プロバイダ	説明
TemplateTableContainerProvider	コンテナビルディングブロックプロバイダとテンプレートベースのテーブルコンテナ。このプロバイダはテーブル内のコンテンツチャネルを表示します。

ノートチャネルについて

ノートチャネル (ノートプロバイダを使用) は、共有ファイルから一連のメッセージを読み出し、そのメッセージをフォーマットし、ユーザーのデスクトップに表示します。オプションで、ノートチャネルを使用してユーザーは共有ファイルにメッセージを投稿できます。これらのメッセージは、このチャネルを選択したすべてのユーザーに表示されます。ノードデータファイルは、(テキストエディタで) 手動で編集して、メッセージを追加または削除することができます。

ノートチャネルを配置する場合、次の点を考慮してください。

- ノートチャネルはノートテキストのエラーチェックを実行しないため、ユーザーが **HTML タグ** などのテキストを不注意または意図的に入力した場合、このチャネルを使用するすべてのデスクトップが表示されなくなる場合があります。この問題が起こる場合は、ノートデータファイルを手動で編集するために、編集権限を特定のユーザーに制限するか、完全に無効にする必要があります。
- ノートデータはファイルシステム上にあるため、マルチノード環境が想定されています。ノートデータファイルが **Sun ONE Portal Server** が稼働しているサーバー間で共有されない場合、ノートチャネルは各ノード上で同じように表示されません。マルチノード環境で使用され、ノードデータのサーバー間共有が必要な場合、共有されるノートデータファイルは NFS マウントファイルシステムを通じてアクセスできるようになります。NFS 共有によりデスクトップのパフォーマンスと NFS サーバーのパフォーマンスが連携します。ほとんどの場合、これは問題になりません。
- ノードデータはファイルシステム上にあるため、その使用がパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。ノートデータファイルの読み出しは I/O 操作です。ノートデータファイルへの排他的アクセスは、ファイルのロックを通じて可能になります。Sun ONE Portal Server の設定により結果的にノートチャネルへのアクセスが重くなる場合には、この処理は効果を示さない場合があります。複数のノード間でノートデータファイルを NFS 共有すると、こ

の状況がさらに悪化することがあります。ただし、ノートチャンネルを更新時間がゼロ以外になるように設定すると、ノートチャンネルはあまり頻繁にファイルシステムにアクセスしなくなり、このようなパフォーマンス上の問題が軽減されます。

注 ノートチャンネルを使用する場合、チャンネルは権限を持つユーザーグループのみが編集できるものと想定され、したがって権限を持つユーザーは特定のロールに所属します。ロールのディスプレイプロファイルドキュメントでは、ノートチャンネルの `isEditable` プロパティは `true` に設定する必要があります。

URL スクレイパーチャンネルでの cookie の使用方法

URL スクレイパーチャンネルで cookie を管理する場合、2つのチャンネルプロパティを使用します。`cookiesToForwardAll` プロパティは、`true` に設定された場合、すべての cookie がターゲットサイトに転送されます。それ以外の場合、`cookiesToForwardList` プロパティを使用して選択した cookie を転送することができます。

この設定はチャンネル単位で行います。詳細については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Developer's Guide*』と『*Sun ONE Portal Server 6.0 Desktop Customization Guide*』を参照してください。

チャンネルまたはコンテナチャンネルを追加する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition の管理コンソールに管理者または委任された管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. チャンネルを追加する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
「Desktop」ページがデータ区画に表示されます。
6. 「Desktop」ページの「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
「チャンネル」ページが表示され、コンテナパスが `root` で設定されています。

7. チャンネルまたはコンテナを追加するコンテナをクリックします。
ページの上部に、チャンネルが追加されるコンテナパスが表示されます。チャンネルとコンテナが定義されている場合は、リストに表示されます。
8. 「追加」をクリックして、コンテナチャンネルまたはチャンネルを追加します。
コンテナチャンネルを追加するには、「コンテナチャンネル」で「追加」をクリックします。チャンネルを追加するには、「チャンネル」で「追加」をクリックします。
「チャンネルの追加」ページが表示されます。
9. チャンネル名を入力し、メニューからプロバイダのタイプを選択します。
使用可能なプロバイダについては、150 ページの表 5-4 を参照してください。
10. 「作成」をクリックします。

チャンネルまたはコンテナチャンネルのプロパティを変更する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition の管理コンソールに管理者または委任された管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. チャンネルを修正する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
「Desktop」属性ページがデータ区画に表示されます。
6. 「Desktop」ページの「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
「チャンネル」ページが表示されます。ページの上部にコンテナのパスが表示されます。定義済みのチャンネルがリストに表示されます。
7. 変更するチャンネルまたはコンテナチャンネルの横の「編集」リンクを選択します。
プロパティページが表示されます。

8. 必要に応じてプロパティを修正します。

チャンネルのプロパティの詳細については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Desktop Customization Guide*』を参照してください。

9. 完了したら、「保存」を選択します。

チャンネルまたはコンテナチャンネルを削除する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition の管理コンソールに管理者または委任された管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. チャンネルを修正する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
「Desktop」属性ページがデータ区画に表示されます。
6. 「Desktop」ページの「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
「チャンネル」ページが表示されます。ページの上部にコンテナのパスが表示されます。定義済みのチャンネルがリストに表示されます。
7. 削除するチャンネルまたはコンテナチャンネルの横のチェックボックスをクリックします。「削除」をクリックします。
8. チャンネルが削除され、「チャンネル」リストが更新され、削除が確認できます。

コンテナの管理

コンテナを管理する場合、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して表示プロファイルの XML を直接編集することができます。また `dppadmin` コマンドを使用することもできます。このコマンドはこのセクションのほとんどの箇所、さまざまな例を使用して説明しています。

これらの例には次のものがあります。

- ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する

- コンテナのチャンネルを置換する
- チャンネルのプロパティを置換する
- コンテナにチャンネルを追加する
- コレクションにプロパティを追加する
- コレクションプロパティを追加する
- チャンネルまたはコンテナからプロパティを削除する
- プロバイダを削除する
- コンテナからチャンネルを削除する
- ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を変更する
- チャンネルをコンテナで使用できるようにする
- チャンネルをコンテナで使用不可にする
- コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択する
- コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択解除する

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールによるディスプレイプロファイルの編集についての詳細は、170 ページの「ディスプレイプロファイルテキストウィンドウの使用方法」を参照してください。

dpadmin コマンドの使用法

dpadmin コマンドの構文は次のとおりです。

```
$ dpadmin list|modify|add|remove [command-specific options] -u uid -w password {-g|-d dn} [-l locale] [-r] [-b] [-h] [file]
```

dpadmin コマンドの完全な構文については、第 12 章「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。dpadmin コマンドを実行する場合は、次の点に注意してください。

- **file** 引数 — 使用する場合、**file** 引数はコマンド行の最後の引数として指定する必要があります。この引数は、ディスプレイプロファイル DTD に適合する XML フラグメントを含む XML ファイルへのパスを指定します。XML の入力が必要なサブコマンドには、**modify** および **add** が含まれます。

ディスプレイプロファイル全体を追加または修正する場合、常に適切な XML ヘッダーを追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
```

- **list** サブコマンド — ディスプレイプロファイルノードオブジェクトを取り出て、表示します。オブジェクトはネイティブ XML 形式で表示されます。表示されるオブジェクトは、標準出力に送信されます。**-n** または **--name** オプションを使用しない場合、ディスプレイプロファイルドキュメント全体が表示されます。
- **modify** サブコマンド — 既存のディスプレイプロファイルオブジェクトの値を変更します。このコマンドは、オブジェクトがすでにディスプレイプロファイルに存在することを想定しています。**modify** サブコマンドは、標準入力または引数として指定されたファイルのいずれかから新規オブジェクトのデータを読み出します。新しいオブジェクト用のデータは、XML であり、ディスプレイプロファイル DTD に適合する必要があります。特にオブジェクトデータは、正しく、フォーマットされた XML フラグメントになる必要があります。
- **add** サブコマンド — 新規オブジェクトをディスプレイプロファイルに追加します。このサブコマンドは、追加されるオブジェクトがディスプレイプロファイルに存在しないと想定しています。**add** サブコマンドは、標準入力または引数として指定されたファイルのいずれかから新規オブジェクトのデータを読み出します。新しいオブジェクト用のデータは、XML であり、ディスプレイプロファイル DTD に適合する必要があります。特に、オブジェクトデータは、正しくフォーマットされた XML フラグメントにする必要があります。
- **remove** サブコマンド — ディスプレイプロファイルから既存のオブジェクトを削除します。
- **-g** オプション — グローバルレベルのディスプレイプロファイルドキュメントを指定します。
- **-r** または **--dryrun** オプション — 現在のコマンドの成否、および LDAP に変更が書き込まれていないかどうかを報告します。このオプションは、特定の **dpadmin** コマンドが正しくフォーマットされます。

- `-n` または `--name` および `-p` または `--parent` オプション — ディスプレイプロファイルコンテナ、チャンネルまたはプロバイダオブジェクト、またはディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を要求します。

dpadmin コマンドの使用法のガイドライン

dpadmin コマンドを使用してディスプレイプロファイルを更新する場合は、次のガイドラインに従います。

- 他の管理者が同時に iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールまたは dpadmin コマンドを使用して表示プロファイルの修正を行っていないことを確認します。このような状況では、dpadmin コマンドと管理コンソールが同時にディスプレイプロファイルにアクセスするのを防ぐロックメカニズムが機能しないため、変更内容が損なわれてしまいます。
- dpadmin を使用する場合、ファイルの XML 「フラグメント」して修正内容を保存し、dpadmin コマンドと add サブコマンドを実行する方法をお勧めします。たとえば、次のようになります。

```
/opt/SUNWps/bin/dpadmin add -u
"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"uid=anonymous,ou=people,o=sesta.com,o=isp" newtheme.xml
```

この例では、newtheme.xml はディスプレイプロファイルに追加される XML 「フラグメント」を含むファイルです。

- ディスプレイプロファイルドキュメントを直接編集する場合、まず dpadmin コマンドと list サブコマンドを使用してディスプレイプロファイルの最新の内容を取得し、編集を行って、dpadmin コマンドと modify サブコマンドを実行します。たとえば、次のようになります。

```
/opt/SUNWps/bin/dpadmin list
-u"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"o=sesta.com,o=isp" > dp-org.xml
```

(dp-org.xml ファイルを編集します)

```
/opt/SUNWps/bin/dpadmin modify -u
"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"o=sesta.com,o=isp" dp-org.xml
```

注意 `dpadmin list` と `dpadmin modify` コマンドを実行する間に、(管理コンソール、`dpadmin`、または `ldapmodify` コマンドを使用した) どのような方法でも LDAP サーバーで表示プロファイルドキュメントを変更しないでください。変更した場合、その変更内容は最新の `dpadmin modify` によって上書きされます。

ディスプレイプロファイルの修正

ディスプレイプロファイルオブジェクトは、次のいずれかを実行して修正できます。

- 既存のディスプレイプロファイルドキュメントを手動で編集し、`dpadmin modify` コマンドを使用して、適切な LDAP ノードまたはグローバルレベルでロードします。
- 標準出力で XML テキストで変更を指定して、`dpadmin` コマンドを実行します。新規オブジェクトを追加する場合、`add` サブコマンドを使用します。既存のオブジェクトを修正する場合、`modify` サブコマンドを使用します。
- 新規のディスプレイプロファイルドキュメントを最初から作成し、`dpadmin modify` コマンドを使用して適切な LDAP ノードまたはグローバルレベルでロードします。

ディスプレイプロファイルのエラーメッセージの概要

無効な XML を含むディスプレイプロファイルドキュメントを作成し、保存しようとする、システムがエラーを報告します。このエラーメッセージは、タイトル、メッセージ、およびサブメッセージとして表示されます。メッセージボックスのタイトルは、「無効な XML ドキュメント」です。メッセージは、次のいずれかの形式で表示されます。

- XML ヘッダーがありません
- パーサにより報告されているエラーは ... でした
- パーサにより報告されている *nnn* 行および *nnn* 列のエラーは ... でした

「無効な XML ドキュメント」エラーが表示された場合、エラーを修正して、作業中の XML ドキュメントを保存する必要があります。

ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示する

- `list` サブコマンドを使用してディスプレイプロファイルオブジェクトを表示します。

例えば、次のコマンドは `TemplateTableContainer` という名前のチャンネル、コンテナ、またはプロバイダを取得し、標準出力に出力します。

```
dpadmin list -n "TemplateTableContainer" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
```

注 `-n` オプションを省略すると、ディスプレイプロファイルドキュメント全体を表示できます。

コンテナのチャンネルを置換する

1. `modify` サブコマンドを使用して、コンテナ内のチャンネルを標準入力で指定した値と置換します。

例えば、このコマンドはコンテナ `TemplateTableContainer` のチャンネル `Test` を標準入力で指定された値と置換します。

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Channel name="Test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Test Channel"/>
    <String name="description" value="This channel is a test."/>
  </Properties>
</Channel>
EOF
```

2. `list` サブコマンドを使用して、チャンネルが置換されたことを確認します。
160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

チャンネルのプロパティを置換する

1. `modify` サブコマンドを使用して、チャンネル内のプロパティを標準入力で指定した値と置換します。

例えば、次のコマンドはチャンネル `NewChannel` で動作し、プロパティ `new.xml` を前述のファイルの新規オブジェクトと置換します。この場合 `new.xml` は次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<String name="welcome" value="Hi, welcome to your desktop!"/>
```

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer/NewChannel -u
"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
new.xml
```

2. `list` サブコマンドを使用して、プロパティが置換されたことを確認します。
160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

コンテナにチャネルを追加する

1. ディスプレイプロファイル入力 XML ファイルを修正して、新規の <Channel> 定義のみを追加し、次のようにファイル testadd.xml を作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Channel name="TestChannel" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="teststring" value="sfds"/>
  </Properties>
</Channel>
```

2. add サブコマンドを使用して、コンテナにチャネルを追加します。

例えば、次のコマンドは testadd.xml で定義された新規チャネルをディスプレイプロファイルに追加します。次の例では、新規チャネルを TemplateTableContainer レベルで追加する必要があります。親オブジェクトを -p オプションで指定しない場合、チャネルはルートレベルで追加されます。:

```
dpadmin add -p "TemplateTableContainer" -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" testadd.xml
```

注 新規チャネルを JSPTabContainer に追加する場合、実際には新規タブを追加しています。JSPTabContainer では、すべての使用可能で選択されたタブで定義された TabProperties が必要です。この場合、JSTabContainer に追加された新規コンテナまたはチャネルについて、新規チャネルまたはコンテナが追加された JSPTabContainer の TabProperties Collection に内部で次の XML フラグメントを追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="New Channel Name">
  <String name="title" value="<New Channel Title>" />
  <String name="desc" value="<New Channel Description>" />
  <Boolean name="removable" value="false" />
  <Boolean name="renamable" value="true" />
  <Boolean name="predefined" value="true" />
</Collection>
```

3. `list` サブコマンドを使用して、チャンネルが追加されたことを確認します。
160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

コレクションにプロパティを追加する

1. `combine (-m)` オプションを使用して、コレクションに新規プロパティを追加します。
例えば、次のコマンドは新規プロパティ `msg2` をコレクション `bar` に追加します。既存のプロパティ `msg` は、まだ残っています。`list` サブコマンドは、プロパティ値を表示する前後に使用されます。

```
dpadmin list -n TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
...
<Collection name="foo">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg" value="hi" />
  </Collection>
</Collection>
...
```

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" -m <<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="foo">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
EOF
```

```
dpadmin list -n TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
...
<Collection name="foo">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg" value="hi"/>
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
...
```

コレクションプロパティを追加する

1. add サブコマンドを使用して、標準入力で指定した値でコレクションを追加します。

例えば、次のコマンドは標準入力で指定された集合プロパティ `zipCodes` を `Postal` という名前のチャンネル、コンテナ、またはプロバイダに追加します。

```

dpadmin add -p SamplesTabPanelContainer/Postal -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="zipCodes">
  <Integer value="98012"/>
  <Integer value="98036"/>
  <Integer value="94025"/>
  <Integer value="95112"/>
</Collection>
EOF

```

2. `list` サブコマンドを使用して、コレクションプロパティが追加されたことを確認します。

160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

チャンネルまたはコンテナからプロパティを削除する

1. `remove` サブコマンドを使用して、チャンネルまたはコンテナからプロパティを削除します。

例えば、次のコマンドはプロパティ `locations` をグローバルレベルで `Bookmarks` チャンネル (またはコンテナ) から削除します。

```

dpadmin remove -t property -p Bookmarks -n locations -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -g

```

2. `list` サブコマンドを使用して、プロパティが削除されたことを確認します。

160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

プロバイダを削除する

1. `remove` サブコマンドを使用して、プロバイダを削除します。

例えば、次のコマンドはプロバイダ `NotesProvider` を削除します。

```
dpadmin remove -t provider -n "NotesProvider" -u "uid=amAdmin,ou=People,  
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
```

2. `list` サブコマンドを使用して、プロバイダが削除されたことを確認します。

160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

コンテナからチャンネルを削除する

1. `remove` サブコマンドを使用して、コンテナからチャンネルを削除します。

例えば、次のコマンドは、`TemplateTableContainer` という親コンテナ内に存在する `Test` というチャンネルを削除します。

```
dpadmin remove --type channel --parent TemplateTableContainer --name "Test"  
--runasdn "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" --password password --dn  
"o=sesta.com,o=isp"
```

2. `list` サブコマンドを使用して、チャンネルが削除されたことを確認します。

160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を変更する

1. `modify` サブコマンドを使用して、ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順序を変更します。

例えば、次のコマンドはドキュメントの優先順位を、元の順序から組織の 10 に変更します。

```
dpadmin modify -m -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"o=sesta.com,o=isp" <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Properties/>
<Channels/>
<Providers/>
EOF
```

2. `list` サブコマンドを使用して、優先順序が変更されたことを確認します。

160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

チャンネルをコンテナで使用できるようにする

1. `modify` サブコマンドと `combine (-m)` オプションを使用して、標準入力で指定されたチャンネルをコンテナの既存の使用可能リストに追加します。

例えば、次のコマンドは BookMark チャンネルを `TemplateTableContainer` の Available リストに追加します。

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" -m <<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Available>
  <Reference value="BookMark">
</Available>
EOF
```

2. list サブコマンドを使用して、優先順序が変更されたことを確認します。
160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

チャンネルをコンテナで使用不可にする

1. remove サブコマンドを使用して、コンテナの Available リストからチャンネルを削除します。
例えば、次のコマンドは、TemplateTableContainer という親コンテナの Available リストから Test というチャンネルを削除します。

```
dpadmin remove --type available --parent TemplateTableContainer --name "Test"
--runasdn "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" --password password --dn
"o=sesta.com,o=isp"
```

2. list サブコマンドを使用して、チャンネルが削除されたことを確認します。
160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

コンテナの使用可能なチャネルリストからチャネルを選択する

1. `modify` サブコマンドと `combine (-m)` オプションを使用して、標準入力で指定されたチャネルをコンテナの既存の `Selected` リストに追加します。

例えば、次のコマンドは BookMark チャネルを `TemplateTableContainer` の `Selected` リストに追加します。

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" -m <<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Selected>
  <Reference value="BookMark">
</Selected>
EOF
```

2. `list` サブコマンドを使用して、優先順序が変更されたことを確認します。
160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

コンテナの使用可能なチャネルリストからチャネルを選択解除する

1. `remove` サブコマンドを使用して、コンテナの `Selected` リストからチャネルを削除します。

例えば、次のコマンドは、`TemplateTableContainer` という親コンテナの `Selected` リストから `Test` というチャネルを削除します。

```
dpadmin remove --type selected --parent TemplateTableContainer --name "Test"
--runasdn "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" --password password --dn
"o=sesta.com,o=isp"
```

2. list サブコマンドを使用して、チャンネルが削除されたことを確認します。
160 ページの「ディスプレイプロファイル オブジェクトを表示する」を参照してください。

ディスプレイプロファイルテキストウィンドウの使用方法

iPlanet Directory Server Access Management Edition はディスプレイプロファイルテキストを表示し、直接編集するためのテキストウィンドウを提供します。組織、サブ組織、またはロールに管理者としてアクセスできる間は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して、このテキストウィンドウに移動し、ディスプレイプロファイルを表示または編集できます。

注 Netscape 4.x のブラウザを使用している場合は、管理コンソールから直接ディスプレイプロファイルの XML を編集できません。

ディスプレイプロファイルテキストウィンドウにアクセスする

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition の管理コンソールに管理者または委任された管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. ディスプレイプロファイルドキュメントを修正する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
「Desktop」ページがデータ区画に表示されます。
6. 「Desktop」ページで、「XML の編集」リンクをクリックします。
ディスプレイプロファイルがテキストウィンドウに表示されます。

注 デフォルトでは、表示プロファイルの優先レベルはキーワード `user` に設定され、現在の表示プロファイルがユーザーレベルの表示プロファイルであることを示します。その他の許容される値は、低い優先順位を表す小さい整数です。例えば、1 は 2 よりも優先順位が低くなります。

7. 変更したら、「保存」を選択します。

注 グローバル、組織、サブ組織、またはロールレベルのドキュメントへの変更は、即時有効になります。ユーザーレベルのドキュメントへの変更は、ユーザーがログアウトおよびログインした後で有効になります。

NetMail サービスの管理

この章では NetMail サービスを管理する方法について説明します。

この章には、次の節があります。

- NetMail の概要
- NetMail サービスの管理

NetMail の概要

NetMail サービスは、電子メールクライアントの NetMail (Java™) および NetMail Lite を実装しています。これらのクライアントは、標準の IMAP および SMTP サーバー環境で動作します。NetMail によって、ユーザーは 1 つまたは複数のメールサーバにアクセスし、電子メールの読み取り、作成、削除、およびフォルダの作成、アクセス、削除を行うことができます。

Sun™ ONE Portal Server 6.0 では、iPlanet™ Directory Server Access Management Edition の管理コンソールを介して、NetMail サービスの定義および管理を行います。NetMail サービスは、NetMail クライアントが電子メールメッセージとその設定を管理するために、サービス属性とデフォルト値を定義します。組織とそのユーザーが NetMail クライアントの動作を制御できるように、サービス属性の値の定義およびカスタマイズを行います。

NetMail サービスの管理

この節では、次の手順を説明します。

- NetMail サービスをの登録

- デフォルトの NetMail サービステンプレートの作成
- NetMail ポリシーの作成およびユーザーへの割り当て
- NetMail のサービス属性の変更

注 新しい組織を作成する場合は、その組織用の NetMail ポリシーを作成して割り当てる必要があります。サンプルのポータルの場合、すでにデフォルトで NetMail が有効になっているため、この作業は必要ありません。

NetMail サービスの登録

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザ管理」に移動します。
3. NetMail サービスに登録する組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画で「登録」をクリックします。
データ区画に、使用できるサービスのリストが表示されます。
6. 「Portal Server 設定」の「NetMail」のチェックボックスをオンにして、「登録」をクリックします。
登録されたサービスとして、NetMail サービスがナビゲーション区画に表示されます。

デフォルトの NetMail サービステンプレートの作成

NetMail サービスに登録したあとに、NetMail サービスのテンプレートを作成すると、組織内のユーザーすべてに対して、デフォルトの NetMail の値を割り当てることができます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理を」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。

3. NetMail サービスのテンプレートを作成する対象の組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「NetMail」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。
6. データ区画に、次のメッセージが表示されます。

このサービスに使用可能なテンプレートがありません。作成しますか？
7. メッセージボックス内の「作成」をクリックし、テンプレートを作成します。
NetMail の属性が表示されます。
8. NetMail の属性を変更します。
NetMail の属性については、付録 D 「NetMail 属性」を参照してください。
9. 「保存」をクリックして、変更後の値をサービステンプレートに保存します。

ユーザーへの NetMail ポリシーの作成と割り当て

NetMail サービスを登録し、デフォルトのサービステンプレートを作成したあとに、新しいポリシーを作成してユーザーに割り当て、組織内のすべてのユーザーが NetMail サービスにアクセスできるようにします。

注 新しい組織を作成する場合は、その組織用の NetMail ポリシーを作成して割り当てる必要があります。これは、サンプルポータルまたはインストール済みのデフォルトの組織には必要ありません。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ポリシー管理」を選択して、「ポリシー管理」に移動します。
3. ポリシーを作成する対象の組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。

デフォルトの場合、「表示」メニューに「組織」が表示されます。存在する場合は、すべてのサブ組織がその下に表示されます。サブ組織のポリシーを作成する場合は、そのサブ組織を選択し、次に「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。

5. ナビゲーション区画で「新規」をクリックします。
データ区画に「ポリシーの作成」が表示されます。
6. ポリシーの名前を入力して、「サービス」メニューから「NetMail」を選択します。
7. 「作成」をクリックし新しいポリシーを作成します。
新しいポリシーがナビゲーション区画に表示されます。
8. 「ルール追加」、次に「ポリシーの保存」をクリックします。
9. ユーザーにポリシーを割り当てるには、「ユーザー管理」を選択し、「ユーザー管理」に移動します。
10. 該当する組織を選択します。
11. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
選択した組織にポリシーがすでに割り当てられている場合は、そのポリシーがナビゲーション区画に表示されます。「ポリシーの割り当て」が表示されない場合、「割り当て」を選択すると、割り当てられていないポリシーがすべてデータ区画に表示されます。
12. 割り当てられていない NetMail ポリシーの横にあるボックスをクリックし、「割り当て」をクリックします。これにより、選択された組織内のすべてのユーザーにポリシーが割り当てられます。
NetMail ポリシーがナビゲーション区画に表示され、ポリシーが割り当てられたことを示すメッセージがデータ区画に表示されます。

Netmail のサービス属性の変更 (特定の組織)

NetMail のサービスをカスタマイズするには、サービスの属性を変更します。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. 組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. ナビゲーション区画の「NetMail」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。

Netmail のサービス属性のリストが、データ区画に表示されます。

6. サービス属性の値を変更し、「保存」をクリックして変更を保存します。
この変更は、選択された組織内のユーザーだけに反映されます。
詳細については、付録 D 「NetMail 属性」を参照してください。

Netmail のサービス属性の変更 (すべての組織)

すべての組織に影響する、NetMail サービスのグローバル属性の変更が、将来必要になる場合もあります。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の NetMail の横にあるプロパティの矢印を選択します。
NetMail のサービス属性のリストが、データ区画に表示されます。
4. サービス属性の値を変更し、「保存」を選択して変更を保存します。
この変更は、将来 NetMail サービスに登録するすべての組織に影響します。

NetMail Lite で新しいウィンドウを開く設定

デフォルト構成では、NetMail Lite が実行されている状態で、ユーザーがデスクトップにある NetMail Lite のリンクを選択してメッセージを作成している場合、NetMail Lite の現在のウィンドウは NetMail Lite の新しいインスタンスに置き換えられるため、メッセージのテキストは消滅します。この問題を避けるためには、NetMail Lite の設定を変更し、デスクトップにある NetMail Lite のリンクをユーザーがクリックするたびに、新しいウィンドウが開くようにします。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. 組織を選択します。
4. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
デスクトップのサービス属性のリストが、データ区画に表示されます。

5. データ区画で、「チャンネルおよびコンテナの管理」のリンクをクリックします。
6. 「チャンネル」の下にある、App チャンネルの「編集」のリンクをクリックします。
7. targets プロパティの、「編集」のリンクを選択します。
8. NetMail Lite のプロパティを次のように書き換えます。

```
NetMail Lite | ^javascript:var nmServerURL = document.URL; nmDestURL
=nmServerURL.split('dt')[0];nmAdjustedURL = nmDestURL
+'NetMailServlet?nsid=newHTMLSession';
openAppURL(nmAdjustedURL,'_blank');return false;
```

9. 「保存」をクリックします。
10. 変更を確認します。

組織内のテストユーザーとしてログインします。NetMail Lite にアクセスし、メッセージの構成を開始します。NetMail Lite のリンクをクリックします。NetMail Lite を表示したウィンドウが新しく開かれます。

リモートアドレス帳の使用法 (LDAP)

NetMail のリモートアドレス帳の機能を有効にするには、NetMail サービスの LDAP サーバーリストの属性を変更します。

注 検索エンジンが「含む文字列」、「一致」、「始めの文字列」、「終りの文字列」、および「類似」の検索条件をサポートしている場合、アドレス帳の検索機能は、ユーザーが指定したテキストを基に比較して名前を検索することができます。

個人のアドレス帳は、「含む」の検索だけをサポートしています。LDAP アドレス帳を追加した場合は、そのほかのオプションが有効になります。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. 組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。

5. ナビゲーション区画の「NetMail」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。

NetMail のサービス属性のリストが、データ区画に表示されます。

6. アドレス帳検索で使用する「LDAP サーバーの詳細」の値を変更します。各エントリは、カンマで区切られた `name="value"` のペアのリストです。有効な名前は次のとおりです。
 - `name` - NetMail の「アドレス」のページに表示される名前 (デフォルトは、なし)
 - `server` - LDAP サーバーの、完全に修飾されたドメイン名 (デフォルトは、なし)
 - `base` - 検索を開始するために使用する DN (識別名) (デフォルトは "")
 - `searchin` - 確認する対象となる属性をカンマで区切ったリスト (デフォルトは "cn,gn,sn")
 - `result` - その電子メールアドレスを含む属性 (デフォルトは "mail")
 - `filter` - 検索に使用する追加の LDAP フィルタ (デフォルトは "")。フィルタの構文には、LDAP フィルタ構文が使用される
 - `referral` - LDAP 参照に従うかどうかを定義する値。デフォルトは "follow"。参照に従わないように定義するには "" を使用する

たとえば、Sesta LDAP のディレクトリを検索するには、次のエントリを使用します。

```
name="Sesta  
LDAP",server="ldap-server.sesta.com",base="dc=sesta,dc=com"
```

7. 「保存」をクリックします。

リライトサービスの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server のリライトサービスの管理方法を説明します。

この章には、次の節があります。

- リライトサービスの概要
- サポートされる URL
- リライトルールとルールセットの定義
- リライトサービスの管理

リライトサービスの概要

Sun™ ONE Portal Server リライターは、マークアップ言語と JavaScript™ コードで URL の変換を行うためのエンジンを提供します。デスクトップサービスの URLScrapperProvider と XMLProvider、および Sun™ ONE Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイサービスはすべてリライトサービスを使用します。

リライトは Web ページの内容をスキャンし、それらの Web ページ上で検出した URL を特定します。リライトは規則セットで定義される規則の集合を使用して、Web ページのリライトする要素を判断します。リライトが URL を特定すると、次の方法で URL をリライトします。

- 相対 URL の絶対 URL への拡張
- ゲートウェイ URL を既存の URL の前に指定

相対 URL の絶対 URL への拡張

URLScrapperProvider はコア Sun ONE Portal Server 製品の一部を構成します。ゲートウェイを使用しないシナリオでは、URLScrapperProvider を使用して相対 URL を絶対 URL に拡張することができます。例えば、ユーザーが次のサイトにアクセスしようとする場合、

```
<a href=" ../mypage.html" >
```

リライタはこれを次のように解釈します。

```
<a href="http://www.yahoo.com/mail/mypage.html" >
```

ここで `http://www.yahoo.com/mail/` は収集されたページのベース URL です。

URLScrapperProvider の制限

URLScrapperProvider は指定された URL のチャンネルへの表示のみを試みます。ドキュメント URL (ドキュメント) の表示箇所を指定する方法はありません。

URLScrapperProvider は指定された URL の内容を要求するという点で、HTTP クライアントと同様に機能します。ブラウザの場合と同じく、収集のターゲットとなる URL はネットワーク上でアクセス可能か、プロキシを設定している必要があります。

最終的な URL スクレイパーチャンネルは、ミニブラウザでもフレームでもありません。したがって、コンテンツにリンクがある場合、チャンネルだけではなくページ全体に影響します。URL スクレイパーチャンネル内部を参照することはできません。チャンネル内でリンクを選択すると、ブラウザはリンクを変換し、現在表示されているページ (ポータルサーバーのデスクトップ) をリンク場所のコンテンツに置き換えます。

収集されたチャンネルの外観は、オリジナルのコンテンツの作成元によって制御されます。URLScrapperProvider は全くコンテンツを修正せず、URL を通じて入手できる内容だけを表示します。チャンネルは本来 HTML テーブル内のセルであるため、テーブルセルに表示できる HTML コンテンツを表示するだけです。すなわち、URLScrapperProvider を使用してフレームセットを収集することはできません。これは `<FRAMESET>` タグを `<BODY>` タグ内で表示できないためです。

URLScrapperProvider はまた、`<HEAD>` タグを使って JavaScript コードを実行しません。このため、次の収集シナリオは URLScrapperProvider については適切ではありません。

- ユーザーがチャンネルをカスタマイズできるように、ある種の編集機能が要求される場合。

- データが HTML Web 以外のサーバーソース、すなわちデータベースかメールサーバーから導出されている場合。
- データをチャンネルに合った何らかの方法で再フォーマットする必要がある場合。
- URLScrapperProvider がそれぞれの デスクトップ表示およびユーザーに対して要求を行い、検索する際に、より効率的なソリューションが要求される場合。

ゲートウェイ URL を既存の URL の前に指定

Sun ONE Portal Server: Secure Remote Access Pack などのゲートウェイを実装している場合、ゲートウェイはクライアントのプロキシとして動作し、イントラネットサイトにアクセスして、応答をクライアントに返します。リライターはダウンロードされたページで URL を変換し、既存の URL の前にゲートウェイ URL を接頭辞として指定して、URL が元のサイトではなくゲートウェイを示すようにします。

例えば、ユーザーが次の URL を使用して mymachine で HTML ページにアクセスしようとする場合、次のように指定します。

```
<a href="http://mymachine.intranet.com/mypage.html">
```

リライターは、次のように接尾辞としてゲートウェイを参照する URL を指定します。

```
<a href="https://gateway.company.com/http://mymachine.intranet.com/mypage.html">
```

ユーザーがこのアンカーに関連するリンクをクリックすると、ブラウザはゲートウェイに照会します。ゲートウェイは、mymachine.intranet.com から mypage.html のコンテンツをフェッチします。

リライターを使用して既存の URL の接頭辞にゲートウェイ URL を指定する詳細については、『*Sun ONE Portal Server: Secure Remote Access Pack 6.0 Administrator's Guide*』を参照してください。

サポートされる URL

リライタは RFC-1738 で指定されるすべての標準 URL のリライトをサポートします。これらの URL はプロトコルが HTTP か HTTPS のいずれの場合も、プロトコルの大文字小文字に関係なくサポートされます。例えば、hTtP、HTtp、および htTp はすべて有効です。一部のサンプルの標準 URL を次に示します。

```
http://www.my.sesta.com
http://www.example.org:8000/imaginary/test
http://www.example.edu/org/admin/people#andy
http://info.example.org/AboutUs/Index/Phonebook?dobbins
http://www.example.org/RDB/EMP?*%20where%20name%%3Ddobbins
http://info.example.org/AboutUs/Phonebook
http://user:password@example.com
```

リライタは標準以外の基本的な一部の URL のリライトをサポートします。標準以外の URL を標準形式に変換するための情報は、URL が表示されるページの基本 URL から取り出され、プロトコル、ホスト名、パスを含めることができます。バックslash (\) は、絶対 URL ではなく相対 URL に含まれる場合のみサポートされます。例えば、http://sesta.com\index.html はリライトされますが、http:\\sesta.com リライトされません。

また、http://sesta.com のようにプロトコルまたはスキーマの後に単一のslash (/) が付いた URL はリライトされません。

リライタルールとルールセットの定義

リライタは Web ページに表示されるさまざまな要素の URL 部分を修正します。リライタには一連のデフォルトルールが付属し、これに基づいて Web ページのリライトする要素を決定します。さまざまなカテゴリとサブカテゴリのルールの集合は、.dtd ファイルに保存され、ルールセットと呼ばれます。リライタルールセットは XML で定義されます。

DTD は /opt/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib/rewriter.jar (resources/RuleSet.dtd) に置かれています。ルールセットは URL を特定するために使用されます。デフォルトでは、"/"、"./"、"http"、および "https" などの文字で始まる Web コンテンツの文字列はすべて URL と見なされ、リライタの候補になります。

実装でリライタを設定する場合、ルールセットを作成し、管理コンソールで「Portal Server 設定」の「リライタ」セクションにルールを定義します。規則セットの作成と修正の詳細については、193 ページの「リライタサービスの管理」を参照してください。Web ページのコンテンツの種類に基づいて、複数のルールを定義します。例えば、HTML コンテンツをリライトするのに必要なルールは、JavaScript コンテンツをリライトするためのルールと異なります。リライタのルールは、次の広範囲なカテゴリに分類されます。

- HTML コンテンツのルール
- JavaScript コンテンツのルール
- XML コンテンツのルール

注 Wireless Markup Language (WML) は HTML に類似し、HTML ルールは WML コンテンツに適用されます。

CSS コンテンツにはルールが不要です。

ルールセットは XML ドキュメントであり、ドキュメント内の XML は正しく作成する必要があります。ルールセットでルールを定義する場合、次のガイドラインを守ってください。

- すべてのルールは `<ruleset>` `</ruleset>` タグで括る必要があります。
- ルールセットの `<HTML>` `</HTML>` セクションに、HTML コンテンツをリライトするためのすべてのルールを指定します。
- ルールセットの `<JSRules>` `</JSRules>` セクションに、JavaScript コンテンツをリライトするためのすべてのルールを指定します。
- ルールセットの `<XML>` `</XML>` セクションに、XML コンテンツをリライトするためのすべてのルールを指定します。

HTML コンテンツのルール

Web ページの HTML コンテンツは、属性、JavaScript トークン、フォーム、アプレットに分類できます。これに従って、HTML コンテンツの規則は次のように分類されます。

- HTML コンテンツの属性ルール
- HTML コンテンツの JavaScript トークンルール

- HTML コンテンツのフォームルール
- HTML コンテンツのアプレットルール

HTML コンテンツの属性ルール

属性ルールは、HTML ページでリライトする基本的な属性タグを特定します。リライトは既存の URL を拡張または接頭辞をつけて、定義済みのタグをさまざまな形に修正します。デフォルトの規則セットは、次の属性タグをリライトします。

- action
- background
- codebase
- code
- href
- src
- value
- imagePath
- lowsrc
- archive

属性ルールの構文は次のとおりです。

```
<Attribute name="name" [tag="tag" valuePatterns="patterns"]
```

ここで *name* は属性を指定します。*tag* は属性が所属するタグ (すべてのタグに一致させるには * を設定) を指定します。*patterns* は属性と一致する可能性のあるパターンを指定します。*tag* と *valuePatterns* パラメータはオプションです。

HTML コンテンツの JavaScript トークンルール

Web ページの JavaScript タグに純粋な JavaScript コードを記述することができます。あるいは JavaScript のトークンまたは関数を指定することができます。例えば、Web ページに別の URL にジャンプする `onClick()` 関数を指定することができます。ページが正しく機能するために、`onClick()` 関数の値を変換し、リライトする必要があります。大半の場合、デフォルトのルールセットで指定されるルールで、JavaScript トークンの URL を十分にリライトできます。デフォルトのルールセットは、次の JavaScript トークンをリライトします。

- onAbort
- onBlur

- onChange
- onClick
- onDbClick
- onError
- onFocus
- onKeyDown
- onKeyPress
- onKeyUp
- onLoad
- onMouseDown
- onMouseMove
- onMouseOut
- onMouseOver
- onMouseUp
- onReset
- onSelect
- onSubmit
- onUnload

JavaScript トークンルールの構文は次のとおりです。

```
<JSToken>javascript_function_name</JSToken>
```

ここで *javascript_function_name* は `onLoad` や `onClick` などの関数名です。

HTML コンテンツのフォームルール

ユーザーはフォームを格納した HTML ページを参照できます。input などのフォーム要素は、URL を値として見なします。デフォルトのルールセットは、フォーム要素をリライトしません。フォームルールの構文は次のとおりです。

```
<Form source="/source.html" name="form1" field="field1">  
[valuePatterns="pattern"] />
```

ここで */source.html* はフォームを含む HTML ページの URL です。*form1* はフォームの名前、*field1* はリライトするフォームのフィールド、*pattern* はフィールドのリライトする部分を示します。指定されたパターンに従うすべてのコンテンツはリライトされます。

valuePatterns パラメータはオプションです。

HTML コンテンツのアプレットルール

単一の Web ページに複数のアプレットが含まれていたり、また各アプレットに多くのパラメータが指定されているときがあります。アプレットの URL のリライトルールには、次に説明するようにパターンマッチング情報を含める必要があります。

- ソース、filename.htm など
- コード、classname.class など
- パラメータ名、servername など
- パラメータ値、some_url など

リライトは、ルールに指定された値をアプレットの内容と照合し、必要に応じて URL を修正します。この置換は、ユーザーが特定の Web ページを参照している場合ではなく、サーバーで行われます。値の一部にワイルドカード (*) も使用できます。例えば、パラメータ名が * であれば、リライトはアプレットでパラメータ名を比較しません。

デフォルトのルールセットは、アプレットパラメータをリライトしません。

アプレットルールの構文は次のとおりです。

```
<Applet source="/sourcehtml.jsp" code="class" param="parameter_name"  
[valuePatterns="pattern"]
```

ここで /sourcehtml.jsp はアプレットを含む URL です。class はアプレットクラスの名前、parameter_name は値をリライトする必要があるパラメータ、pattern はフィールドのリライトする箇所を示します。指定されたパターンに従うすべてのコンテンツはリライトされます。valuePatterns パラメータはオプションです。

JavaScript コンテンツのルール

JavaScript コードのさまざまな部分に URL を指定することができます。リライトは JavaScript コードを直接パースできませんが、URL 部分を判断します。JavaScript プロセッサで URL の解釈を助けるために、一部の特別な規則を記述する必要があります。

URL を含む JavaScript 要素は次のように分類されます。

- JavaScript 変数

- JavaScript 関数パラメータ

JavaScript 変数

JavaScript 変数はさらに 5 つのカテゴリに分類されます。

- JavaScript URL 変数
- JavaScript EXPRESSION 変数
- JavaScript DHTML 変数
- JavaScript DJS (ダイナミック JavaScript) 変数
- JavaScript システム変数

JavaScript URL 変数

URL 変数の右側には URL 文字列が表示されます。デフォルトの規則セットは、次の JavaScript URL 変数をリライトします。

- `imgsrc`
- `location.href`
- `_fr.location`
- `mf.location`
- `parent.location`
- `self.location`

JavaScript コンテンツルールの URL 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="URL">variable_name</Variable>
```

ここで `variable_name` はリライトされる変数の名前です。

JavaScript EXPRESSION 変数

EXPRESSION 変数の右側には式が表示されます。この式の結果が URL です。リライタはこのような式を評価できないため、式を HTML ページに変換するための JavaScript 関数を付加します。この関数はパラメータに式をとり、クライアントブラウザで式を評価します。

デフォルトのルールセットは、JavaScript EXPRESSION 変数 `location` をリライトします。

JavaScript コンテンツルールの EXPRESSION 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="EXPRESSION">variable_exp</Variable>
```

ここで *variable_exp* は式変数です。

JavaScript DHTML 変数

DHTML は、HTML コンテンツを保持する JavaScript 変数です。デフォルトの規則セットは、次の JavaScript DHTML 変数をリライトします。

- `document.write`
- `document.writeln`

JavaScript コンテンツ規則の DHTML 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="DHTML">variable</Variable>
```

ここで *variable* は DHTML 変数です。

JavaScript DJS (ダイナミック JavaScript) 変数

DJS (ダイナミック JavaScript) 変数は、JavaScript コンテンツを保持する JavaScript 変数です。

JavaScript コンテンツルールの DJS 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="DJS">variable</Variable>
```

ここで *variable* は DJS 変数です。

変数内の JavaScript コードは、変換するルールがもう一つ必要です。

JavaScript システム変数

システム変数はユーザーによって宣言されない変数ですが、JavaScript 標準の一部として使用できます。

デフォルト規則セットは、`window.location.pathname` JavaScript システム変数をリライトします。

JavaScript コンテンツのシステム変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="SYSTEM">variable</Variable>
```

ここで *variable* はシステム変数です。

JavaScript 関数パラメータ

関数パラメータは 4 つのカテゴリに分類されます。

- JavaScript URL パラメータ
- JavaScript EXPRESSION パラメータ

- JavaScript DHTML パラメータ
- JavaScript DJS パラメータ

JavaScript URL パラメータ

URL パラメータは、URL を直接含む文字列パラメータです。

デフォルトのルールセットは、次の JavaScript URL パラメータをリライトします。

- openURL
- openAppURL
- openNewWindow
- parent.openNewWindo
- window.open

URL パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "URL" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。例えば、構文で最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトされません。

JavaScript EXPRESSION パラメータ

EXPRESSION パラメータは、評価後に URL になる関数内の変数です。

EXPRESSION パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "EXPRESSION" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。例えば、構文で最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトされません。

JavaScript DHTML パラメータ

DHTML パラメータは、HTML ページを動的に生成するネイティブ JavaScript メソッドです。例えば、`document.write()` メソッドはこのカテゴリに分類されます。

デフォルトの規則セットは、次の JavaScript DHTML パラメータをリライトします。

- `document.write`
- `document.writeln`

DHTML パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "DHTML" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。例えば、構文で最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトされません。

JavaScript DJS パラメータ

HTML の Cascading Style Sheets (CSS) などの Dynamic JavaScript (DJS) パラメータも変換されます。この変換に定義されるルールはありません。これは URL が CSS の `url()` 関数にのみ表示されるためです。DJS パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "DJS" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。例えば、構文で最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトされません。

XML コンテンツのルール

Web ページには XML コンテンツが含まれ、XML には URL が含まれます。リライトは XML コンテンツの URLs をリライトできます。

URL を含む XML コンテンツは、次のように分類されます。

- XML のタグテキスト
- XML の属性

XML のタグテキスト

リライトはタグ名に基づいて XML コンテンツを変換します。

デフォルトのルールセットは、次の XML のタグをリライトします。

- `baseroot`
- `img`

タグテキストの構文は次のとおりです。

```
<TagText tag ="attribute" attributePatterns="name=src"/>
```

ここで *attribute* はタグの名前、*src* は属性の名前です。

XML の属性

XML の属性のルールは、HTML の属性のルールに類似しています。詳細については、186 ページの「HTML コンテンツの属性ルール」を参照してください。リライタは属性とタグ名に基づいて属性の値を変換します。

デフォルトの規則セットは、次の XML の属性をリライトします。

- xmlns
- href

HTML の属性の構文は次のとおりです。

```
<Attributes>  
  <Attribute name="attribute" [valuePatterns="name=src"/>  
</Attributes>
```

ここで *attribute* はタグの名前、*src* は属性の名前です。

リライターサービスの管理

Sun ONE Portal Server 6.0 では、リライターサービスは iPlanet™ Directory Server Access Management Edition 属性を使用して、リライタルールセットの持続的な保守を提供します。リライタルールセットは、Web ページ内のコンテンツをリライタでどのようにリライトするかを定義します。iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを通じて、複数のリライタルールセットを iPlanet Directory Server Access Management Edition サービス属性として定義および保存できます。

またコマンド行を使用してリライタを管理できます。rwadmin コマンドの詳細については、第 12 章「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールはリライタールールセットの概念を持たないため、Sun ONE Portal Server はカスタマイズされたサービス管理プラグインモジュールを使用してリライタールールセットを管理します。すべてのリライタールールセットは iPlanet Directory Server Access Management Edition の組織に対してグローバルです。特定の組織レベルでのルールセットの作成はできません。

注 URLScrapperProvider は、HTML テーブルセル内で有効なコンテンツのみを収集できます。収集する HTML マークアップに、<body>、<base>、および特定の JavaScript プロシージャなどのように、テーブルセル内で表示できないマークアップを含んでいる場合、「デスクトップ」ページの表示は破壊される場合があります。収集するコンテンツを定義する場合、コンテンツが有効な HTML であることを確認するようにしてください。詳細については、182 ページの「URLScrapperProvider の制限」を参照してください。

SSL 用のリライター URLScrapperProvider の設定

リライターの URLScrapperProvider を使用して、SSL ページを収集し、安全なセッションでアクセスできるように URL をリライトできます。

1. Sun ONE Portal Server をインストールしたサーバーに対して、次のように Web サーバー管理コンソールで信頼のできるデータベースを初期化します。
 - a. ブラウザから、次の URL を入力して Web サーバー管理ページにアクセスします。
`http://servername:8088`
 - b. 管理者でログインし、「Security」タブをクリックします。
 - c. データベースのパスワードを 2 度入力し、「OK」を選択します。
2. 次の手順でパスワードファイルを作成します。
 - a. ディレクトリを `/BaseDir/SUNWam/config` に変更します。
 - b. 非表示のテキストファイル `.wtpass` を作成します。
 - c. 信頼できるデータベースを初期化したときに指定したパスワードを入力します。

- URLScrapperProvider を使用してアクセスした Web サーバーにが使用する証明書に、ルート CA がインストールされていない場合、
/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig-instance_nickname.properties ファイルに次の行を追加します。

```
com.iplanet.am.jssproxy.trustAllServerCerts=true
```

このオプションは、証明書が信用できることを JSS に示します。

- Sun ONE Portal Server を再起動します。

```
/etc/init.d/amserver start
```

デフォルトテンプレートからルールセットを新規作成

- iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
- 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
- ナビゲーション区画の「リライター」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。

現在定義されているルールセットのリストが表示されます。

- 「新規作成」をクリックします。

これによって、修正が可能なルールセットのテンプレートが表示されます。

- <RuleSet id="ruleset_template"> 行を編集し、default_ruleset を新しいルールセットの名前で置き換えます。
- ルールセットテンプレート内のルールを追加または修正し、必要に応じて URL をリライトします。
- 「作成」をクリックし新しいルールセットを作成します。

成功した場合、最初のページと現在定義されているすべてのルールセットのリストが表示されます。これには作成したルールセットが含まれています。

既存のルールセットの編集

- iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。

2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「リライト」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。
現在定義されているルールセットのリストが表示されます。
4. 編集するルールセットの「編集」リンクをクリックします。
これによって編集するルールセットのXMLが表示されます。
5. ルールセットテンプレート内のルールを追加または修正し、必要に応じてURLをリライトします。
6. ルールセットの名前を変更する場合、`<RuleSet id="ruleset_template">`行を編集し、名前をルールセットの名前に置き換えます。
7. 「保存」をクリックします。

ルールセットのダウンロード

ルールセットをダウンロードし、ファイルに保存することができます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「リライト」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。
現在定義されているルールセットのリストが表示されます。
4. ファイルに保存するルールセットの「ダウンロード」リンクをクリックします。
5. ファイル名を指定し、保存します。

ルールセットのアップロード

ルールセットのファイルをシステムにアップロードできます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。

3. ナビゲーション区画の「リライター」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。

現在定義されているルールセットのリストが表示されます。

4. リストのルールセットの横にある「アップロード」リンクをクリックします。
5. アップロードするルールセットのファイル名を参照するか、入力します。
6. 「アップロード」をクリックします。

ファイル内の `<RuleSet id="ruleset_template">` 行で定義された名前がシステムのルールセット名と一致する場合、そのルールセットファイルはファイルの内容で置き換えられます。`<RuleSet id="ruleset_template">` 行で定義される名前が固有の場合、新しいルールセットがその名前で作成され、リストに追加されます。

既存のルールセットの削除

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「リライター」の横にあるプロパティの矢印をクリックします。

現在定義されているルールセットのリストが表示されます。

4. 削除するルールセットの隣のチェックボックスをクリックします。
複数のルールセットを選択できます。
5. 「削除」をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。
6. 「はい」をクリックして、選択したルールセットを削除します。

デフォルトのルールセットの復元

誤ってデフォルトのルールセットを削除した場合、次のようにして復元できます。

```
rwadmin store --runasdn "uid=amadmin, ou=people, o=sesta.com, o=isp"
--password "testing123" /resources/DefaultRuleSet.xml
```

ここで、"/resources/DefaultRuleSet.xml" は rewriter.jar ファイルに保存されたルールセットの場所です。

注 インストール時にパッケージされたデフォルトのルールセットが復元されます。デフォルトの規則セットをカスタマイズした場合、変更は復元されません。

検索エンジンサービスの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server 検索エンジン サービスを設定および管理する方法について説明します。

この章は次の節から構成されます。

- 検索エンジンの概要
- 検索チャンネルの設定
- 検索エンジンの管理
- ロボットの管理
- データベースの管理
- データベース分類の管理

検索エンジンの概要

Sun ONE Portal Server 検索エンジンは、Yahoo や DMOZ などの一般的なインターネット検索エンジンと同様のインタフェースで検索とブラウズをサポートする、分類およびデータベースサービスです。また 検索エンジンには、ドキュメントリソースを検索、変換、および要約するロボット型検索の機能もあります。Sun ONE Portal Server 6.0 では、デスクトップのみが JSP™ プロバイダを使用してインタフェースを提供しています。また、検索エンジンには、設定編集のための

管理ツールおよびシステム管理のためのコマンド行ツールもあります。設定は、iPlanet™ Directory Service Access Management Edition のサービス属性値として iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールで定義と格納を行います。

注 管理コンソールでは、管理者が検索エンジンオプションの大半を設定できますが、管理コンソールはコマンド行を通じて使用できるすべての管理機能は使用できません。

検索データベース

特定のリソースや複数の種類にまたがるリソースの検索には、データベースを使用します。データベースの個々のエントリをリソース記述 (RD) と呼びます。RD とは、単一のリソースに関する特定の情報のセットのことです。なお、各 RD のフィールドは、データベーススキーマによって決定されます。

データベースに RD を指定する場合、2つの方法があります。

- RD の作成 — 通常はこの方法を使用します。ロボットプロセスを使用してリソースを検索し、その記述を生成します。
- RD の交換 — 大規模な分散ネットワークインデックス向きです。リモートシステムで生成した RD を、検索エンジンでデータベースにインポートします。

Sun ONE Portal Server 検索エンジンの RD は、SOIF (Summary Object Interchange Format) や RDM (Resource Description Message) などのオープンなインターネット標準に基づいています。このため、検索エンジンはクロスプラットフォームの企業環境でも動作します。

検索ロボット

ロボットを使用すると、データベースに RD を格納することができますが、この場合、検索エンジンはロボットを使用してドメインのリソースを検索し、その結果を報告します。ロボットは小規模なプログラムですが、次の2つの機能を備えています。

- リソースへのリンクを抽出し、追跡します (列挙またはクロージングとも呼びます)
- RD を作成して、データベースに格納します (生成またはインデックス作成とも呼びます)

システム管理者として、さまざまな方法で、あらゆる局面にわたってこれらのプロセスを制御することができます。主な制御対象は次のとおりです。

- ロボットの開始、停止、およびスケジュールを設定して、ロボットの稼働時間を制御します
- ロボットがアクセスするサイトを定義して、ロボットがリソースを検索する場所を制御します
- クローリング属性を定義して、検索の頻度を制御します
- フィルタを定義して、ロボットがインデックスを作成するリソースタイプを制御します
- インデックス属性を定義して、データベースに作成するエントリの種類を制御します

検索エンジンには、ロボットの実行結果を確認するためのユーティリティもあります。

データベース分類カテゴリ

ユーザーが検索システムと対話する場合、クエリを直接入力してデータベースを検索する方法と、カスタムなカテゴリセットを使用してデータベースコンテンツ経由でブラウズする方法があります。カテゴリの階層構造は分類と呼ばれます。リソースの分類は、データベースに目次を作成することに例えることができます。

ブラウズは、検索システムではオプションの機能です。つまり、カテゴリによるブラウズの機能がなくても、検索システムは十分有用なものになります。表示可能なカテゴリを追加することがインデックスのユーザーに役立つかどうか、さらに、作成するカテゴリの種類も検討する必要があります。

検索データベースのリソースは、検索手順を単純にするためにカテゴリに割り当てられます。データベースに多数の項目がある場合には、関連する項目をグループ化すると便利です。これによって、ユーザーは特定の種類の項目をすばやく検索したり類似する項目と比較したり、目的の項目を選択したりすることができます。

このような分類は製品およびサービスのインデックスに共通です。衣料品のカタログでは、衣類を男性用、女性用、および子供用に分類して、さらに、これらのカテゴリをコート、シャツ、靴などに分類します。オフィス製品カタログの場合、家具は文具、コンピュータ、およびソフトウェアと区別されます。広告ディレクトリは、製品とサービスのカテゴリによって編成されます。

印刷物の索引で項目をカテゴリ別に分類するときの原則は、オンラインインデックスにも当てはまります。この発想では、種類別に検索することが容易になるので、ユーザーは目的のリソースを選択できます。設計するインデックスの適用範囲を問わず、カテゴリを設定する際にもっとも重要なのは使いやすさです。したがって、ユーザーがどのようにカテゴリを使用するかを知る必要があります。例えば、異なる場所に3つの支社を持つ企業のためにインデックスを設計する場合、トップレベルのカテゴリを支社ごとに作成しようとするかもしれません。しかし、ユーザーにとって、支社の所在地よりも各部門の機能の方が重要であれば、リソースを部門別に分類することが適切です。

カテゴリを定義すると、カテゴリにリソースを割り当てるための規則を設定する必要があります。この規則を、分類規則と呼びます。分類規則を適切に定義しないと、ユーザーがカテゴリでブラウズしようとしても、リソースを検索できないことがあります。リソースは正しく分類する必要がありますが、同時にドキュメントの分類も適切でなければなりません。

ドキュメントは、この値に設定した最大数を上限として、任意の数のカテゴリに割り当てることができます。分類規則はフロー制御による判定を実行しないので、フィルタ規則よりも単純です。分類規則は、RDの一部として特定のカテゴリをリソースに割り当てるための基準を決定するだけで使用できます。分類規則は簡単な条件のステートメントで、「<ある条件>が真ならば、リソースを<カテゴリ>に割り当てる」という形式です。

検索チャネルの設定

この節では 検索エンジンサービスの初期設定の方法について説明します。構成の設定は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールで、iPlanet Directory Server Access Management Edition のサービス属性値として定義し、格納します。

検索サービスはグローバルに登録されるので、その構成は Portal Server 全体に適用されます。デフォルトでは、Sun ONE Portal Server のインストール時に指定した組織に、検索 サービスが登録されます。サンプルのポータルをインストールすると、サンプルのポータルデスクトップの検索タブに検索チャネルが配置されます。この検索チャネルは Sun ONE Portal Server のインストール中に設定するものです。ただし、新規組織と新規インスタンスには、検索 URL を定義する必要があります。

検索プロバイダユーザーのデフォルトの動作では、ユーザーがクエリを入力すると、「マッチする文書がありません。(No document matches.)」というメッセージが表示されます。

検索結果を取得するには、サーバーを設定してドキュメントデータベースを作成する必要があります。

検索サーバーの初期設定

次の手順にしたがって 検索プロバイダを設定します。この手順はデータベースに RD を取り込む方法の一例です。インポート機能を使用することもできます。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の検索の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. 新規サイトを作成します。
 - a. 「ロボット」をクリックします。
 - b. 「サイト」をクリックします。
 - c. 「サイトの管理」の「新規」をクリックして、ロボットでインデックスを作成するサイトを定義します。
 - d. サイト (URL またはドメイン) のタイプ、インデックスを作成するサイト、およびロボットがクローリングする深さを指定します。
 - e. 「サイトの作成」を選択してデフォルトの検索属性を使用します。あるいは、「サイトの作成と編集」を選択して検索サイトを詳細に定義します。

サイトを定義する属性の詳細については 付録 F 「検索の属性」を参照してください。
5. 分類を作成します。

「カテゴリ」>「カテゴリエディタ」で分類を作成するか、サンプルの分類 SOIF ファイルを `config/taxonomy.rdm` にコピーします。
6. 使用しないデフォルトのフィルタを無効にします。

「ロボット」をクリックし、「フィルタ」をクリックします。「フィルタのルール」リストで使用しないフィルタをオフにします。
7. (オプション) カテゴリ別にドキュメント結果を取得する必要があるなら、ここでロボット分類規則を作成します。

8. ロボットを開始します。
「ロボット」、「コントロール」をクリックし、次に「開始」をクリックし、ロボットを開始します。
9. カテゴリのインデックスを再作成します。
「カテゴリ」、「再インデックス作成」をクリックして、インデックスを再度作成します。

検索 URL の定義

searchServer プロパティは 検索 URL を定義します。デフォルトの組織の場合、この値は自動的に設定されます。ただし、新規組織や新規 SearchProvider インスタンスを作成する場合、またはサンプルの dp-org.xml を手動でロードする場合には定義されません。値が定義されていない場合にユーザーが検索を実行すると、ユーザーのデスクトップに次のエラーメッセージが表示されます。

com.sun.portal.search.providers.taglib.SearchTaglibException が発生しました。SearchRequest エラー： 検索サーバーが定義されていません。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「ユーザー管理」を選択して、「ユーザー管理」に移動します。
3. 検索 URL を定義する組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
ナビゲーション区画の「表示」メニューと位置区画の「位置」のパスを使用します。
5. ナビゲーション区画の「Desktop」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
「Desktop」 ページがデータ区画に表示されます。
6. 「Desktop」 ページで「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
「チャンネル」 ページが表示されます。ページの上部にコンテナのパスが表示されます。定義済みのチャンネルがリストに表示されます。
7. 変更する検索チャンネルの横の「編集」リンクを選択します。
「チャンネルの編集」 ページが表示されます。

8. 次の書式で「seachServer」プロパティに検索 URL を指定します。

```
http://portal_server_name:port/portal/search
```

9. 「保存」をクリックします。

10. 検索 URL を確認する場合、次の操作を行います。

- a. 検索 URL を設定した組織にログインします。例えば、次のように B という名前の組織にログインします。

```
http://portal_server_name:port/amserver/login?org=B
```

- b. 検索チャンネルから検索を実行します。

検索エンジンの管理

検索エンジンの初期設定とデータベースの生成が完了すると、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールで、検索エンジンの表示と管理ができるようになります。

検索エンジン操作の表示、管理、監視

検索エンジンの操作属性には、基本と詳細の 2 つのレベルがあります。基本設定ページは、検索サービスを管理コンソールから選択したときにデフォルトで表示されます。表示される基本設定には、サーバールート、一時ファイルの場所、およびドキュメントレベルのセキュリティが含まれます。詳細設定には、検索エンジンの各種コンポーネントのログ場所と、設定されたログレベルが含まれます。

さらに、管理コンソールを使用して管理者はログファイルから抽出されたログファイルまたは特定の情報を表示することができます。

基本設定の表示または管理

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「サーバー」、「設定」の順に選択します。

5. 検索エンジンの「サーバルート」のディレクトリを表示します。
6. 検索エンジンの「一時ファイル」のディレクトリを表示または指定します。
7. ドキュメントのレベルセキュリティ属性を表示または指定します。
「オフ」の場合、すべてのユーザーがこのデータベースの RD にアクセスできます。「オン」の場合、RD の ReadACL フィールドを評価して、ユーザーに RD へのアクセス権があるかどうかを判断する必要があります。
8. 「保存」を選択して、変更した属性を記録します。

詳細設定の表示または管理

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の検索の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「サーバー」、「詳細」の順に選択します。
5. 詳細属性を表示または指定します。
ここでは、「検索」(rdm)、「検索ログを無効にする」、「インデックスのメンテナンス」、「RD マネージャ」、「RDM サーバー」、および「ログレベル」が設定できます。
6. 「保存」を選択して、変更した設定を記録します。

検索エンジンの活動の監視

検索エンジンは、検索活動を監視するための多数のレポートを提供します。

各種レポートを表示するには、次の手順に従います。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. 「レポート」を選択します。

5. メニューバーのタブを選択すると特定のレポートが表示されます。

ここでは、「開始位置」、「除外された URL」、「ロボットの詳細レポート」、「ログファイルの表示」、「頻度の高い検索」レポートオプションを使用できません。

ロボットの管理

ロボットを管理するために必要な構成とメンテナンスのタスクを次に示します。

- ロボットの開始と停止
- サイトの定義
- ロボットのクローリングの制御
- ロボットデータのフィルタリング
- インデックス作成の属性の定義
- ロボットユーティリティの使用方法
- ロボットのスケジュールの設定

ロボットの開始と停止

通常、検索エンジンの実行中はロボットを稼働させておきます。その結果新しいリソースをいつでも列挙できます。ただし、定期的にロボットを開始して開始位置に再度アクセスし、既存の RD を更新する必要があります。

データベースを更新するときには、スケジュールによって定期的に、かつ自動的に開始することも、手動でロボットを開始することもできます。自動的にロボットを開始する方法については、214 ページの「ロボットのスケジュールの設定」で説明しています。

ロボットを開始する前に、ステータスを削除するか、あるいは単に再起動するかを指定します。

- ステータス削除の場合、全ロボットのステータスが削除されるので、次回実行時にロボットは、確実に元の開始位置で開始して同じ位置のリソースを列挙します
- 再起動の場合は、ロボット停止時の既存の状態の情報でロボットを開始します

ロボットを再び開始する前にロボットの状態の情報を削除するには、「ステータスの削除」オプションを使用します。

アイドル、再起動、あるいはタスクスクリプトの実行などの、ロボットの実行完了時に実行する操作を指定できます。これらのオプションはメニューバーの「ロボット」の「クローリング」の「完了のアクション」で指定します。

ロボットを開始および停止する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「コントロール」の順に選択します。
5. ロボットを開始するには、「開始」を選択します。
6. ロボットを停止するには、「終了」を選択します。
7. ロボットの状態情報を消去するには、「ステータスの削除」を選択します。

実行中の場合は、ロボットを停止する必要があります。その後で「ステータスの削除」ボタンが表示されます。

サイトの定義

ロボットは、リソースを見つけて、それらの記述をデータベースに追加するかどうかが（およびその方法）を決定します。どのサーバーを訪問し、サーバーのどの部分のインデックスを作成するか判断が、サイト定義に呼び出されます。

検索エンジンのサイトの定義は、サーバー管理者の最も重要なジョブの1つです。ロボットは、インデックス作成が必要なすべてのサーバーに送信しなければなりません。同時に、データベース領域を過度に拡張して正確な情報の検索を困難にする可能性のある外部サイトを排除することも必要です。

ロボットでインデックスを作成するサイトの定義

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「サイト」の順に選択します。
5. 次のようにサイトを作成します。
 - a. 「新規作成」をクリックします。
 - b. サイトのタイプ (URL またはドメイン) を選択します。
 - c. サイトと深さを指定します。
 - d. 「保存」をクリックします。
6. サイト属性を編集するには、「編集」リンクをクリックします。

サイト属性の形式が表示されます。サイトの属性については、付録 F 「検索の属性」を参照してください。

 - a. 属性を編集します。
 - b. 「保存」をクリックします。

ロボットのクローリングの制御

ロボットはインデックスの作成に選択したさまざまなサイトにクロールします。管理者はクローリング操作パラメータを定義することで、ロボットのサイト検索方式を制御できます。クローリングパラメータにより、速度、完了動作、ログインレベル、規格への準拠、認証パラメータ、プロキシ設定、追従する最大リンク数、その他の設定を定義できます。ロボットのクローリングの属性については、付録 F 「検索の属性」を参照してください。

ロボットのクローリングを制御する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。

2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「クローリング」の順に選択します。

これによって、ロボットのクローリング操作のパラメータと設定を定義する属性のフォームが表示されます。ロボットのクローリングの属性については、付録 F「検索の属性」を参照してください。

5. 必要に応じてロボットのクローリング属性を変更します。

注 jvm12.conf ファイルにプロキシ設定 (`http.proxyHost=` と `http.proxyPort=` オプションを使用) がある場合は、「すべてのホストからコマンドを受け入れる」をチェックしてからロボットを実行する必要があります。

6. 「保存」をクリックします。

ロボットデータのフィルタリング

フィルタを使用すると、リソースの属性をフィルタ定義と比較することでリソースを識別できるようになるので、これをサイト定義から除外することも、サイト定義に含むこともできます。ロボットには多くの事前定義されたフィルタがあります。一部のフィルタはデフォルトで有効です。次のフィルタは事前定義されています。アスタリスク (*) の付いたファイルがデフォルトで有効です。

- アーカイブファイル *
- オーディオファイル *
- バックアップファイル *
- バイナリファイル *
- CGI ファイル *
- 画像ファイル *
- Java、JavaScript、スタイルシートファイル *
- ログファイル *
- Power Point ファイル
- バージョン管理ファイル *

- ソースコードファイル*
- 一時ファイル*
- ビデオファイル*
- スプレッドシートファイル
- プラグインファイル
- Lotus Domino ドキュメント
- Lotus Domino オープンビュー
- システムディレクトリ (UNIX)
- システムディレクトリ (NT)

フィルタリングプロセスの管理には、新規フィルタ定義を作成する方法、フィルタ定義を変更する方法、およびフィルタを有効化または無効する方法があります。

新規フィルタ定義を作成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「フィルタ」の順に選択します。
5. 「新規」を選択して、新規フィルタに「ニックネーム」を指定します。
6. 「フィルタ定義」では、チェックボックスをオンにして、「フィルタソース」、「選別基準」、および「フィルタ文字列」の値を指定します。必要に応じて、任意の数の「フィルタ定義」を指定することができます。
7. フィルタの説明を入力します。
8. 新規サイトの作成時にこのフィルタを使用するには、「新規サイト」をチェックします。
9. このフィルタに一致するリソースを含めるか除外するかを「デフォルト配備」ラジオボタンで指定します。
10. 「保存」をクリックします。

既存のフィルタ定義の変更

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」を順に選択します。
5. 「フィルタルール」リストから変更するフィルタを検索し、「編集」を選択します。
6. 必要に応じてフィルタを変更します。
7. フィルタの説明を入力します。
8. 「保存」をクリックします。

フィルタを有効または無効にする

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」を順に選択します。
5. 「フィルタルール」リストで変更するフィルタを検索します。
6. フィルタのオンまたはオフを示すボタンを選択します。
7. 「保存」をクリックします。

インデックス作成の属性の定義

ロボットフィルタを通過する各リソースに、ロボットによってデータベースに格納する RD を生成します。RD 生成を設定するときの選択によって、データベース検索時にユーザーに表示する範囲が決定されます。たとえば、ドキュメントの全文や、ドキュメントの最初の固定部分だけに対してインデックスを作成することができます。

インデックス作成の属性の定義

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「インデックス作成」の順に選択します。

ロボットによるインデックス作成操作のパラメータと設定を定義する属性のページが表示されます。ロボットのインデックス作成の属性については、付録 F「検索の属性」を参照してください。
5. 必要に応じてロボットインデックス作成の属性を変更します。
6. 「保存」をクリックします。

ロボットユーティリティの使用方法

ロボットには次の 2 つのデバッグツールまたはユーティリティがあります。

- サイトプローブ - DNS エイリアス、サーバーリダイレクト、仮想サーバーなどを確認します。
- シミュレータ - 特定の URL でロボットフィルタリングを部分的にシミュレートします。確認する URL を入力して「OK」を選択します。シミュレータは表示されたサイトをロボットが受け入れるかどうかを示します

サイトプローブユーティリティの実行

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「サイトプローブ」の順に選択します。
5. プローブするサイトの URL を入力します。
6. プローブで DNS 情報を取得するには、「DNS 情報の詳細を表示」を選択します。

7. 「OK」を選択して、サイトプローブを開始します。

シミュレータの実行

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「シミュレータ」の順に選択します。
5. シミュレートを実行する URL を入力します。
6. シミュレータでエイリアスを確認するには、「DNS エイリアスへ確認」を選択します。
7. シミュレータでリダイレクトを確認するには、「サーバーリダイレクトへ確認 (302)」を選択します。
8. 「OK」を選択して、シミュレータを開始します。

ロボットのスケジュールの設定

検索データを最新に維持するには、ロボットはサイトを定期的に検索してインデックスを作成する必要があります。ロボットのクローリングとインデックス作成は処理リソースとネットワークの帯域幅を消費する場合があります。これらのリソースの制約を避けるために、ピーク以外の時間帯にロボットを実行するようにスケジュール設定する必要があります。管理コンソールを使用すると、管理者はロボットを実行する日時を指定して cron ジョブをセットアップすることができます。

ロボットをスケジューリングする

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「スケジュール」の順に選択します。

5. ロボットを開始する曜日と時刻 (時間と分) を選択します。
6. ロボットを停止する曜日と時刻を選択します。
7. 「保存」を選択して、「クローンの開始」を選択します。

データベースの管理

検索エンジンは RD をデータベースに格納します。次にデータベースの管理に必要な構成と保守タスクを示します。

- データベースへのインポート
- RD の編集
- データベーススキーマの編集
- スキーマの別名の定義
- データベース分析の表示
- データベースのインデックスの再作成
- データベースの期限切れ
- データベースの破棄
- データベースのパーティションの作成
- データベースの最適化

データベースへのインポート

通常、検索データベースの項目はロボットから取得します。ユーザーは、ロボットにアクセスするサイトを指定して、そのサイトのすべてのリソースを検索して RD を作成します。ただし、他の Sun ONE Portal Server 検索エンジン、iPlanet Web Server や Netscape™ Enterprise Server、または別のソースから生成したデータベースから、既存の項目のデータベースをインポートすることができます。ロボットを使用して新規に作成する代わりに RD の既存データベースをインポートすると、ネットワークトラフィックが大幅に減少し、大量のインデックス作成作業を分割できるので、より高速にインデックスを作成できます。中央データベースがインデックスを作成するサーバーから物理的に遠くにある場合には、RD をローカルに生成して、中央データベースに各地点のリモートデータベースを定期的にインポートすると便利です。

検索エンジンは、インポートエージェントを使用して、別のサーバーやデータベースから RD をインポートします。インポートエージェントは、外部ソースから RD を検索して、ローカルデータベースに情報をマージするプロセスです。RD のインポート元、インポート元で検索するデータ、およびこのジョブの実行方法を詳細に調整するための情報を指定するパラメータがあります。

データベースをインポートする前に、インポートエージェントを作成する必要があります。エージェントを作成したら、すぐにインポートプロセスを開始することも、インポートプロセスのスケジュールを設定してから実行することもできます。

インポートエージェントを作成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「データベース」、「インポート」の順に選択します。
5. 「新規作成」をクリックします。

インポートエージェントの属性ページが表示されます。

6. インポートエージェントに適切な属性を指定します。

データベースインポートの属性の情報については付録 F 「検索の属性」を参照してください。

 - a. ソースには、ローカルファイルと検索サーバーのどちらかを示します。
 - b. ソースがファイルの場合には、ローカルファイルパスを指定します。
 - c. ソースが別の検索サーバーの場合には、リモートサーバー、インスタンス名、および検索 URI の URL を指定します。
 - d. インポート元のサーバーが Compass Server 3.01 の場合には、チェックボックスをオンにします。
 - e. インポート元のサーバーで SSL が有効な場合は、チェックボックスをオンにします。
 - f. インポートしているサーバーが認証を要求する場合には、「★ユーザー / パスワード認証を使用」チェックボックスをオンにして、有効なユーザー名とパスワードを指定します。

- g. インポート中に転送するコンテンツに「フルコンテンツの増分収集を使用」、または「検索クエリの使用」を指定します。
 - h. 「検索クエリの使用」を選択した場合は、クエリを定義します。
 - i. エージェントの説明、最新リソース記述のデータ作成、ネットワークタイムアウト、およびインポートエージェントの文字セットを指定します。
7. 「保存」をクリックします。

既存インポートエージェントを編集する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「データベース」、「インポート」を順に選択します。
5. 編集するエージェントの右側にある「編集」リンクをクリックします。
6. インポートエージェントに適切な属性を指定します。
データベースインポートの属性の情報については付録 F 「検索の属性」を参照してください。
7. 「保存」をクリックします。

インポートエージェントをすぐに実行する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「データベース」、「インポート」の順に選択します。
5. エージェントを実行するために、「オン」ボタンをクリックします。
6. 「実行」をクリックします。

処理するインポートエージェントのスケジュールを設定する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「データベース」、「インポート」の順に選択します。
5. エージェントを実行するために、「オン」ボタンをクリックします。
6. 「保存」をクリックします。
7. メニューバーの「スケジュール」を選択します。
8. インポート処理を開始する曜日と時刻を選択します。
9. 「保存」および「クローンの開始」を選択します。

RD の編集

RD のコンテンツの変更が必要になることがあります。たとえば、元のドキュメントから RD にコピーしたときに、スペルミスまでコピーした場合には、スペルの修正が必要になります。

RD を編集する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「データベース」、「編集」の順に選択します。
5. 検索する RD のタイプを選択して編集します。

ここでは、「すべての RD」、「カテゴリ化されていない RD」、「カテゴリ化された RD」、「カテゴリごとの RD」、「URL 特定の RD」、「RD を検索」を選択できます。

6. 「RD を検索」では、RD で検索するテキスト文字列を指定します。
7. 「検索」をクリックします。
8. 見つかったリソース記述のリストで、編集する RD を選択します。
9. 適切なリソース記述属性を編集します。
10. 「保存」をクリックします。

データベーススキーマの編集

スキーマは、検索エンジンで管理するリソースごとの情報とその形式を決定します。スキーマの設計によって、インデックスの有用性に影響する次の2つの要因が決まります。

- ユーザーがリソースを検索する方法
- ユーザーがリソース情報を表示する方法

スキーマはデータベースの RD のマスタデータ構造です。データ構造のフィールドインデックスの作成方法と定義方法によって、リソースへのアクセス頻度が変わります。

スキーマは、検索エンジンとそのロボットが使用するファイルの構造に密接に結びついています。管理コンソールでスキーマツールを使用して、データ構造を変更するだけです。スキーマファイル (schema.rdm) は、それがテキストファイルの場合でも、直接編集しないでください。

検索エンジンのデータベーススキーマを編集すると、新規のスキーマ属性の追加、スキーマ属性の編集、または属性の削除ができます。

スキーマには次の属性があります。

- 編集可能 - オンの場合、この属性は RD エディタに表示される属性を示すので、ユーザーは値を変更できます。RD エディタについては 218 ページの「RD の編集」を参照してください。
- インデックス作成可能 - オンの場合、この属性は「詳細検索」画面のポップアップメニューにフィールドが表示されることを示します。ユーザーは特定のフィールドにある値を検索できます。
- 記述 - これはスキーマの記述に使用するテキスト文字列です。コメントや注釈に使用します。
- 別名 - この属性は、インポートしたデータベーススキーマ名をユーザー独自のスキーマに変換するための別名を定義します。

データベーススキーマを編集する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「データベース」、「スキーマ」の順に選択します。
「スキーマ」属性ページが表示されます。
5. スキーマへ新しい属性を追加します。
 - a. 「名前」および「説明」フィールドに、新しい属性の名前と説明を入力します。
 - b. 「編集可能」をオンにして、属性を編集可能にします。
 - c. 「インデックス作成可能」をオンにして、属性インデックスを作成可能にします。
 - d. 「追加」をクリックします。
6. 既存の属性を編集可能にするか、あるいはインデックスを作成可能にするには、次の手順を行います。
 - a. 「スキーマ」リストで属性を選択します。
 - b. 「編集可能」をオンにして、属性を編集可能にします。
 - c. 「インデックス作成可能」をオンにして、属性インデックスを作成可能にします。
 - d. 「更新」をクリックします。
7. 次の手順で属性を削除します。
 - a. スキーマリストで属性を選択します。
 - b. 「削除」をクリックします。

スキーマの別名の定義

一部のインスタンスの名前は、データベーススキーマのフィールド名と矛盾している可能性があります。1つはサーバーから別のサーバーへ RD をインポートするときのものです。2つのサーバーのスキーマの項目名が同一であることを、常に保証することはできません。同様に、ロボットが HTML META タグをドキュメントからスキーマフィールドに変換するときは、名前はドキュメントによって制御されます。

検索エンジンは、ユーザーのスキーマ属性にスキーマの別名を定義して、外部スキーマ名をデータベースのフィールドに有効な名前にもマッピングできるようにします。

スキーマを別名で定義する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「データベース」、「スキーマ」の順に選択します。
「スキーマ」属性ページが表示されます。
5. 別名を定義する属性をクリックします。
6. インポートしたデータベースで使用するフィールド名を指定します。
7. 「更新」をクリックします。
8. 「インデックス再作成」をクリックします。

大規模なデータベースの場合、インデックスの再作成プロセスに数時間かかることがあります。

データベース分析の表示

検索エンジンのレポートには、インデックスを作成したサイトの数、およびデータベースの各サイトのリソースの数を含む情報が含まれます。

データベース分析情報を表示する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「データベース」、「分析」の順に選択します。
現在検索データベースに存在するすべてのサイトをソートしたリストと、各サイトのリソースの数です。
5. 「保存」を選択して最新のリストを生成します。

データベースのインデックスの再作成

一部のインスタンスでは、検索エンジンが使用する RD データベースのインデックスを再作成する必要があります。わかりやすい例は、スキーマを編集してインデックスフィールドを追加または削除する場合です。

ディスクエラーによってインデックスファイルが破損した場合にも、データベースのインデックスを再作成する必要があります。また、新規の RD を大量に追加したあとにインデックスを再作成することも有効です。

データベースのインデックスを再作成するのに、数時間を要する場合があります。

データベースのインデックスの再作成に要する時間は、データベースに含まれるレコードの数に比例します。大型のデータベースでは、サーバーの負荷が低い時にインデックスの再作成を行う必要があります。

データベースのインデックスを再作成する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーの「データベース」、「再インデックス作成」の順に選択します。

5. 「データベースのインデックスを再作成しますか？」をオンにして、「OK」をクリックします。

検索エンジンによって、検索コレクションとそのインデックスファイルが再構築されます。

データベースの期限切れ

データベースが期限切れになると、古くなった RD も期限切れになります。RD が期限切れになるのは、期限切れを実行するときだけです。期限切れになった RD が削除されても、データベースのサイズは減少しません。

データベースを期限切れにする

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーの「データベース」、「期限切れ」の順に選択します。
5. 「RD を期限切れにしますか？」をオンにして、「OK」をクリックします。

データベースの破棄

RD の属性の 1 つはその有効期限です。ロボットは HTML META タグ、またはリソースのサーバーが提供する情報を基に有効期限を設定します。リソースが有効期限を指定しない限り、RD はデフォルトで作成から 3 カ月有効です。期限切れの RD は、検索エンジンによって定期的にデータベースから破棄する必要があります。

破棄を実行すると、データベースのコンテンツを削除できます。これによって、インデックス用のディスク領域は回復しますが、メインデータベースのディスク領域は回復できません。これは、この領域が新規のデータをデータベースに追加したときに再利用されるためです。

サーバーから期限切れの RD を破棄する手順

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「データベース」、「破棄」の順に選択します。
5. 「データベースを破棄しますか？」をオンにして、「OK」をクリックします。
破棄が完了すると、システムに「データベースのコンテンツは正常に破棄されました」というメッセージが表示されます。

データベースのパーティションの作成

検索エンジンを使用すれば、複数のディスク、ファイルシステム、ディレクトリ、またはパーティションにまたがる検索データベースの物理ファイルを分割できます。異なる物理デバイス、または論理デバイスにデータベースを拡張することで、単一のデバイスを使用するよりも大きなデータベースにできます。

デフォルトでは、検索エンジンは1つのディレクトリだけを使用するデータベースを設定します。コマンド行インターフェイスを使用すると、データベースパーティションに次の2種類の操作を実行できます。

- 新しいパーティションの追加
- パーティションの移動

検索エンジンは、各パーティションに空き領域があるかどうかを確認しません。データベースに適切な空き領域を確保するのは、ユーザーの作業です。

データベースのパーティションは、合計で最大 15 個追加できます。

注 一度パーティションの数を増やすと、あとでパーティションの数を減らすときに、データベース全体を削除する必要があるので注意してください。

新しい場所の名前を指定することで、データベースパーティションの物理的な場所も変更できます。同様に、既存のパーティションの名前も変更できます。パーティションを操作するには `rdmgr` コマンドを使用します。`rdmgr` コマンドの詳細については第 12 章「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。

データベースの最適化

ロボットを繰り返し実行すると、データベースファイルとインデックスが空き領域によって細分化されるので、必要以上のディスク領域が占有されます。このため、ユーザー検索とロボット操作の両方で検索速度が低下します。この問題を解決するには、定期的にデータベースを最適化します。データベースを最適化するには、`rdmgr` コマンドを使用します。`rdmgr` コマンドの詳細については第 12 章「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。

データベース分類の管理

次に、データベース分類を管理するために必要な設定とメンテナンスを示します。

- カテゴリの設定
- 分類規則の定義
- カテゴリツリーのインデックスの再作成

カテゴリの設定

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用してデータベース分類を設定するには、次の手順を行います。

- 子カテゴリの作成 (親カテゴリのサブカテゴリ)
- 兄弟カテゴリの作成 (同レベルのカテゴリ)
- カテゴリの更新
- カテゴリの削除

子カテゴリの作成

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。

5. 子カテゴリを作成するカテゴリを選択します。
それまでにカテゴリを定義していない場合、一覧表示されるのは、「検索」タイトルの付いたルートカテゴリだけです。下位への検索リンクを選択して、ルートカテゴリを展開します。
6. 「名前」フィールドに、カテゴリの名前を指定します。
7. 「説明」フィールドに、カテゴリの説明を指定します (オプション)。
8. 「子として追加」をクリックして、カテゴリを作成します。
9. 「保存」をクリックします。

兄弟カテゴリの作成

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。
5. シブリングカテゴリを作成するカテゴリを選択します。
6. 「名前」フィールドに、カテゴリの名前を指定します。
7. 「説明」フィールドに、カテゴリの説明を指定します (オプション)。
8. 「兄弟として追加」をクリックして、カテゴリを作成します。
9. 「保存」をクリックします。

カテゴリの更新

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。
5. 更新するカテゴリを選択します。

6. カテゴリ名を変更するには、「名前」フィールドにカテゴリの新しい名前を指定します。
7. カテゴリの説明を変更するには、「説明」フィールドにカテゴリの説明を指定します。
8. 「更新」をクリックします。
9. 「保存」をクリックします。

カテゴリの削除

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の 検索 の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。
5. 削除するカテゴリを選択します。
カテゴリを削除すると、すべての子カテゴリも削除されます。
6. 「削除」をクリックします。
7. 「保存」をクリックします。

分類規則の定義

分類規則は簡単な条件付きステートメントです。その形式は「<ある条件> が真であれば、リソースを<カテゴリ>に割り当てる」です。

分類規則を定義する

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「カテゴリ」、「分類ルールエディタ」の順に選択します。

5. 既存の規則を編集する場合は、その規則を選択します。
6. ドロップダウンメニューから、使用する要素タイプまたは属性をクリックして、リソースを分類します。
7. ドロップダウンメニューから、比較テストをクリックします。
使用可能な比較テストは文字列が等しい、文字列を含む、始めの文字列が等しい、終りの文字列が等しい、または正規表現です。
8. 比較するテキスト文字列を定義します。
9. 比較が真の場合は、リソースを分類するカテゴリをクリックします。
10. 新しい規則を作成する場合は、「追加」を選択します。
11. 既存の規則を編集する場合は、「更新」を選択します。

カテゴリツリーのインデックスの再作成

常にカテゴリを最新の状態に保ち、ユーザーが使用できるようにするには、カテゴリを変更するたびにカテゴリツリーのインデックスを再作成する必要があります。

カテゴリツリーのインデックスの再作成

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. ナビゲーション区画の「検索」の横にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「カテゴリ」、「再インデックス作成」の順に選択します。
5. 「カテゴリツリーのインデックスを作成しますか?」チェックボックスをオンにして、「OK」を選択します。

インデックスの再作成が終了すると、進行状況のメッセージが表示されます。

検索エンジンロボットの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server 検索エンジンロボットおよび対応する構成ファイルについて説明します。この章には、次の節があります。

- 検索エンジンロボットの概要
- ロボットプロセスパラメータの設定
- フィルタリング処理
- ユーザが変更できるパラメータ
- サンプルの `robot.conf` ファイル

検索エンジンロボットの概要

検索エンジンロボットは、ドメイン内のリソースを特定し、レポートを作成するエージェントです。これには、列挙子フィルタとジェネレータフィルタの 2 種類のフィルタを使用します。

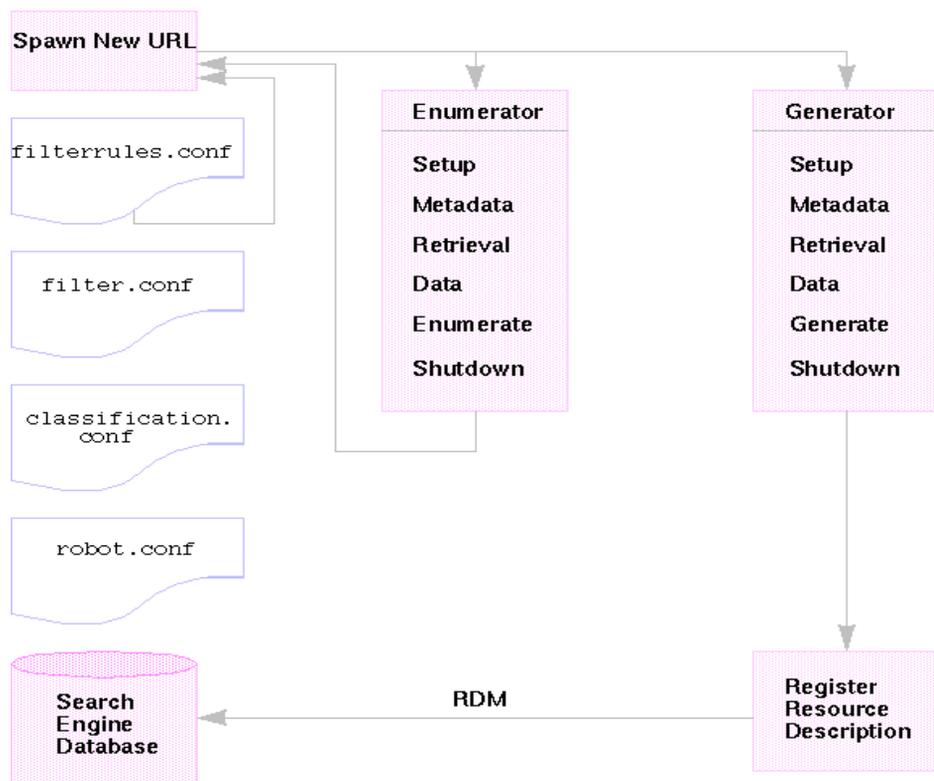
列挙子フィルタは、ネットワークプロトコルを使用してリソースを検出します。列挙子フィルタは、各リソースをテストし、適切な基準に一致した場合はリソースを列挙します。たとえば、列挙子フィルタは HTML ファイルからハイパーテキストリンクを抽出し、そのリンクを使用して別のリソースを検索できます。

ジェネレータフィルタは、各リソースをテストし、リソース記述 (RD) を作成する必要があるかどうかを確認します。リソースがテストに合格した場合、ジェネレータは検索エンジンデータベースに格納される RD を作成します。

ロボットの動作の仕組み

図 9-1 に、検索エンジンロボットの動作の仕組みを示します。図 9-1 に示すように、ロボットは URL および関連のあるネットワークリソースを調べます。各リソースは、列挙機能と生成機能の両方によってテストされます。リソースが列挙テストに合格すると、ロボットがそのリソースをほかの URL について検査します。リソースがジェネレータテストに合格すると、ロボットは検索エンジンデータベースに格納されているリソース記述を生成します。

図 9-1 ロボットの動作の仕組み



ロボット設定ファイル

ロボット設定ファイルでは、検索エンジンロボットの動作が定義されます。これらのファイルは、`/var/opt/SUNWps/http-hostname-domain/portal/config` ディレクトリにあります。表 9-1 では、各ロボット構成ファイルを説明しています。この表は 2 つの列で構成されています。最初の列には設定ファイルを、2 番目の列にはファイルの内容の説明を示しています。

表 9-1 ロボット構成ファイル

ロボット構成ファイル	説明
<code>classification.conf</code>	ロボットが生成する RD の分類に使用される規則を含む
<code>filter.conf</code>	検索エンジンロボットで列挙および生成の際に利用できるすべてのフィルタを含む。列挙フィルタ、生成フィルタのいずれにも同じフィルタ規則が含まれるので、両タイプのフィルタに共通の規則変更ができる 参照により、このファイルには、 <code>filterrules.conf</code> に格納されるフィルタリング規則も含まれる
<code>filterrules.conf</code>	開始ポイント (シード URL と呼ばれる) およびフィルタリング規則を含む
<code>robot.conf</code>	ロボットのオペレーティングパラメータのほとんどが定義される。さらに、このファイルはロボットに <code>filter.conf</code> ファイル中の使用すべき適切なフィルタを指示する

注 検索サービスは、この他に `convert.conf` と `import.conf` の 2 つの設定ファイルを使用します。これらのファイルは検索サーバーにより生成され、一般に手動で編集できません。

検索エンジン管理インターフェイスを使用すれば、ほとんどのパラメータを設定できるので、通常は `robot.conf` ファイルを編集する必要はありません。

ただし、上級ユーザーはこのファイルを手動で編集して、インターフェイスを介して設定できないパラメータを設定できます。

ロボットプロセスパラメータの設定

robot.conf ファイルでは、ロボットに filter.conf 中の使用するフィルタを指示する、ロボット用の多くのオプションが定義されます (旧バージョンとの下位互換性については、robot.conf にシード URL を含めることもできます)。

iPlanet™ Directory Server Access Management Edition 管理コンソールは、ファイル robot.conf の編集に使用されます。手動で編集できるパラメータについては、237 ページの「ユーザが変更できるパラメータ」の節で詳細に説明します。

もっとも重要なパラメータは、enumeration-filter および generation-filter で、これらのパラメータは、ロボットが列挙および生成で使用するフィルタを指定します。これらのパラメータのデフォルト値は、enumeration-default および generation-default です。これらは、filter.conf ファイルにおいてデフォルトで提供されるフィルタ名です。

フィルタはすべて filter.conf ファイルで定義される必要があります。filter.conf で独自のフィルタを定義する場合、必要なパラメータを robot.conf に追加する必要があります。

たとえば、my-enumerator という名前の新しい列挙フィルタを定義する場合、robot.conf に次のパラメータを追加します。

```
enumeration-filter=my-enumerator
```

フィルタリング処理

ロボットは、処理するリソースとそのリソースの処理方法の決定にフィルタを使用します。ロボットがリソースと同時にリソースの参照を検出すると、各リソースにフィルタを適用して、それらのリソースを列挙し、検索エンジンデータベースに格納するリソース記述を生成するかどうかを決定します。

ロボットは 1 つあるいは複数のシード URL を調べ、フィルタを適用し、シード URL などを列挙して生成された URL にそのフィルタを適用します。シード URL は filterrules.conf ファイルで定義されます。

フィルタは、必須の初期化操作を実行し、現在のリソースに比較テストを適用します。各テストの目標は、リソースを許可あるいは拒否することです。フィルタにはシャットダウンフェーズも備わっており、必要なクリーンアップ操作を実行します。

リソースが許可される場合は、フィルタ通過の続行が許可されることを表します。リソースが否認される場合、そのリソースは拒否されます。拒否されたリソースのフィルタは、それ以上動作しません。リソースが拒否されない場合、ロボットは最後にそのリソースを列挙し、リソースの検出をさらに試みます。ジェネレータはリソース記述も作成できます。

これらの操作は必ずしもリンクされていません。リソースの中には列挙につながるものや、RD 生成につながるものもあります。多くのリソースは列挙にも、RD 生成にもつながります。たとえば、リソースが FTP ディレクトリである場合、一般的にはそのリソース用に RD は生成されません。ただし、ロボットは FTP ディレクトリの個別ファイルを列挙できます。ほかのドキュメントへのリンクを含む HTML ドキュメントは、RD を受信し、また、関連のドキュメントを列挙することもできます。

次の節では、フィルタ処理について詳しく説明します。

- フィルタ処理の段階
- フィルタの構文
- フィルタディレクティブ
- フィルタの書き込みまたは修正

フィルタ処理の段階

列挙フィルタ、生成フィルタのどちらにも、フィルタリング処理における 5 つのフェーズがあります。どちらのフィルタにも共通の 4 つのセットアップ初期化操作を実行します。ロボットの生存期間において一度だけ発生します。メタデータ—そのリソースについて利用可能なメタデータに基づき、リソースをフィルタリングします。リソースがネットワークを介して取得される前に、メタデータのフィルタリングがリソースごとに 1 回実行されます。表 9-2 に、共通のメタデータのタイプの例を一覧表示します。この表には、メタデータのタイプ、およびその説明と例を示しています。データ—そのデータに基づいてリソースをフィルタリングします。データのフィルタリングは、ネットワークを介して取得されたあとにリソースごとに 1 回実行されます。フィルタリングに使用できるデータには、次のものがあります。および シャットダウン—必要な終了操作を実行します。ロボットの生存期間において一度だけ発生します。リソースがデータフェーズを通過する場合、フィルタが列挙子あるいはジェネレータであるかどうかによって、

そのリソースは 列挙-検査すべきほかのリソースを参照するかどうかを判断するため、現行のリソース中の参照を列挙します。リソースのリソース記述 (RD) を生成し、検索エンジンデータベースにその RD を保存します。これらのフェーズは次のとおりです。

- セットアップ初期化操作を実行します。ロボットの生存期間において一度だけ発生します。
- メタデータ-そのリソースについて利用可能なメタデータに基づき、リソースをフィルタリングします。リソースがネットワークを介して取得される前に、メタデータのフィルタリングがリソースごとに 1 回実行されます。表 9-2 に、共通のメタデータのタイプの例を一覧表示します。この表には、メタデータのタイプ、およびその説明と例を示しています。

表 9-2 共通のメタデータタイプ

メタデータ	説明	例
完全な URL	リソースの場所	http://home.siroe.com/
プロトコル	URL のアクセス部分	http、ftp、file
ホスト	URL のアドレス部分	www.siroe.com
IP アドレス	ホストの数値バージョン	198.95.249.6
PATH	URL のパス部分	/index.html
深さ	シード URL からのリンク数	5

- データ-そのデータに基づいてリソースをフィルタリングします。データのフィルタリングは、ネットワークを介して取得されたあとにリソースごとに 1 回実行されます。フィルタリングに使用できるデータには、次のものがあります。
 - content-type
 - content-length
 - content-encoding
 - content-charset
 - last-modified
 - expires
- 列挙-検査すべきほかのリソースを参照するかどうかを判断するため、現行のリソース中の参照を列挙します。

- リソースのリソース記述 (RD) を生成し、検索エンジンデータベースにその RD を保存します。
- シャットダウンに必要な終了操作を実行します。ロボットの生存期間において一度だけ発生します。

フィルタの構文

filter.conf ファイルには、列挙フィルタおよび生成フィルタの定義が含まれています。このファイルには、列挙と生成の両方に対する複数のフィルタを含むことができます。robot.conf ファイルの enumeration-filter パラメータおよび generation-filter パラメータでフィルタを指定するため、使用するフィルタをロボットが指定できます。

フィルタの定義は、ヘッダー、本文、終了という明確に定義された構造になります。ヘッダーは、フィルタの開始を識別し、次の例のような名前を宣言します。

```
<Filter name="myFilter">
```

本文は、セットアップ、テスト、列挙または生成、およびシャットダウン中のフィルタの動作を定義する一連のフィルタディレクティブで構成されています。各ディレクティブは、関数および該当する場合はその関数のパラメータを指定します。

終了は </Filter> によって示されます。

235 ページのコード例 9-1 に、enumeration1 という名のフィルタを示します。

コード例 9-1 列挙ファイルの構文

```
<Filter name="enumeration1">
  Setup fn=filterrules-setup config=./config/filterrules.conf
# Process the rules
  MetaData fn=filterrules-process
# Filter by type and process rules again
  Data fn=assign-source dst=type src=content-type
  Data fn=filterrules-process
# Perform the enumeration on HTML only
  Enumerate enable=true fn=enumerate-urls max=1024
type=text/html
# Cleanup
  Shutdown fn=filterrules-shutdown
</Filter>
```

フィルタディレクティブ

フィルタディレクティブは、ロボットアプリケーション関数 (RAF) を使用して、操作を実行します。このディレクティブの使用法および実行の流れは、`obj.conf` ファイルの NSAPI ディレクティブおよびサーバーアプリケーション関数 (SAF) とよく似ています。NSAPI、SAF と同様に、*pblocks* と呼ばれるパラメータブロックを使用して、データは格納および送信されます。

232 ページの「フィルタリング処理」に表示されたフィルタリングフェーズや操作に対応して、6つのロボットディレクティブあるいはRAFクラスがあります。

- セットアップ
- メタデータ
- データ
- 列挙
- 生成
- シャットダウン

各ディレクティブは、独自のロボットアプリケーション関数を持っています。たとえば、**Metadata** ディレクティブおよび **Data** ディレクティブを持つフィルタリング関数、**Enumerate** ディレクティブを持つ列挙関数、**Generate** ディレクティブを持つ生成関数などを使用します。

ロボットアプリケーションの組み込み関数と独自のロボットアプリケーション関数を書き込む手順については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Developer's Guide*』で説明しています。

フィルタの書き込みまたは修正

ほとんどの場合、スクラッチからフィルタを書き込む必要はありません。管理インタフェースを使用すると、ほとんどのフィルタを作成できます。修正が必要な場合は、`filter.conf` ファイルおよび `filterrules.conf` ファイルを変更することができます。これらのファイルはディレクトリ

`/var/opt/SUNWps/http-hostname-domain/portal` に存在します。

ただし、さらに複雑なパラメータのセットを作成する場合、ロボットが使用する構成ファイルを編集する必要があります。

フィルタの書き込みあるいは変更の際は、次の点に注意してください。

- ディレクティブの実行順序 (特に各フェーズで使用可能な情報)
- 規則の順序

robot.conf ファイルで変更できるパラメータ、filter.conf ファイルで使用できるロボットアプリケーション関数、および独自のロボットアプリケーション関数の作成方法については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Developer's Guide*』を参照してください。

ユーザーが変更できるパラメータ

robot.conf ファイルは、ロボットを filter.conf にある適切なフィルタに向けるなどの、ロボット用の多くのオプションを定義します。旧バージョンとの下位互換性のために、robot.conf にシード URL を含めることもできます。

管理コンソールを使用すれば、ほとんどのパラメータを設定できるので、通常は robot.conf ファイルを編集する必要はありません。ただし、上級ユーザーはこのファイルを手動で編集して、管理コンソールを介して設定できないパラメータを設定できます。このファイルの例については、244 ページの「サンプルの robot.conf ファイル」を参照してください。

237 ページの表 9-3 に、robot.conf ファイルでユーザーが修正可能なパラメータを示します。パラメータ、その説明および列には例を示しています。

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ

パラメータ	説明	例
auto-proxy	ロボットのプロキシ設定を指定します。これはプロキシを自動的に設定するプロキシサーバーまたは Java スクリプトファイルになります。詳細については、『 <i>Sun ONE Portal Server 6.0 Administrator's Guide</i> 』を参照してください。	auto-proxy="http://proxy_server/proxy.pac"
bindir	ロボットがバインドディレクトリを PATH 環境に追加するかどうかを指定します。これは cmd-hook パラメータが指定するプログラムなどの、ユーザーがロボットで外部プログラムを実行するための特別な PATH です。	bindir=path

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
cmd-hook	<p>ロボットが 1 回の実行を完了すると実行される外部完了スクリプトを指定します。これはコマンド名へのフルパスにする必要があります。ロボットは</p> <p><code>/var/opt/SUNWps/</code> ディレクトリからこのスクリプトを実行します。</p> <p>デフォルトはありません。</p> <p>コマンドを実行するには、最低 1 つの RD を登録する必要があります。</p> <p>完了スクリプトの書き込みについては、『<i>Sun ONE Portal Server 6.0 Developer's Guide</i>』を参照してください。</p>	<p><code>cmd-hook="command-string"</code></p> <p>デフォルトはありません。</p>
command-port	<p>管理インターフェイスまたはロボットコントロールパネルなど、他のプログラムからのコマンドを受け入れるためにロボットが待機するソケットを指定します。</p> <p>セキュリティ上の理由から、<code>remote-access</code> が <code>yes</code> に設定されていない場合、ロボットはローカルホストからのコマンドだけを受け入れます。</p>	<p><code>command-port=port_number</code></p>
connect-timeout	<p>ネットワークが接続要求に回答する最大許容時間を指定します。</p> <p>デフォルトは 120 秒です。</p>	<p><code>command-timeout=seconds</code></p>
convert-timeout	<p>ドキュメント変換に許可される最大時間を指定します。</p> <p>デフォルトは 600 秒です。</p>	<p><code>convert-timeout=seconds</code></p>

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
depth	<p>ロボットが調べるシード URL (開始ポイントとも呼ばれる) からのリンク数を指定します。このパラメータは、深さを指定しないシード URL のデフォルト値を設定します。</p> <p>デフォルトは 10 です。</p> <p>マイナス 1 の値 (<code>depth=-1</code>) は、リンクの深さが無限であることを表しています。</p>	<code>depth=integer</code>
email	<p>ロボットを実行するユーザーの電子メールアドレスを指定します。</p> <p>電子メールアドレスは HTTP 要求ヘッダーで <code>user-agent</code> とともに送信されるため、Web マネージャはサイトでロボットを実行するユーザーと通信できます。</p> <p>デフォルトは <code>user@domain</code> です。</p>	<code>email=user@hostname</code>
enable-ip	<p>作成する各 RD の URL に IP アドレスを生成します。</p> <p>デフォルトは <code>true</code> です。</p>	<code>enable-ip=[true yes false no]</code>
enable-rdm-probe	<p>サーバーが RDM をサポートするかどうかを確認し、ロボットはこのパラメータを使用して、検出する各サーバーに問い合わせるかどうかを決定します。サーバーが RDM をサポートする場合は、サーバーは独自のリソース記述サーバーの役割を果たすことができるため、ロボットはこのサーバーのリソースを列挙しません。</p> <p>デフォルトは <code>false</code> です。</p>	<code>enable-rdm-probe=[true false yes no]</code>
enable-robots-txt	<p>ロボットがアクセスする各サイトで、<code>robots.txt</code> ファイルが使用できる場合、このファイルをロボットが検査する必要があるかどうかを指定します。</p> <p>デフォルトは <code>yes</code> です。</p>	<code>enable-robots-txt=[true false yes no]</code>

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
engine-concurrent	<p>ロボットが使用する事前作成のスレッド数を指定します。</p> <p>デフォルトは 10 です。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできません。</p>	engine-concurrent=[1..100]
enumeration-filter	<p>リソースを列挙すべきかどうかを確認する場合にロボットが使用する列挙フィルタを指定します。値は filter.conf ファイルで定義されるフィルタ名にする必要があります。</p> <p>デフォルトは enumeration-default です。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできません。</p>	enumeration-filter=enumfiltername
generation-filter	<p>リソース用にリソース記述を生成する必要があるかどうかを確認する場合に、ロボットが使用する生成フィルタを指定します。値は filter.conf ファイルで定義されるフィルタ名にする必要があります。</p> <p>デフォルトは generation-default です。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできません。</p>	generation-filter=genfiltername
index-after-ngenerated	<p>検索エンジンにバッチ処理する前にロボットが RD を収集する時間を分で指定します。</p> <p>このパラメータを指定しない場合、256 分に設定されます。</p>	index-after-ngenerated=30

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
loglevel	<p>ロギングのレベルを指定します。loglevel の値は次のように指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> レベル 0: 重大なエラー以外は記録しない レベル 1: RD 生成も記録する (デフォルト) レベル 2: 検索活動も記録する レベル 3: フィルタリング活動も記録する レベル 4: 生成活動も記録する レベル 5: 検索の進行状況も記録する <p>デフォルト値は 1 です。</p>	loglevel=[0...100]
max-connections	<p>ロボットが行う並行検索の最大数を指定します。</p> <p>デフォルトは 8 です。</p>	max-connections=[1..100]
max-filesize-kb	<p>ロボットが検索するファイルの最大ファイルサイズを KB 単位で指定します。</p>	max-filesize-kb=1024
max-memory-per-url / max-memory	<p>各 URL が使用するバイト単位の最大メモリを指定します。URL がより多くのメモリを必要とする場合、RD はディスクに保存されます。</p> <p>デフォルトは 1 です。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできません。</p>	max-memory-per-url=n_bytes
max-working	<p>ロボット稼働セットのサイズ、すなわちロボットが一度に処理できる URL の最大数を指定します。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできません。</p>	max-working=1024

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
onCompletion	<p>実行完了後のロボットの動作を決定します。ロボットはアイドルモードになるか、ループバック、再起動、または終了できます。</p> <p>デフォルトは <code>idle</code> です。</p> <p>このパラメータは <code>cmd-hook</code> パラメータとともに動作します。実行後のロボットは、<code>onCompletion</code> アクションの次に <code>cmd-hook</code> プログラムを実行します。</p>	<code>OnCompletion=[idle loop quit]</code>
password	<p><code>httpd</code> 認証および <code>ftp</code> 接続に使用される <code>password</code> を指定します。</p>	<code>password=string</code>
referer	<p>Web ページにアクセスする際にロボットをリファラとして識別するように設定されている場合、<code>HTTP</code> 要求に送信されたパラメータを指定します。</p>	<code>referer=string</code>
register-user and register-password	<p>検索エンジンデータベースに <code>RD</code> を登録するために使用されるユーザー名を指定します。</p> <p>このパラメータは、検索エンジン管理インターフェイスから対話形式で設定することはできません。</p>	<code>register-user=string</code>
register-password	<p>検索エンジンデータベースに <code>RD</code> を登録するために使用されるパスワードを指定します。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできません。</p>	<code>register-password=string</code>
remote-access	<p>このパラメータは、ロボットがリモートホストからのコマンドを受け入れることができるかどうかを指定します。</p> <p>デフォルトは <code>false</code> です。</p>	<code>remote-access=[true false yes no]</code>

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
robot-state-dir	ロボットが状態を保存するディレクトリを指定します。この作業ディレクトリで、ロボットは収集された RD の数などを記録できません。	robot-state-dir="/var/opt/SUNWps/instance/portal/robot"
server-delay	同じ Web サイトに次にアクセスするまでの時間間隔を指定します。この時間を指定することで、ロボットが頻繁に同じサイトにアクセスするのを防止します。	server-delay=delay_in_seconds
site-max-connections	ロボットがサイトに対して行う同時接続の最大数を示します。 デフォルトは 2 です。	site-max-connections=[1..100]
smart-host-heuristics	ロボットは正規の DNS ホスト名を巡回するサイトを変更できません。たとえば、 www123.siroe.com を www.siroe.com に変更します。 デフォルトは false です。	smart-host-heuristics=[true false]
tmpdir	ロボットが一時ファイルを作成する場所を指定します。 環境変数 TMPDIR を設定する際にこの変数を使用します。	tmpdir=path
user-agent	http-request の電子メールアドレスとともにサーバーに送信されるパラメータを指定します。	user-agent=iPlanetRobot/4.0
username	ロボットを実行するユーザーのユーザー名を指定し、httpd 認証および ftp 接続に使用されます。 デフォルトは anonymous です。	username=string

サンプルの robot.conf ファイル

この節では、サンプルの robot.conf ファイルについて説明します。サンプルの中のコメントが付いたパラメータは、表示されているデフォルト値を使用します。最初のパラメータである csid は、このファイルを使用する検索エンジンインスタンスを示しています。このパラメータの値は変更しないでください。このファイルのパラメータの定義については、237 ページの「ユーザが変更できるパラメータ」を参照してください。

注 このサンプルファイルには、csid パラメータのように変更してはならない、検索エンジン管理インタフェースによって使用されるいくつかのパラメータが含まれています。

```
<Process csid="x-catalog://budgie.siroe.com:80/jack" \
  auto-proxy="http://sesta.varrius.com:80/"
  auto_serv="http://sesta.varrius.com:80/"
  command-port=21445
  convert-timeout=600
  depth="-1"
  # email="user@domain"
  enable-ip=true
  enumeration-filter="enumeration-default"
  generation-filter="generation-default"
  index-after-ngenerated=30
  loglevel=2
  max-concurrent=8
  site-max-concurrent=2
  onCompletion=idle
  password=boots
  proxy-loc=server
  proxy-type=auto
  robot-state-dir="/var/opt/SUNWps/https-budgie.siroe.com/ \
  ps/robot"
  server-delay=1
  smart-host-heuristics=true
  tmpdir="/var/opt/SUNWps/https-budgie.siroe.com/ps/tmp"
  user-agent="iPlanetRobot/4.0"
  username=jack
</Process>
```

定義済みのロボットアプリケーション関数

この章では、Sun™ ONE Portal Server 検索エンジンで定義済みのロボットアプリケーション関数 (RAF) の記述、パラメータ仕様、および例を説明します。これらの関数を `filter.conf` ファイルで使用し、フィルタ定義を作成および変更できます。ファイル `filter.conf` は、ディレクトリ `/var/opt/SUNWps/http-hostname-domain/portal/config` に配置されています。

ファイル `filter.conf` には、列挙フィルタおよび生成フィルタの定義が含まれます。これらの各フィルタは、ファイル `filterrules.conf` に格納されているルールセットを呼び出します。フィルタルールには両方のフィルタで使用するルールが含まれますが、フィルタ定義にはフィルタ固有の命令が含まれます。

フィルタルールの定義方法を理解するためには、ファイル `filterrules.conf` を調べます。通常は、管理コンソールを使用してフィルタルールを作成するため、このファイルを手動で編集する必要はありません。

フィルタ定義の例を見るには、ファイル `filter.conf` を調べる必要があります。フィルタのためにリソースを生成しないでリソースを列挙するようロボットに指示するなど、管理コンソールに適応しない方法でフィルタを変更する場合、編集する必要があるのは `filter.conf` ファイルだけです。

この章には、次の節があります。

- ソースおよびデスティネーション
- セットアップ関数
- フィルタリング関数
- サポート関数のフィルタリング
- 列挙関数

- 生成関数
- シャットダウン関数

ソースおよびデスティネーション

ほとんどのロボットアプリケーション関数 (RAF) は、情報のソースを必要とし、デスティネーションに送信するデータを生成します。ソースはロボット内で定義され、最終的に生成されるリソース記述のフィールドに関連している必要はありません。一方、デスティネーションは通常、リソース記述サーバーのスキーマによって定義されるリソース記述のフィールド名になります。

データベーススキーマを指定するために管理コンソールを使用する詳細については、第 8 章「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。

次の節では、フィルタリングプロセスの各段階と、それらの段階で使用できるソースについて説明します。

セットアップ段階で使用可能なソース

セットアップ段階では、フィルタが設定されますが、リソースの URL またはコンテンツについての情報は取得できません。

メタデータフィルタリング段階で使用可能なソース

メタデータ段階では、ロボットはリソースの URL を取得しますが、リソースのコンテンツはダウンロードされていないため、`filter.conf` ファイルなどのほかのソースから導出されるデータと、URL についての情報が使用可能です。ただし、この段階では、リソースのコンテンツについての情報は使用できません。

表 10-1 に、メタデータ段階で RAF に使用可能なソースを一覧表示します。この表ではソース、その説明、および例を示しています。

表 10-1 メタデータ段階で RAF に使用可能なソース

ソース	説明	例
csid	カタログサーバー ID	x-catalog//budgie.siroe.com:8086/alexandria

表 10-1 メタデータ段階で RAF に使用可能なソース (続き)

ソース	説明	例
depth	開始点からトラバースされたリンク数	10
enumeration filter	列挙フィルタの名前	enumeration1
generation filter	生成フィルタの名前	generation1
host	URL のホスト部分	home.siroe.com
IP	ホストの数値バージョン	198.95.249.6
protocol	URL のアクセス部分	http, https, ftp, file
path	URL のパス部分	/, /index.html, /documents/listing.html
URL	完全な URL	http://developer.siroe.com/docs/manuals/

データ段階で使用可能なソース

データ段階では、ロボットがその URL のリソースのコンテンツをダウンロードしているため、記述、作成者などのコンテンツに関するデータにアクセスできます。

リソースが HTML ファイルである場合、ロボットは HTML ヘッダーの <META> タグを構文解析します。したがって、<META> タグに含まれるデータは、データ段階で使用可能です。

データ段階では、メタデータ段階で使用可能なソースのほかに、次のソースを RAF に使用できます。この表ではソース、その説明、および例を示しています。

表 10-2 データ段階で RAF に使用可能なソース

ソース	説明	例
content-charset	リソースが使用する文字セット	
content-encoding	エンコードの形式	
content-length	リソースのバイト単位のサイズ	
content-type	リソースの MIME タイプ	text/html, image/jpeg
expires	リソースが期限切れになる日付	
last-modified	リソースの最終更新日	

表 10-2 データ段階で RAF に使用可能なソース (続き)

ソース	説明	例
data in <META> tags	HTML リソースのヘッダーの <META> タグで提供されるデータ	作成者 記述 キーワード

これらのすべてのソース (<META> タグのデータを除く) は、リソースの取得時に返される HTTP 応答ヘッダーから導出されます。

列挙、生成、およびシャットダウン段階で使用可能なソース

列挙および生成の段階では、データ段階と同じデータソースが使用可能です。

シャットダウン段階では、フィルタはフィルタリングを完了し、シャットダウンします。この段階用に書き込まれた関数は、データ段階で使用可能なソースと同じデータソースを使用できますが、シャットダウン関数の動作は通常、アクティビティの終了およびクリーンアップに制限されます。

有効化パラメータ

各関数に有効化パラメータがあります。値は、true、false、on、または off を指定できます。管理コンソールは、これらのパラメータを使用して、特定のディレクティブを有効または無効にします。

次の例は text/html の列挙を有効にし、text/plain の列挙を無効にします。

```
# Perform the enumeration on HTML only
Enumerate enable=true fn=enumerate-urls max=1024 type=text/html
Enumerate enable=false fn=enumerate-urls-from-text max=1024
type=text/plain
```

enable=false パラメータまたは enable=off パラメータの追加は、行をコメントアウトするのと同じ効果があります。管理インタフェースは、コメントを書き込みませんが、代わりに enable パラメータを書き込みます。

セットアップ関数

この節では、列挙および生成フィルタの両方によってセットアップ段階中に使用される関数について説明します。次の関数について説明します。

- 249 ページの「`filterrules-setup`」
- 249 ページの「`setup-regex-cache`」
- 250 ページの「`setup-type-by-extension`」

filterrules-setup

`filterrules-setup` 関数を使用する場合、`logtype` は使用するログファイルのタイプになります。値は `verbose`、`normal`、または `terse` を指定できます。

パラメータ

表 10-3 に、`filterrules-setup` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-3 `filterrules-setup` パラメータ

パラメータ	説明
<code>config</code>	このフィルタが使用するフィルタルールを含むファイルのパス名。

例

```
Setup fn=filterrules-setup config=./config/filterrules.conf
logtype=normal
```

setup-regex-cache

`setup-regex-cache` 関数は、`filter-by-regex` および `generate-by-regex` 関数のキャッシュサイズを初期化します。この関数を使用して、デフォルト値である 32 以外の数値を指定します。

パラメータ

表 10-4 に、`setup-regex-cache` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-4 `setup-regex-cache` パラメータ

パラメータ	説明
<code>cache-size</code>	regex キャッシュに保持されるコンパイル済み正規表現の最大数。

例

```
Setup fn=setup-regex-cache cache-size=28
```

setup-type-by-extension

`setup-type-by-extension` 関数はファイル名の拡張子を認識するようにフィルタを構成します。この関数を呼び出してから、`assign-type-by-extension` 関数を使用します。パラメータとして指定されたファイルは、標準の MIME コンテンツタイプとファイル拡張子の文字列の間のマッピングを含む必要があります。

パラメータ

表 10-5 に、`setup-type-by-extension` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-5 `setup-type-by-extension` パラメータ

パラメータ	説明
<code>file</code>	MIME タイプ構成ファイルの名前

例

```
Setup fn=setup-type-by-extension file=./config/mime.types
```

フィルタリング関数

次の関数はメタデータおよびデータの段階で動作し、関数およびそのパラメータによって指定された特定の条件に基づくリソースを許可または拒否します。

これらの関数は、ファイル `filter.conf` の列挙フィルタおよび生成フィルタの両方で使用できます。

これらの各「filter-by」関数は比較を行い、リソースを許可または拒否します。リソースが許可されると、処理が次のフィルタリング段階へ進みます。リソースが拒否されると、リソースが列挙または生成を継続する条件を満たしていないという理由で、処理が停止します。次の関数について説明します。

- filter-by-exact
- filter-by-max
- filter-by-md5
- filter-by-prefix
- filter-by-regex
- filterrules-process

filter-by-exact

filter-by-exact 関数は、allow/deny 文字列が情報のソースに完全に一致する場合、リソースを許可または拒否します。キーワード all は任意の文字列と一致します。

パラメータ

表 10-6 に、filter-by-exact 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-6 filter-by-exact パラメータ

パラメータ	説明
src	情報のソース
allow/deny	含む文字列

例

次の例では、コンテンツタイプが text/plain のリソースすべてをフィルタして取り除きます。これにより、ほかのすべてのリソースの処理が続行されます。

```
Data fn=filter-by-exact src=type deny=text/plain
```

filter-by-max

`filter-by-max` 関数では、指定された情報ソースが指定値以下または同等の場合にリソースが許可されます。情報ソースが指定された値よりも大きい場合は、リソースは拒否されます。

この関数は、1つのフィルタについて1回しか呼び出すことができません。

パラメータ

表 10-7 に、`filter-by-max` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-7 `filter-by-max` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	情報のソース ホスト、オブジェクト、深さのいずれかになります。
<code>value</code>	比較のための値を指定する

例

この例では、コンテンツの長さが 1024 K より小さいリソースを許可します。

```
MetaData fn-filter-by-max src=content-length value=1024
```

filter-by-md5

`filter-by-md5` 関数は、指定の MD5 チェックサム値を持つ最初のリソースだけを許可します。このロボットによって、現在のリソースの MD5 が以前のリソースで検出された場合、現在のリソースは拒否されます。これにより、複数の URL を持つ同一のリソースまたは単一のリソースの重複を防ぎます。

この関数は、データ段階またはそれ以降の段階でだけ呼び出すことができます。この関数は、1つのフィルタについて1回しか呼び出すことができません。フィルタは `generate-md5` 関数を呼び出し、`filter-by-md5` を呼び出す前に MD5 チェックサムを生成する必要があります。

パラメータ

なし

例

次の例では、MD5 チェックサムを処理する一般的な方法を示します。最初にチェックサムを生成し、そのチェックサムに基づいてフィルタリングします。

```
Data fn=generate-md5
Data fn=filter-by-md5
```

filter-by-prefix

filter-by-prefix 関数は、指定の情報ソースが指定されたプレフィックス文字列で開始する場合、リソースを許可または拒否します。リソースは、完全に一致する必要はありません。キーワード all は任意の文字列と一致します。

パラメータ

表 10-8 に、filter-by-prefix 関数で使われるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-8 filter-by-prefix パラメータ

パラメータ	説明
src	情報のソース
allow/deny	プレフィックス比較の文字列を含む

例

次の例では、コンテンツタイプが text/html および text/plain などの、任意の種類テキストであるリソースを許可します。

```
MetaData fn=filter-by-prefix src=type allow=text
```

filter-by-regex

filter-by-regex 関数は、正規表現によるパターンマッチングをサポートします。この関数は、指定の正規表現に一致するリソースを許可します。使用可能な正規表現構文は、POSIX.1 仕様によって定義されます。* の正規表現は、任意の文字に一致します。

パラメータ

表 10-9 に、`filter-by-regex` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-9 `filter-by-regex` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	情報のソース
<code>allow/deny</code>	正規表現の文字列を含む

例

次の例は、政府ドメインのサイトからのすべてのリソースを拒否します。

```
MetaData fn=filter-by-regex src=host deny=\\*.gov
```

filterrules-process

`filterrules-process` 関数は、`filterrules.conf` ファイルの規則で処理します。

パラメータ

なし

例

```
MetaData fn=filterrules-process
```

サポート関数のフィルタリング

次の関数は、リソース上で情報を操作または生成するため、フィルタリング中に使用されます。ロボットは、フィルタリング関数を呼び出すことによって、リソースを処理することができます。これらの関数は、ファイル `filter.conf` の列挙および生成のフィルタで使用することができます。次の関数について説明します。

- `assign-source`
- `assign-type-by-extension`
- `clear-source`
- `convert-to-html`

- copy-attribute
- generate-by-exact
- generate-by-prefix
- generate-by-regex
- generate-md5
- generate-rd-expires
- generate-rd-last-modified
- rename-attribute

assign-source

`assign-source` 関数は、指定した情報ソースに新規の値を割り当てます。これにより、フィルタリング処理中の編集が可能になります。この関数は、明示的な新規値を割り当てるか、または、別の情報ソースから値をコピーすることができます。

パラメータ

表 10-10 に、`assign-source` 関数で 사용되는パラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-10 `assign-source` パラメータ

パラメータ	説明
<code>dst</code>	値を変更するソースの名前
<code>value</code>	明示的な値を指定する
<code>src</code>	<code>dst</code> にコピーする情報ソース

`value` パラメータまたは `src` パラメータのどちらかを指定する必要がありますが、両方は指定しません。

例

```
Data fn=assign-source dst=type src=content-type
```

assign-type-by-extension

assign-type-by-extension 関数は、リソースのファイル名を使用してタイプを決定し、処理を継続するリソースにこのタイプを割り当てます。

assign-type-by-extension を使用可能にするには、セットアップ中に setup-type-by-extension 関数を呼び出す必要があります。

パラメータ

表 10-11 に、assign-type-by-extension 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-11 assign-type-by-extension パラメータ

パラメータ	説明
src	比較するファイル名のソース。ソースを指定しない場合、デフォルトではリソースのパスになる

例

```
MetaData fn=assign-type-by-extension
```

clear-source

clear-source 関数は、指定されたデータソースを削除します。通常は、この関数を実行する必要はありません。assign-source を使用することにより、ソースを作成および置換することができます。

パラメータ

表 10-12 に、clear-source 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-12 clear-source パラメータ

パラメータ	説明
src	削除するソースの名前

例

次の例では、パスのソースを削除します。

```
MetaData fn=clear-source src=path
```

convert-to-html

`convert-to-html` 関数は、リソースのタイプが指定の MIME タイプと一致する場合、現在のリソースを HTML ファイルに変換して処理を継続します。変換フィルタは、変換中のファイルのタイプを自動的に検出します。

パラメータ

表 10-13 に、`convert-to-html` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-13 `convert-to-html` パラメータ

パラメータ	説明
<code>type</code>	変換を行う MIME タイプ

例

次の関数呼び出しのシーケンスにより、ファイルを配信するサーバによってタイプが指定されていないファイルと同様に、フィルタすべての Adobe Acrobat PDF ファイル、Microsoft RTF ファイル、および FrameMaker MIF ファイルを HTML に変換します。

```
Data fn=convert-to-html type=application/pdf
```

```
Data fn=convert-to-html type=application/rtf
```

```
Data fn=convert-to-html type=application/x-mif
```

```
Data fn=convert-to-html type=unknown
```

copy-attribute

`copy-attribute` 関数は、リソース記述の 1 つのフィールドからの値を別のフィールドにコピーします。

パラメータ

表 10-14 に、`copy-attribute` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-14 `copy-attribute` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	コピー元のリソース記述のフィールド
<code>dst</code>	ソースのコピー先のリソース記述の項目

表 10-14 copy-attribute パラメータ (続き)

パラメータ	説明
truncate	コピーするソースの最大長
clean	省略されたテキストを修正するかどうか (分割された単語を修正するかどうかなど) を示す論理値パラメータ。デフォルトでは、このパラメータは <code>false</code> になっています。

例

```
Generate fn=copy-attribute \
    src=partial-text dst=description truncate=200 clean=true
```

generate-by-exact

generate-by-exact 関数は、既存のソースが別の値と完全に一致する場合に限り、指定された値を持つソースを生成します。

パラメータ

表 10-15 に、generate-by-exact 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-15 generate-by-exact パラメータ

パラメータ	説明
dst	生成するソースの名前
value	dst に割り当てる値
src	比較対象のソース

例

次の例では、ホストが `www.siroe.com` の場合に、分類を `Siroe` に設定します。

```
Generate fn="generate-by-exact" match="www.siroe.com:80" src="host"
value="Siroe" dst="classification"
```

generate-by-prefix

この `generate-by-prefix` 関数は、既存のソースのプレフィックスが別の値と一致する場合に限り、指定された値を持つソースを生成します。

パラメータ

表 10-16 に、`generate-by-prefix` 関数で 사용되는パラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-16 `generate-by-prefix` パラメータ

パラメータ	説明
<code>dst</code>	生成するソースの名前
<code>value</code>	<code>dst</code> に割り当てる値
<code>src</code>	比較対象のソース
<code>match</code>	<code>src</code> と比較する値

例

次の例では、プロトコルプレフィックスが HTTP の場合、分類を World Wide Web に設定します。

```
Generate fn="generate-by-prefix" match="http" src="protocol"
value="World Wide Web" dst="classification"
```

generate-by-regex

`generate-by-regex` 関数は、既存のソースが正規表現に一致する場合に限り、指定した値を持つソースを生成します。

パラメータ

表 10-17 に、`generate-by-regex` 関数で 사용되는パラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-17 `generate-by-regex` パラメータ

パラメータ	説明
<code>dst</code>	生成するソースの名前
<code>value</code>	<code>dst</code> に割り当てる値
<code>src</code>	比較対象のソース

表 10-17 generate-by-regex パラメータ (続き)

パラメータ	説明
match	src と比較する正規表現の文字列

例

次の例では、ホスト名が正規表現 `*.siroe.com` に一致する場合に、分類を `Siroe` に設定します。たとえば、`developer.siroe.com` および `home.siroe.com` の両方にあるリソースは、`siroe` として分類されます。

```
Generate fn="generate-by-regex" match="\*.siroe.com" src="host"
value="Siroe" dst="classification"
```

generate-md5

`generate-md5` 関数は、MD5 チェックサムを生成し、リソースに追加します。これにより、`filter-by-md5` 関数を使用して、重複する MD5 チェックサムを持つリソースを拒否することができます。

パラメータ

なし

例

```
Data fn=generate-md5
```

generate-rd-expire

`generate-rd-expire` 関数は、有効期限を生成して、指定されたソースに追加します。この関数は、HTTP ヘッダーおよび HTML `<META>` タグなどのメタデータを使用し、リソースから任意の有効期限を取得します。有効期限が存在しない場合は、現在の日付から 3 ヶ月間の有効期限を生成します。

パラメータ

表 10-18 に、generate-rd-expires 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-18 generate-rd-expires パラメータ

パラメータ	説明
dst	ソースの名前。指定を省略した場合、デフォルトは rd-expires になる

例

```
Generate fn=generate-rd-expires
```

generate-rd-last-modified

generate-rd-last-modified 関数は、現在の時間を指定されたソースに追加します。

パラメータ

表 10-19 に、generate-rd-last-modified 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-19 generate-rd-last-modified パラメータ

パラメータ	説明
dst	ソースの名前。指定を省略した場合、デフォルトは rd-last-modified になる

例

```
Generate fn=generate-last-modified
```

rename-attribute

rename-attribute 関数は、リソース記述のフィールドの名前を変更します。たとえば、extract-html-meta が <META> タグからフィールドに情報をコピーしたフィールド名を変更する場合にもっとも便利です。

パラメータ

表 10-20 に、generate-rd-last-modified 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-20 generate-rd-last-modified パラメータ

パラメータ	説明
src	1つの名前から別の名前へのマッピングを含む文字列

例

次の例では、属性の名前を author から author-name に変更します。

```
Generate fn=rename-attribute src="author->author-name"
```

列挙関数

次の関数は、列挙段階で動作します。これらの関数は、リソース発見を継続する開始点として使用するため、ロボットが指定のリソースからリンクを収集するかどうか、およびその方法を制御します。この節では、次の関数について説明します。

- enumerate-urls
- enumerate-urls-from-text

enumerate-urls

enumerate-urls 関数はリソースをスキャンし、ハイパーテキストリンクで検出されるすべての URL を列挙します。結果を使用して、リソース発見を継続します。コンテンツタイプを指定し、列挙される URL の種類を制限することができます。

パラメータ

表 10-21 に、enumerate-urls 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-21 enumerate-urls パラメータ

パラメータ	説明
max	指定のリソースから作成する URL の最大数。指定を省略した場合、デフォルトでは 1024 になる

表 10-21 enumerate-urls パラメータ (続き)

パラメータ	説明
type	指定したコンテンツタイプの URL に列挙を制限するコンテンツタイプ。type は、オプションのパラメータである。指定を省略した場合、すべての URL が列挙される

例

次の例では、HTML URL だけを、最大値 1024 まで列挙します。

```
Enumerate fn=enumerate-urls type=text/html
```

enumerate-urls-from-text

enumerate-urls-from-text 関数は、テキストリソースをスキャンし、この正規表現 URL:. * に一致する文字列を検索します。これはロボットを生成し、これらの文字列から URL を列挙し、さらにリソース記述を生成します。

パラメータ

表 10-22 に、enumerate-urls-from-text 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-22 enumerate-urls-from-text パラメータ

パラメータ	説明
max	指定のリソースから生成する URL の最大数。指定を省略した場合、デフォルトでは 1024 になる

例

```
Enumerate fn=enumerate-urls-from-text
```

生成関数

次の関数は、フィルタリングの生成段階で使用されます。生成関数は、リソース記述に入る情報を生成することができます。通常、リソースの本体から情報を抽出するか、リソースのメタデータから情報をコピーします。この節では、次の関数について説明します。

- extract-full-text

- extract-html-meta
- extract-html-text
- extract-html-toc
- extract-source
- harvest-summarizer

extract-full-text

extract-full-text 関数は、リソースの完全なテキストを抽出して、リソース記述に追加します。

注 extract-full-text 関数の使用には、注意が必要です。リソース記述のサイズを非常に大きくすることができるため、データベースが膨大化したり、ネットワーク帯域幅に全体的な悪影響を及ぼしたりする可能性があります。

パラメータ

表 10-23 に、extract-full-text 関数で 사용되는パラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-23 extract-full-text パラメータ

パラメータ	説明
truncate	リソースから抽出する文字の最大数
dst	完全なテキストを受信するスキーマ項目の名前

例

Generate fn=extract-full-text

extract-html-meta

extract-html-meta 関数は、HTML ファイルから任意の <META> または <TITLE> 情報を抽出し、リソース記述に追加します。コンテンツタイプの指定により、生成する URL の種類が制限される場合があります。

パラメータ

表 10-24 に、`extract-html-meta` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-24 `extract-html-meta` パラメータ

パラメータ	説明
<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数
<code>type</code>	オプションのパラメータ。指定を省略した場合は、すべての URL が生成される

例

```
Generate fn=extract-html-meta truncate=255 type=text/html
```

extract-html-text

`extract-html-text` 関数は、HTML タグを除いたテキストの最初の数文字を HTML ファイルから抽出し、そのテキストをリソース記述に追加します。これにより、ドキュメントのテキストの最初の部分を RD に含むことができます。コンテンツタイプの指定により、生成する URL の種類が制限される場合があります。

パラメータ

表 10-25 に、`extract-html-text` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-25 `extract-html-text` パラメータ

パラメータ	説明
<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数
<code>skip-headings</code>	<code>true</code> に設定し、ドキュメント内で発生する任意の HTML ヘッダーを無視する
<code>type</code>	オプションのパラメータ。指定を省略した場合は、すべての URL が生成される

例

```
Generate fn=extract-html-text truncate=255 type=text/html
skip-headings=true
```

extract-html-toc

`extract-html-toc` 関数は、HTML ヘッダーから `table-of-contents` を抽出し、リソース記述に追加します。

パラメータ

表 10-26 に、`extract-html-toc` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-26 `extract-html-toc` パラメータ

パラメータ	説明
<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数
<code>level</code>	抽出する HTML ヘッダーの最大レベル。このパラメータは、目次の深さを制御する

例

```
Generate fn=extract-html-toc truncate=255 level=3
```

extract-source

`extract-source` 関数は、指定のソースから特定の値を抽出し、リソース記述に追加します。

パラメータ

表 10-27 に、`extract-source` 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-27 `extract-source` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	ソース名のリスト。-> 演算子を使用し、RD 属性の新規名を定義できる。たとえば、 <code>type->content-type</code> は <code>type</code> という名前のソースの値を取得し、 <code>content-type</code> という名前の属性で RD に保存される

例

```
Generate fn=extract-source
src="md5,depth,rd-expires,rd-last-modified"
```

harvest-summarizer

harvest-summarizer 関数は、リソース上で Harvest サマライザを実行し、結果をリソース記述に追加します。

Harvest サマライザを実行するには、ロボットを実行する前に、path に \$HARVEST_HOME/lib/gatherer を設定する必要があります。

パラメータ

表 10-28 に、harvest-summarizer 関数で使用されるパラメータを示します。この表ではパラメータとその説明を表示します。

表 10-28 harvest-summarizer パラメータ

パラメータ	説明
summarizer	サマライザプログラムの名前

例

```
Generate fn-harvest-summarizer summarizer=HTML.sum
```

シャットダウン関数

次の関数は、列挙および生成の両関数によって、シャットダウン段階中に使用されます。

filterrules-shutdown

規則が実行されたあと、filterrules-shutdown 関数はクリーンアップおよびシャットダウンを実行します。

パラメータ

なし

例

```
Shutdown fn=filterrules-shutdown
```

シャットダウン関数

Sun ONE Portal Server システムの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server システムの維持に関連した、さまざまな管理タスクについて説明します。

この章には次の節があります。

- Secure Sockets Layer (SSL) の設定
- Sun ONE Portal Server の設定のバックアップと復元
- Sun ONE Portal Server のネットワーク設定の変更
- 複数の UI ノードインストールの管理
- HTTP プロキシを使用する Sun ONE Portal Server のインスタンスの設定
- Sun ONE Portal Server ログの管理
- Sun ONE Portal Server のデバッグ

Secure Sockets Layer (SSL) の設定

次の方法によって、Sun ONE Portal Server および関連するコンポーネントで Secure Sockets Layer (SSL) を設定することができます。

- Sun ONE Portal Server - ゲートウェイではなく Sun ONE Portal Server システム専用の SSL を設定する場合、イントラネットを「開く」ことができます。

Sun ONE Portal Server のユーザーインターフェイスノード (iPlanet™ Directory Server Access Management Edition 管理コンソール、デスクトップ、サブレットなどが実行されるノード) とゲートウェイノードの間、および Sun ONE Portal Server ユーザーインターフェイスノードとエンドユーザーコンピュータの間で SSL を使用することができます。

- Sun™ ONE Directory Server - Sun ONE Directory Server を SSL の設定できます。また、iPlanet Directory Server Access Management Edition と Sun ONE Portal Server 間のセキュリティ保護された接続を使用できます。ディレクトリサーバーで SSL を有効にするための詳細については、次の URL の『iPlanet Directory Server Access Management Edition Installation and Configuration Guide』の第 6 章、「基本構成」を参照してください。

<http://docs.sun.com/source/816-5626-10/contents.html>

注 ディレクトリサーバーで SSL を設定した場合、SSL を無効にしたら、Sun ONE Portal Server インストールスクリプトでディレクトリサーバーをアンインストールします。さらに、コマンド行で dpadmin コマンドを使用する場合も、SSL を無効にする必要があります。

- Sun™ ONE Portal Server Secure Remote Access — ゲートウェイに SSL を設定する場合、イントラネットは「安全」です。ゲートウェイで SSL を設定する手順については、『Sun ONE Portal Server: Secure Remote Access Pack 6.0 管理者ガイド』を参照してください。

Sun ONE Portal Server で SSL を設定する

Sun ONE Portal Server のインストール中に「SSL を *hostname* で実行しますか?」と質問されたら、「**y**」を入力して、この手順を使用します。詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.0 インストールガイド』を参照してください。

1. Sun ONE Portal Server をインストールした Web サーバーの信頼データベースを作成します。

詳細については、次の URL の『Sun ONE Web Server 6.0, Enterprise Edition 管理者ガイド』の第 5 章、「信頼データベースの作成」を参照してください。

<http://docs.sun.com/source/816-2140-01/contents.htm>

2. Sun ONE Portal Server をインストールした Web サーバーの証明書を要求し、Web サーバーのインスタンスで証明書をインストールします。

詳細については、『*Sun ONE Web Server 6.0, Enterprise Edition 管理者ガイド*』の第 5 章、「VeriSign 証明書の要求およびインストール」または「他のサーバー証明書の要求およびインストール」を参照してください。

3. Sun ONE Portal Server の Web サーバーインスタンスのために暗号化を有効にします。

Web サーバー管理コンソールの、「設定 (Preferences)」タブで「待機ソケットの追加 (Add Listen Socket)」を選択し、「待機ソケット」の「セキュリティ (Security)」をオンにします。

詳細については、『*Sun ONE Web Server 6.0, Enterprise Edition 管理者ガイド*』の第 5 章、「セキュリティ機能をオンにする」を参照してください。

4. Web サーバーの管理コンソールで「適用」と「変更の適用」をクリックします。
5. Sun ONE Portal Server を再起動します。

```
/etc/init.d/amserver start
```

6. 証明書データベースを取得するためのパスワードの入力が求められます。

この手順は Web サーバーを再起動するたびに行います (/etc/init.d/amserver start を実行します)。

注 再起動するたびにパスフレーズを入力することを回避するため、Web サーバーのパスフレーズを含む .wtpass という名前のファイルを作成し、DSAME-BASEDIR/SUNWam/config ディレクトリに配置します。このファイルを使用せずにセキュリティ保護された Web サーバーのシステムをリブートした場合は、システムコンソールでパスフレーズを入力する必要があります。

7. 次の方法で、SSL を使用して Sun ONE Portal Server にログオンできることを確認します。
 - iPlanet Directory Server Access Management Edition の管理コンソールにログオンするには、次のように入力します。
https://server:port/amconsole

- 。 デスクトップにユーザーとしてログオンするには、次のように入力します。

```
https://server:port/deploy_uri
```

たとえば、次のようになります。

```
https://sesta:80/portal/dt
```

SSL を使用する既存の Sun ONE Portal Server インストールの変更

Sun ONE Portal Server のインストール中に「SSL を *hostname* で SSL を実行しますか?」と質問された場合、「**n**」を入力して、この手順を使用します。詳細については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 インストールガイド*』を参照してください。

1. Log in to the iPlanet Directory Server Access Management Edition admin console as administrator.
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. プラットフォームの隣のプロパティ矢印をクリックします。
プラットフォーム属性がデータ区画に表示されます。
4. サーバーリストの、http を https に変更します。
5. 「保存」を選択して変更を保存します。
6. Web サーバーで証明書をインストールします。

詳細は、270 ページの「Sun ONE Portal Server で SSL を設定する」の手順 1 から手順 4 を参照してください。

7. `server.xml` と `magnus.conf` ファイルを
`/BaseDir/SUNWam/servers/https-hostname-domain/conf_bk` ディレクトリから、`/BaseDir/SUNWam/servers/https-hostname-domain/config` ディレクトリへコピーします。`BaseDir` は iPlanet Directory Server Access Management Edition のベースディレクトリです。
8. 証明書のためのルート CA がインストールされていない場合は、`/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig.properties` ファイルに次の行を追加します。

```
com.iplanet.am.jssproxy.trustAllServerCerts=true
```

このオプションは、証明書が信用できることを JSS に示します。

9. `/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig.properties` ファイルでは、次のことを行うために `http` を `https` に変更します。

```
com.ipplanet.am.server.protocol  
com.ipplanet.am.naming.url  
com.ipplanet.am.notification.url  
com.ipplanet.am.session.server.protocol  
com.ipplanet.services.cdsso.CDCURL  
com.ipplanet.services.cdc.authLoginUrl
```

10. Sun ONE Portal Server を再起動します。

- a. 単一の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/amserver start
```

- b. 複数の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/amserver startall
```

11. 証明書データベースを取得するためのパスワードの入力が求められます。

詳細については、『*Sun ONE Directory Server 5.1 Administrator's Guide*』の第 11 章「Managing SSL」を参照してください。

SSL を使用する Sun ONE Portal Server インスタンスの設定

1. Log in to the iPlanet Directory Server Access Management Edition admin console as administrator.
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
3. プラットフォームの隣のプロパティ矢印をクリックします。
プラットフォーム属性がデータ区画に表示されます。
4. サーバーリストで、`http` を `https` に変更します。
5. 「保存」をクリックして、変更を保存します。

6. Web サーバーで証明書をインストールします。

詳細は、270 ページの「Sun ONE Portal Server で SSL を設定する」の手順 1 から手順 4 を参照してください。

7. このサーバーが複数のインスタンスの一部である場合、`server.xml` および `magnus.conf` ファイルを
`/BaseDir/SUNWam/servers/https-instance_nickname/conf_bk` ディレクトリから `/BaseDir/SUNWam/servers/https-instance_nickname/config` ディレクトリへコピーします。
8. 証明書のためのルート CA がインストールされていない場合は、
`/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig-instance_nickname.properties` ファイルに次の行を追加します。

```
com.ipplanet.am.jssproxy.trustAllServerCerts=true
```

このオプションは、証明書が信用できることを JSS に示します。

9. `/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig-instance_nickname.properties` ファイルでは、次のことを行うために `http` を `https` に変更します。

```
com.ipplanet.am.server.protocol  
com.ipplanet.am.naming.url  
com.ipplanet.am.notification.url  
com.ipplanet.am.session.server.protocol  
com.ipplanet.services.cdssso.CDCURL  
com.ipplanet.services.cdc.authLoginUrl
```

10. Sun ONE Portal Server を再起動します。

- a. 単一の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/amserver start
```

- b. 複数の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/amserver startall
```

11. 証明書データベースを取得するためのパスワードの入力が求められます。

詳細については、『Sun ONE Directory Server 5.1 管理者ガイド』の第 11 章「SSL の管理」を参照してください。

Sun ONE Portal Server の設定のバックアップと復元

Sun ONE Portal Server のユーザーおよびサービス構成は、Directory Server の LDAP Directory Information Tree (DIT) に保存されます。これにより Lightweight Directory Interchange Format (LDIF) ファイルによって、構成情報のバックアップおよび復元ができます。

Sun ONE Portal Server の設定のバックアップ

Sun ONE Portal Server の設定情報のバックアップを作成するには、`db2ldif` コマンドを使用します。このコマンドは、ディレクトリサーバーのベースディレクトリ内にある `slapd-hostname` ディレクトリで使用できます。たとえば、サーバー `sesta` において、ディレクトリサーバーがデフォルトのインストールディレクトリ (`/usr/ldap`) にインストールされた場合、ベースディレクトリは `/usr/ldap/slapd-sesta` になります。

1. ディレクトリを `db2ldif` コマンドを含むディレクトリサーバーのベースディレクトリに変更します。

```
cd DS_BASEDIR/slapd-HOSTNAME
```

2. Sun ONE Portal Server のための DIT の最上位を指定する `-s` オプションとともに `db2ldif` コマンドを使用して、LDIF ファイルに設定を保存します。たとえば、DIT の最上位が `isp` である設定を保存するには、次のように入力します。

```
./db2ldif -s "o=isp"
```

データは LDIF ファイルに保存されます。コマンドは現在のディレクトリにファイルを保存します。次の形式はファイルに名前を付けるために使用されます。

```
YYYY_MM_DD_HHMMSS.ldif
```

ファイルが保存されたあと、出力表示の例は次のようになります。

```
[16/May/2002:14:11:25 -0700] - Backend Instance: userRoot
```

```
ldiffile: /usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif
```

```
[16/May/2002:14:11:28 -0700] - export userRoot: Processed 178 entries (100%).
```

Sun ONE Portal Server の設定の復元

ldif2db コマンドを使用して、db2ldif コマンドによってバックアップを作成した Sun ONE Portal Server の設定情報を復元することができます。このコマンドは、ディレクトリサーバーのベースディレクトリ内にある `slapd-hostname` ディレクトリで使用できます。例えば、サーバー `sesta` において、ディレクトリサーバーがデフォルトのインストールディレクトリ (`/usr/ldap`) にインストールされた場合、ベースディレクトリは `/usr/ldap/slapd-sesta` になります。

1. 次のように入力して、ディレクトリを `ldif2db` コマンドを含むディレクトリサーバーのベースディレクトリに変更します。

```
cd DS_BASEDIR/slapd-HOSTNAME
```

2. 次のように入力して、ディレクトリサーバーを終了します。

```
./stop-slapd
```

3. Sun ONE Portal Server のための DIT の最上位を指定する `-s` オプション、およびファイル名を指定する `-i` オプションとともに `ldif2db` コマンドを使用して、LDIF ファイルからディレクトリサーバーへ設定を復元します。例えば、前の手順で保存された LDIF ファイルを `isp` の DIT の最上位へ復元するには、次のように入力します。

```
./ldif2db -s "o=isp" -i  
/usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif
```

ファイルが復元されたあと、出力表示の例は次のようになります。

```
importing data ...  
[16/May/2002:16:37:02 -0700] - Backend Instance: userRoot  
[16/May/2002:16:37:03 -0700] - import userRoot: Index buffering  
enabled with bucket size 13  
[16/May/2002:16:37:03 -0700] - import userRoot: Beginning import  
job...  
[16/May/2002:16:37:03 -0700] - import userRoot: Processing file  
"/usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif"  
[16/May/2002:16:37:04 -0700] - import userRoot: Finished scanning  
file "/usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif" (178  
entries)  
[16/May/2002:16:37:05 -0700] - import userRoot: Workers finished;  
cleaning up...  
[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot: Workers cleaned  
up.
```

```
[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot: Cleaning up
producer thread...

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot: Indexing
complete. Post-processing...

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot: Flushing
caches...

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot: Closing files...

[16/May/2002:16:37:09 -0700] - import userRoot: Import complete.
Processed 178 entries in 6 seconds. (29.67 entries/sec)
```

4. 次のように入力して、ディレクトリサーバーを再起動します。

```
./start-slapd
```

Sun ONE Portal Server のネットワーク設定の変更

Sun ONE Portal Server ソフトウェアを実行するサーバーをネットワーク間で物理的に移動する場合、`/etc/hosts` ファイルで IP アドレスをマッピングする完全修飾ドメイン名のみを変更する必要があります。変更する必要のあるハードコードされたアドレスは他にありません。

複数の UI ノードインストールの管理

複数の UI ノードに Sun ONE Portal Server ソフトウェアをインストールする場合は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールでプラットフォームの属性に構成の変更を加える必要があります。「サーバーリスト」属性を編集して、それぞれの UI ノードに URL を組み込みます。

iPlanet Directory Server Access Management Edition ネーミングサービスは、初期化時に「サーバーリスト」属性を読み込みます。このリストは、単一の iPlanet Directory Server Access Management Edition 構成に iPlanet Directory Server Access Management Edition セッションサーバーを含んでいます。たとえば、2つの iPlanet Directory Server Access Management Edition サーバーがインストールされ、1つのサーバーとして動作する場合、それらは両方ともこのリストに含ま

れる必要があります。サービス URL の要求で指定されたホストがこのリストにならない場合、ネーミングサービスは要求を拒否します。リストの最初の値は、ホスト名およびインストール中に指定されたサーバーのポートを指定します。追加のサーバーは、`protocol://server:port` 形式を使用して追加することができます。

サーバーリストへの Portal Server の追加

1. Log in to the iPlanet Directory Server Access Management Edition admin console as administrator.
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
グローバルサービスがナビゲーション区画に表示されます。
3. プラットフォームの隣のプロパティ矢印をクリックします。
プラットフォーム属性がデータ区画に表示されます。
4. 「サーバーリスト」属性を編集します。
UI ノードとして機能しているサーバーごとに、`http://host1.sesta.com:80` などのサーバー URL を入力し、「追加」ボタンを選択します。その結果、「サーバーリスト」に URL が表示されます。
5. 「保存」をクリックします。

HTTP プロキシを使用する Sun ONE Portal Server のインスタンスの設定

Sun ONE Portal Server ソフトウェアを、インターネットまたはイントラネットの特定の部分に直接アクセスできないホストにインストールした場合、HTTP プロキシを使用するようにインスタンスを設定できます。

1. 次のように入力して、ディレクトリをインスタンスの設定を含むディレクトリサーバーのベースディレクトリに変更します。

```
cd /BaseDir/SUNWam/servers/https-hostname-domain/config
```

2. このディレクトリ内の `jvm12.conf` を編集し、次の行を追加します。

```
http.proxyHost=proxy_host  
http.proxyPort=proxy_port
```

`proxy_host` にはプロキシホスト名の完全修飾ドメイン名を指定します。
`proxy_port` はプロキシを実行するポート番号です。

Sun ONE Portal Server ログの管理

Sun ONE Portal Server ログGINGを設定して、フラットファイルまたはデータベースへログ情報を記録することができます。データベースにログを記録する場合、JDBC プロトコルが使用されます。

ファイルにログを記録する設定

1. Log in to the iPlanet Directory Server Access Management Edition admin console as administrator.
2. 「サービス管理」を選択して、「サービス管理」に移動します。
グローバルサービスがナビゲーション区画に表示されます。
3. ログGINGの隣のプロパティ矢印をクリックします。
データ区画に「ログGING」属性が表示されます。
4. 「ログGINGタイプ」属性としてファイルを選択します。
5. 「ログの位置」属性にログファイル用のディレクトリパスを指定します。
6. 「最大ログサイズ」属性に、ログファイル用のファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。
7. 「履歴ファイルの数」属性に、バックアップログの数を指定します。
8. 「保存」をクリックします。

データベースにログを記録する設定

1. Log in to the iPlanet Directory Server Access Management Edition admin console as administrator.

2. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
グローバルサービスがナビゲーション区画に表示されます。
3. ナビゲーション区画の「ロギング」サービスの横にあるプロパティの矢印をクリックします。
データ区画に「ロギング」属性が表示されます。
4. 「ロギングタイプ」属性として JDBC を選択します。
5. 「データベースユーザー名」および「データベースユーザーパスワード」属性に、データベースに接続するユーザー名およびパスワードを指定します。
6. 「データベースドライバ名」属性に、ロギング用に使用するドライバを指定します。
7. 「保存」をクリックします。

Sun ONE Portal Server のデバッグ

この節では、デバッグのレベルを設定して、Sun ONE Portal Server のさまざまなコンポーネントの問題を解決する方法を説明します。

iPlanet Directory Server Access Management Edition のデバッグレベルの設定

デバッグのレベルにより、デバッグログに送信されたメッセージの種類を定義することができます。次のレベルを使用できます。

- **off** - メッセージはデバッグログに送信されない
- **error** - エラーメッセージがデバッグログに送信される
- **warning** - 警告およびエラーメッセージがデバッグログに送信される
- **message** - ステータス、警告およびエラーメッセージがデバッグログに送信される

デフォルトでは、デバッグメッセージは `/var/opt/SUNWam/debug` ディレクトリのログファイルに送信されます。

デバッグのレベルを設定するには、次の手順を行います。

1. `/opt/SUNWam/lib/AMConfig.properties` ファイルの次の行で、デバッグのレベルを定義します。
`com.ipplanet.services.debug.level=value`
2. Sun ONE Portal Server を再起動します。
`/etc/init.d/amserver start`
3. Sun ONE Web Server のログファイルと、`/var/opt/SUNWam/debug` に格納されているさまざまなログファイルを調べます。

コマンド行ユーティリティ

Sun™ ONE Portal Server 製品は、グラフィカルユーザインタフェースに加えて一連のコマンド行ユーティリティを提供します。

コマンド行ユーティリティは表 12-1 に一覧表示されています。また、これらのコマンド行ユーティリティは、管理タスクだけに適用します。次の表では、コマンド名とその説明を一覧表示します。

表 12-1 Sun ONE Portal Server コマンド行ユーティリティ

コマンド	説明
dpadmin	ディスプレイプロファイルオブジェクトの取得、追加、変更は、ディスプレイプロファイルドキュメントからの削除ができません。
par	チャンネルとプロバイダを移動するための .par ファイルに関係する機能を実行します。
rwadmin	管理者によるリライターデータの管理を有効にします。
rdmgr	検索サーバに必要なすべての機能を実行し、リソース記述および検索データベースと連動します。
sendrdm	CGI またはコマンド行ベースの検索メカニズムを提供します。
StartRobot	ロボットの Web 検索 (巡回) を起動します。

iPlanet™ Directory Server Access Management Edition 管理用のコマンド行インタフェース `amadmin` も使用できます。`amadmin` ツールの主な目的は、管理者が Directory Server 上で実行するバッチ管理処理を支援することです。たとえば、新しいサービスの作成、登録、有効化、および組織、ピープルコンテナ、グループ、ロール、ユーザーの作成、削除、読み取り (取得) を支援します。詳細については、『*iPlanet Directory Server Access Management Edition 5.1 プログラマーズガイド*』を参照してください。

dpadmin

説明

`dpadmin` コマンドとサブコマンドを使用することで、ディスプレイプロファイルオブジェクトを取得、追加、変更、ディスプレイプロファイルドキュメントから削除できます。ディスプレイプロファイルオブジェクトとの対話は、すべてネイティブ XML フォーマットにする必要があります。`dpadmin` コマンドでは、単一の表示プロファイルドキュメントでのみ操作できます。

`dpadmin` コマンドには次の項目が必要です。

- サブコマンド (「サブコマンド」を参照)。
- ディレクトリサーバーにアクセスするためのユーザー識別名およびパスワード。
- 対象となっている表示プロファイルドキュメント。
- グローバルレベルのディスプレイプロファイルドキュメント用の LDAP ノードまたは `--global (-g)` オプションを識別するための識別名。

注 表示プロファイルドキュメントは、`-d` または `-g` オプションにより一意に識別されます。

グローバル: `-g`

組織: `-d "o=sesta.com,o=isp"`

サブ組織: `-d "o=org1,o=sesta.com,o=isp"`

ロール: `-d "cn=role1,o=sesta.com,o=isp"`

ユーザー: `-d "uid=user1,ou=people,o=sesta.com,o=isp"`

構文

この節では、dpadmin コマンド構文について説明します。長い名前のオプションと短い名前のオプションを、1つのコマンド行に同時に使用することはできません。

短い名前の形式

```
$ dpadmin list|modify|add|remove [command-specific options] -u uid
-w password {-g|-d dn} [-l locale] [-r] [-b] [-h] [file]
$ dpadmin batch [-c] -f batch-script-filename [-l locale] [-b] [-h]
```

長い名前の形式

```
$ dpadmin list|modify|add|remove [command-specific options] --runasdn uid
--password password [--global|--dn dn] [--locale locale] [--dryrun]
[--verbose] [--help] [file]
$ dpadmin --version
$ dpadmin batch [--continue] --file batch-script-filename [--locale locale]
[--verbose] [--help]
```

サブコマンド

dpadmin コマンドには次のようなサブコマンドがあります。

- list

- modify
- add
- remove
- batch

list

説明

このサブコマンドを使用して、指定されたディスプレイプロファイルドキュメントから、特定のディスプレイプロファイルノードオブジェクトを取得します。ディスプレイプロファイルノードオブジェクトが何も指定されていない場合は、ディスプレイプロファイルドキュメント全体が取得されます。ディスプレイプロファイルオブジェクトは、ネイティブ XML フォーマットで標準出力に表示されます。

list サブコマンドには次のようなオプションがあります。

- `-u` または `--runasdn`、および `-w` または `--password` オプションをそれぞれ使用して、LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名とパスワードを指定します。これらのオプションは必須です。
- グローバルレベルノードの場合は `-g` または `--global` オプション、特定の非グローバルレベルノードの場合は `-d` あるいは `--dn` オプションとともに、表示するためのディスプレイプロファイルノードオブジェクトを指定します。`-g` または `-d` オプションは必須です。コマンド固有の `-n` または `--name` オプションが存在しない場合は `-d` または `--dn` オプションは、ディスプレイプロファイルドキュメント全体を表示します。`-g` または `--global` オプションは、ルートディスプレイプロファイルドキュメント全体を表示します。
- `-n` または `--name` オプションは、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトの名前を指定する。
- `-r` または `--dryrun` オプション。このオプションはサブコマンド `dryrun` または `test` を実行します。`-r` または `--dryrun` オプションで実行されたサブコマンドは、サブコマンドのエラーまたは成功を `sysout` に報告しますが、LDAP のサブコマンド変更は行いません。

構文

```
$ dpadmin list -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-n|--name name] [-r|--dryrun]
$ dpadmin list -h|--help
```

オプション

表 12-2 ではサポートされるオプションを説明します。list サブコマンドで使用できるオプション、引数、またはオペランドとその簡単な説明が示されています。

表 12-2 list サブコマンドオプション

引数 / オペランド	説明
-d または --dn	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定します。-d または -g オプションは必須です。
-g または --global	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定します。-d または -g オプションは必須です。
-n または --name	表示するディスプレイプロファイルコンテナ、チャンネルまたはプロバイダオブジェクトの完全修飾名を指定します。このオプションは必須ではありません。
-r または --dryrun	サブコマンドのエラーまたは成功を sysout に報告するが、サブコマンドの最終的な変更を LDAP に保存しません。このオプションは任意です。
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定します。このオプションは必須です。
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定します。このオプションは必須です。

例

例 1

```
$ dpadmin list -n TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"
```

この例では o=sesta.com 組織ノードから、TemplateTableContainer オブジェクトを取得し、標準出力に出力します。

例 2

```
$ dpadmin list -n mailcheck -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -g
```

この例ではグローバルレベルで、mailcheck オブジェクトを取得し取得できた場合に標準出力に出力します。

例 3

```
$ dpadmin list -n TemplateTableContainer/Bookmark2 -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"
```

この例ではコンテナ `TemplateTableContainer` にある `Bookmark2` というチャンネルを取得し、標準出力に出力します。

modify**説明**

このサブコマンドは、既存のディスプレイプロファイルオブジェクトの値を変更します。標準入力またはコマンドの引数に指定されたファイルから、オブジェクト用のデータを読み取ります。

この XML データには、変更するディスプレイプロファイルオブジェクトを一意に定義する一連の名前と適切な XML ヘッダーが必要になります。適切な XML ヘッダーの例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
```

`modify` サブコマンドの動作は、変更されるディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。`combine` オプションを指定すると、ディスプレイプロファイルオブジェクト内の新しい (プロパティなどの) エレメントが、既存のエレメントを置き換えるのではなく、既存のエレメントと結合されます。

`modify` サブコマンドの種類には、次のものがあります。

- ディスプレイプロファイル – ディスプレイプロファイルドキュメント全体を、ファイルを使用して指定した新しいオブジェクト値に変更できます。`combine` オプションを指定すると、ディスプレイプロファイルドキュメント内の各ディスプレイプロファイルオブジェクトが再帰的に結合されます。各ディスプレイプロファイルオブジェクトに対して `combine` オプションがどのように機能するかの詳細については、以下を参照してください。
- チャンネルまたはコンテナ – チャンネルまたはコンテナを新しいオブジェクト値に変更できます。チャンネルまたはコンテナを変更する場合、`parent` オプションの指定によって次のように処理されます。
 - `parent` オプションが指定されている場合、新しいディスプレイプロファイルオブジェクト名に一致するチャンネルまたはコンテナで、指定された親コンテナが検索されます。検出されると、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられます。

- **parent** オプションがない場合、ルートディスプレイプロファイルオブジェクトが親コンテナとして扱われます。したがって、新しいディスプレイプロファイルオブジェクト名に一致するチャンネルまたはコンテナで、ルートディスプレイプロファイルオブジェクトが検索されます。検出されると、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられます。

combine オプションを指定すると、プロパティ、使用可能、選択済みの既存オブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合されます。

- プロパティ – ディスプレイプロファイルオブジェクトのプロパティを新しい値に変更できます。ディスプレイプロファイルオブジェクトのプロパティを変更するには、**parent** オプションが必要です。指定した名前に一致するディスプレイプロファイルノードオブジェクト (チャンネルまたはコンテナ) またはディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトが、指定した **parent** オプションで検索されます。検出されると、オブジェクトのプロパティオブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられます。**combine** オプションを指定すると、既存のプロパティが新しい表示プロファイルオブジェクトと結合されます。
- 使用可能または選択済み – コンテナ内の「使用可能」リストまたは「選択済み」リストは、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと置き換えることができます。このタイプのディスプレイプロファイルオブジェクトを変更するには、**parent** オプションが必要です。親の名前に一致するディスプレイプロファイルコンテナが検索されます。次に、選択済みまたは使用可能オブジェクトが、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられます。**combine** オプションを指定すると、既存の選択済みまたは使用可能オブジェクトが、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合されます。
- 文字列、論理値、整数、集合、またはロケール – ディスプレイプロファイルオブジェクト内の文字列、論理値、整数、集合、またはロケールのプロパティが、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトプロパティと置き換えられます。

parent オプションを指定すると、指定した名前に一致するディスプレイプロファイルノード (チャンネルまたはコンテナ) またはディスプレイプロファイルプロバイダがこの順に検索されます。検出されると、新しいプロパティの名前に一致するプロパティが検索されます。また、ディスプレイプロファイルオブジェクト内のプロパティが、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトプロパティで置き換えられます。

parent オプションが指定されていない場合は、ディスプレイプロファイルのルートノードが使用され、そのルートノードでプロパティが挿入されます。

combine オプションを指定すると、既存の集合またはロケールオブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合されます。文字列、論理値および整数などの不可分なディスプレイプロファイルプロパティでは、combine オプションはサポートされません。

文字列、論理値、および整数などの不可分なディスプレイプロファイルプロパティには、名前は必要ありません。名前をつけないと、値の文字列表記が名前になります。たとえば、次の2つの表示プロファイル整数オブジェクトは、同じ名前になります。

```
<Integer value="3"/>
```

```
<Integer name="3" value="4"/>
```

- プロバイダ - 既存のディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトは、同じ名前のディスプレイプロファイルプロバイダと置き換えることができます。新しいディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトの名前と一致するディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトが、ディスプレイプロファイルのルートノード内で検索されます。検出されると、新しいディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトが、ディスプレイプロファイルのルートオブジェクトの下に挿入され、同じ名前の既存のディスプレイプロファイルプロバイダが置き換えられます。プロバイダは暗黙的にコンテナであるルートノードにだけ存在するので、parent オプションを指定する必要はありません。

modify サブコマンドには次のオプションがあります。

- -u または --runasdn、および -w または --password オプションをそれぞれ使用して、LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名とパスワードを指定します。これらのオプションは必須です。
- グローバルレベルノードの場合は -g または --global オプション、特定の非グローバルレベルノードの場合は -d あるいは --dn オプションとともに、表示するためのディスプレイプロファイル ノードオブジェクトを指定します。-g または -d オプションは必須です。コマンド固有の -n または --name オプションが存在しない場合は -d または --dn オプションは、ディスプレイプロファイルドキュメント全体を表示します。-g または --global オプションは、ルートディスプレイプロファイルドキュメント全体を表示します。
- file 引数は入力 XML ファイル名。この引数はオプションです。XML 入力を使用しない場合、標準入力から使用されます。
- -p または --parent オプションは変更される表示プロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定する。

- `-r` または `--dryrun` オプション。このオプションはサブコマンド `dryrun` または `test` を実行します。`-r` または `--dryrun` オプションで実行されたサブコマンドは、サブコマンドのエラーまたは成功を `sysout` に報告しますが、LDAP のサブコマンド変更は行いません。
- `-m` または `--combine` オプション。このオプションは表示プロファイルオブジェクトのマージを実行します。

構文

```
$ dpadmin modify -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-p|--parent parent] [-r|--dryrun]
[-m|--combine] file|<<EOF

$ dpadmin modify -h|--help
```

dpadmin modify コマンドへのデータは、ファイルまたはコマンドに続く XML フラグメントとして標準入力から提供されます。

オプション

表 12-3 はサポートされるオプションを説明します。modify サブコマンドで使用できるオプション、引数、またはオペランドとその簡単な説明が示されています。

表 12-3 modify サブコマンドオプション

引数 / オペランド	説明
<code>-d</code> または <code>--dn</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定します。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須です。
<code>-g</code> または <code>--global</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定します。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須です。
<i>file</i>	XML フラグメントが含まれる XML ファイルのパスを指定します。 <i>file</i> 引数が指定されている場合、コマンド行の最後の引数にする必要があります。XML フラグメントは表示プロファイル DTD に適合する必要があります。modify サブコマンドに <i>file</i> 引数が指定されていない場合、入力を標準入力から dpadmin にリダイレクトする必要があります。
<code>-m</code> または <code>--combine</code>	指定されたディスプレイプロファイルオブジェクトを、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合します。combine オプションとともに使用できるのは、表示プロファイルルート、チャンネル、コンテナ、プロパティ、使用可能、選択済み、集合、およびロケールの表示プロファイルオブジェクトだけです。このオプションは任意です。

表 12-3 modify サブコマンドオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-p または --parent	変更されるディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定します。このオプションは任意です。
--r または --dryrun	サブコマンドのエラーまたは成功を <code>sysout</code> に報告しますが、サブコマンドの最終的な変更を LDAP に保存しません。このオプションは任意です。
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定します。このオプションは必須です。
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定します。このオプションは必須です。

例

例 1

```
$ dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp" <<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Channel name="NewNews" provider="newsprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="News Channel"/>
    <String name="description" value="This channel is all about
news"/>
  </Properties>
</Channel>
EOF
```

この例では、コンテナ `TemplateTableContainer` にあるチャンネル `NewNews` を標準入力の XML テキストとして指定された値と変更または置き換えます。

例 2

```
$ dpadmin modify -p TemplateTableContainer/NewNews -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp" farble.xml
```

この例では、farble.xml でネーミングされたプロパティを farble.xml の新しいオブジェクトに置き換えます。farble.xml には次のものが含まれます。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<String name="welcome" value="Hi, welcome to farble land!!!!"/>
```

例 3

```
$ dpadmin list -n TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"
...
<Collection name="news">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg" value="hi"/>
  </Collection>
</Collection>
...
$ dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d "o=sesta.com,o=isp" -m
<<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="news">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
EOF
$ dpadmin list -n TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d "o=sesta.com,o=isp"
...
<Collection name="news">
  <Collection name="bar">
```

```

    <String name="msg" value="hi"/>
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
...

```

この例では、combine オプションを使用して、新しいプロパティ msg2 を、集合 bar に追加します。既存のプロパティ msg が結果として残っていることを確認します。

例 4

```
$ dpadmin list -n test -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp"
-w joshua -d "o=sesta.com,o=isp"
```

```

<Container name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="test"/>
  </Properties>
  <Available/>
  <Selected/>
  <Channels>
    <Channel name="test1" provider="test1provider">
      <Properties>
        <Collection name="news">
          <String name="msg1" value="blah"/>
          <Collection name="bar">
            <String name="msg2" value="hi"/>
          </Collection>
        </Collection>
      </Properties>
    </Channel>
  </Channels>
</Container>

$ dpadmin modify -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w
joshua -d "o=sesta.com,o=isp" -m <<EOF

```

```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Container name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Test Container"/>
  </Properties>
  <Available>
    <Reference value="test1"/>
  </Available>
  <Selected>
    <Reference value="test1"/>
  </Selected>
  <Channels>
    <Channel name="test1" provider="test1provider">
      <Properties>
        <Collection name="news">
          <String name="msg1" value="123"/>
          <Collection name="bar">
            <String name="msg3" value="123"/>
          </Collection>
        </Collection>
      </Properties>
    </Channel>
  </Channels>
</Container>
EOF
$ dpadmin list -n test -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp"
-w joshua -d "o=sesta.com,o=isp"
<Container name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Test Container"/>

```

```

</Properties>
<Available>
  <Reference value="test1"/>
</Available>
<Selected>
  <Reference value="test1"/>
</Selected>
<Channels>
  <Channel name="test1" provider="test1provider">
    <Properties>
      <Collection name="news">
        <String name="msg1" value="123"/>
        <Collection name="bar">
          <String name="msg2" value="hi"/>
          <String name="msg3" value="123"/>
        </Collection>
      </Collection>
    </Properties>
  </Channel>
</Channels>
</Container>

```

この例では、title および msg1 の値が、新しい値で置き換えられます。Available および Selected の両方に、Reference value が追加されました。news 集合が msg3 を追加しました。この例では、必要に応じて結合および置き換えを行うために、-m または combine オプションを modify サブコマンドとともに使用できることを示しています。

add

説明

このサブコマンドは、ディスプレイプロファイルに新しいディスプレイプロファイルオブジェクトを追加します。このサブコマンドを使用するには、追加されるオブジェクトが、ディスプレイプロファイルに存在しない必要があります。add サブコマンドは、標準入力またはコマンドの引数に指定されたファイルから、新しいオブジェクト用のデータを読み取ります。新しいオブジェクト用のデータは、XML であり、Sun ONE Portal Server ディスプレイプロファイル DTD に適合する必要があります。

この XML データには、変更するディスプレイプロファイルオブジェクトを一意に定義する一連の名前と適切な XML ヘッダーが必要になります。適切な XML ヘッダーの例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
```

注

付録 B には、表示プロファイル DTD が含まれます。

add サブコマンドの動作は、追加されるディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。add サブコマンドの種類には次のものがあります。

- ディスプレイプロファイル - ディスプレイプロファイルドキュメント全体を指定した LDAP ノードに追加できます。ドキュメントがすでにノードにある場合は、エラーが報告されます。新しいディスプレイプロファイルドキュメントを追加する場合は、parent オプションを指定しないでください。
- チャネルまたはコンテナ - チャネルまたはコンテナを追加できます。parent オプションが存在する場合、親ディスプレイプロファイルオブジェクトは親コンテナ内を特定の名前で検索され、指定されたチャネルまたはコンテナが追加されます。parent オプションがない場合、親ディスプレイプロファイルオブジェクトはディスプレイプロファイルのルートオブジェクトとみなされ、ルートの下に指定されたチャンネルまたはコンテナオブジェクトが追加されます。
- プロパティ - すべてのディスプレイプロファイルノードおよびディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトに対して、プロパティバンドルが必要であるために、それらはすでに存在し、新たに追加することはできません。modify サブコマンドを使用します。

- 使用可能または選択済み - ディスプレイプロファイルコンテナに対して、使用可能または選択済みオブジェクトが必要であるため、それらのオブジェクトはすでに存在し、新たに追加することはできません。modify サブコマンドを使用します。
- 文字列、論理値、整数、集合、またはロケール - ディスプレイプロファイルオブジェクト内の文字列、論理値、整数、集合、ロケールのプロパティは追加することができます。このタイプの表示プロファイルオブジェクトを追加するには、parent オプションを指定する必要があります。指定された parent オプション内で、名前が一致するディスプレイプロファイルノードオブジェクト (チャンネルまたはコンテナ) またはディスプレイプロファイルプロバイダがこの順に検索されます。見つかり、指定されたディスプレイプロファイルプロパティが、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトまたはディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトに追加されます。

文字列、論理値、および整数などの不可分なディスプレイプロファイルプロパティには、名前は必要ありません。名前をつけないと、値の文字列表記が名前になります。

- プロバイダ - ディスプレイプロファイルプロバイダがルートノードの下に挿入されます。プロバイダはルートノードにだけ存在するので、parent オプションを使用しないでください。同じ名前のオブジェクトがすでに存在する場合は、エラーが報告されます。

add サブコマンドには次のオプションがあります。

- -u または --runasdn、および -w または --password のそれぞれのオプションを使用して、LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名およびパスワードを指定します。これらのオプションは必須です。
- 追加するディスプレイプロファイルドキュメント、またはオブジェクトを追加する必要があるディスプレイプロファイルドキュメント (-d または --dn オプション)。-g または --global オプションを使用してグローバルレベルノードで定義された、追加するためのディスプレイプロファイルオブジェクト。-g または -d オプションは必須です。
- 入力 XML 入力が含まれるファイル名 (file 引数)。
- 追加される、または追加先になるディスプレイプロファイルノードオブジェクトの親の完全修飾名 (-p または --parent オプション)。
- -r または --dryrun オプション。このオプションはサブコマンド dryrun または test を実行します。-r または --dryrun オプションで実行されたサブコマンドは、サブコマンドのエラーまたは成功を sysout に報告しますが、LDAP のサブコマンド変更は行いません。

構文

```
$ dpadmin add -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-p|--parent parent] [-r|--dryrun]
file<<EOF
```

```
$ dpadmin add -h|--help
```

dpadmin add コマンドへのデータは、ファイルまたはコマンドにつづく XML フラグメントとして標準入力から提供されます。

オプション

表 12-4 はサポートされるオプションを説明します。add サブコマンドで使用できるオプション、引数、またはオペランドとその簡単な説明が示されています。

表 12-4 add サブコマンドオプション

引数/オペランド	説明
-d または --dn	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定します。-d または -g オプションは必須です。
-g または --global	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定します。-d または -g オプションは必須です。
<i>file</i>	XML フラグメントが含まれる XML ファイルのパスを指定します。 <i>file</i> 引数が指定される場合、コマンド行の最後の引数にする必要があります。XML フラグメントは表示プロファイル DTD に適合する必要があります。add サブコマンドに <i>file</i> 引数がない場合、標準入力からの dpadmin にリダイレクトする必要があります。
-p または --parent	変更されるディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定します。このオプションは任意です。
--r または --dryrun	サブコマンドのエラーまたは成功を sysout に報告しますが、サブコマンドの最終的な変更を LDAP に保存しません。このオプションは任意です。
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定します。このオプションは必須です。
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定します。このオプションは必須です。

例

```
$ dpadmin add -p SampleTabPanelContainer/Postal -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp" <<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="zipCodes">
  <Integer value="98012"/>
  <Integer value="98036"/>
  <Integer value="94025"/>
  <Integer value="95112"/>
</Collection>

EOF
```

この例では、標準入力に指定された `zipCodes` という名前の集合プロパティを、`SampleTabPanelContainer` という名前のコンテナにある `Postal` という名前のチャンネルに追加します。

remove**説明**

このサブコマンドは、既存のディスプレイプロファイルオブジェクトを、ディスプレイプロファイルから削除します。削除するオブジェクトが指定したディスプレイプロファイルドキュメントに存在しないと、エラーが報告されます。このサブコマンドは、`type`、`parent`、および `name` オプションを使用します。

`type` オプションは、削除するディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプを指定します。`parent` オプションは、削除するディスプレイプロファイルオブジェクトの親ディスプレイプロファイルオブジェクトの完全修飾名を指定します。親ディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプは、削除されるディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。`name` オプションは、削除するオブジェクトの名前を指定します。

`parent` および `name` オプションの動作は、削除されるディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。表 12-5 タイプオプションで使用できる値とどのオブジェクトが削除されるかの簡単な説明が示されています。

表 12-5 dpadmin remove の parent および name の動作

type オプションの値	parent および name オプションの動作
ルート	このオプションを使用して、指定された識別名オプション、または <code>-g (--global)</code> オプションが指定されている場合はグローバルレベルディスプレイプロファイルにより、指定された LDAP ノードからディスプレイプロファイルドキュメント全体を削除します。type=root の場合は、name オプションは必要ありません。
channel	name オプションは必須です。parent オプションがない場合、親コンテナがディスプレイプロファイルのルートノードとみなされます。そうでない場合は、parent オプションで削除するチャンネルの親コンテナ名とみなされます。name オプションで、削除するチャンネルまたはコンテナの名前を指定します。
provider	サンプルのポータルでは、プロバイダはディスプレイプロファイルのルートノードの下にあるので、parent オプションを指定しないでください。name オプションは必須で、これにより削除するプロバイダを指定します。
property	parent オプションは、プロパティの削除元の親表示プロファイルノードまたはディスプレイプロファイルプロバイダの名前を指定します。parent オプションがない場合、ディスプレイプロファイルのルートノードが親オブジェクトとみなされます。 name オプションは、削除するプロパティの名前を指定します。name オプションがない場合は、エラーが報告されます。ディスプレイプロファイルプロパティに名前が付けられていないと、値の文字列表記が名前になります。
available または selected	parent および name オプションの両方が必要です。parent オプションは、使用可能または選択済みリファレンスの削除元の親表示プロファイルコンテナまたはチャンネルオブジェクトの名前を指定すると予想されます。name オプションは、削除されるリファレンスの値を与えます。name オプションがない場合は、エラーが報告されます。

remove サブコマンドには次のオプションがあります。

- `-u` または `--runasdn` および `-w` または `--password` のそれぞれのオプションを使用して、LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名とパスワードを指定します。これらのオプションは必須です。

- `-n` または `--name` オプションは削除するための、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトの名前を指定します。`type=root` の場合以外は、このオプションは必須です。
- `-d (--dn)` または `-g (--global)` オプションを使用して、削除するオブジェクトを含むディスプレイプロファイルドキュメントが置かれている LDAP データベースの表示プロファイルドキュメントノードオブジェクトを指定します。`-d (--dn)` または `-g (--global)` オプションのどちらかが必要です。
- `-t` または `--type` オプションは削除するための、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトのタイプを指定します。このオプションは必須です。
- `-p` または `--parent` オプションは削除されるディスプレイプロファイルノードオブジェクトの親の完全修飾名を指定します。
- `-r` または `--dryrun` オプション。このオプションはサブコマンド `dryrun` または `test` を実行します。`-r` または `--dryrun` オプションで実行されたサブコマンドは、サブコマンドのエラーまたは成功を `sysout` に報告しますが、LDAP のサブコマンド変更は行いません。

構文

```
$ dpadmin remove -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-n|--name name] [-p|--parent
parent] [-r|--dryrun] -t|--type type

$ dpadmin remove -h|--help
```

オプション

表 12-6 はサポートされるオプションを説明します。remove サブコマンドで使用できるオプション、引数、またはオペランドとその簡単な説明が示されています。

表 12-6 remove サブコマンドオプション

引数 / オペランド	説明
<code>-d</code> または <code>--dn</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする識別名を LDAP ノードに指定します。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須です。
<code>-g</code> または <code>--global</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定します。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須です。
<code>-n</code> または <code>--name</code>	削除するディスプレイプロファイルコンテナ、チャンネルまたはプロバイダオブジェクトを指定します。 <code>type=root</code> の場合以外は、このオプションは必須です。

表 12-6 remove サブコマンドオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-p または --parent	削除するディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定します。
-t または --type	削除されているディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプを指定します。このオプションは必須ではありません。
-r または --dryrun	サブコマンドのエラーまたは成功を <code>sysout</code> に報告しますが、サブコマンドの最終的な変更を LDAP に保存しません。このオプションは任意です。
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定します。このオプションは必須です。
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定します。このオプションは必須です。

例

例 1

```
$ dpadmin remove -t property -p Bookmarks -n locations -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"
```

この例では、Bookmarks という名前のチャンネルまたはコンテナから locations という名前のプロパティを削除します。

例 2

```
$ dpadmin remove -t provider -n "test1" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -g
```

グローバル表示プロファイルから、プロバイダ test1 を削除します。

例 3

```
$ dpadmin remove --type channel --parent TemplateTableContainer
--name "Test" --runasdn "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp"
--password joshua --dn "o=sesta.com,o=isp"
```

この例では、TemplateTableContainer という名前の親コンテナ内に存在する Test という名前のチャンネルを削除します。

例 4

```
$ dpadmin list -n X -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w
joshua -d "o=sesta.com,o=isp"
```

```

<Container name="X" ...>
  <Channels>
    <Container name="Y" ...>
      <Channels>
        <Channel name="z" .../>
      </Channels>
    </Container>
  </Channels>
</Container>

```

チャンネル z を削除するには、次のコマンドのどれかを実行します。

```

$ dpadmin remove -t channel -p X -n Y/z -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"

$ dpadmin remove -t channel -p X/Y -n z -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"

$ dpadmin remove -t channel -n X/Y/z -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"

```

batch

説明

batch サブコマンドを使用すると、複数の表示プロファイルコマンドの処理を最適の方法で実行できます。サブコマンドはバッチスクリプトファイル(必須)に一覧表示され、連続して実行されます。エラーが発生すると、デフォルトではエラーが報告されて終了します。-c または --continue オプションは、連続プロセスモードを示します。このモードでは、エラーが発生すると報告されて、次のサブコマンドの dpadmin を継続します。

コマンドバッチスクリプトはテキスト (ASCII) ファイルにする必要があります。また batch サブコマンドを除き、dpadmin に入力するためのサブコマンドをいくつでも含めることができます。サブコマンドは 1 行で入力する必要があります(改行文字はコマンドの終わりを示します)。各サブコマンドには、コマンド行に管理者の識別名およびパスワードを指定する必要があります。サブコマンドの構文は、

dpadmin 部分を除いて、サブコマンドを直接シェルに入力した場合とまったく同じになります。スクリプトには XML を含めることができません。したがって、XML 入力を必要とするサブコマンドではファイルに含める必要があります。識別名 (DN) がスペースを含む場合は、前後を二重引用符で囲みます。

次はバッチスクリプトファイルの例です (各コマンドは 1 行)。

```
add -p PostalMailer -u uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp -w
joshua -d o=sesta.com,o=isp zipCodes.xml

add -p PostalStamps -u uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp -w
joshua -d o=sesta.com,o=isp zipCodes.xml

add -p PostalRates -u uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp -w
joshua -d "cn=hr role,o=sesta.com,o=isp" zipCodes.xml

modify -p PostalMailer -u uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp
-w joshua -d o=sesta.com,o=isp farble.xml
```

batch サブコマンドには `-c` または `--continue` オプションがあります、`-f` または `--file` を使用して指定したバッチスクリプトファイルの名前が必要です。

構文

```
$ dpadmin batch [-c|--continue] -f|--file batch-script-file
$ dpadmin batch -h|--help
```

オプション

305 ページの表 12-7 はサポートされるオプションを説明します。batch サブコマンドで使用できるオプション、引数、またはオペランドとその簡単な説明が示されています。

表 12-7 batch サブコマンドオプション

引数 / オペランド	説明
<code>-c</code> または <code>--continue</code>	連続操作モードを示します。エラーが報告されますが、オプションが指定されると、次のサブコマンドを使って dpadmin を継続します。デフォルトでは、エラーを報告したあと dpadmin が終了します。
<code>-f</code> または <code>--file</code>	バッチスクリプトファイルを指定します。この引数は必須です。

オプション

表 12-8 はサポートされる dpadmin コマンドオプションを要約したものです。この表では、小見出しにサブコマンドが表示してあります。この表には使用できるオプション、引数、またはオペランドとその簡単な説明が示されています。

表 12-8 dpadmin コマンドオプション

引数 / オペランド	説明
--version	バージョン、通知、その他の情報など、ユーティリティに関する説明を標準出力に出力します。このオプションが存在すると、すべてのサブコマンドおよびほかのオプションが無視されます。

すべてのサブコマンドに共通のオプション

- b または --verbose デバッグメッセージを追加生成します。
- h または --help 簡単なヘルプページを標準出力に出力します。サブコマンドがない場合は、dpadmin の汎用ヘルプページが出力されます。dpadmin サブコマンドの 1 つが存在すると、サブコマンドに特定の短いヘルプページが出力されます。
- l または --locale すべてのデバッグ / エラーメッセージを指定されたロケールでローカライズします。指定されていないと、デフォルトでシステムロケールになります。

list、add、modify、および remove サブコマンドオプション

- d または --dn ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定します。-d または -g オプションは必須です。
- g または --global 表示プロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定します。-d または -g オプションは必須です。
- r または --dryrun サブコマンドのエラーやサブコマンドが正常に機能していることを標準出力に出力します。サブコマンドによる変更結果を LDAP 内に反映しません。
- u または --runasdn Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。この引数は、list、modify、add、および remove サブコマンドでだけ使用されます。このオプションは必須です。
- w または --password Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定します。このオプションは必須です。

list および remove サブコマンドオプション

表 12-8 dpadmin コマンドオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-n または --name	表示するまたは削除する表示プロファイルコンテナ、チャンネルまたはプロバイダオブジェクトの完全修飾名を指定します。このオプションは必須です。
add、modify および remove サブコマンドオプション	
-p または --parent	追加、変更または削除する表示プロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定します。
add および modify サブコマンドオプション	
<i>file</i>	XML フラグメントが含まれる XML ファイルのパスを指定します。 <i>file</i> 引数が指定されている場合、コマンド行の最後の引数にする必要があります。XML フラグメントは表示プロファイル DTD に適合し、適切な XML ヘッダーを含んでいる必要があります。XML の入力が必要なサブコマンドには、 <i>modify</i> および <i>add</i> が含まれます。これらのサブコマンドの <i>file</i> 引数がない場合、標準入力から dpadmin に入力をリダイレクトする必要があります。
modify サブコマンドオプション	
-m または --combine	指定された表示プロファイルオブジェクトを、新しい表示プロファイルオブジェクトと結合します。 <i>modify</i> サブコマンドでだけ使用できます。 <i>combine</i> オプションは次の表示プロファイルオブジェクトで使用できます。表示プロファイルルート、チャンネル、コンテナ、プロパティ、使用可能、選択済み、集合、およびロケールです。
remove サブコマンドオプション	
-t または --type	削除されるディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプを指定します。使用できるタイプは、 <i>root</i> 、 <i>channel</i> 、 <i>provider</i> 、 <i>property</i> 、 <i>available</i> 、または <i>selected</i> です。
batch サブコマンドオプション	
-c または --continue	連続操作モードを示します。 <i>batch</i> サブコマンドでだけ使用できます。エラーが報告されますが、オプションが指定されると、次のサブコマンドを使って dpadmin を継続します。デフォルトでは、エラーを報告したあと dpadmin が終了します。
-f または --file	バッチスクリプトファイルを指定します。ASCII ファイルは、 <i>batch</i> サブコマンドでだけ使用できます。

par

説明

par コマンドは、指定された .par ファイルと関連する機能を実行します。チャンネルまたはプロバイダ、あるいはその両方を Sun ONE Portal Server でインポートまたはエクスポートする場合に使用できます。

構文

この節では、par コマンド構文について説明します。長い名前のオプションと短い名前のオプションを、1つのコマンド行に同時に使用しないようにしてください。

短い名前の形式

```
par containers -r uid -p password [-d] dn|global
par describe [-d] parfile
par export -r uid -p password [-m] [-d] [-v] parfile dn|global
{exportfile|from=}...
par import -r uid -p password [-o] [-d] [-v] parfile [dn|global [op...]]
par import -r uid -p password -a [-d] [-v] parfile [dn|global]
```

長い名前の形式

```
par containers --runasdn uid --password password [--debug] dn|global
par describe [--debug] parfile
par export --runasdn uid --password password [--modify] [--debug]
[--verbose] parfile dn|global {exportfile|from=}...
par import --runasdn uid --password password [--overwrite] [--debug]
[--verbose] parfile [dn|global [op...]]
par import --runasdn uid --password password --auto [--debug]
[--verbose] parfile [dn|global]
```

サブコマンド

次のサブコマンドを使用できます。

- containers
- describe
- export
- import

containers

説明

指定されたディレクトリサーバー名 (または `global`) で示された、特定のディスプレイプロファイルドキュメント内のすべての使用可能なコンテナおよびチャネルを一覧表示します。ほかのコマンドを構築するための補助として使用できます。

構文

```
par containers -r|--runasdn uid -p|--password password [-d|--debug]
[-v|--verbose] dn|global
```

例

```
par containers -r "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -p
joshua -d "o=sesta.com,o=isp"
```

この例では、LDAP ノード `"o=sesta.com,o=isp"` にあるディスプレイプロファイルドキュメント内の使用可能なコンテナを一覧表示します。

describe

説明

エン트리およびエントリに定義されたすべての組み込みの自動抽出操作を含む、指定された `.par` ファイルの内容を表示します。

構文

```
par describe parfile
```

例

```
par describe myfile.par
```

この例では、コマンド出力または `myfile.par` の表示内容は次のようになります。

```
クラスルート : /
プロパティベースファイルルート : /pbfiles
表示プロファイルルート : /dp
静的なコンテンツルート : /static
```

```

エントリ : mychannel
AutoExtract:dpnode=o%3Dsesta.com%2Co%3DDisp,channel,entry=mychann
el
DPドキュメント : this my JSP based channel.
チャンネル : SampleJSP.a
インクルード : Property Based File, root templateBaseDir, path
default/mychannel/samplecontent.jsp (channel)
インクルード : Property Based File, root templateBaseDir, path
default/mychannel/sampledoedit.jsp (channel)
インクルード : Property Based File, root templateBaseDir, path
default/mychannel/sampleedit.jsp (channel)
インクルード : Property Based File, root templateBaseDir, path
default_en_US/mychannel/samplecontent.jsp
(channel)
インクルード : Property Based File, root templateBaseDir, path
default_en_US/mychannel/sampledoedit.jsp
(channel)
インクルード : Property Based File, root templateBaseDir, path
default_en_US/mychannel/sampleedit.jsp
(channel)

```

export

説明

Portal Server からプロバイダまたはチャンネル情報をエクスポートして、指定された .par ファイルを生成します。 .par ファイル、更新する必要があるディストレイブプロファイルドキュメントに関するディレクトリサーバー名 (またはキーワード global) および 1 つ以上の *exportfile* または *from* 指定します。 *from* 指定は、エクスポートファイルとまったく同じ情報を含みます。 唯一の違いは、行がセミコロンで区切られていることです。

-m オプションのない `par export` コマンドは、.par ファイルを作成します。 -m オプションを持つ `par export` コマンドは、プロバイダ、チャンネル、またはコンテンツを定義する既存の .par ファイルの更新または追加、あるいはその両方に使用します。

構文

```
par export -r|--runasdn uid -p|--password password [-d|--debug]
[-v|--verbose] parfile dn|global {exportfile|from=}...
```

```
par export -r|--runasdn uid -p|--password password [-d|--debug]
[-v|--verbose] -m|--modify parfile dn|global {exportfile|from=}...
```

例

```
par export -r "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -p joshua
mychannel.par "o=sesta.com,o=isp" myexport.txt
```

myexport.txt コンテナの内容は次のようになります。

```
from: channel mychannel
directory: templateBaseDir . mychannel
description: this is my JSP based channel
```

この例では、mychannel のチャンネル定義およびテンプレートファイルを "o=sesta.com,o=isp" dn から、mychannel.par へエクスポートします。また、JSPProvider チャンネルの場合、directory 行は、ロケール固有バージョンを含むすべての .jsp ファイルを移行します。

import

説明

指定された .par ファイルから Portal Sever へオブジェクトをインポートします。このコマンドには、.par ファイル、およびディレクトリサーバに示されたディスプレイノード (またはキーワード global によって示されたルート表示プロファイル) にオブジェクトをインポートするための表示プロファイルドキュメントのオプションの引数、および実行する操作を取得します。これらが指定されていない場合は、par ファイルから取得します。auto オプションを使用して、.par ファイルに既存の自動抽出操作の実行を指示できます。

新しいチャンネルを追加する場合は、par import コマンドを使用します。このコマンドは -o オプションとともに使用することもできます。チャンネルがすでに存在する場合は、-o オプションを par import コマンドとともに使用して、古いチャンネルを完全に置き換える (上書きする) 必要があります。このサブコマンドを使用すると、チャンネルだけでなくプロバイダもインポートできます。

構文

```
par import -r|--runasdn uid -p|--password password [-o] [-d|--debug]
[-v|--verbose] parfile [dn|global [op...]]
```

```
par import -r|--runasdn uid -p|--password password -a|--auto
[-d|--debug] [-v|--verbose] parfile [dn|global]
```

例

例 1

```
par import -r "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -p joshua
--auto myfile.par "o=sesta.com,o=isp"
```

この例では、myfile.par プロファイルに自動操作が定義されていた場合、コマンドはmyfile.par ファイルからチャンネルを抽出します。

例 2

```
par import -r "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -p joshua
myfile.par "o=sesta.com,o=isp"
"entry=mychannel,channel=anothername,avail=topcontainer"
```

この例では、ターゲット *dn* 内の異なる名前でもコマンドをインストールし、コンテナ topcontainer で使用できるようにして、チャンネルを明示的に抽出します。

オプション

表 12-9 ではサポートされるオプションをアルファベット順に説明します。最初の列にはpar コマンドで使用できるオプションとその簡単な説明が示されています。

表 12-9 par コマンドオプション

オプション	説明
-a または --auto	.par ファイルからの自動抽出操作を適用します。import コマンドで使用します。この場合、コマンド行に操作を指定しないでください。dn 引数は指定したままにできますが、自動抽出操作の dn が置き換えられます。コマンド行に操作が指定されている場合は、無視されます。
-d または --debug	エラーメッセージに関するその他のデバッグ情報を生成します。
-m または --modify	既存の .par ファイルを置換ではなく更新します。export コマンドで使用します。エントリに追加された新規ファイルはすべて古いファイルを補足するか、置換します。また、.par ファイルを使用して、このコマンドは新しいファイルを既存のプロバイダまたはチャンネルに追加します。
-o または --overwrite	既存のチャンネルを上書きします。import コマンドとともに使用して、既存のチャンネルを置き換えます。
-p または --password	認証パスワードを指定します。describe を除くすべてのサブコマンドに必須です。指定されていない場合は、par ユーティリティによって指定するよう促されます。

表 12-9 par コマンドオプション (続き)

オプション	説明
-r または --runasdn	認証のためのユーザーの識別名を指定します。describe を除くすべてのコマンドに必須です。指定されていない場合は、par ユーティリティによって指定するように促されます。uid= <i>userName</i> ,ou= <i>people</i> ,o= <i>organizationName</i> ,o= <i>organizationalUnit</i> の形式を使用します。
-v または --verbose	操作が実行されると、その操作が表示されます。import および export コマンドとともに使用します。

引数

表 12-10 はサポートされる引数を説明します。par コマンドで使用できる引数とその簡単な説明が示されています。

表 12-10 par コマンド引数

引数	説明
dn	アクセスするディレクトリサーバ内の識別ノードを指定します。"o= <i>organizationName</i> ,o= <i>organizationalUnit</i> " の形式を使用します。
global	LDAP のグローバルレベルノードでディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスすることを指定します。
exportfile	これらのファイルは、.par ファイル内のそれぞれのエントリ (プロバイダ、チャンネル、またはプロバイダとチャンネルの組み合わせ) に対応します。また、単に指定された .par ファイルに挿入されるデータを指定します。情報が多すぎてコマンド行にリストできない場合は、小さなファイルにすることができます。詳細については、「エクスポートファイル」を参照してください。
from	コマンド行に指定される 1 つの等号 ("=") があり、セミコロン (";") で区切られたその他の行がつづく「from」行を含むエクスポートファイルと同等です。行プロパティの詳細については、表 12-11 の「from」を参照してください。
op	実行する操作を指定します。詳細については、「操作」を参照してください。
parfile	操作の対象になる par ファイルを指定します。つまり、インポート、エクスポート、または表示を行う par ファイルを指定します。

エクスポートファイル

これらのファイルは、.par ファイルに挿入するデータを指定します。このファイルは、キーワード、続いてコロンおよび空白スペースで区切られたフィールドで構成されます。ファイルの最初の行は必ず「from:」行にする必要があります。「#」で始まる行はコメントとして扱われます。

表 12-11 では、エクスポートファイルの行プロパティを説明しています。行のキーワードとその簡単な説明を示しています。

表 12-11 エクスポートファイルの行プロパティ

行	説明
from: <i>types name</i>	「from」はエクスポートされるエンティティの内容を表します。 <i>types</i> は「channel」、「provider」、または「channel,provider」、および「channel+provider」のいずれかになります。 <i>name</i> は、チャンネル名、またプロバイダがエクスポートされている場合は、プロバイダ名を示す。名前が空白スペース (+)、カンマ (%2C)、コロン (%3A)、セミコロン (%3B)、プラス記号 (%2B)、またはパーセント記号 (%25) を含む場合は、 <i>name</i> は URL でエンコードする必要があります
auto: none	「auto」は、エントリの自動抽出操作を指定する。 <i>op</i> 引数とそれに続く操作をとります。自動抽出を抑制する場合は、「none」を入力することもできます。「auto:」行が指定されていないと、デフォルトの自動抽出が作成されます。デフォルトの操作は、元の名前でチャンネルまたはプロバイダを抽出します。
auto: <i>op</i>	
file: <i>root</i> . <i>path</i> [<i>types</i>]	「ファイル」は、プロパティ設定に基づいて、ファイルが含まれていることを示します。このプロパティはデフォルトで /etc/opt/SUNWps/desktop/desktopconfig.properties ファイルに置かれた「desktop properties」、またはエクスポートまたはインポートされる項目の getProperty() 呼び出しに示されるディスプレイプロファイルから引き出すことができます。 <i>root</i> はファイル場所のルートを指定し、 <i>path</i> はファイルの残りへのパスを指定します。 <i>root</i> はディレクトリ (またはその類) に相当するプロパティ名です。 <i>root</i> に「.」が入力されている場合は、そのファイルは Web サーバーのドキュメントルートに配置された静的コンテンツとみなされます。 <i>types</i> ファイルを関連付ける操作の種類を指定できます。デフォルトは「channel」です。 <i>types</i> は「channel」、「provider」、または「channel,provider」、および「channel+provider」のいずれかになります。

表 12-11 エクスポートファイルの行プロパティ (続き)

行	説明
class: <i>class</i> [<i>types</i>]	「class」はクラスファイルがエン트리とパッケージ化され、クラスファイルが関連付けられる操作のタイプをオプションで指定できることを示します。オプションが指定されていない場合、「provider」と見なされます。 <i>types</i> は、「channel」、「provider」または「channel,provider」および「channel+provider」になり、両方を指定する場合はスペースも使用できます。
directory: <i>root</i> <i>.dir</i> + <i>.filter</i> [<i>types</i>]	「directory」は、ディレクトリ全体を検索しディレクトリ以外のファイルに対して「file」行で指定されたように扱います。再帰的なディレクトリ検索に必要なディレクトリコンポーネントである「filter」を指定することもできます。 <i>root</i> は、ディレクトリのルートまたは「.」を指定して、静的コンテンツであることを示す。 <i>dir</i> は、検索の対象になるルートの下にあるディレクトリで、「.」は <i>root</i> 自身から始めることを示します。 <i>filter</i> は、フィルタコンポーネントを指定します。このコンポーネントはディレクトリ内にあり、再帰的にネストできます。フィルタなしの再帰的なディセントには「+」が、再帰的でないディセントには「.」が付けられます (実際のディレクトリの内容)。 <i>types</i> で操作の種類も指定できます。デフォルトは「channel」です。 <i>types</i> は「channel」、「provider」、または「channel,provider」、および「channel+provider」のいずれかになります。
entry: <i>name</i>	「entry」は .par ファイルで使われるエン 트리名を指定します。指定されていないと、「from」行の名前がデフォルトになります。
desc: <i>text</i>	「desc」行は何行でも表示でき、エン 트리とともにパッケージ化され、ユーザーが閲覧できる連結されるた記述です。

操作

エクスポートファイルまたはコマンド行の各操作 (*op*) は、値 (通常はオプション) を持つキーワードのカンマで区切られたリストとして指定する必要があります。操作は空欄またはスペースで区切られたリストです。各操作は次の形式で表示されます。

```
dpnode=dn, entry=name, provider [=name], channel [=name], container=name [, av ail=name, selected]
```

dpnode

dpnode は、この操作のターゲットであるディスプレイプロファイルドキュメント用のディレクトリサーバ (またはキーワード `global`) 内の識別名を指定します。指定されているコンテキストがすでに提供されている場合は、適用できない場合があります。たとえば、`import` サブコマンドが識別名を定義する場合は、ファイル内の識別名は無視されます。

entry

`.par` ファイル内のエントリ名を指定します。次の場合はエントリは必要ありません。

- `.par` ファイルがデフォルトの 1 つのエントリだけを含む場合
- 操作がエントリの自動抽出オプションなどのエントリとすでに関連付けられている場合

`par` ユーティリティは、エントリが指定されていない場合は最初のエントリをデフォルトにします。

provider

プロバイダの抽出が行われることを示します。名前がない場合は、`.par` ファイル内でプロバイダとパッケージ化された名前を使用します。

channel

チャンネルの抽出が行われることを示します。名前がない場合は、`.par` ファイル内のチャンネルと提供された名前を使用します。

Container

チャンネルの抽出だけに適用され、チャンネルがどのコンテナに挿入されるかを示します。省略されている場合、チャンネルは「`channel`」エレメントの表示プロファイルドキュメントルートに挿入されません。

avail

チャンネルの抽出だけに適用され、「`avail`」(使用可能) リストが新しいチャンネルのリファレンスを受け取るコンテナを示します。省略されている場合は、新しいチャンネルリファレンスが作成されます。

selected

「`avail`」が使用されている場合だけに適用されます。「`avail`」リストがリファレンスを受け取るコンテナを示し、また「選択済み」リストにリファレンスを持ちます。

op 情報が、par import コマンドと .par ファイルの両方にある場合は、コマンド情報が優先します。

par ファイル

この節では、par ファイル形式に関する補足説明をします。この情報は、par コマンドを実行するには必要ありません。

par ファイルはチャンネル、プロバイダ、およびそれらの関連ファイルのトランスポート用のマニフェストエントリを持つ jar ファイルです。このファイルを使用すると、プロバイダ、チャンネル、またはその両方のインストールを柔軟に行えます。par ファイルには、主に次の 4 つのタイプがあります。

1. ディスプレイプロファイル用のプロバイダまたはチャンネル、あるいはその両方の情報が含まれる XML ファイルドキュメントです。このドキュメントは、ディスプレイプロファイル DTD に記述されている parEntry です。この parEntry には、チャンネルまたはプロバイダ、あるいはその両方の組み合わせが含まれます。
2. プロバイダまたはチャンネルに関連付けられたクラスファイル。
3. プロパティベースのファイル。チャンネルまたはプロバイダ (通常はチャンネル) に関連付けられた一般ファイル。これらのファイルは Portal Server 上の構成可能なルートの下に配置する必要があります。
4. 静的コンテンツファイル。ドキュメントとして Web サーバ上に配置されています。

par ファイルのコンテンツ

表 12-12 では、.par ファイルに含める必要のあるヘッダーを説明しています。この表には、必要とされるグローバルヘッダーとその簡単な説明が示されています。

表 12-12 グローバルヘッダー

ヘッダー	説明
PS-Version	.par ファイルのポータルサーバーの特定のバージョンを指定します。また、これが .par ファイルであることを確認します。
PS-DefaultEntry	名前の付けられていないエントリを使った操作で、そのエントリに名前を付けます。

表 12-12 グローバルヘッダー

ヘッダー	説明
PS-DPRoot, PS-ClassRoot, PS-PBFileRoot, PS-StaticRoot	parEntry ドキュメント、クラス、プロパティベースファイル、および静的コンテンツのそれぞれのアーカイブのルートディレクトリを示します。指定されていないと、アーカイブの一番上の対応するファイルがルートディレクトリになります。

.par ファイルには、各 parEntry XML ファイルに名前を持つエントリが必要です。表 12-13 には、使用できるヘッダーとその簡単な説明が示されています。各ネーミングエントリのセクションに次のヘッダーが使用される場合があります。

表 12-13 ネーミングエントリのヘッダー

ヘッダー	説明
PS-EntryName	エントリのコマンド可視名を指定します。
PS-AutoExtract	エントリが存在する場合に、エントリの自動抽出操作を指定します。
PS-Include	実際のアーカイブパスで指定されたアーカイブファイルのカンマで区切られたリスト指定します。このパスは「root」の仕様に従ってファイルのタイプを示します。このファイルには括弧付きの番号が付加され、この番号はファイルが適用される操作のタイプに対応します(プロバイダには1、チャンネルには2のマスク)。エントリに関連付けられたXML ドキュメント以外にファイルがない場合は、このファイルは無視されます。

.par ファイルにエントリが1つだけが含まれる場合は、デフォルトのエントリが使われるので、ファイルを操作する際にエントリに名前を付ける必要はありません。

rwadmin

説明

rwadmin コマンドを使用すると、ユーザーは iPlanet Directory Server Access Management Edition リライターサービスで使用できるリライターデータを管理できます。

構文

この節では、rwadmin コマンド構文について説明します。

短い名前の形式

```
rwadmin list -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h]
rwadmin store -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h] filename
rwadmin get -r rulesetname -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h] [filename]
rwadmin remove -r rulesetname -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h]
```

長い名前の形式

```
rwadmin list --runasdn uid --password password [--locale locale]
[--verbose] [--version] [--help]
rwadmin store --runasdn uid --password password [--locale locale]
[--verbose] [--version] [--help] filename
rwadmin get --rulesetid rulesetname --runasdn uid --password password
[--locale locale] [--verbose] [--version] [--help] [filename]
rwadmin remove --rulesetid rulesetname --runasdn uid --password password
[--locale locale] [--verbose] [--version] [--help]
```

サブコマンド

次のサブコマンドを使用できます。

- list
- store

- get
- remove

list

説明

このコマンドは使用可能なルールセット名を一覧表示します。

構文

```
rwadmin list -u|--runasdn uid -w|--password password
```

例

```
rwadmin list -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua
```

この例では、使用可能なすべてのルールセットを表示します。

store

説明

このコマンドは、ローカルファイルシステムで使用できるルールを iPlanet Directory Server Access Management Edition に格納します。DefaultRuleSet を格納するには、次のコマンドを使用します。

```
rwadmin store -u uid -w password /resources/DefaultRuleSet.xml
```

ここで、/resources/DefaultRuleSet.xml は、rewriter.jar ファイルに格納されるルールセットの場所です。このコマンドを実行したときに、おなじ ID を持つルールセットが存在すると、新しいデータは格納されません。既存のルールセット ID を削除してから、再度試行する必要があります。

構文

```
rwadmin store -u|--runasdn uid -w|--password password filename
```

Example

```
rwadmin store -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua /opt/data/ExampleRuleSet.xml
```

この例では、/opt/data/ExampleRuleSet.xml で使用できるルールを iPlanet Directory Server Access Management Edition に格納します。

get

説明

このコマンドは、iPlanet Directory Server Access Management Edition からルールセットを取得します。*filename* が指定されると、取得したルールセットは指定したファイルに格納され、提供されない場合は、標準出力 (またはコンソール上) に表示されます。

構文

```
rwadmin get -r|--rulesetid ruleset -u|--runasdn uid -w|--password
password [filename]
```

例

例 1

```
rwadmin get -r "ExampleRuleSet" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua
```

この例では、ExampleRuleSet という名前のルールセットを iPlanet Directory Server Access Management Edition から取得し、コンソール上に表示します。

例 2

```
rwadmin get -r "ExampleRuleSet" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua /tmp/abc.xml
```

この例では、ExampleRuleSet という名前のルールセットを iPlanet Directory Server Access Management Edition から取得し、/tmp ディレクトリのファイル abc.xml に格納します。

remove

説明

このコマンドは、iPlanet Directory Server Access Management Edition からルールセットを削除します。このコマンドは、警告しないでルールセットを削除します。

構文

```
rwadmin remove -r|--rulesetid ruleset -u|--runasdn uid -w|--password
password
```

例

```
rwadmin remove -r "ExampleRuleSet" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua
```

この例では、ExampleRuleSet という名前のルールセットを iPlanet Directory Server Access Management Edition から削除します。

オプション

表 12-14 では、サポートされる rwadmin コマンドオプションをアルファベット順に要約しています。この表には使用できるオプションとその簡単な説明が示されています。

表 12-14 rwadmin コマンドオプション

オプション	説明
-b または --verbose	このオプションを rwadmin に指定すると、コマンドを実行したときに詳細情報を出力します。
<i>filename</i>	iPlanet Directory Server Access Management Edition にインポートするとき、ルールセットデータを取得するファイルとして、store サブコマンドとともに指定します。このオプションを get サブコマンドとともに指定すると、取得したルールセットデータを格納するファイルであることを示します。
-h または --help	簡単なヘルプページを標準出力に出力します。サブコマンドがない場合は、rwadmin の汎用ヘルプページが出力されます。rwadmin サブコマンドの 1 つが存在すると、サブコマンドの短いヘルプページが出力されます。
-l または --locale	すべての出力メッセージを指定されたロケールでローカライズします。指定されていないと、デフォルトでシステムロケールになります。
-r または --rulesetid	操作する際に規準となるルールセットの名前を指定します。
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定します。
--version	バージョン、通知、その他の情報など、ユーティリティに関する説明を標準出力に出力します。このオプションが存在すると、すべてのサブコマンドおよび他の引数が無視されます。
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定します。

rdmgr

説明

rdmgr コマンドは、検索サービスを制御する主要なコマンドです。2種類のサブコマンドがあります。リソース記述 (RD) 管理で使用するサブコマンドと、データベースの保守管理に使用するサブコマンドです。なお rdmgr コマンドは、通常、検索機能を有効にした Portal Server のインスタンスディレクトリである `/server-instance-directory/deployment_uri` ディレクトリで実行されます。これは、インストール時に選択した配置 URI パスです。デフォルトの Portal Server のインストールを選択した場合、`/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ディレクトリになります。

構文

rdmgr コマンドの一般構文は次のとおりです。

```
# rdmgr [subcommand] [options] [input]
```

RD サブコマンドはこの構文に従います。

```
# rdmgr [-umgdnUL] [-ACSTNPq] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-i charset] [-o charset] [-j number] [-l number]
[-p progress] [-r number] [-s schema] [-y dbname] [filename|-Q query]
```

データベース保守サブコマンドはより厳密にこの構文に従います。

```
# rdmgr [-OXIERGBL] [-ASTDVNP] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-j number] [-l number] [-p progress] [-r number]
[-s schema] [-y dbname]
```

`-l number` を使用すると、任意の RD またはデータベースサブコマンドにログレベル番号を設定できます。値が 1 (デフォルト) に設定されている場合は、すべての rdmgr コマンドのログが記録されます。値が大きくなるほど、ログファイルに含まれる情報が詳細になります。レベルは 1 ~ 100 です。このオプションが指定されていない場合、コマンドは `search.conf` ファイルの `debug-loglevel` で定義された設定内容を使用します。ログファイル名は、`search.conf` ファイルの `rdmgr-logfile` を使用して定義します。

ここで、`-c search.conf` オプションは、`search.conf` ファイルの場所を示します。このオプションを使用しないと、デフォルト値は現在のディレクトリの `config/search.conf` になります。`search.conf` ファイルには、設定したすべての検索値が一覧表示されます。

`-p progress` を使用して、すべての RD またはデータベースサブコマンドの進行状況を表示できます。`-p` だけを入力すると、進行状況は `stdout` 上に表示されます。

サブコマンド

次のサブコマンドを使用できます。

- リソース記述サブコマンド
- データベース保守サブコマンド
- 使用法メッセージおよびバージョンのサブコマンド

リソース記述サブコマンド

説明

RD サブコマンドを使用すると、RD の挿入または置換、ビューでフィルタリングされた RD のマージ、ビューでフィルタリングされた RD の取得、RD の削除、および RD のカウントなどのバッチプロセスを実行できます。表 12-15 は、最初の列にサブコマンドとその簡単な説明を示しています。

表 12-15 rdmgr RD サブコマンド

サブコマンド	説明
<code>-u</code>	RD を挿入または置換する。何も宣言されていない場合、このサブコマンドがデフォルトになります。
<code>-m</code>	ビューでフィルタリングされた RD をマージします。
<code>-g</code>	ビューでフィルタリングされた RD をします。
<code>-d</code>	RD を削除します。
<code>-n</code>	RD をカウントします。
<code>-U</code>	SOIF のデータベースを標準出力ダンプにします。
<code>-L</code>	データベースから選択されたフィールドを、標準出力に一覧表示します。 <code>-a att</code> オプションの指定が必要です。

構文

```
# rdmgr [-umgdnUL] [-ACSTNPq] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-i charset] [-o charset] [-j number] [-l number]
[-p progress] [-r number] [-s schema] [-y dbname] [filename|-Q query]
```

オプション

表 12-16 では、サポートされるオプションを説明しています。最初の列にオプションまたは引数、とその説明を示します。

表 12-16 rdmgr RD サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
-A	デフォルト検索ディレクトリ内の <code>config/schema.rdm</code> ファイルにスキーマの別名を使用しないように指定します。u および m サブコマンドで使用します。
-C	データベースが見つからない場合は、データベースを作成しないように指定します。u および m サブコマンドで使用します。
-S	スキーマチェックを無効にします。u および m サブコマンドで使用します。
-T	分類に基づいて動作します。分類はデータベースの内容を参照および分類するために使用され、デフォルト検索ディレクトリの <code>config/taxonomy.rdm</code> ファイルにあります。リソース記述コマンドとともに使用します。
-N	コマンドに指定した機能が、リソース記述の非永続的データだけに作用するように指定します。データベースの RD は、永続データおよび非永続データのマージされたものです。
-P	コマンドに指定した機能が、リソース記述の永続的データだけに作用するように指定します。データベースの RD は、永続データおよび非永続データのマージされたものです。
-q	終了時に SOIF 入力ファイルを削除します。u、m、g、および d のサブコマンドとともに使用します。
-a att,att...	属性ビューリストを指定します。att 名は大文字小文字が区別されず、スキーマに定義されているかどうかにかかわらず作成者またはタイトルなどの任意の属性を指定できます。class-1、class-2、class-3 などの複数の値を持つ att の場合、att 名として class だけを入力します。

表 12-16 rdmgr RD サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-b <i>number</i>	インデックス作成バッチのサイズをこの RD 番号に設定する。u および m サブコマンドで使用します。
-c <i>search.conf</i>	<i>search.conf</i> ファイルの場所を指定する。このオプションを使用しない場合は、デフォルト検索ディレクトリの <code>config/search.conf</code> ファイルになります。デフォルト以外のファイルを使用する場合は、使用するファイルへのフルパスを指定する必要があります。
-i <i>charset</i> -o <i>charset</i>	SOIF ストリームの文字セットを指定します。-i オプションは、入力 SOIF ストリームの文字セットを指定します。-o オプションは、出力 SOIF ストリームの文字セットを指定します。たとえば、ISO8859-1、UTF-8、UTF-16 などです。ISO8859-1 から ISO8859-15 までのキャラクタセットが使用できます。u、m、および d のサブコマンドとともに -i を使用します。g、U、および L サブコマンドとともに -o を使用します。
-j <i>number</i>	取得した結果数を制限します。u サブコマンドとともに使用します。宣言されていない場合、Q オプション (デフォルト値は 20) を除いてデフォルト値は制限されません。
-l <i>number</i>	ログレベルの番号を設定します。値が 1 (デフォルト) に設定されている場合は、すべての rdmgr コマンドのログが記録されます。値が大きくなるほど、ログファイルに含まれる情報が詳細になります。レベルは 1 ~ 100 です。これはすべてのサブコマンドに適用されます。
-p { <i>stdout</i> <i>stderr</i> <i>filename</i> }	進行状況を <code>stdout</code> 、 <code>stderr</code> 、または <i>filename</i> ファイルに出力または表示します。これはすべてのサブコマンドで動作します。タイミング情報は秒単位で報告されます。
-r <i>number</i>	レポートで RD のすべての <i>number</i> が生成されるように指定します。デフォルトは 500 です。progress オプションとともに使用します。u、m、g、d、および U サブコマンドとともに使用します。
-s <i>schema</i>	スキーマ定義ファイルを指定します。このオプションを使用しない場合は、デフォルトで検索サーバインスタンスディレクトリの <code>config/schema.rdm</code> ファイルになります。
-y <i>dbname</i>	検索データベース名を指定します。デフォルト以外のデータベースにこのコマンドを使用する場合は、このオプションが必要です。デフォルトデータベースは、 <code>database-name=logicaldbname</code> とラベルを付けられた <code>config/search.conf</code> ファイルに定義されたデータベースです。

表 12-16 rdmgr RD サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
<i>filename</i> -Q <i>query</i>	<p>デフォルトスキーマ (他のスキーマには -s オプションを使用) を SOIF 形式で使用して RD のファイルの <i>filename</i> を指定します。</p> <p>この入力オプションは、u、m、g、および d サブコマンドとともに使用します。</p> <p><i>query</i> は通常の検索クエリです。</p>

注 サブコマンドを使用せずに rdmgr を入力すると、コマンドは -u サブコマンドが指定されたものとして動作します。サブコマンドおよびクエリ (-Q) を指定せずに rdmgr を入力すると、コマンドは -g サブコマンドが指定されたものとして動作します。

例

例 1

環境変数 LD_LIBRARY_PATH を /opt/SUNWps/lib に設定します。

/var/opt/SUNWps/https-sesta.com/portal ディレクトリで次のように入力します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -U
```

この例では、リソース記述のデフォルトデータベース全体が、UTF-8 SOIF 形式で stdout に出力されます。

例 2

/var/opt/SUNWps/https-sesta.com/portal のデフォルト検索ディレクトリで、次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -d -Q java
```

この例では、「java」を含むすべてのリソース記述が削除されます。

データベース保守サブコマンド

説明

データベースサブコマンドを使用すると、管理者は検索データベースを最適化して、データベースの切り詰め、クリア、再インデックス化ができます。また、無効の RD を削除したり、データベースを復元させたりすることができます。

表 12-17 には、サブコマンドとその簡単な説明が示されています。

表 12-17 rdmgr データベース保守サブコマンド

サブコマンド	説明
-O	<p>データベースを最適化します。デフォルト以外のデータベースでこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要があります。デフォルトデータベースは、<code>database-name=logicaldbname</code> で <code>config/search.conf</code> ファイルに定義されたデータベースです。たとえば、デフォルト値は <code>database-name=default</code>、またデフォルトデータベースディレクトリは <code>db/default</code> です。</p> <p>通常は、データベースを最適化する必要はありません。</p>
-X	<p>データベースを切り詰めまたはクリアします。デフォルト以外のデータベースでこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要があります。インデックスに使用されるディスクスペースは回復しますが、メインデータベースに使用されるディスクスペースは回復しません。このスペースは、新規のデータが追加されるごとに再利用されます。</p>
-I	<p>データベースのインデックスを再作成します。デフォルト以外のデータベースでこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要があります。</p>
-E	<p>データベースから期限が切れた RD を削除します。デフォルト以外のデータベースでこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要があります。</p>
-R	<p>すべてのデータベースを復元します。これはグローバルコマンドであり、オプションは使用しません。ほかの rdmgr インスタンスおよび主な検索サーバを含むすべてのデータベース処理を、このコマンドの実行前に停止する必要があります。</p>

表 12-17 rdmgr データベース保守サブコマンド (続き)

サブコマンド	説明
-G	データベースのパーティションを再作成します。このコマンドで使用するオプションはありません。パーティションは config/search.conf ファイルで、 <code>database-partitions=p1,p2,p3,...</code> で定義されます。ここで p1、p2、および p3 はパーティションのファイル名です。このコマンドの実行後にサーバを再起動する必要があります。
-B	データベースを完全に削除します。すべてのディスクスペースを回復します。このサブコマンドを実行する場合は、インデックス化を行わないようにし、Portal Server をオフにする必要があります。
-L	データベースから選択されたフィールドを、stdout に一覧表示します。-a att オプションの指定が必要です。デフォルト以外のデータベースでこのサブコマンドを実行する場合は、-y オプションを使用する必要があります。

構文

```
# rdmgr [-OXIERGBL] [-ASTDVNP] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-j number] [-l number] [-p progress] [-r number]
[-s schema] [-y dbname]
```

オプション

表 12-18 では、サポートされるオプションを説明しています。オプションまたは引数とその説明を示します。

表 12-18 rdmgr データベース保守サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
-A	デフォルト検索ディレクトリ内の config/schema.rdm ファイルにスキーマの別名を使用しないように指定します。I サブコマンドとともに使用します。
-S	スキーマチェックを無効にします。I サブコマンドとともに使用します。

表 12-18 rdmgr データベース保守サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-T	分類に基づいて動作します。デフォルト検索ディレクトリの <code>config/taxonomy.rdm</code> ファイルにある分類は、データベースの内容を参照および分類するのに使用します。O、X、I、E、B、U、および L のサブコマンドとともに使用します。
-D	データベースだけを更新し、インデックスは更新しません。E および X コマンドとともに使用します。
-V	インデックスだけを更新し、データベースは更新しません。E および X コマンドとともに使用します。
-N	コマンドに指定した機能が、リソース記述の非永続的データだけに作用するように指定します。データベースの RD は、永続データおよび非永続データのマージされたものです。I、E、U、および L コマンドとともに使用します。
-P	コマンドに指定した機能がリソース記述の永続的データだけに作用するように指定します。データベースの RD は、永続データおよび非永続データのマージされたものです。I、E、U、および L コマンドとともに使用します。
-a <i>att, att...</i>	属性ビューリストを指定します。 <i>att</i> 名は大文字小文字が区別されず、スキーマに定義されているかどうかにかかわらず、作成者またはタイトルなどの任意の属性を指定できます。 <code>class-1</code> 、 <code>class-2</code> 、 <code>class-3</code> などの複数の値を持つ <i>att</i> の場合、 <i>att</i> 名として <code>class</code> だけを入力します。
-b <i>number</i>	インデックス作成バッチのサイズをこの RD 番号に設定します。I コマンドとともに使用します。
-c <i>search.conf</i>	<code>search.conf</code> ファイルの場所を指定します。このオプションを使用しない場合は、デフォルト検索ディレクトリの <code>config/search.conf</code> ファイルになります。デフォルト以外のファイルを使用する場合は、使用するファイルへのフルパスを指定する必要があります。
-j <i>number</i>	取得した結果数を制限します。E サブコマンドを使用します。宣言されていない場合、デフォルト値は無制限です。
-l <i>number</i>	ログレベルの番号を設定します。値が 1 (デフォルト) に設定されている場合は、すべての rdmgr コマンドのログが記録されます。値が大きくなるほど、ログファイルに含まれる情報が詳細になります。レベルは 1 ~ 100 です。これはすべてのサブコマンドに適用されます。
-p { <i>stdout stderr filename</i> }	進行状況を <code>stdout</code> 、 <code>stderr</code> 、または <i>filename</i> に出力または表示詳細。これはすべてのサブコマンドで動作します。

表 12-18 rdmgr データベース保守サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-r <i>number</i>	レポートで RD のすべての <i>number</i> が生成されるように指定します。デフォルトは 500 です。progress オプションとともに使用します。u、m、g、d、および U サブコマンドとともに使用します。
-s <i>schema</i>	スキーマ定義ファイルを指定する。デフォルトでは、デフォルト検索ディレクトリ内の config/schema.rdm ファイルになります。
-y <i>dbname</i>	検索データベース名を指定します。デフォルト以外のデータベースにこのコマンドを使用する場合は、このオプションが必要です。デフォルトデータベースにこのオプションを使用する必要はありません。デフォルトデータベースは、config/search.conf ファイルに database-name= <i>filename</i> で定義されたデータベースです。

例

例 1

デフォルト検索ディレクトリ内で次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -E -j 13 -p stdout -r 5
```

この例では、有効期限切れとなっている最大 13 個の RD がデータベースから削除されます。stdout への進行状況レポートは、秒単位の経過時間と 5 つのリソース記述ごとに処理された RD の数を出力します。

例 2

検索エンジンが応答しません。デフォルト検索ディレクトリ内で次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -R
```

これによりすべての検索データベースが復元され、検索エンジンを再び使用可能にします。このコマンドを使用して、データベース内の無効なロックを解除し、未処理のデータトランザクションをロールバックします。無効なロックおよび未処理のトランザクションは、異常終了したデータベースプロセスの結果生じたものです。

使用法メッセージおよびバージョンのサブコマンド

表 12-19 には、使用法を説明するメッセージやバージョン情報を表示するサブコマンドとその簡単な説明を示します。

表 12-19 使用法メッセージとバージョンの rdmgr サブコマンド

引数 / オペランド	説明
-h または -?	使用法を説明するメッセージを表示します。
-v	バージョン情報を表示します。

リターンコード

rdmgr コマンドはリターンコードをシェルに戻します。

0 - 成功

1 - 失敗

sendrdm

説明

sendrdm コマンドは、CGI またはコマンド行ベースの検索メカニズムを提供します。rdm (リソース記述マネージャ) リクエストは、SOIF 形式で検索サーバに送信されます。このコマンドは、通常の検索 Portal Server インスタンスディレクトリの /server-instance-directory/deployment_uri 上で実行されます。これは、インストール時に選択する配置 URI パスです。デフォルトの Portal Server のインストールを選択した場合、/var/opt/SUNWps/https-servername/portal ディレクトリになります。servername の値は、Portal Server の完全修飾名であるデフォルトの Portal Server インスタンス名です。

注 デフォルトインストールでは、環境変数 LD_LIBRARY_PATH を /opt/SUNWps/lib に設定します。

構文

sendrdm コマンドの構文は次のとおりです。

```
# sendrdm [-dv] [-t n] [-u uri] RDM-in [RDM-out]
```

オプション

表 12-20 ではサポートされる sendrdm コマンドオプションをアルファベット順に要約しています。この表には使用できるオプションがとその簡単な説明が示されています。

表 12-20 sendrdm コマンドオプション

引数 / オペランド	説明
-d	デバッグモードを指定します。デフォルトでは無効です。このオプションを使用すると有効になります。
-t <i>n</i>	時間を秒単位で指定します。コマンドは <i>n</i> 秒後にタイムアウトします。デフォルトは 300 秒です。
-u <i>uri</i>	インポート元サーバーの URI ディレクトリを指定する。完全パス名を入力します。
-v	検索形式のバージョンを表示します。
<i>RDM-in</i>	RDM リクエストファイル名を指定します。この引数は必須です。
<i>RDM-out</i>	RDM 結果ファイル名を指定します。デフォルトでは標準出力に出力されます。

例

`/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ルートディレクトリで次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/lib/sendrdm -t 3600 -u /rdm/incoming rdmquery.soif
result.soif
```

この例では、制限時間を 1 時間にして、`/rdm/incoming` を使用して **Compass Server 3.01x** からインポートします。rdmquery.soif の内容は次のようになります。

```
@RDMHEADER { -
catalog-service-id{48}: x-catalog://frankie.sesta.com:89/Compass-2

rdm-type{10}: rd-request
rdm-version{3}: 1.0
rdm-query-language{8}: gatherer
}
@RDMQUERY { -
scope{3}: all
}
```

StartRobot

StartRobot スクリプトは、管理者がロボットを手動で起動する場合に使用します。通常このスクリプトは、スケジューラが指定された時間にロボットを起動するために使用します (cron ジョブ)。StartRobot コマンドは `/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ディレクトリ内にあります。

構文

```
# StartRobot
```

オプション

オプションはありません。

構成ファイル

ここでは、`desktopconfig.properties` および `search.conf` 構成ファイルについて説明します。

この付録には、次の節があります。

- Sun™ ONE Portal Server 構成ファイルの概要
- デスクトップ構成プロパティ
- 検索構成プロパティ

Sun™ ONE Portal Server 構成ファイルの概要

Sun ONE Portal Server の構成データのほとんどは、iPlanet™ Directory Server Access Management Edition ディレクトリに保存された Extensible Markup Language (XML) で定義され、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを使用して管理されます。XML サービス定義ファイルについての詳細は、付録 B 「XML リファレンス」を参照してください。一般に、特定のサーバー以外の、サービスに関連したデータは、すべて iPlanet Directory Server Access Management Edition ディレクトリに保存されます。サーバー固有のデータは、個々のサーバーのローカルプロパティ ファイルに保存できます。Sun ONE Portal Server は複数のプロパティまたは構成ファイルを使用して、デスクトップサービスと検索サービスの構成を管理します。

デスクトップサービスについては、`desktopconfig.properties` 構成ファイルにサーバー固有のパラメータが定義されています。

検索サービスについては、Sun ONE Portal Server は7つの構成ファイルを使用します。

この付録では、`search.conf` ファイルに格納された構成データのみを扱います。ロボット設定のための構成ファイルなど、その他の検索サービス構成ファイル (`classification.conf`、`filter.conf`、`filterrules.conf`、および `robot.conf`) については、第 9 章「検索エンジンロボットの管理」で説明しています。また、検索サービスはこの他に `convert.conf` と `import.conf` の構成ファイルを使用します。これらのファイルは検索サーバーにより生成され、一般に手動で編集できません。

インストール時に、基本ディレクトリ (`/opt`)、配備 URI (`/portal`)、および配備インスタンス (`myserver.sesta.com`) に対して、値を定義するか、またはデフォルト値を使用するかどうかのオプションが提示されます。

デスクトップ構成プロパティ

`desktopconfig.properties` ファイルは、初期化の間にデスクトップで読み出されるサーバー固有のパラメータを定義します。このファイルを変更する場合は、サーバーを再起動して変更内容を有効にする必要があります。デフォルトでは、このファイルは `/etc/opt/SUNWps/desktop` ディレクトリに置かれています。

「内部使用」と表記されたパラメータは、カスタマイズできません。このため、デバッグレベルと追加クラスの基本ディレクトリのみを構成できます。表 A-1 には、パラメータとそのデフォルト値、およびその機能の説明と使用可能な値を示します。

表 A-1 desktopconfig.properties パラメータ

パラメータ	説明
debugLevel=error	<p>デスクトップで生成されるメッセージのデバッグレベル。デバッグ出力は /var/opt/SUNWam/debug/desktop.debug ファイルに保存されます。debugLevel の値を増やしてロギングを過剰に行った結果、集中的な IO 操作によりパフォーマンスが低下する場合は注意してください。</p> <p>値: (少ないロギングから多いロギングの昇順)</p> <ul style="list-style-type: none"> • off: ロギングなし • error: ログ エラーのみ • warning: ログ エラーと警告 • message: すべてをログ <p>デフォルト値: error</p>
perfLevel=off	<p>[内部使用]</p> <p>デスクトップでロギングされるパフォーマンス メトリックのレベル。出力は /var/opt/SUNWam/debug/desktop.perf に保存されます。実験環境では、このパラメータは常に off にします。</p> <p>値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • off: パフォーマンス メトリックのロギングなし • message: すべてのパフォーマンス メトリックをロギング <p>デフォルト値: off</p>
<p>serviceAppContextClass Name=com.sun.portal. desktop.context. DSAMEServiceAppContext</p>	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: com.sun.portal.desktop.context.DSAMEServiceAppContext</p>
<p>templateBaseDir= /etc/opt/SUNWps/desktop/</p>	<p>[内部使用]</p> <p>すべてのテンプレート ファイルが格納されるルートディレクトリ。</p> <p>デフォルト値: /etc/opt/SUNWps/desktop/</p>

表 A-1 desktopconfig.properties パラメータ (続き)

パラメータ	説明
providerClassBaseDir= /etc/opt/SUNWps /desktop/classes	<p>カスタマがプロバイダクラスの配置を許可されるルートディレクトリ。独自のプロバイダまたは独自の新規プロバイダ(これが一般的です)を作成します。プロバイダクラスは最上位の jar か、com などのパッケージディレクトリに配置する必要があります。</p> <p>デフォルト値: /etc/opt/SUNWps/desktop/classes</p>
jjspCompilerWARClassPath=< アプリケーション サーバーでのみ使用 > jjspCompilerWARClassPath= /export/home/ias60sp3/ias/APPS/modules /ps/WEB-INF/lib	<p>[内部使用]</p> <p>アプリケーション サーバーでのみ使用します。</p> <p>デフォルト値:</p>
defaultDesktopType=default	<p>[内部使用]</p> <p>DesktopAppContext が使用できますが、DesktopContext が使用できない場合、ErrorProvider によって使用されるデフォルトのデスクトップタイプ。</p> <p>デフォルト値: default</p>
getterPoolMinSize=0	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: 0</p>
getterPoolMaxSize=0	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: 0</p>
getterPoolPartitionSize=0	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: 0</p>
callerPoolMinSize=0	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: 0</p>
callerPoolMaxSize=0	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: 0</p>
callerPoolPartitionSize=0	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: 0</p>

表 A-1 desktopconfig.properties パラメータ (続き)

パラメータ	説明
cookiePrefix=desktop.	[内部使用] すべてのデスクトップ cookie で使用されるプレフィクス。 デフォルト値: desktop.
templateScanInterval	/etc/opt/SUNWps ディレクトリのテンプレートファイルのスキャン (変更のチェック) の間隔を秒数で定義します。この間隔の設定により、パフォーマンスとスケーラビリティが向上する場合があります。これはサーバーが次のスキャンまでの間にキャッシュされた情報を使用するためです。デフォルト値は 30 秒です。

検索構成プロパティ

デフォルトのインストールでは、search.conf ファイルは /var/opt/SUNWps/https-*instancename*/portal/config ディレクトリにあります。search.conf ファイルには、設定したすべての検索値が一覧表示されます。/opt/SUNWps/samples/config ディレクトリには、サンプルファイル search.conf が格納されています。

デフォルトのインストールでは、\$CSROOT 変数が /var/opt/SUNWps/http-*instancename*/portal に、\$CSBIN 変数が /opt/SUNWps/bin に、また \$CSLIB 変数が /opt/SUNWps/lib にそれぞれ割り当てられます。これらのパラメータのほとんどは、検索サーバー設定または検索サーバー拡張設定の iPlanet Application Server Enterprise Edition 管理コンソールで変更できます。

表 A-2 では、変更可能なパラメータ、パラメータのデフォルト値、およびその簡単な説明を示しています。

表 A-2 search.conf パラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
csid	x-catalog:/ /\$HOST:\$PORT/\$NICK	主に Compass Server との下位互換に使用されるサーバーの ID 文字列を指定します。インストール時に定義されます。

表 A-2 search.conf パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト	説明
bindir	\$CSBIN	バイナリの場所を指定します。インストール時に定義されます。
database-directory	\$CSROOT/db	(サーバーで使用される) データベースの位置を指定します。インストール時に定義されます。
database-root	\$CSROOT/db	(インデクサで使用される) データベースの位置を指定します。インストール時に定義されます。
database-max-concurrent	8	1 度にデータベースにアクセスできるサーバースレッドの数を制限します。パフォーマンスを向上させるためにこの値を変更できますが、パフォーマンスを最適に維持するには、インデックススレッドの約 1.25 倍に設定してください。
database-name	default	論理データベース名を指定します。この値は外部データベースを含む別のデータベースに変更できます。
database-logdir	db	データベーストランザクションログを保存するディレクトリを指定します。
security-mode	OFF	ドキュメントレベルのセキュリティを有効または無効にします。サーバー設定の管理コンソールでリセットできます。
security-manager	com.sun.portal.search.rdmserver.DSameSecurityManager	セキュリティマネージャーのクラス名を指定します。編集しないでください。
security-dsame-group	OFF	セキュリティ管理でユーザーロールの他にグループを使用するかどうかを指定します。
debug-logfile	\$CSROOT/logs/rdmserver.log	内部サーバーアクティビティをロギングします。インストール時に定義されます。サーバー拡張設定の管理コンソールでリセットできます。
debug-loglevel	1	デフォルトのログ レベルを設定します。サーバー拡張設定の管理コンソールでリセットできます。
filters-check-dns	on	同じアドレスの別名になっているサーバーの数をチェックします。ロボットシミュレータの管理コンソールでリセットできます。
filters-check-redirect	on	サーバーのリダイレクトをチェックします。ロボットシミュレータの管理コンソールでリセットできます。

表 A-2 search.conf パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト	説明
import-config	\$CSROOT/conf/import.conf	データベースインポートの管理コンソールでインポートエージェントを定義する場合、検索サーバーによって生成されるコンテンツを指定します。インストール時に定義されます。
libdir	\$CSLIB	インストール時に定義されます。
logfile	\$CSROOT/logs/rdm.log	RDM サーバー要求のログファイルを指定します。インストール時に定義されます。サーバー拡張設定の管理コンソールでリセットできます。
disable-rdm-log	false	RDM 要求のログギングを無効にします。サーバー拡張設定の管理コンソールでリセットできます。
classification-stats- during-browse	true	True の場合、サーバーはブラウザのカテゴリ別に見つかったドキュメントの数を記録します。
browse-root-classification	false	カテゴリツリーのルートでドキュメントを参照するかどうかを指定します。
search-logfile	\$CSROOT/logs/searchengine.log	検索エンジンのログファイルを指定します。インストール時に定義されます。サーバー拡張設定の管理コンソールでリセットできます。
search-max-index-batch	2000	各インデックスバッチのドキュメントの最大数を指定します。
search-query-threads	6	検索クエリのスレッド数を指定します。使用する CPU 単位あたり 3 ~ 6 スレッドに設定します。
search-index-threads	1	検索インデックスのスレッド数を指定します。通常は 1 を使用します。
search-index-type	AWord	検索エンジンインデックスの形式を指定します。編集しないでください。
search-index-partition- -size	32	インデックスのマージの間に使用されるブロックファクタを指定します。編集しないでください。
search-dictionary-type	partial	検索ディレクトリの形式を指定します。編集しないでください。
search-lookup-limit	-1	低速ワイルドカード検索のタイムアウト (ミリ秒) を制御します。-1 は無制限を意味します。
search-highlights	true	検索結果のハイライトを有効にします。
search-max-passages	3	ダイナミックサマリパッセージの最大生成数を指定します。

表 A-2 search.conf パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト	説明
search-passage-context	6	各ハイライトパッセージの周囲のコンテキストサイズ (ワード数) を指定します。
#search-field-multipliers	"title 1.0"	それぞれのドキュメントフィールドに割り当てられる検索の重みを指定します。カンマで区切られたリストになります。
rdmgr-logfile	\$CSROOT/log s/rdmgr.log	インデックスプロセスのログファイルを指定します。インストール時に定義されます。サーバー拡張設定の管理コンソールでリセットできます。
schema-description	\$CSROOT/con fig/schema. rdm	デフォルトの検索エンジン体系を指定します。インストール時に定義されます。
server-description	\$CSROOT/con fig/server. rdm	サーバー記述要求で返される RDM サーバー記述を指定します。インストール時に定義されます。
server-root	\$CSROOT	サーバーインスタンスのルートディレクトリを指定します。インストール時に定義されます。サーバー設定の管理コンソールでリセットできます。
taxonomy-database-name	taxonomy	分類インデックスデータベースの論理名を指定します。
taxonomy-description-refresh-rate	3600 -> 60	自動分類リロードのポーリング周期を指定します。
taxonomy-description	\$CSROOT/con fig/taxonom y.rdm	RDM 分類定義を指定します。カテゴリ下のカテゴリエディタを使用して編集します。インストール時に定義されます。
tmpdir	\$CSROOT/tmp	一時ディレクトリを指定します。インストール時に定義されます。ロボットクロウリングの管理コンソールでリセットできます。
robot-refresh	30000	管理コンソールの「ロボット」の「コントロール」ページの更新間隔をミリ秒で指定します。
admin-category_editor_nodes_per_page	25,50,100,2 50,500,-1	ページごとに表示されるカテゴリの最大数を定義するために使用できる選択項目のリストを指定します。-1 を指定するとすべてのツリーが表示されます。
admin-category_editor_max_combo_element	10	ターゲットカテゴリのカテゴリエディタのドロップダウン選択リストで最大要素数を指定します。

注 次のパラメータは使用されないため、表 A-2 には示されていません。filters-check-virtual、multiple-classifications、reports-exclude-gv-queries、reports-exclude-browse、rdmgr-pidfile、および rlog-max-logs。

XML リファレンス

iPlanet™ Directory Server Access Management Edition アプリケーションとして、Sun™ ONE Portal Server はサービスを iPlanet Directory Server Access Management Edition の Service Management Service (SMS) フレームワークに登録します。これは Sun ONE Portal Server のプレインストール、および iPlanet Directory Server Access Management Edition のポストインストールの間に行われます。

注 一般に、特定のサーバー以外の、サービスに関連したデータはすべて iPlanet Directory Server Access Management Edition ディレクトリに保存されます。サーバー固有のデータは、個々のサーバーのローカルになるプロパティファイルに保存できます。

SMS は SMS Document Type Definition (DTD) に従った Extensible Markup Language (XML) を使用することで、サービスで設定データが定義および管理されるためのメカニズムを提供します。XML ファイルを通じた設定パラメータの定義は、サービスのスキーマと呼ばれます。各 Sun ONE Portal Server サービス (デスクトップ、Netmail、リライト、検索) には、サービス固有のデータを表現して修正するための独自の XML とプロパティファイルがあります。

iPlanet Directory Server Access Management Edition フレームワーク内で、Sun ONE Portal Server は次の機能領域に関連するサービスを定義します。

- デスクトップ —SunPortalDesktopService には、ディスプレイプロファイルとデスクトップに関連するその他の設定パラメータを含む、デスクトップコンポーネント関連のデータが格納されています。
- 検索エンジン —SunPortalSearchService は、検索者や検索インスタンスなどの検索コンポーネントに関連したデータを定義します。検索サービスインスタンスに 1 つまたは複数のインスタンスを定義できます。

- NetMail—SunPortalNetMailService には、主にユーザーの基本設定から構成される NetMail アプリケーションに関連したデータが含まれています。
- リライター —SunPortalRewriterService には、リライト操作を制御する名前付きのルールセットを含む、リライターコンポーネントに関連したデータが格納されます。リライター API は、ディレクトリ内に保存されている名前付きルールセットを参照します。

また、Sun ONE Portal Server には、ディスプレイプロファイルやリライタルールセットの LDAP 属性値を定義するために、その他の DTD を使用します。

ディスプレイプロファイルの Document Type Definition (DTD) は、ディスプレイプロファイルを構造化する方式を定義します。ディスプレイプロファイルドキュメントの基本となるデータ形式は XML です。これはデスクトップの表示設定を定義することを目的としています。また DTD はプロバイダとチャンネルオブジェクト、およびそれらのプロパティを定義することで上記の作業を実行します。ディスプレイプロファイルの詳細については、第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」を参照してください。

リライタルールセットの DTD は、ルールセットの構造を定義します。リライターにはデフォルトのルールセットが格納されています。第 7 章「リライターサービスの管理」では、リライター、およびリライターがルールセットを使用する方法について詳細に説明しています。

この付録では、Sun ONE Portal Server のサービスを定義するために使用されるさまざまな XML ファイルのリストファイルを示しています。次の項目から構成されます。

- Sun ONE Portal Server デスクトップ サービスの定義
- Sun ONE Portal Server NetMail サービスの定義
- Sun ONE Portal Server リライターサービスの定義
- Sun ONE Portal Server 検索サービスの定義
- ディスプレイプロファイル DTD
- リライタルールセット DTD
- デフォルトルールセット

Sun ONE Portal Server デスクトップ サービスの定義

デフォルトのインストールで、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義が /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server のデスクトップサービス定義は、/opt/SUNWps/export/psDesktop.xml ファイル内にあります。

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.

  Sun ONE Portal Server (iPS) デスクトップサービスの定義
-->

<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "jar://com/iplanet/sm/sms.dtd">

<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalDesktopService" version="1.0">
    <Schema
      i18nFileName="psDesktop"
      serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalDesktopService"
      propertiesViewBeanURL="/portal/dtadmin/DesktopAdminService"
      i18nKey="sunPortalDesktopServiceDescription">
      <Global>
        <AttributeSchema name="serviceObjectClasses"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="">
          <DefaultValues>
            <Value>sunPortalDesktopPerson</Value>
          </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
      <!--
        デスクトップセッションの取得が無効にされている
        バグ #4720290。詳細はこのバグレポートを参照。

        このバグが解決されると、コメント機能がないために
        エントリが完全に削除されているため、
        エントリを psDesktop.ldif に追加する必要がある。

        <AttributeSchema name="sunPortalDesktopSessionReapInterval"
          type="single"
          syntax="string"

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        any="display"
        i18nKey="g2">
        <DefaultValues>
            <Value>1800</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionInactiveMaximum"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display"
        i18nKey="g3">
        <DefaultValues>
            <Value>3600</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
-->
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpIsValidating"
        type="single"
        syntax="boolean"
        any="display"
        i18nKey="g5">
        <DefaultValues>
            <Value>>true</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpNamespaceURI "
        type="single"
        syntax="string"
        any="display"
        i18nKey="g6">
        <DefaultValues>
            <Value>http://www.ipplanet.com</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpDocument "
        type="single"
        syntax="xml"
        any="display"
        i18nKey="g7">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpLastModified"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>
            <Value>-1</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        <DefaultValues>
            <Value>goto</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEDPContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopDpUserContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEDPUserContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopDebugContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEDDebugContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopServiceContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEServiceContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionAppContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMESessionAppContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionContextClassName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
    <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMESessionContext</Value>
    </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
    <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.CookieSessionContext</Value>
    </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopDesktopContextClassName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
    <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.PSDesktopContext</Value>
    </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
    <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.PSContainerProviderContext</Value>
    </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
    <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.PSProviderContext</Value>
    </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopPropertiesContextClassName"

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DPPPropertiesContext</Value>
        </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
        <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopTemplateContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.FileTemplateContext</Value>
        </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
        <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopClientContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEClientContext</Value>
        </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
        <AttributeSchema name="sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs"
        type="list"
        syntax="string"
        any="display"
        i18nKey="g8">
        <DefaultValues>
        </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
        <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display"
        i18nKey="g9">
        <DefaultValues>
        </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
        <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopChannelImportModules"
        type="list"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>
        </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
</Global>

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

    <Dynamic>
      <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDefaultChannelName"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default "
        any="display"
        i18nKey="d1">
        <DefaultValues>
          <Value>JSPTabContainer</Value>
        </DefaultValues>
      </AttributeSchema>
      <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopEditProviderContainerName"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default "
        any="display"
        i18nKey="d2">
        <DefaultValues>
          <Value>JSPEditContainer</Value>
        </DefaultValues>
      </AttributeSchema>
      <AttributeSchema name="sunPortalDesktopType"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default "
        any="display"
        i18nKey="d3">
        <DefaultValues>
          <Value>default</Value>
        </DefaultValues>
      </AttributeSchema>
      <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpDocument "
        type="single"
        syntax="xml "
        cosQualifier="default "
        any="display"
        i18nKey="d4">
      </AttributeSchema>
      <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpLastModified"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default "
        any="display"
        i18nKey=" " >
        <DefaultValues>
          <Value>-1</Value>
        </DefaultValues>
      </AttributeSchema>
      <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpCanView"
        type="single"
        syntax="boolean"
        cosQualifier="default "
        any="display"
        i18nKey="d5">

```

コード例 B-1

デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        <DefaultValues>
            <Value>true</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
</Dynamic>

<Policy>
    <ActionSchema name="sunPortalDesktopExecutable"
        type="single"
        syntax="boolean"
        any="display"
        cosQualifier="default"
i18nKey="p1">
        <DefaultValues>
            <Value>true</Value>
        </DefaultValues>
    </ActionSchema>
</Policy>

<User>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDefaultChannelName"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d1">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopEditProviderContainerName"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d2">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopType"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d3">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpDocumentUser"
        type="single"
        syntax="xml"
        any="display"
        i18nKey="u1">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpLastModifiedUser"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display"
        i18nKey="">
        <DefaultValues>
            <Value>-1</Value>

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

                </DefaultValues>
            </AttributeSchema>
        </User>

        </Schema>
    </Service>
</ServicesConfiguration>

```

Sun ONE Portal Server NetMail サービスの定義

デフォルトのインストールで、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義が /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server の NetMail サービス定義は /opt/SUNWps/export/psNetMail.xml ファイル内にあります。

コード例 B-2 NetMail サービス定義

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.

  Sun ONE Portal Server (iPS) NetMail サービスの定義
-->
<!--
  FIXME(P@): postinstall スクリプトで代入できるトークンと
  以下の DTD パスを置換
-->

<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "file:/opt/SUNWam/dtd/sms.dtd">

<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalNetMailService" version="1.0">
    <Schema
      i18nFileName="psNetMail"
      serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalNetMailService"
      i18nKey="sunPortalNetmailServiceDescription">
      <Global>
        <AttributeSchema name="serviceObjectClasses"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="">
          <DefaultValues>
            <Value>sunPortalNetmailPerson</Value>
          </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
      </Global>
    </Schema>
  </Service>
</ServicesConfiguration>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  <Dynamic>
    <AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPServerName"
      type="single"
      syntax="string"
      cosQualifier="default"
      any="display"
      i18nKey="a01">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalNetmailSMTPServerName"
      type="single"
      syntax="string"
      cosQualifier="default"
      any="display"
      i18nKey="a02">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalNetmailDefaultMailDomain"
      type="single"
      syntax="string"
      cosQualifier="default"
      any="display"
      i18nKey="a03">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalNetmailRootFolder"
      type="single"
      syntax="string"
      cosQualifier="default"
      any="display"
      i18nKey="a04">
      <DefaultValues>
        <Value>Mail</Value>
      </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalNetmailSentMessagesFolder"
      type="single"
      syntax="string"
      cosQualifier="default"
      any="display"
      i18nKey="a15">
      <DefaultValues>
        <Value>Mail/Sent</Value>
      </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithAuthor"
      type="single"
      syntax="boolean"
      cosQualifier="default"
      any="display"
      i18nKey="a20">
      <DefaultValues>
        <Value>>false</Value>
      </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithDate"
      type="single"
      syntax="boolean"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a21">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithBody"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a22">
  <DefaultValues>
    <Value>>true</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailIndentPrefix"
  type="single"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a18">
  <DefaultValues>
    <Value>></Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAddSignature"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a19">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailInitialHeaders"
  type="single"
  syntax="numeric"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a07">
  <DefaultValues>
    <Value>10</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailInactivityInterval"
  type="single"
  syntax="numeric"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a09">
  <DefaultValues>
    <Value>5</Value>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailMaxAttachLen"
    type="single"
    syntax="numeric"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a10">
    <DefaultValues>
      <Value>0</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoload"
    type="single_choice"
    syntax="numeric"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a11">
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.All">0</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.None">1</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.New">2</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.Unread">3</ChoiceValue>
      <ChoiceValue
i18nKey="autoload.New_and_Unread">4</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.Found">5</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
    <DefaultValues>
      <Value>0</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutosave"
    type="single"
    syntax="boolean"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a17">
    <DefaultValues>
      <Value>true</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutopurge"
    type="single"
    syntax="boolean"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a14">
    <DefaultValues>
      <Value>>false</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoFolderLoad"
    type="single"
    syntax="boolean"
    cosQualifier="default"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  any="display"
  i18nKey="a05">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailMultipleReadWindows"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a13">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailHeadersPerPage"
  type="single"
  syntax="numeric"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a08">
  <DefaultValues>
    <Value>10</Value>
  </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailNewestFirst"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a19">
  <DefaultValues>
    <Value>>true</Value>
  </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailNoPrefsList"
  type="multiple_choice"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a23">
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue>IMAPServerName</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>IMAPUserName</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>IMAPPassword</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>SMTPMailServer</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>rootFolder</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>inactivityInterval</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>initialHeaders</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>multipleReadWindows</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>resetSize</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>autopurge</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>replyToAddress</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>indentPrefix</ChoiceValue>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    <ChoiceValue>replyFields</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>saveSentMessages</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>sentMessagesFolder</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>signature</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>autosave</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>autoFolderLoad</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>autoload</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>maxAttachLen</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>textStyle</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>textSize</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>textColor</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>backgroundColor</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailLDAPServers"
  type="list"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a06">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailLogMessages"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a16">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
</Dynamic>

<Policy>
  <ActionSchema name="sunPortalNetmailExecutable"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    cosQualifier="default"
    i18nKey="p1">
    <DefaultValues>
      <Value>>true</Value>
    </DefaultValues>
  </ActionSchema>
</Policy>

<User>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPUserid"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="u1">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPPassword"
    type="single"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    syntax="encrypted_password"
    any="display"
    i18nKey="u2">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyToAddress"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="u3">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSignature"
    type="single"
    syntax="paragraph"
    any="display"
    i18nKey="u4">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailFavoriteFolders"
    type="list"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailPersonalAddressBook"
    type="list"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
</AttributeSchema>
<!-- attributes duplicated from the dynamic section -->
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPServerName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a01">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSMTPServerName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a02">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailDefaultMailDomain"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a03">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailRootFolder"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a04">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSentMessagesFolder"
    type="single"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  syntax="string"
  any="display"
  i18nKey="a15">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithAuthor"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a20">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithDate"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a21">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithBody"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a22">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailIndentPrefix"
  type="single"
  syntax="string"
  any="display"
  i18nKey="a18">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAddSignature"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a19">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailInitialHeaders"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a07">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailInactivityInterval"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a09">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailMaxAttachLen"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a10">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoload"
  type="single_choice"
  syntax="numeric"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  any="display"
  i18nKey="a11">
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.All">0</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.None">1</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.New">2</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.Unread">3</ChoiceValue>
      <ChoiceValue
i18nKey="autoload.New_and_Unread">4</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="autoload.Found">5</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutosave"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a17">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutopurge"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a14">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoFolderLoad"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a05">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailMultipleReadWindows"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a13">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailSortKey"
    type="single_choice"
    syntax="numeric"
    any="display"
    i18nKey="">
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue
i18nKey="sort-key.IMAP_Number">0</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Status">1</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Cached">2</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.From">3</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Size">4</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Date">5</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Subject">6</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
    <DefaultValues>
      <Value>0</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailViewKey"
    type="single_choice"
    syntax="numeric"
    any="display"
    i18nKey="">
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue i18nKey="view-key.All">0</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="view-key.New">1</ChoiceValue>
      <ChoiceValue
i18nKey="view-key.Non-deleted">2</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="view-key.Cached">3</ChoiceValue>
      <ChoiceValue
i18nKey="view-key.Non-cached">4</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="view-key.Found">5</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="view-key.Unread">6</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
    <DefaultValues>
      <Value>0</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailComposeWinBounds"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailFolderWinBounds"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailReadWinBounds"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailGridHeight"
    type="single"
    syntax="numeric"
    any="display"
    i18nKey="">
    <DefaultValues>
      <Value>0</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailGridColWidths"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
  </AttributeSchema>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailTextColor"
    type="single_choice"
    syntax="number"
    any="display"
    i18nKey="" >
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue i18nKey="white">-1</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="pink">-20561</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="red">-65536</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="orange">-14336</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="yellow">-256</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="green">-16711936</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="cyan">-16711681</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="blue">-16776961</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="magenta">-65281</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="lightGray">-4144960</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="darkGray">-12566464</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="black">-16777216</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
    <DefaultValues>
      <Value>-16777216</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailBackgroundColor"
    type="single_choice"
    syntax="number"
    any="display"
    i18nKey="" >
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue i18nKey="white">-1</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="pink">-20561</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="red">-65536</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="orange">-14336</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="yellow">-256</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="green">-16711936</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="cyan">-16711681</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="blue">-16776961</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="magenta">-65281</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="lightGray">-4144960</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="darkGray">-12566464</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="black">-16777216</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
    <DefaultValues>
      <Value>-1</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailTextSize"
    type="single_choice"
    syntax="numeric"
    any="display"
    i18nKey="" >
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue>8</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>10</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>12</ChoiceValue>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    <ChoiceValue>14</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>16</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>18</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>20</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>24</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>28</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>12</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailTextStyle"
  type="single_choice"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="">
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue i18nKey="plain">0</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="bold">1</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="italic">2</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="bold_italic">3</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>0</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailHeadersPerPage"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a08">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailNewestFirst"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a19">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailLogMessages"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a16">
</AttributeSchema>
  </User>
</Schema>
</Service>
</ServicesConfiguration>

```

Sun ONE Portal Server リライターサービスの定義

デフォルトのインストールで、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義が /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server のリライターサービス定義は /opt/SUNWps/export/psRewriter.xml ファイル内にあります。

コード例 B-3 リライターサービス定義

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.
-->

<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "jar://com/iplanet/sm/sms.dtd">

<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalRewriterService" version="1.0">

    <Schema
serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalRewriterService"
      propertiesViewBeanURL="/portal/rwadmin/SelectRule"
      i18nFileName="psRewriter"
      i18nKey="sunPortalRewriterServiceDescription">
      <Global>
        <SubSchema name="SunPortalRewriterGlobal">
          <SubSchema
name="SunPortalRewriterRuleSets" inheritance="multiple">
            <AttributeSchema
name="sunPortalRewriterRuleset" syntax="xml" />
          </SubSchema>
        </SubSchema>
      </Global>
    </Schema>

    <Configuration>
      <GlobalConfiguration>
        <SubConfiguration name="SunPortalRewriterGlobal">
        </SubConfiguration>
      </GlobalConfiguration>
    </Configuration>

  </Service>
</ServicesConfiguration>
```

Sun ONE Portal Server 検索サービスの定義

デフォルトのインストールで、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義が /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server の検索サービス定義は /opt/SUNWps/export/psSearch.xml ファイル内にあります。

コード例 B-4 検索サービス定義

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.

  Sun ONE Portal Server (iPS) 検索サービスの定義
-->

<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "file:/opt/SUNWam/dtd/sms.dtd">

<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalSearchService" version="1.0">
    <Schema
      serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalSearchService"
      propertiesViewBeanURL="/portal/searchadmin/"
      i18nFileName="psSearch"
      i18nKey="sunPortalSearchServiceDescription">
      <Global>
        <AttributeSchema name="serviceObjectClasses"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="">
          <DefaultValues>
            <Value>sunPortalSearchPerson</Value>
          </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
        <AttributeSchema name="sunPortalSearchInstances"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="cs_instances">
          <DefaultValues>
            </DefaultValues>
          </AttributeSchema>
      </Global>
    </Schema>
  </Service>
</ServicesConfiguration>
```

ディスプレイプロファイル DTD

デフォルトインストールでは、ディスプレイプロファイル DTD は
/opt/SUNWps/dtd/psdp.dtd ファイル内にあります。

コード例 B-5 表示プロファイル DTD

```
<!ELEMENT DisplayProfile
(
  Properties,
  Channels,
  Providers
)
>
<!ATTLIST DisplayProfile
  xmlns:DisplayProfile CDATA #FIXED 'http://www.iplanet.com'
  name CDATA #FIXED "_root"
  version CDATA #REQUIRED
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
  priority CDATA #REQUIRED
>

<!ELEMENT Channels
(
  (Container|Channel)*
)
>
<!ATTLIST Channels
>

<!ELEMENT Providers
(
  (Provider)*
)
>
<!ATTLIST Providers
>

<!ELEMENT Provider
(
  Properties
)
>
<!ATTLIST Provider
  name CDATA #REQUIRED
  class CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>
```

コード例 B-5 表示プロファイル DTD (続き)

```

<!ELEMENT Channel
(
  Properties
)
>
<!ATTLIST Channel
  name CDATA #REQUIRED
  provider CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Container
(
  Properties,
  Available,
  Selected,
  Channels
)
>
<!ATTLIST Container
  name CDATA #REQUIRED
  provider CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Available
  (Reference*)
>
<!ATTLIST Available
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Selected
  (Reference*)
>
<!ATTLIST Selected
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Properties
(
  Collection|
  Integer|
  String|
  Boolean|
  Locale
)*

```

コード例 B-5 表示プロファイル DTD (続き)

```
>
<!ATTLIST Properties
  name CDATA #FIXED "_properties"
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Locale
  (
    Collection|
    Integer|
    String|
    Boolean
  )*
>

<!ATTLIST Locale
  language CDATA #IMPLIED
  country CDATA #IMPLIED
  variant CDATA #IMPLIED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Collection
  (
    Collection|
    Integer|
    String|
    Boolean
  )*
>

<!ATTLIST Collection
  name CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Integer EMPTY>
<!ATTLIST Integer
  name CDATA #IMPLIED
  value CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove) "replace"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT String (#PCDATA)>
<!ATTLIST String
```

コード例 B-5 表示プロファイル DTD (続き)

```

    name CDATA #IMPLIED
    value CDATA #IMPLIED
    merge (replace|remove) "replace"
    lock (true|false) "false"
    propagate (true|false) "true"
    advanced (true|false) "false"
  >
<!ELEMENT Reference EMPTY>
<!ATTLIST Reference
  value CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove) "replace"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>
<!ELEMENT Boolean EMPTY>
<!ATTLIST Boolean
  name CDATA #IMPLIED
  value (true|false) #REQUIRED
  merge (replace|remove) "replace"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>
<!ELEMENT ParEntry
  (
    Description?,
    Provider?,
    Channel?
  )
>
<!ATTLIST ParEntry
  xmlns:ParEntry CDATA #FIXED 'http://www.iplanet.com'
  name CDATA #REQUIRED
  version CDATA #REQUIRED
  date CDATA #REQUIRED
  author CDATA #REQUIRED
  requiredClass CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT Description (#PCDATA) >

```

リライタルールセット DTD

デフォルトインストールでは、リライタルールセット DTD は `resources/RuleSet.dtd` の `/opt/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib/rewriter.jar` jar ファイル内にあります。

コード例 B-6 リライタルールセット DTD

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!ENTITY % gtype 'GROUPED'>
<!ENTITY % stype 'SCATTERED'>
<!ENTITY % jURL 'URL'>
<!ENTITY % jEXPRESSION 'EXPRESSION'>
<!ENTITY % jDHTML 'DHTML'>
<!ENTITY % jDJS 'DJS'>
<!ENTITY % jSYSTEM 'SYSTEM'>
<!ENTITY % ruleSetElements '(HTMLRules | JSRules | XMLRules)? '>
<!ENTITY % htmlElements '(Form | Applet | Attribute | JSToken)*'>
<!ENTITY % jsElements '(Variable | Function)*'>
<!ENTITY % xmlElements '(Attribute | TagText)*'>
<!ELEMENT RuleSet (%ruleSetElements;,%ruleSetElements;,%ruleSetElements;)>
<!ATTLIST RuleSet
  type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
  id ID #REQUIRED
>
<!ELEMENT HTMLRules (%htmlElements;)>
<!ATTLIST HTMLRules
  type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
  id CDATA "html_rules"
>
<!ELEMENT Form EMPTY>
<!ATTLIST Form
  source CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
  field CDATA #REQUIRED
  valuePatterns CDATA ""
>
<!ELEMENT JSToken (#PCDATA)>
<!ELEMENT Applet EMPTY>
<!ATTLIST Applet
  source CDATA #REQUIRED
  code CDATA #REQUIRED
  param CDATA "*"
  valuePatterns CDATA ""
>
<!ELEMENT JSRules (%jsElements;)>
<!ATTLIST JSRules
  type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
  id CDATA "js_rules"
>
<!ELEMENT Variable (#PCDATA)>
<!ATTLIST Variable
  type (%jURL; | %jEXPRESSION; | %jDHTML; | %jDJS; | %jSYSTEM;) "URL"
>
<!ELEMENT Function EMPTY>
<!ATTLIST Function
  type (%jURL; | %jEXPRESSION; | %jDHTML; | %jDJS;) "URL"
  name CDATA #REQUIRED
  paramPatterns CDATA #REQUIRED

```

コード例 B-6 リライタールールセット DTD (続き)

```

>
<!ELEMENT XMLRules (%xmlElements;)>
<!ATTLIST XMLRules
    type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
    id CDATA "xml_rules"
>
<!ELEMENT TagText EMPTY>
<!ATTLIST TagText
    tag CDATA #REQUIRED
    attributePatterns CDATA ""
>
<!ELEMENT Attribute EMPTY>
<!ATTLIST Attribute
    name CDATA #REQUIRED
    tag CDATA "*"
    valuePatterns CDATA ""
>

```

デフォルトルールセット

デフォルトインストールでは、デフォルトルールセットは
resources/DefaultRuleSet.xml の
/opt/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib/rewriter.jar jar ファイル内にあります。
このファイルは /opt/SUNWps/export ディレクトリ内にもあります。

コード例 B-7 デフォルトルールセット

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE RuleSet SYSTEM "jar://rewriter.jar/resources/RuleSet.dtd">
<RuleSet id="default_ruleset">
<!-- Rules for Rewriting HTML Source -->
<HTMLRules>
<!-- Rules for Rewriting Form Input/Option Values List -->
<!-- Rules for Rewriting Applet/Object Parameter Values List -->
<!-- Rules for Rewriting HTML Attributes -->
    <Attribute name="action" />
    <Attribute name="background" />
    <Attribute name="codebase" />
    <Attribute name="code" />

```

コード例 B-7 デフォルトルールセット(続き)

```

<Attribute name="href" />
<Attribute name="src" />
<Attribute name="value" />
<Attribute name="imagePath" />
<Attribute name="lowsrc" />
<Attribute name="archive"
valuePatterns="***;**,**,**,**,**,**,**,**,**,**,**,**,**"/>
<Attribute name="style" />
<Attribute name="content" tag="meta" />

<!-- Rules for Rewriting HTML Attributes containing Java Script -->
<JSToken>onAbort</JSToken>
<JSToken>onBlur</JSToken>
<JSToken>onChange</JSToken>
<JSToken>onClick</JSToken>
<JSToken>onDbClick</JSToken>
<JSToken>onError</JSToken>
<JSToken>onFocus</JSToken>
<JSToken>onKeyDown</JSToken>
<JSToken>onKeyPress</JSToken>
<JSToken>onKeyUp</JSToken>
<JSToken>onLoad</JSToken>
<JSToken>onMouseDown</JSToken>
<JSToken>onMouseMove</JSToken>
<JSToken>onMouseOut</JSToken>
<JSToken>onMouseOver</JSToken>
<JSToken>onMouseUp</JSToken>
<JSToken>onReset</JSToken>
<JSToken>onSelect</JSToken>
<JSToken>onSubmit</JSToken>
<JSToken>onUnload</JSToken>
</HTMLRules>

<!-- Rules for Rewriting JavaScript Source -->
<JSRules>

<!-- Rules for Rewriting JavaScript variables in URLs -->
<Variable type="URL"> imgsrc </Variable>
<Variable type="URL"> location.href </Variable>
<Variable type="URL"> _fr.location </Variable>
<Variable type="URL"> mf.location </Variable>
<Variable type="URL"> parent.location </Variable>
<Variable type="URL"> self.location </Variable>
<Variable type="EXPRESSION"> location </Variable>
<Variable type="SYSTEM"> window.location.pathname </Variable>

<!-- Rules for Rewriting JavaScript Function Parameters -->
<Function type="URL" name="openURL" paramPatterns="y"/>
<Function type="URL" name="openAppURL" paramPatterns="y"/>
<Function type="URL" name="openNewWindow" paramPatterns="y"/>
<Function type="URL" name="parent.openNewWindow" paramPatterns="y"/>
<Function type="URL" name="window.open" paramPatterns="y"/>
<Function type="DHTML" name="document.write" paramPatterns="y"/>
<Function type="DHTML" name="document.writeln" paramPatterns="y"/>

```

コード例 B-7 デフォルトルールセット (続き)

```
</JSRules>

<!-- Rules for Rewriting XML Source -->
<XMLRules>

<!-- Rules for Rewriting Attributes -->
  <Attribute name="xmlns" />
  <Attribute name="href" tag="a" />

<!-- Rules for Rewriting TagText -->
  <TagText tag="baseroot" />
  <TagText tag="img" />
</XMLRules>

</RuleSet>
```

デフォルトルールセット

デスクトップの属性

デスクトップサービスは、グローバル属性および動的属性で構成されています。グローバル属性に適用された値は、iPlanet™ Directory Server Access Management Edition 構成を通じて適用され、構成されたすべての組織によって継承されます。iPlanet Directory Server Access Management Edition アプリケーションをカスタマイズすることがグローバル属性の目的であるため、値を直接ロールまたは組織に適用することはできません。動的属性に適用される値は、ロールまたは組織に割り当てられます。ユーザーにロールを割り当てる場合、または組織でユーザーを作成する場合は、動的属性がそのユーザーの特性になります。

デスクトップの属性は、次のように分けられます。

- デスクトップ グローバル属性
- デスクトップダイナミック属性

デスクトップ グローバル属性

表 C-1 は、デスクトップサービスのグローバル属性について示します。

この表では、属性名、属性のデフォルト値、および属性の説明を示します。

表 C-1 デスクトップ サービス - グローバル属性

属性	デフォルト値	説明
デスクトップセッションの取得間隔 (秒)	1800	アクティブ状態でないデスクトップセッションの削除をチェックする間隔を秒単位で定義します。

表 C-1 デスクトップ サービス - グローバル属性

属性	デフォルト値	説明
取得前の最大非アクティブセッション時間 (秒)	3600	デスクトップセッションがアクティブ状態でないとみなされるまでの、アイドル状態の時間の最大数を秒単位で指定します。この値より長い時間セッションのアイドル状態が続くと、セッション取得の候補となり、次のデスクトップセッション時間に削除される可能性があります。
XML パース検証を有効 (使用するには注意が必要)	True (チェックボックスがオン)	経過時 XML ドキュメントをパースする間、検証を行うかどうかを指定します。この属性のチェックをオフにすると、システムの性能が向上する場合があります。ただし、結果の XML ドキュメントには DTD と適合しないフラグメントが含まれている場合があるので、ディスプレイプロファイルドキュメントが破壊されるおそれがあります。
ネームスペース URI	http://www.iplanet.com	XML ネームスペースまたは URI (Uniform Resource Indicator) の一意の識別子を URL の形式で指定します。これによって、XML タグが確実に一意になります。

表 C-1 デスクトップ サービス - グローバル属性

属性	デフォルト値	説明
ディスプレイプロファイル	デフォルト値は、実行したインストールのタイプによって異なります。サンプルポータルがインストールされている場合、ディスプレイプロファイルには組み込みプロバイダ(ブックマークやノートなどの Sun™ ONE Portal Server の基本プロバイダ)の定義が含まれています。サンプルポータルがインストールされていない場合は、グローバル表示プロファイルは空白になります。	<p>グローバルディスプレイプロファイルを操作するためのリンク、コンテナ管理を定義する XML ドキュメント、チャンネル属性、および組織のプロバイダ定義を表示します。次のリンクを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> XML の編集 - ディスプレイプロファイルの XML ファイル全体を編集できます。 XML のアップロード - Portal Server にディスプレイプロファイル情報を含んだ XML ファイルをアップロードできます。 XML のダウンロード - ローカルドライブにディスプレイプロファイルをダウンロードできます。 チャンネルおよびコンテナの管理 - XML ファイルを編集することなくコンテナチャンネルおよびチャンネルを管理するためのグラフィカルユーザーインターフェースを提供します。 <p>これらのリンクは属性ではありません。これらのリンクを選択すると、ディスプレイプロファイルを操作できます。</p> <p>グローバルディスプレイプロファイルで定義されたディスプレイプロファイル要素は、所属する組織やロールとは関係なく、システムのすべてのユーザーに継承されます。</p>
承認された 認証なしユーザー ID	<code>uid=authlessanonymous, ou=People,o=iplanet.com, o=isp authlessanonymous</code>	認証なしでデスクトップにアクセス許可されたユーザー ID を定義します。
デフォルトの 認証なしユーザー ID	<code>uid=authlessanonymous, ou=People,o=iplanet.com, o=isp</code>	認証なしで許可されたデフォルトユーザー ID の使用が指定されていない場合に定義します。

デスクトップダイナミック属性

表 C-2 は、デスクトップサービスのダイナミック属性について示します。

この表では、属性名、属性のデフォルト値、および属性の説明を示します。

表 C-2 デスクトップサービス - ダイナミック属性

属性	デフォルト値	説明
競合の解決レベル	Highest	<p>複数のデスクトップテンプレートをマージした場合に、競合を解決するために使用するデスクトップサービステンプレートの競合の解決レベルを設定します。競合の解決レベルは、「Highest (最も高い)」から「Lowest (最も低い)」までの7段階に設定できます。</p> <p>この設定とディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位とを混同しないようにしてください。ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位は、<code>priority= syntax</code> タグで XML ファイルに設定されている数値です。マージが発生した場合は、もっとも優先度の低いディスプレイプロファイルドキュメント (もっとも低い数値) から開始され、もっとも優先度の高いディスプレイプロファイルであるユーザー (基本) に達するまで、優先度の数値を増加させながら処理されます。</p> <p>属性の競合が発生すると、もっとも高い競合の解決レベルに設定されたテンプレートの属性が返されます。</p>
デフォルトチャンネル名	JSPTabContainer	<p>指定されていないプロバイダを使用してデスクトップが呼び出された場合に、どのデフォルトチャンネルを提供するかを識別します。</p>

表 C-2 デスクトップサービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
デフォルト編集チャンネル名	JSPEditChannel	<p>URL で指定されていないコンテンツのラップに使用するデフォルト編集チャンネルを指定します。チャンネルが編集されたときは、「編集」要求 URL がデスクトップサーブレットに送信されます。コンテナ内で各チャンネルの「編集」のために生成される URL は、ディスプレイプロファイルで定義されているプロパティ <code>editContainerName</code> によって異なります。</p> <p>iPlanet™ Portal Server 3.0 からコンテナを移行した場合は、URL のフォーマットが変更されているため、この属性を使用してコンテンツをラップするデフォルトの編集チャンネルを指定する必要があります。</p>
デスクトップタイプ	default	<p>異なるデスクトップ構成が必要な場合、および異なる一連のテンプレートや JSP がこれらの構成に必要な場合に、指定したデスクトップのタイプにテンプレートファイルを取得します。</p> <p>チャンネル、ロゴ、見た目と使い心地などが異なるため、通常、サイトでは <code>default</code> のデスクトップタイプを使用しません。</p>

表 C-2 デスクトップサービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ディスプレイプロファイル	デフォルト値は、実行したインストールのタイプによって異なります。サンプルポータルをインストールした場合、グローバルディスプレイプロファイルに定義された組み込みプロバイダを表示するチャンネルを含む組織レベルで、ディスプレイプロファイルドキュメントのサンプルがインストールされます。	<p>ディスプレイプロファイルを操作するためのリンク、コンテナ管理を定義する XML ドキュメント、チャンネル属性、およびこの特定のノード (ロール、組織、およびサブ組織) に対するプロバイダ定義を表示します。次のリンクを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • XML の編集 - ディスプレイプロファイルの XML ファイル全体を編集できます。 • XML のアップロード - Portal Server にディスプレイプロファイル情報を含んだ XML ファイルをアップロードできます。 • XML のダウンロード - ローカルドライブにディスプレイプロファイルをダウンロードできます。 <p>これらのリンクは属性ではありません。これらのリンクを選択すると、ディスプレイプロファイルを操作できます。</p>
デスクトップサービスの属性を表示	True (チェックボックスがオン)	<p>デスクトップサービスの属性が、ロールに関連付けられたユーザーに表示されているかどうかを指定する。この動的属性は主にロールベースの代理の管理に使用され、この属性に適用された値はロールに対してのみ有効となります。</p> <p>ロールがユーザーに割り当てられてこの属性の値が false である場合、組織内のすべてのロールにナビゲートするときに、ユーザー (一般的に委任された管理者) には、チャンネルおよびコンテナ管理のリンク以外は、デスクトップサービスの属性が全く表示されません。</p>

NetMail 属性

NetMail サービスは、ダイナミック属性だけで構成されています。ダイナミック属性に適用される値は、ロールまたは組織に割り当てられます。ユーザーにロールを割り当てる場合、または組織でユーザーを作成する場合は、ダイナミック属性がそのユーザーの特性になります。

NetMail のダイナミック属性

表 D-1 は、NetMail サービスのダイナミック属性について示します。

この表では、属性名、属性のデフォルト値、および属性の説明を示します。

表 D-1 NetMail サービス - ダイナミック属性

属性	デフォルト値	説明
受信メール (IMAP) サーバー	(管理者が設定)	NetMail で接続する IMAP サーバーのホスト名を指定します。
送信メール (SMTP) サーバー	(管理者が設定)	NetMail が、SMTP で送信メッセージを送るのに使用するサーバーを指定します。
デフォルトのメインドメイン	(管理者が設定)	デフォルトのメインドメインの名前を指定します。
IMAP 最上位フォルダ	Mail	ユーザーのメールフォルダを置く、IMAP メールサーバー上のフォルダを指定します。

表 D-1 NetMail サービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
キャッシュフォルダリスト	False (チェックボックスがオフ)	<p>メールサーバーから切断したときに、フォルダのリストをユーザーのメモリキャッシュに自動的に読み込むかどうか指定します。フォルダリストを読み込むことで、切断モードで NetMail を使用しているときも、メッセージの移動およびコピーができます。</p> <p>False にする (チェックボックスをオフにする) と読み込みを可能にします。 True にする (チェックボックスをオンにする) と読み込みをオフにします。</p>

表 D-1 NetMail サービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
アドレス帳検索で使用する LDAP サーバーの詳細	(管理者が設定)	<p>アドレス帳検索を行うときに、どの LDAP サーバーの情報を使用するかを指定します。この情報は、NetMail アプレットだけで使用されます。</p> <p>各エントリは、<code>name = " value "</code> の形式で名前と値が組になったカンマで区切られたリストです。どちらの値にも引用符は使用できません。</p> <p>ユーザーはこの値を変更できません。</p> <p>有効な名前と対応するプリファレンスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>name</code> - ユーザーが見ることができる LDAP サーバー名。 • <code>server</code> - サーバーおよびポート番号。形式： <code>ldapservers[:ldapportnumber]</code> • <code>base</code> - ユーザやグループを検索するためのベースとなる文字列。例： <code>c=US, o=sesta</code> など • <code>searchin</code> - カンマで区切られたリスト。例：<code>cn, gn, sn</code>。 • <code>result</code> - LDAP 属性名。例：<code>mail</code> • <code>filter</code> - LDAP 検索フィルタ。RFC2254 を参照してください。 • <code>referral</code> - LDAP 参照、従う、あるいは無視 (適用しない) <p>例：</p> <pre>name="Sesta LDAP", server="ldap-server.sesta.com", base="dc=sesta, dc=com"</pre> <p>ユーザーがフォルダを開いたときに、最初に IMAP サーバーからダウンロードするヘッダー数を制御します。NetMail Java だけに適用されます</p>
最初に IMAP サーバーからダウンロードするヘッダー数	10	

表 D-1 NetMail サービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ページあたりに表示される メッセージヘッダー数	10	フォルダを開いたときに、最初に IMAP サーバーからダウンロードする ヘッダー数を指定します。NetMail Lite だけに適用されます。
新着メールの確認間隔 (分)	5	現在選択しているフォルダで、 NetMail が新しいメッセージをチェッ クする間隔 (分) を指定します。0 に設 定すると、NetMail は新しいメッセー ジをチェックしません。
このサイズ (KB) より大きい 添付ファイルを読み込まない	0	ユーザーが切断したときに、NetMail がメモリキャッシュに自動的に読み込 む添付ファイルのサイズの最大値を KB で指定します。0 を指定するとすべ ての添付ファイルが読み込まれる。 NetMail Java だけに適用されます。
切断時に読み込むメッセージ のタイプ	All	切断時にメモリキャッシュに自動的に 読み込まれるメッセージのタイプを指 定します。「すべて」、「なし」、「新規」、 「未読」、「新規および未読」、および 「既読」の値を使用できます。 たとえば、「未読」を選択すると、受信 トレイのすべての未読メッセージがメ モリーキャッシュに読み込まれます。 ユーザーはこれらのメッセージを切断 モードで読むことができます。 NetMail Java だけに適用されます。
新しいメッセージからソート	True (チェックボックスがオン)	選択したフォルダに最初に表示する メッセージを指定します。 True にする (チェックボックスをオン にする) と、最新のメッセージが最初 に表示されます。False にする (チェッ クボックスをオフにする) と、最も古 いメッセージが最初に表示されます。 NetMail Lite だけに適用されます。

表 D-1 NetMail サービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
別のウィンドウでメッセージを開く	False (チェックボックスがオフ)	<p>メッセージを表示するたびに、新しいウィンドウを開くかどうかを指定します。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、新しいウィンドウが開きます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、現在開いているウィンドウに表示されます。</p> <p>NetMail Java だけに適用されます。</p>
終了時に削除済みメッセージを破棄	False (チェックボックスがオフ)	<p>終了または切断時に、受信トレイの削除済みメッセージを完全に削除するかどうかを指定しています。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、切断時に削除済みメッセージが完全に削除されます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、削除済みメッセージは削除されません。</p>
送信済みメッセージフォルダ (サーバー上)	Mail/Sent	送信済みメッセージフォルダを指定します。
送信済みメッセージを送信済みメッセージフォルダ (サーバー上) に保存	False (チェックボックスがオフ)	<p>送信済みメッセージを IMAP サーバの送信済みメッセージフォルダに保存するように指定します。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、メッセージがサーバー上の送信済みメッセージフォルダに保存されます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、メッセージは送信済みメッセージフォルダに保存されません。</p>

表 D-1 NetMail サービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
送信済みメッセージのコピーをローカルキャッシュに保存する	True (チェックボックスがオン)	<p>終了時にキャッシュを自動的にディスクに保存するように指定します。この属性が有効になっていない場合は、終了時にキャッシュをディスクに保存するよう求めるメッセージが表示されません。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、キャッシュが自動的にディスクに保存されます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、キャッシュを保存するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。</p> <p>ローカルでインストールした NetMail アプレットだけに適用されます。</p>
元のメッセージに付けるプレフィックス	>	元のメッセージの各行の先頭に付ける文字を指定します。
送信メールに署名を追加	False (チェックボックスがオフ)	<p>送信メッセージに署名を付けるかどうかを指定します。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、送信メッセージに署名が付きます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、署名が付きません。</p>
返信に作成者を含める	False (チェックボックスがオフ)	<p>返信にオリジナルメッセージの作成者を含めるかどうかを指定します。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、オリジナルメッセージの作成者が含まれます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、オリジナルメッセージの作成者は含まれません。</p> <p>NetMail Java だけに適用されます。</p>

表 D-1 NetMail サービス - ダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
返信にオリジナルメッセージの日付を含める	False (チェックボックスがオフ)	<p>返信にオリジナルメッセージの日付を含めるかどうか指定します。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、オリジナルメッセージの日付が含まれます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、オリジナルメッセージの日付が含まれません。</p> <p>NetMail Java だけに適用されます。</p>
返信にオリジナルメッセージの本文を含める	True (チェックボックスがオン)	<p>返信にオリジナルメッセージの本文を含めるかどうか指定します。</p> <p>True にする (チェックボックスをオンにする) と、オリジナルメッセージの本文を含めます。False にする (チェックボックスをオフにする) と、オリジナルメッセージの本文を含めません。</p> <p>NetMail Java だけに適用されます。</p>
ユーザーが変更できないプリファレンス	(管理者が設定)	<p>エンドユーザが変更できない NetMail プリファレンス属性を指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>IMAPPassword、IMAPServerName、IMAPUserName、SMTPMailServer、autoFolderLoad、autoload、autopurge、autosave、backgroundColor、inactivityInterval、indentPrefix、initialHeaders、saveSentMessage、maxAttachLen、multipleReadWindows、replyFields、replyToAddress、resetSize、rootFolder、sentMessagesFolder、signature、textColor、textSize、および textStyle</p>

リライトの属性

リライトは、HTML、JavaScript、および WML などの各種 Web 言語、および HTTP 位置ヘッダー (リダイレクト) 形式で URL 参照を書き換えるための Java クラスライブラリを提供します。リライトサービスは、属性では構成されていません。

サービスを実装するには、リライト方式やデータの書き換え方法を定義するリライトルールを作成します。リライトルールの作成や編集は、管理コンソールから行なえます。リライトルールの作成については、第7章「リライトサービスの管理」を参照してください。

検索の属性

この付録では、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールを通して、検索エンジンに設定できる属性について説明します。

「サービス管理」の「検索」のプロパティを選択すると、2色のメニューバーが表示されます。この付録は、メニューバーの上側のダークブルーの部分のトピックスに従って構成されています。

- サーバー
- ロボット
- データベース
- カテゴリ
- レポート

上記のトピックの1つを選択すると、それに関連するサブトピックが下側のライトブルーのメニューバーに一覧表示されます。デフォルトの検索ページでは、「サーバーの「設定」が選択されます。それぞれのサブトピックでは、1つまたは複数のテーブルを使って、サブトピックの属性について説明します。この表は属性、デフォルト値、説明の3つの例に分けられます。「属性」では、ページ内の記述テキストを示します。「デフォルト値」は「属性」のデフォルト値を、「説明」では「属性」の説明とその形式を示します。

表 F-1 の説明にあるように、それぞれの「検索」のプロパティページで、「サーバーの選択」属性を使用できます。

表 F-1 検索サーバーの選択属性

属性	デフォルト値	説明
サーバーの選択	<code>http://servername:80/portal</code>	検索サーバーの完全修飾サーバー名

サーバー

「サーバー」セクションでは、サーバーの設定を行います。一時ファイルとして使用するディレクトリを選び、ログにどの情報を、どれくらい詳細に記録するかを選択します。「サーバー」属性は2つのページに表示されます。

- 設定
- 詳細

設定

このページには、検索サーバーの管理および操作に関する基本設定が含まれます。

表 F-2 サーバー設定属性

属性	デフォルト値	説明
サーバールート	<code>/var/opt/SUNWps/https-serv ernamefull/portal</code>	設定、ログ、データベースおよび情報ファイルを格納します。検索を実行したときに作成、および更新されるすべての検索ファイルのルートディレクトリでもあります。このディレクトリの設定は変更できません。
一時ファイル	<code>/var/opt/SUNWps/https-serv ernamefull/portal/tmp</code>	検索中に検索を管理するために使用されるすべての一時ファイルを格納します。このファイルには、メインデータベースにはまだ追加されていない、新しく生成されたりソースの記述も含まれます。検索が完了すると、これらのファイルは削除されます。

表 F-2 サーバー設定属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ドキュメントレベルセキュリティ	オフ	ドキュメントにアクセスできるユーザーを制御します。 設定を変更した場合は、サーバーの再起動が必要です。 値： <ul style="list-style-type: none"> オフ (デフォルト) に設定すると、すべてのユーザーが RD にアクセス可能になる。 オンは、RD の ReadACL フィールドがチェックされ、アクセスしようとしているユーザーにアクセス権があるかを確認します。そのユーザーが許可された組織またはロールにあるか、あるいは許可された個人ユーザーかをチェックすることを意味します。ReadACL フィールドは、「データベース」、「編集」 ページで設定します。

詳細

このページには、検索サーバーの管理および操作に関する詳細設定が含まれます。ここでは、ユーザークエリー、インデックスのメンテナンス、リソース記述の管理、およびデバッグ用のそれぞれのログファイルを設定します。

表 F-3 サーバーの詳細設定属性

属性	デフォルト値	説明
検索 (rdm)	<code>/var/opt/SUNWps/https-serv ername/portal/logs/rdm.lo g</code>	エンドユーザーが作成したデータベースのクエリーを記録します。「検索ログを無効にする」チェックボックスをオンにすると、このログは記録されません。 オフにした場合、「ユーザークエリー (rdm)」 レポートは表示できません。

表 F-3 サーバーの詳細設定属性

属性	デフォルト値	説明
検索ログを無効にする	False (チェックボックスがオフ) - 有効	クエリーログの使用を制御します。 レポートセクションでは、このログを基に、最もよく使用されるクエリーを一覧表示したレポートを作成します。 値： <ul style="list-style-type: none"> • チェック - 無効 • チェック解除 - 有効。ユーザークエリは、すべてこのログに入力されます。
インデックスのメンテナンス	/var/opt/SUNWps/https-serv ername/portal/logs/search engine.log	検索エンジンに関連するトランザクションを記録します。リソースの記述の登録は記録されません。
RD マネージャ	/var/opt/SUNWps/https-serv ername/portal/logs/rdmgr. log	ロボットまたはインポートエージェントからデータベースへ登録したリソースの記述を記録です。このログは、RD マネージャ (rdmgr) レポートとして表示されます。
RDM サーバー	/var/opt/SUNWps/https-serv ername/portal/logs/rdmserv er.log	RDM トランザクション上のデバッグ情報を記録します。詳細レベルは、Log Level で制御します。このログは、RDM サーバー (rdmsvr) レポートとして表示されます。
ログレベル	1	RDM サーバーログファイルに含まれる詳細情報の量を制御します。 レベルは、2、10、20、50、100 および 999 に設定可能。 1 (デフォルト) に設定すると、重要なエラーのみが記録される。値を大きくするほど、RDM サーバーのログファイルに含まれる情報が詳細になります。

ロボット

ロボットのプロパティは、非常に複雑です。検索 (クローリング) するサイトを決めたら、そのサイトが有効かどうかを確認し、取得するドキュメントのタイプを決め、検索を行うスケジュールを決めます。

このセクションは、次の各項目で構成されています。

- コントロール

- サイト
- クローリング
- インデックス作成
- シミュレータ
- サイトプローブ
- スケジュール

コントロール

ロボットコントロールパネルでは、ロボットのオフ、アイドル状態、実行中、または一時停止という動作状況を確認できます。また実行中には、およそ 30 秒おきにパネルを再表示するので検索作業の進捗状況を確認できます。リフレッシュレートは、`search.conf` ファイルの `robot-refresh` パラメタを使用して定義します。

右上の 2 つのボタンは、それぞれの状態に適したものです。ロボットがオフの場合、ボタンは「開始」または「ステータスの削除」になります。「実行中」または「アイドルリング」状態の場合は、ボタンは「終了」または「一時停止」になります。「一時停止」状態の場合、ボタンは「終了」または「再開」になります。「属性」ボタンのいずれかを選択すると、「レポート」セクションに切り替え、その属性の最新の詳細レポートが得られます。

表 F-4 ロボットコントロール属性

属性	デフォルト値	説明
ロボットは	現在の状態	ロボットの状態。値は、アイドル、実行中、一時停止、またはオフが表示されます。
更新時刻	最後に再表示した日時	このページが再表示され、ロボットの作業の進捗状況を表示します。
開始位置	選択された数値	検索対象に選んだサイト数。サイトは「ロボット」、「サイト」ページでは、無効(検索されない)になります。

表 F-4 ロボットコントロール属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
URL プール	待機中の URL の数	調査する URL の数。検索を開始すると、開始位置の URL が URL プールに入力されます。検索作業が進行すると、ロボットは他の URL へのリンクを発見します。これら URL はプールに追加されます。プールの中のすべての URL が検索されると、URL プールは空になり、ロボットはアイドル状態になります。
抽出	秒あたりの接続数	1 秒あたりに参照されたリソース数。 抽出とは、データベースに取り込むリソース、ドキュメント、またはハイパーリンクを発見し、不要な項目をフィルタリングするプロセスです。
フィルタリング	拒否された URL 数	除外された URL 総数。
インデックス作成	秒あたりの URL 数	1 秒間にリソースの記述に変換されたリソースまたはドキュメント数。 インデックス作成とは、検索データベースに取り込むために、ドキュメントに収集されたすべての情報をリソースの記述に変換するフェーズです。
除外 URL	フィルタによって除外された URL 数 エラーによって除外された URL 数	フィルタリング条件を満たさなかった URL 数。 ロボットでファイルが見つからないというエラーが検出された URL 数。
リソースの記述	提供された RD の数 提供された RD のバイト数	データベースに追加されたリソースの記述の数。 データベースに追加されたバイト数。
全体の状態	取得された URL の数 RD の平均サイズのバイト数 稼働時間 (日数、時間、分および秒)	実行中に取得された URL の数。 リソースの記述あたりの平均バイト数。 ロボットを実行した時間数。

サイト

このセクションの最初のページには、検索可能なページが表示されます。

ラジオボタンを使用して、サイトを「オン」または「オフ」にできます。ロボットを実行しても、オフにしたサイトは検索されません。「編集」リンクは、検索サイトを定義する方法を変更するページを表示します。

サイトを削除するには、チェックボックスをオンにして、「削除」をクリックします。

新しいサイトを追加するには、「新規」をクリックします。URL またはドメインをテキストボックスに追加し、検索の深さを選択します。「作成」を選択すると、デフォルト値を使用して作成します。または、非デフォルト値を使用するために、サイトの作成と編集をクリックし、「編集」ページへ進み検索サイトを定義します。

表 F-5 ロボット管理サイト属性

属性	デフォルト値	説明
サイトを選択する チェックボックス	チェックされていない	チェックを解除 - 選択されない チェックする - 選択される
ロックまたはクラスタ グラフィック	サイトの状態	開いたロックは、URL にアクセス可能なことを意味します。閉じられたロックは、サイトが安全な Web サーバであり、SSL を使用していることを意味します。クラスタとは、サイトがドメインであることを意味します。
オンまたはオフ	オン	ロボットが実行しているときに、このサイトを検索するか、しないかを選択します。

「新規サイト」ページでは、インデックスを作成するサイト全体の設定ができません。

表 F-6 ロボットの新規サイト属性

属性	デフォルト値	説明
新規サイト	URL	URL の形式は、 <code>http://www.sesta.com</code> です。 ドメイン の形式は、 <code>*.sesta.com</code> です。

表 F-6 ロボットの新規サイト属性

属性	デフォルト値	説明
深さ	10	この URL のみは 1、URL と最初のリンクは 2、さらに、3～10、または「無制限」から選択。デフォルト値は、「ロボット」、「クローリング」ページで設定します。

編集ページでは、検索サイトをより詳細に定義できます。サーバータイプの指定、検索の深さの再定義、および検索データベースに追加するファイルタイプの指定ができます。URL とドメインサイトの属性は、大部分は同一です。このテーブルに追加されている列では、どの属性が共有され、どれが固有のものかを表示します。

このページでは、多くのアクションが実行されます。入力した検索サイトのサーバー名を確認できます。「サーバーグループ」セクションで「追加」をクリックすると、サーバーグループにさらにサーバーを追加できます。「開始点」セクションで「追加」をクリックすると、開始位置をさらに追加できます。「フィルタ定義」セクションでは、特定のタイプのファイルを追加または削除、除外または取り込むことができ、これらのファイルに適用するフィルタの順序も変更できます。これらのアクションの詳細については、第 8 章「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。

表 F-7 ロボットのサイト編集属性

属性	URL またはドメイン	デフォルト値	説明
サイトのニックネーム	URL/ドメイン	入力されたサイト www.sesta.com	最初のページに表示される名前。デフォルトは、入力された URL またはドメイン。この名前をここで変更できます。
削除または確認するサイトを選択するチェックボックス	URL/ドメイン	チェックされていない	チェックを解除 - 選択されない チェックする - 選択される

表 F-7 ロボットのサイト編集属性(続き)

属性	URL またはドメイン	デフォルト値	説明
サーバーグループ - 名前	URL	URL - www.sesta.com	単一サーバーまたは単一サーバーの一部です。エントリーにはホスト名の全体が含まれている必要があります。ホスト名だけを指定すると、そのホストだけにサイトが制限されます。ホスト名に加えてディレクトリ情報を入力すると、サイトはそのディレクトリおよびすべてのサブディレクトリとして定義されます。
ドメインサフィックス	ドメイン	入力されたドメインは、*.sesta.com	*.sesta.com のように、ドメイン内のすべてのサーバーを含みます。
ポート	URL/ドメイン	80 URL の場合、ドメインでは空白	検索中のサイトが別のポートを使用する場合は、そのポートを入力します。
タイプ	URL	Web サーバー	Web サーバー、ファイルサーバー、FTP サーバー、セキュアファイル Web サーバー
許可されたプロトコル	ドメイン	すべてのチェックボックスをチェック	http、file、ftp、https チェックボックス
開始位置 - 削除するサイトを選択するためのチェックボックス	URL/ドメイン	チェックされていない	チェックを解除 - 選択されない チェックする - 選択される
開始位置 - URL	URL/ドメイン	http:// URL:80	URL またはドメイン
開始位置 - 深さ	URL/ドメイン	10	1 は、この URL のみ 2 は、この URL と最初のリンク 3-10 無制限
フィルタ定義 - 削除するファイルのタイプを選択するためのチェックボックス	URL/ドメイン	チェックされていない	チェックを外す - 選択されない チェックを入れる - 選択される

表 F-7 ロボットのサイト編集属性(続き)

属性	URL またはドメイン	デフォルト値	説明
フィルタ定義	URL/ ドメイン	デフォルトの順番：アーカイブファイル、オーディオファイル、バックアップファイル、バイナリファイル、CGI ファイル、イメージファイル、Java、JavaScript、スタイルシートファイル、ログファイル、レビジョンコントロールファイル、ソースコードファイル、一時ファイル、ビデオファイル。	選択可能なファイルは次のとおりです：アーカイブファイル、オーディオファイル、バックアップファイル、バイナリファイル、CGI ファイル、イメージファイル、Java、JavaScript、スタイルシートファイル、ログファイル、パワーポイントファイル、レビジョンコントロールファイル、ソースコードファイル、一時ファイル、ビデオファイル、スプレッドシートファイル、プラグインファイル、ロータスドミノドキュメント、ロータスドミノ OpenView、システムディレクトリ (UNIX)、システムディレクトリ (NT)。
コメント	URL/ ドメイン	空白	サイトの説明を記述するテキストフィールド。ロボットはこれを使用しません。
DNS 変換	URL	空白	DNS 変換は、ドメイン名または別名を <code>cname</code> に変換し、URL およびクロージングの方法を変更します。形式： <code>alias1->cname1,alias2->cname1</code>

利用可能なすべてのフィルタが一覧表示されます。この一覧は、「ロボット」の「フィルタ」にあるものと同じです。それぞれのフィルタ名の前には、ドキュメントタイプを選択するためのチェックボックスと、フィルタルールをオン、オフするための2つのラジオボタンが付いています。

チェックボックスにチェックを入れると、そのフィルタが選択され削除することができます。新規のフィルタを追加するには「新規」をクリックします。新規フィルタのページは「編集」ページを簡略化したもので、必要なのは1つの「ニックネーム」と1つのルールだけです。もう1つのオプションとしてリンクが

の「編集」リンクがあります。これを選択すると、特定のファイルタイプに対する規則やフィルタの動作を定義するためのページへ移動します。それぞれの規則は、フィルタソースのドロップダウンリスト、検索条件のドロップダウンリスト、および詳細を入力するテキストボックスで構成されています。

表 F-8 ロボットのフィルタ編集の属性

属性	デフォルト値	説明
ニックネーム	新しい名前を入力するプロンプト。編集に選択するファイルタイプのファイル名。	そのフィルタを適用するファイルタイプを反映する、明確な名前。
フィルタソースのドロップダウンリスト	新規フィルタでは URL。そのファイルタイプ用に、以前に選択された情報が表示される。	URL、プロトコル、ホスト、パス、MIME type
選別基準のドロップダウンリスト	新規のフィルタでは is。そのファイルタイプ用に、以前に選択された情報が表示される。例えば、バイナリファイルでは exe で終わる (ends with)。	「である (is)」、「を含む (contains)」、「で始まる (begins with)」、「で終わる (ends with)」、「正規表現 (regular expression)」
フィルタ文字列別テキストボックス (ディレクトリ、プロトコル、ファイル拡張子)	新規フィルタの場合は空白。そのファイルタイプ用に、以前に入力された情報が表示される。例えば、/tmp/ を含む (contains) 一時ファイル。	このテキストボックスに、一致させる項目をリスト表示します。例えば、 http://docs.sesta.com/manual.html で一致する項目。 プロトコルは http である。ホストに sesta を含む。ファイル名が html で終わる。
説明	新しい説明を入力するプロンプト。以前入力したそのファイルタイプの説明が表示される。	フィルタ規則の説明。ロボットはこれを使用しません。
新規サイト	新規フィルタの場合は、True (オンになっている)。そのファイルタイプ用に以前に選択された値が表示される。	これは新規サイトを作成する場合、デフォルトフィルタの 1 つとして使用するときに使います。このチェックをオンにしなくても、「ロボット」、「サイト」ページでサイトを編集してこのフィルタを新規サイトに追加できます。

表 F-8 ロボットのフィルタ編集の属性

属性	デフォルト値	説明
デフォルト	新規フィルタの場合は何も選択されていない。定義済みのフィルタタイプ用に、以前に選択されたデフォルト。	このフィルタに一致するドキュメントを除外します。 このフィルタに一致するドキュメントを含めません。 新規フィルタ用の選択は、既存のサイト定義には影響しません。新規フィルタを既存のサイトに使用するには、「ロボット」、「サイト」 ページでサイトを編集して追加します。
配備	このフィルタを使用するサイトが一覧表示される。	

クローリング

このページの設定によって、ロボットのオペレーションパラメータとデフォルトを制御します。速度、完了のアクション、ログファイルの設定、標準への準拠、認証パラメータ、プロキシ、詳細設定、およびリンクの抽出のセクションに分けられます。これらの属性の設定の詳細は、第 8 章「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。

表 F-9 ロボットのクローリング属性

属性	デフォルト値	説明
サーバー遅延	遅延なし	遅延なし (デフォルト)、1 秒、2 秒、5 秒、10 秒、30 秒、1 分、5 分。
最大接続数 - 同時に取得する URL 数の最大値	8	1、2、4、8 (デフォルト)、10、12、16、20。
サイトあたりの最大接続数	2	(無制限)、1、2、4、8、10、12、16、20。
RD を送信して全てのインデックスを作成 (RD を送信する間隔)	30 分	3 分、5 分、10 分、15 分、30 分 (デフォルト)、1 時間、2 時間、4 時間、8 時間。
起動スクリプト	なし (デフォルト)	なし (デフォルト)。サンプルファイルは、 <code>/opt/SUNWps/samples/robot</code> ディレクトリ (デフォルトのインストール) の <code>cmdHook</code> ファイルを参照してください。

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
すべての URL の処理後	アイドル (デフォルト)	アイドル状態になる (デフォルト)、シャットダウン、やり直し。
連絡先の電子メール		電子メールアドレスを入力します。
ログレベル	1 - 生成	0 エラーのみ、1 生成 (デフォルト)、2 列挙、変換、3 フィルタリング、4 作成、5 取得。
ユーザーエージェント	SunONERobot/6.0	検索サーバーのバージョン
robots.txt プロトコルを無視	false (チェックボックスがオフ)	サーバーの中には、robot.txt ファイルにロボットによる検索を拒否する記述をしたものがあります。このファイルを持つサイトに遭遇した場合、属性が偽の時はロボットはそのサイトを検索しません。この属性が True の場合、ロボットはファイルを無視してそのサイトを検索します。
認証の実行		はい いいえ
ロボットのユーザー名		ロボットは匿名ユーザー名を使用して、サイトにアクセスします。
パスワード		匿名ユーザーを認めるサイトの多くは、パスワードとして電子メールアドレスを要求します。このアドレスはプレーンテキスト。
プロキシユーザー名		ロボットは匿名ユーザー名を使用してサイトにアクセスします。
パスワード		匿名ユーザーを認めるサイトの多くは、パスワードとして電子メールアドレスを要求します。このアドレスはプレーンテキストです。
プロキシ接続タイプ	インターネットに直接接続	インターネットに直接接続、プロキシ - 自動設定、プロキシ - 手動設定
自動プロキシ設定 - 8	ローカルプロキシファイル	ローカルプロキシファイル、リモートプロキシファイル

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
自動プロキシ設定 - 位置	空白	自動プロキシのファイルには、必要なプロキシ情報すべての一覧があります。 ローカルプロキシファイルの例は、 robot.pac を参照。リモートプロキシファイルの例は、 http://proxy.sesta.com:8080/proxy.pac を参照。
手動プロキシ設定 - HTTP プロキシ	空白	形式 : <code>server1.sesta.com:8080</code> これら 3 つの手動設定値は、 <code>/var/opt/SUNWps/https-servername/portal/config</code> ディレクトリにある <code>robot.pac</code> ファイルに書き込まれます。
手動プロキシ設定 - HTTPS プロキシ	空白	この手動設定値は、 <code>robot.pac</code> ファイルに書き込まれます。 形式 : <code>server1.sesta.com:8080</code>
手動プロキシ設定 - FTP プロキシ	空白	この手動設定値は、 <code>robot.pac</code> ファイルに書き込まれます。 形式 : <code>server1.sesta.com:8080</code>
HTML のリンクを追跡 最大リンク数	True (チェックボックスがオン) 1024	HTML からハイパーリンクを抽出 1 つの HTML リソースから、ロボットが抽出できるリンク数を制限します。ロボットがサイトを検索すると、他のリソースへのリンクも発見するため、場合によっては多数のリンクをたどって、元の開始位置から極端に離れたリンクまで追ってしまう可能性がある。
プレーンテキストのリンクを追跡 最大リンク数	False (チェックボックスがオフ) 1024	プレーンテキストからハイパーリンクを抽出します。 1 つのテキストリソースから、ロボットが抽出できるリンク数を制限するします。

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
Cookie を使用する	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックを入れる) の場合、ロボットはクローリングの際に <code>cookie</code> を使用する。 <code>cookie</code> を使用しないと、正常にナビゲートできないサイトも存在します。 <code>cookie</code> はロボットの状態ディレクトリにある <code>cookies.txt</code> ファイルに保存されません。 <code>cookies.txt</code> の形式は、Netscape™ Communicator のブラウザで使用されている形式と同一。
IP をソースとして使用	True (チェックボックスがオン)	ほとんどの場合、ロボットはリソースのドメイン名だけを対象に動作します。場合によっては、インターネットプロトコル (IP) アドレスによるサブネットに基づいて、フィルタリングまたは分類を可能にする必要もあります。この場合、ドメイン名に加えて IP アドレスの取得も、ロボットに対して明示的に許可する必要があります。IP アドレスを取得するには、DNS をさらに検索する必要があるため、ロボットの動作速度が低下します。必要のない場合は、このオプションをオフにするとパフォーマンスが向上します。
ホストの発見的解決	False (チェックボックスがオフ)	<p>チェックを入れる場合、ロボットはサーバーが使用する共通の代替ホスト名を単一の名前に変換します。この設定は、1つのサイトが同じアドレスの別名として、複数のサーバーを持っている場合に最も有益である。例えば、<code>www.sesta.com</code> というサイトには他にも、<code>www1.sesta.com</code>、<code>www2.sesta.com</code> などの名前を持つ場合があります。</p> <p>このオプションをオンにすると、<code>wwwn</code> (この <code>n</code> は任意の整数) で始まるすべてのホスト名を内部で <code>www</code> に変換します。この属性はホスト名が <code>wwwn</code> で始まる場合にのみ有効です。</p> <p>この属性は CNAME 解決が オフ (False) の場合は使用できません。</p>

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ホスト名を CNAME に解決	False (チェックボックスがオフ)	<p>True の場合、ロボットは検出したすべてのホスト名の妥当性検査を行い、標準的なホスト名に変換します。これは、ロボットが固有の RD を正確に追跡できるようにするためです。False (チェックを外す) の場合、ロボットはホスト名の妥当性検査は行いが、標準的なホスト名への変換は行いません。このため、ロボットが検出したそれぞれのホスト名に重複する RD がリストされる場合があります。</p> <p>例えば、<code>devedge.sesta.com</code> は、<code>developer.sesta.com</code> のエイリアス。CNAME 解決がオンの場合、<code>devedge.sesta.com</code> として参照された URL は、<code>developer.sesta.com</code> で検出されたものとして一覧表示されます。CNAME 解決がオフの場合、RD は参照元である <code>devedge.sesta.com</code> を保持します。</p> <p>ホストの発見的解決は、CNAME 解決がオフ (False) の場合には有効にできません。</p>
すべてのホストからのコマンドを受け入れる	False (チェックボックスがオフ)	<p>ロボットの持つ制御機能のほとんどは、TCP/IP ポート経由で動作します。この属性によって、ロボットがローカルホストからのコマンドだけを受け入れるか (False)、あるいはネットワーク上からのコマンドをすべて受け入れる (True) かを設定します。</p> <p>推奨設定は、ロボットの直接制御をローカルホストに限定 (False)。この場合でも、管理コンソールによるロボットの遠隔制御は可能です。</p>
デフォルトの開始位置の深さ	10	<p>1- 開始位置のみ、2- ブックマークスタイル、3～10、無制限</p> <p>ロボットがすべての開始位置からたどって行く、ハイパーリンクレベルのデフォルト値。「ロボット」、「サイト」ページでのサイトの編集により、どの開始位置に対しても深さの設定が可能です。</p>

表 F-9 ロボットのクロール属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ワークディレクトリ	<code>/var/opt/SUNWps/https-servernamefull/portal/tmp</code>	ロボットがデータを保存するために使用する、一時的なワークディレクトリのフルパス名。ロボットは、多数のドキュメントの全内容を取得してこのディレクトリに保存するため、ディレクトリには一度に大量のドキュメントを扱うのに十分な容量が必要です。
状態ディレクトリ	<code>/var/opt/SUNWps/https-servernamefull/portal/robot</code>	ロボットが訪問した URL のリスト、URL プールなどの状態情報を保存するために使用する、一時ディレクトリのフルパス名。このデータベースのサイズは、かなり大きくなる可能性があるため、ワークディレクトリとは異なるパーティションに置くことを推奨します。

インデックス作成

ロボットはサイトを検索し、選択されたフィルタを基準にドキュメントを収集します。様々な形式のドキュメントが収集されます。ドキュメントを統一し、読みやすい1つの形式にしたのが HTML です。このページでは、各リソースの記述に関連するいくつかの部分を設定します。

表 F-10 ロボットのインデックスの属性

属性	デフォルト値	説明
完全なテキストまたは部分的なテキスト	部分的なテキスト	完全なテキストの場合、リソースの記述には完全なドキュメントを使用。部分的なテキストの場合、リソースの記述にはドキュメントの内から、指定されたバイト数だけを使用します。
最初に抽出バイト数	4096	バイト数を入力します。
目次を抽出	True (チェックボックスがオン)	True の場合、リソースの記述に目次を含めます。
META タグのデータを抽出	True (チェックボックスがオン)	True の場合、リソースの記述に META タグを含めます。

表 F-10 ロボットのインデックスの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ドキュメントコンバータ	すべてにチェックが入っている (True)。False の場合、そのタイプのドキュメントは、インデックスが作成されない。	Adobe PDF Corel Presentations Corel Quattro Pro FrameMaker Lotus Ami Pro Lotus Freelance Lotus Word Pro Lotus 1-2-3 Microsoft Excel Microsoft Powerpoint Microsoft RTF Microsoft Word Microsoft Works Microsoft Write WordPerfect StarOffice™ Calc StarOffice™ Impress StarOffice™ Writer XyWrite
コンバータのタイムアウト	600	1 つのドキュメントを HTML に変換するために費やす時間の許容値 (秒単位)。この時間を超過した場合、その URL は除外されます。

シミュレータ

このページは、URL に対するロボットのフィルタリングを、部分的にシミュレートするデバッグツールです。新規の URL を入力してチェックすることができます。URL、DNS 変換 (ホストの発見的解決を含む)、およびサイトリダイレクトをチェックします。URL で指定されるドキュメントの内容はチェックしません。このため、重複、MIME タイプ、ネットワークエラー、許可などは検出しません。シミュレータは、一覧にあるサイトをロボットが受け入れる (同意) か、受け入れない (拒否) かを表示します。

表 F-11 ロボットシミュレータのプロパティ

属性	デフォルト値	説明
URL	定義済みの URL、および空白のテキストボックス	空白のテキストボックスに URL を入力して、新規サイトへのアクセスをチェックできる。新規のサイトがクローリングを許可するかチェックします。 形式: <code>http://www.sesta.com:80/</code>
DNS エイリアスのチェック	True (チェックボックスがオン)	True (チェックを入れる) の場合、同じアドレスのエイリアスになっているサーバーの数をチェックします。
サーバーのリダイレクトをチェック (302)	True (チェックボックスがオン)	True (チェックを入れる) の場合、サーバーのリダイレクトをすべてチェックします。

サイトプローブ

このページは、DNS エイリアス、サーバーのリダイレクト、および仮想サーバーをチェックするデバッグツールです。このツールは、サイトに関する情報は返しますが、そのサイトがクローリングを許可するかどうかのテストは行いません。

表 F-12 ロボットのサイトプローブの属性

属性	デフォルト値	説明
サイト	空白	<code>http://www.sesta.com:80</code> の形式で URL を入力します。

表 F-12 ロボットのサイトプロブの属性

属性	デフォルト値	説明
DNS 情報の詳細を表示	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックを入れる) の場合、IP アドレスを含む、サイトに関する詳細な情報を表示します。

スケジュール

このページで、ロボットの自動検索スケジュールを設定し、cron ジョブを起動します。

表 F-13 ロボットのスケジュールの属性

属性	デフォルト値	説明
ロボットの始動 - 時間 (時 : 分)	00:00	ロボットが検索を開始する時間。
曜日	選択されていない	日、月、火、水、木、金、または土 少なくとも1つの曜日をチェックします
ロボットを停止する時間 (時 : 分)	00:00	ロボットを連続して作動させる場合でも、毎日1回はロボットを停止し、再スタートすることをお勧めします。これにより、ロボットはリソースを解放して初期化することが可能になります。
曜日	選択されていない	日、月、火、水、木、金、または土
クローンのステータス	現在の状態を表示	オフ オン

データベース

データベースの属性は、以下のように分割されています。

- インポート
- 編集
- スキーマ
- インデックスの再作成

- 破棄
- 期限切れ
- 分析
- スケジュール

注 データベースを分割する場合、検索サーバーの停止が必要になるため、コマンド行機能を使用する必要があります。

インポート

インポートエージェントとは、他のサーバーまたはデータベースからリソースの記述を取得し、検索データベースにマージするためのプロセスです。

「インポート」ページの最初に、利用可能なインポートエージェントの一覧があります。新規作成、実行、編集、および既存エージェントの削除が可能です。チェックボックスを使って、削除するエージェントを選択します。すべてのインポートエージェントの選択または選択解除を行うには、チェックボックスの上にある小さなアイコンを使います。ラジオボタンを使って、エージェントの動作をオンまたはオフにします。インポートエージェントをスケジュールするには、下側メニューバーの「スケジュール」を選択します。

既存のインポートエージェントの編集または変更、あるいは新規エージェントの作成を選択した場合、以下の属性が表示されます。

表 F-14 データベースのインポートの属性

属性	デフォルト値	説明
インポート元	選択されていない	ローカルファイルか検索サーバーのいずれかを選択します。
ローカルパス	新規の場合は空白	有効なリソース記述が SOIF (Summary Object Interchange Format) 形式で記述されているローカルファイルのフルパス名を指定する。そのパスが、ローカルにマウントされたようにアドレスの指定が可能ならば、このファイルは別のサーバーに存在させることができます。

表 F-14 データベースのインポートの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
リモートサーバー	新規の場合は空白	リソースの記述を取得する対象になっている検索サーバーの URL。 形式: <code>http://www.sesta.com:80</code>
インスタンス名	新規の場合は空白	検索サーバーが使用するサーバーのインスタンス名。このインスタンス名は、インポート元のサーバーの「サーバー設定」にある。この値は常に 3.01C か 3.01C SP1 のどちらかにする必要があります。
検索 URI	新規の場合は空白	完全パスとファイル名を入力します。 <code>/portal/search</code> を使用します。
コンパスサーバーは 3.01X ですか?	False (チェックボックスがオフ)	インポート元のサーバーは、コンパスサーバー 3.01X かどうかを指定します。
SSL の有効化	False (チェックボックスがオフ)	これがサーバー間のトランザクションの場合、サーバーが SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用する必要があるかどうかを選択します。
認証	なし (デフォルト)	「なし」(デフォルト) または「ユーザー / パスワード認証を使用」 インポート元のシステムに対して、インポートエージェントが認証を示す方法をここで指定する。デフォルトの場合、認証は使用されない。インポート元のサーバーが認証を要求する場合、インポートエージェントが使用するユーザー名およびパスワードを指定する。3.01C からのインポートには認証不要。3.01C SP1 からのインポートには認証が必要です。
ユーザー	新規および使用しない場合は空白	「ユーザー / パスワード認証を使用」を選択した場合はユーザーを入力します。
パスワード	新規および使用しない場合は空白	「ユーザー / パスワード認証を使用」を選択した場合はパスワードを入力します (* が表示される)。

表 F-14 データベースのインポートの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
コンテンツの転送	「フルコンテンツの増分収集を使用」(デフォルト)	<p>「コンテンツの増分収集を使用」(デフォルト)または「検索クエリの使用」を選択します。</p> <p>これにより、どのリソースの記述をソースからインポートするかを指定します。</p> <p>デフォルトの場合、インポートエージェントは、同じソースから最後にインポートしてから追加または変更された、すべてのリソースの記述をインポートすることを要求します。</p> <p>検索クエリはインポートエージェントに、特定のリソースの記述だけを、ソースからインポートすることを要求するように指定します。これは、ユーザーが検索データベースに対して、リソースリストを要求するのと同様方法です。</p> <p>「範囲」、「表示属性」、および「表示ヒット」のフィールドを使用してクエリを指定します。</p>
範囲	新規の場合は空白	クエリのテキスト。クエリの構文は、サーバーからのエンドユーザークエリに使用されるものと同一です。使用できる全構文については、第8章「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。
表示属性	新規の場合は空白	リソースの記述の中からインポートされるフィールド(大文字、小文字は区別しない)の一覧が表示されます。例えば、題名および作成者。デフォルトはすべて表示(All)です。
表示ヒット	新規の場合は空白	インポートするリソースの記述に一致する最大数です。ヒットを指定しない場合のデフォルトは20です。
エージェントの記述	新規の場合は空白	「インポート」ページの最初にある、利用可能なインポートエージェントの一覧に表示されます。プログラムはこれを無視します。このフィールドが空白の場合、「リソースの記述のソース」のファイル名またはサーバー名が、インポートエージェントの識別に使用されます。ユーザー名およびパスワードが必要か確認してください。

表 F-14 データベースのインポートの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
最新のリソースの記述	新規の場合は空白	このインポートエージェントによって以前インポートされた、最新のリソースの記述が作成された日付。「フルコンテンツの増分収集を使用」オプションは、この日付を使用して最新のリソースを確認し、インポートすべきか決定します。
ネットワークタイムアウト (秒)	新規の場合は空白	ネットワークの接続を、インポートエージェントがタイムアウトさせるまでの秒数を指定します。ネットワークのトラフィックおよび品質の変動を考慮して調整します。
文字セット	新規の場合は空白	入力 SOIF ストリームの文字セットを指定します。たとえば、ISO8859-1、UTF-8、UTF-16 などがあります。ISO8859-1 から ISO8859-15 までの文字セットが使用できません。

編集

編集機能を使用して、データベースにある「リソースの記述」を編集します。例えば、RD の誤植の修正をしたり、ロボットが検出した RD を手動でカテゴリに割り当てたりすることができます。

表 F-15 データベースの編集属性

属性	デフォルト値	説明
検索対象	すべての RD	すべての RD、カテゴリ化されていない RD、カテゴリ化された RD、カテゴリごとの RD、URL 特定の RD、RD を検索
テキストボックス	空白	検索対象の RD を識別するために固有の文字列を入力します。カテゴリごとの RD、URL 特定の RD、および RD を検索で使用します。

検索が成功すると、見つかった RD の件数が表示され、テキストボックスにその RD の一覧が表示されます。1 つの RD を選択すると、下表の属性 (編集可能) および RD の部分的なテキストが表示されます。「分類 (Classification)」以外の属性は、すべて「データベース」、「スキーマ」ページで編集可能です。

表 F-16 データベース RD の編集可能な属性

属性	デフォルト値	説明
分類 (Classification)	選択した RD のカテゴリ名	分類されている場合はカテゴリ名、分類されていない場合は「分類なし (No Classification)」。
ReadACL	空白	ドキュメントレベルのセキュリティに関連。
説明 (Description)	選択した RD から取得した説明	RD の説明
キーワード (Keyword)	キーワードがあれば選択した RD から取得される	メタタグから取得したキーワード
タイトル (Title)	選択した RD のタイトル	RD のタイトル

スキーマ

スキーマによって、リソースの記述に含まれる情報、およびその情報の形式が決定されます。RD への新規の属性またはフィールドの追加や、編集およびインデックス作成の可否の設定が可能です。新規の RD をインポートする場合、新規 RD に組み込まれているスキーマを変換して取り込むことができます。

表 F-17 データベーススキーマの属性

属性	デフォルト値	説明
スキーマ	作成者	内部以外のスキーマのリスト: Author、Author-EMail、Content-Charset、Content-Encoding、Content-Language、Content-Length、Content-Type、Description、Expires、Full-Text、Keywords、Last-modified、Partial-Text、Phone、ReadACL、Title、URL

表 F-17 データベーススキーマの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
名前	作成者	選択されたスキーマの名前を表示します。 Author、Author-EMail、 Content-Charset、 Content-Encoding、 Content-Language、Content-Length、 Content-Type、Description、 Expires、Full-Text、Keywords、 Last-modified、Partial-Text、 Phone、ReadACL、Title、URL

表 F-17 データベーススキーマの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
説明	ドキュメントの作成者	これらの説明は、上記のスキーマ一覧に一致します。このテキストボックスはコメント記入用で、検索サーバーでは使用されません。 ドキュメントの作成者 ドキュメント作成者に連絡するための電子メールアドレス HTTP サーバーから取得した、コンテンツのキャラクタセットの情報 HTTP サーバーから取得した、コンテンツのエンコードの情報 HTTP サーバーから取得した、コンテンツの言語の情報 HTTP サーバーから取得した、コンテンツの長さの情報 HTTP サーバーから取得した、コンテンツのタイプの情報 ドキュメントについての、一行だけの簡単な説明 リソースの記述が無効になる日付 ドキュメントの全内容 ドキュメントを最も良く表すキーワード ドキュメントの最終更新日 ドキュメントから選択して抜粋した部分的テキスト 作成者の連絡先電話番号 検索サーバーがセキュリティを実行するために使用します。 ドキュメントのタイトル ドキュメントの URL または Web アドレス

表 F-17 データベーススキーマの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
エイリアス	空白	新規の RD をインポートする場合、新規 RD に組み込まれているスキーマの変換が可能です。この変換は、インポートするデータベースのスキーマと、データベースの RD 用スキーマで使用されているフィールド名が矛盾する場合に使用します。例えば、インポートした RD は作成者のフィールドに Writer を使用しているが、データベースの RD は Author を使用している場合があります。 Writer を Author に変換する必要があるため、このテキストボックスに Writer と入力します。
編集可能	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックを入れる) の場合、選択された属性 (フィールド) がデータベースの RD エディタに表示され、値の変更が可能になります。 説明、キーワード、タイトル、および ReadACL は編集が可能です。
インデックス作成可	True (チェックボックスがオン)	True (チェックを入れる) の場合、選択した属性 (フィールド) を基準にしてインデックスが作成されます。 エンドユーザー用の「詳細検索」画面のメニューに、「作成者」、「タイトル」、および URL が表示されます。これによりエンドユーザーは、これらの特定のフィールドで値を検索することができます。 作成者 (Author)、期限切れ (Expires)、キーワード (KeyWords)、最終更新日 (Last Modified)、タイトル (Titles)、URL、および ReadACL はインデックス作成の基準に使用できます。

インデックスの再作成

スキーマを編集してインデックスを作成したフィールドを (作成者として) 追加または削除した場合、ディスクエラーでインデックスが壊れた場合、または大量のリソースの記述を追加した場合には、データベースのインデックスを再作成する必要があります。

データベースのインデックスの再作成に要する時間は、データベースに含まれる RD の数に比例します。大型のデータベースでは、サーバーの負荷が低い時にインデックスの再作成を行う必要があります。

ロボットは必ず停止させておきます。

表 F-18 データベースのインデックス再作成の属性

属性	デフォルト値	説明
データベースのインデックスを再作成しますか？	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックを入れる) の場合、データベースのインデックスが再作成されます。

破棄

このページでデータベースのコンテンツを破棄することができます。これによって、インデックス用のディスク領域は回復しますが、メインデータベースのディスク領域は回復できません。これは、この領域が新規のデータを追加したときに再利用されるためです。

表 F-19 データベースの破棄の属性

属性	デフォルト値	説明
データベースを破棄しますか？	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックを入れる) の場合、データベースのデータすべてが削除されます。

期限切れ

このオプションは、古いと見なされた RD を削除します。データベースのサイズは減少しません。デフォルトの場合、RD は作成された日から 90 日で期限切れになるように設定されます。

表 F-20 データベースの期限切れの属性

属性	デフォルト値	説明
RD を期限切れにしますか	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックを入れる) の場合、期限切れになった RD だけがデータベースから削除されます。

分析

「保存」をクリックすると、すべてのサイトのソート済みリストと、現在検索データベースにあるサイトのリソースの数が表示されます。

表 F-21 データベース分析属性

属性	デフォルト値	説明
RD の総数	データベースの現在の RD の数	現在データベースにあるリソースの記述の数を表示します。
サーバー数	パーティション分割されたデータベースが配置されているサーバーの現在の数。	データベースは、パーティション分割して複数のサーバーに配置することが可能です。
サイト	ロボットが検索に成功した URL またはドメイン。	データベースにリソースの記述を追加した URL またはドメイン。
RD の数	そのサイトの現在の RD の数。	そのサイトから取得した現在の RD の数を表示します。
タイプ	RD のタイプ	リソースの記述には、http 等の様々なタイプがあります。
割合	そのタイプの RD の数を RD の総数で割った比率	リソースの記述の総数に対して、このタイプが占める割合。

スケジュール

このページで「クローロン (Cron)」ジョブを設定し、インポートエージェントの実行スケジュールを調整します。

表 F-22 データベースのインポートスケジュールの属性

属性	デフォルト値	説明
インポート開始時間 (時 : 分)	00:00	インポートエージェントがインポートを開始する時間。
曜日	選択されていない	「日 - 土」 少なくとも1つの曜日をチェック
クローンのステータス	現在の状態を表示	オフ オン

カテゴリ

エンドユーザーは、2つの別な方法で検索データベースと対話します。クエリーを直接入力してデータベースを検索する方法と、カスタムなカテゴリセットを使用してデータベースコンテンツ経由でブラウズする方法があります。検索データベースのリソースにカテゴリを割り当てると、複雑さを解消できます。データベースに多数の項目がある場合には、関連する項目をグループ化すると便利です。カテゴリの設定を行う際には特に使いやすさを考慮し、特定の項目をエンドユーザーが素早く見つけられるようにします。

検索サーバーは分類と呼ばれるカテゴリの階層を使用します。一般的に「分類」という言葉は、すべてのカテゴリ化方式を表します。検索サーバーデータベースのようなネットワーク型リソースデータベースの場合は、取得をしやすくするために選択された、ネットワークリソースをカテゴリ化する方法を示します。

「カテゴリ」のトピックは、以下のサブトピックに分割されています。

- カテゴリエディタ
- 分類ルールエディタ
- 再インデックスの作成

カテゴリエディタ

このページで、リソースの分類に使用するカテゴリの作成、または修正ができません。詳細については、『*Sun ONE Portal Server 6.0 Administrator's Guide*』の第8章「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。

表 F-23 カテゴリエディタの属性

属性	デフォルト値	説明
名前	新規または選択されたカテゴリの名前	Search (検索データベースの名前) には、子 (Child) のカテゴリだけしか持ってません。
説明	空白	説明を入力します。

分類ルールエディタ

データベース用のカテゴリを設定したら、ロボットがリソースをカテゴリに割り当てるために使用するルールの設定または変更をこのページで行います。詳細については、第8章「検索エンジンサービスの管理」を参照してください。

表 F-24 カテゴリ分類規則エディタの属性

属性	デフォルト値	説明
ルール	空白	定義済みルールの一覧を表示します
ドロップダウン1	作成者	作成者 (Author)、電子メールの作成者 (Author-EMail)、コンテンツの文字セット (Content-Charset)、コンテンツのエンコード (Content-Encoding)、コンテンツの言語 (Content-Language)、コンテンツの長さ (Content-Length)、コンテンツのタイプ (Content-Type)、説明 (Description)、期限切れ (Expires)、完全なテキスト (Full-Text)、キーワード (Keywords)、最終更新日 (Last-modified)、部分的なテキスト (Partial-Text)、電話番号 (Phone)、ReadACL、タイトル (Title)、URL、ホスト (host)、プロトコル (protocol)、URI、IP、パス (path)、タイプ (type)
ドロップダウン2	is	「である (is)」が次と等しい場合、「を含む (contains)」が次を含む場合、「で始まる (begins with)」が次から始まる場合、「で終わる (ends with)」が次で終わる場合、「正規表現 (regular expression)」が次の正規表現と一致する場合
テキストボックス1	空白	選択したドロップダウンのに関連する文字列を入力します。

表 F-24 カテゴリ分類規則エディタの属性

属性	デフォルト値	説明
「右のカテゴリに分類」	利用可能なカテゴリの一覧。	いずれか1つのカテゴリを選択して規則を完成させます。

再インデックスの作成

分類を作成したら、データベースのインデックスを作成し、エンドユーザーがカテゴリ検索を利用できるようにする必要があります。カテゴリを変更した場合には、インデックスを再作成してカテゴリを最新の状態にする必要があります。データベースのインデックスを再作成する前に、カテゴリツリーを保存します。

表 F-25 カテゴリのインデックス再作成の属性

属性	デフォルト値	説明
カテゴリツリーのインデックスを作成しますか？	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックを入れる) の場合、定義したカテゴリに基づいて、データベースのインデックスが作成されます。

レポート

「レポート」のセクションで、検索サーバーをモニタすることができます。検索されたサイト、除外された URL と除外の理由、ロボットが訪問した URL の詳細情報、およびエンドユーザーの興味などの概要を見ることができます。

「レポート」のトピックは、以下のサブトピックに分割されています。

- 開始位置
- 除外された URL
- ロボットの詳細レポート
- ログファイルの表示
- 頻度の高い検索

開始位置

ロボットは、始動するたびにすべての有効なサイトを訪問します。

表 F-26 レポートの開始位置の属性

属性	デフォルト値	説明
有効化	サイトの現在値	はいまたはいいえ 「ロボット」、「サイト」 ページで設定。
開始位置	選択された URL:80	選択された URL がへのリンク
サイト定義	選択された URL	「ロボット」> 「サイト」 編集ページへリンク
深さ	選択された検索レベル。	「ロボット」> 「サイト」 編集ページで設定された。1-n の値

除外された URL

このページには、ロボットの実行結果の一覧が表示されます。URL が除外された理由のリストを表示するには、ロボット実行を選択し、「選択内容の表示」をクリックしてから、「除外の理由」の1つを選択します。その理由で除外された URL のリストが表示されます。重複および警告によって除外された URL は削除されています。

表 F-27 レポートの除外された URL の属性

属性	デフォルト値	説明
ログ	最新の実行ログの一覧	利用可能な実行ログすべての一覧。
カウント	数字	除外された数、および除外理由の一覧。
除外の理由	サイトが許可されなかった理由の一覧。それぞれの理由は、その理由で除外されたすべての URL の一覧にリンクされている。	URL が除外された理由には、フィルタールール、ファイルが見つからない、サイトが許可されない、プロトコルが許可されない、エラー、重複などがあります。

ロボットの詳細レポート

このページで、ロボットが生成する様々なレポートにアクセスできます。ドロップダウンリストからレポートを選択して情報を表示します。「再表示 (Refresh)」ボタンを押すと、最新の情報が表示されます。

表 F-28 ロボットの詳細レポートの属性

属性	デフォルト値	説明
詳細ロボットレポート	バージョン	バージョン (Version)、DNS キャッシュダンプ (DNS Cache Dump)、パフォーマンス (Performance)、検出されたすべてのサーバー (Servers Found-All)、検出された RDM サーバー (Server Found-RDM)、現在の構成状態 (Status-Current Configuration)、データベース (内部) の状態 (Status -Database (internal))、Libnet の状態 (Status-Libnet)、モジュールの状態 (Status -Modules)、状態の概要 (Status-Overview)、抽出準備の完了した URL (URLs-ready for extraction)、インデックス作成準備の完了した URL (URLs-ready for indexing)、フィルタリング待ちの URL (URL プール) (URLs- waiting for filtering (URL pool))、インデックス作成待ちの URL (URLs-waiting for indexing)、全レポート (all reports)。

ログファイルの表示

ログファイルのエントリまたは特定の行を表示します。ログファイルの一覧をドロップダウンします。「表示」ボタンを選択したときに、表示する行数を入力します。

表 F-29 レポートのログファイル表示の属性

属性	デフォルト値	説明
このログファイルを表示	除外された URL (filter)	除外 URL、RD マネージャ (rdmgr)、RDM サーバー (rdmsvr)、ロボットの活動 (robot)、検索エンジン (searchengine)、ユーザークエリ (rdm)
行数	25	ログファイルの表示する最近のエントリ数を指定します。

頻度の高い検索

このページで、ユーザーが何を検索しているかを見ることができます。最も頻度の高い検索が、レポートの先頭に表示されます。

表 F-30 頻度の高い検索の属性

属性	デフォルト値	説明
参照の除外	False (チェックボックスがオフ)	False (チェックを外す) の場合、ユーザーが参照したカテゴリを含めます。真 (チェックを入れる) の場合、参照の統計を除外します。

スキーマリファレンス

この付録では、Sun™ ONE Portal Server LDAP スキーマ定義のリファレンスを記載しています。

この付録には、次の節があります。

- Sun ONE Portal Server デスクトップスキーマ
- Sun ONE Portal Server NetMail スキーマ
- Sun ONE Portal Server 検索スキーマ

Sun ONE Portal Server デスクトップスキーマ

デフォルトインストールの psDesktop.ldif ファイルは、/opt/SUNWps/export ディレクトリ内に置かれています。

コード例 G-1 デスクトップスキーマ

```
#
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.
#
#
# Sun ONE Portal Server (iPS) Desktop Service Schema
# Last Modified October 2001
#

dn: cn=schema
changetype:modify
add:attributeTypes
```

コード例 G-1 デスクトップスキーマ (続き)

```

attributeTypes: ( sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName-oid NAME
'sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpIsValidating-oid NAME
'sunPortalDesktopDpIsValidating' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpNamespaceURL-oid NAME
'sunPortalDesktopDpNamespaceURL' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopEditProviderContainerName-oid NAME
'sunPortalDesktopEditProviderContainerName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDpContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpUserContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDpUserContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName' DESC 'iPS Desktop
Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access
Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDebugContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDebugContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopServiceContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopServiceContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopSessionAppContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopSessionAppContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopSessionContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopSessionContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 G-1 デスクトップスキーマ (続き)

```

attributeTypes: ( sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDesktopContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDesktopContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopTemplateContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopTemplateContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopClientContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopClientContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopPropertiesContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopPropertiesContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs-oid NAME
'sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID-oid NAME
'sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDefaultChannelName-oid NAME
'sunPortalDesktopDefaultChannelName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopType-oid NAME 'sunPortalDesktopType' DESC
'iPS Desktop Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE
Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpDocument-oid NAME
'sunPortalDesktopDpDocument' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 G-1 デスクトップスキーマ (続き)

```

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpLastModified-oid NAME
'sunPortalDesktopDpLastModified' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopExecutable-oid NAME
'sunPortalDesktopExecutable' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpDocumentUser-oid NAME
'sunPortalDesktopDpDocumentUser' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalDesktopDpLastModifiedUser-oid NAME
'sunPortalDesktopDpLastModifiedUser' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

dn: cn=schema
changetype:modify
add:objectClasses
objectClasses: ( sunPortalDesktopPerson-oid NAME 'sunPortalDesktopPerson' DESC
'Sun ONE Desktop Service' SUP top AUXILIARY MAY (
sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName $ sunPortalDesktopDpIsValidating $
sunPortalDesktopDpNamespaceURL $ sunPortalDesktopEditProviderContainerName $
sunPortalDesktopDpContextClassName $ sunPortalDesktopDpUserContextClassName $
sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName $
sunPortalDesktopDebugContextClassName $
sunPortalDesktopServiceContextClassName $
sunPortalDesktopSessionAppContextClassName $
sunPortalDesktopSessionContextClassName $
sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName $
sunPortalDesktopDesktopContextClassName $
sunPortalDesktopTemplateContextClassName $
sunPortalDesktopClientContextClassName $
sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName $
sunPortalDesktopPropertiesContextClassName $
sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs $ sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID $
sunPortalDesktopDpDocument $ sunPortalDesktopDpLastModified $
sunPortalDesktopDefaultChannelName $ sunPortalDesktopType $
sunPortalDesktopExecutable $ sunPortalDesktopDpDocumentUser $
sunPortalDesktopDpLastModifiedUser) X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

Sun ONE Portal Server NetMail スキーマ

デフォルトインストールの psNetMail.ldif ファイルは、/opt/SUNWps/export ディレクトリ内に置かれています。

コード例 G-2 NetMail スキーマ

```
#
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.
#
#
# Sun ONE Portal Server (iPS) Netmail Service Schema
# Last Modified October 2001
#

dn: cn=schema
changetype:modify
add:attributeTypes

attributeTypes: ( sunPortalNetmailIMAPServerName-oid NAME
'sunPortalNetmailIMAPServerName' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailSMTPServerName-oid NAME
'sunPortalNetmailSMTPServerName' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailDefaultMailDomain-oid NAME
'sunPortalNetmailDefaultMailDomain' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailRootFolder-oid NAME
'sunPortalNetmailRootFolder' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailSentMessagesFolder-oid NAME
'sunPortalNetmailSentMessagesFolder' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailReplyWithAuthor-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyWithAuthor' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailReplyWithDate-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyWithDate' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )
```

コード例 G-2 NetMail スキーマ (続き)

```

attributeTypes: ( sunPortalNetmailReplyWithBody-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyWithBody' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailIndentPrefix-oid NAME
'sunPortalNetmailIndentPrefix' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailAddSignature-oid NAME
'sunPortalNetmailAddSignature' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailInitialHeaders-oid NAME
'sunPortalNetmailInitialHeaders' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailInactivityInterval-oid NAME
'sunPortalNetmailInactivityInterval' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailMaxAttachLen-oid NAME
'sunPortalNetmailMaxAttachLen' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailAutoload-oid NAME 'sunPortalNetmailAutoload'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailAutosave-oid NAME 'sunPortalNetmailAutosave'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailAutopurge-oid NAME
'sunPortalNetmailAutopurge' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailAutoFolderLoad-oid NAME
'sunPortalNetmailAutoFolderLoad' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailMultipleReadWindows-oid NAME
'sunPortalNetmailMultipleReadWindows' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 G-2 NetMail スキーマ (続き)

```

attributeTypes: ( sunPortalNetmailSortKey-oid NAME 'sunPortalNetmailSortKey'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailViewKey-oid NAME 'sunPortalNetmailViewKey'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailComposeWinBounds-oid NAME
'sunPortalNetmailComposeWinBounds' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailFolderWinBounds-oid NAME
'sunPortalNetmailFolderWinBounds' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailReadWinBounds-oid NAME
'sunPortalNetmailReadWinBounds' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailGridHeight-oid NAME
'sunPortalNetmailGridHeight' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailGridColWidths-oid NAME
'sunPortalNetmailGridColWidths' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailTextColor-oid NAME
'sunPortalNetmailTextColor' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailBackgroundColor-oid NAME
'sunPortalNetmailBackgroundColor' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailTextSize-oid NAME 'sunPortalNetmailTextSize'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailTextStyle-oid NAME
'sunPortalNetmailTextStyle' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 G-2 NetMail スキーマ (続き)

```

attributeTypes: ( sunPortalNetmailHeadersPerPage-oid NAME
'sunPortalNetmailHeadersPerPage' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailNewestFirst-oid NAME
'sunPortalNetmailNewestFirst' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailNoPrefsList-oid NAME
'sunPortalNetmailNoPrefsList' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailLDAPServers-oid NAME
'sunPortalNetmailLDAPServers' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailIMAPUserid-oid NAME
'sunPortalNetmailIMAPUserid' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailIMAPPassword-oid NAME
'sunPortalNetmailIMAPPassword' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailReplyToAddress-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyToAddress' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailSignature-oid NAME
'sunPortalNetmailSignature' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailFavoriteFolders-oid NAME
'sunPortalNetmailFavoriteFolders' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailPersonalAddressBook-oid NAME
'sunPortalNetmailPersonalAddressBook' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalNetmailExecutable-oid NAME
'sunPortalNetmailExecutable' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 G-2 NetMail スキーマ (続き)

```

attributeTypes: ( sunPortalNetmailLogMessages-oid NAME
'sunPortalNetmailLogMessages' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

dn: cn=schema
changetype:modify
add:objectClasses
objectClasses: ( sunPortalNetmailPerson-oid NAME 'sunPortalNetmailPerson' DESC
'Sun ONE NetMail Service' SUP top AUXILIARY MAY (
sunPortalNetmailIMAPServerName $ sunPortalNetmailSMTPServerName $
sunPortalNetmailDefaultMailDomain $ sunPortalNetmailRootFolder $
sunPortalNetmailSentMessagesFolder $ sunPortalNetmailReplyWithAuthor $
sunPortalNetmailReplyWithDate $ sunPortalNetmailReplyWithBody $
sunPortalNetmailIndentPrefix $ sunPortalNetmailAddSignature $
sunPortalNetmailInitialHeaders $ sunPortalNetmailInactivityInterval $
sunPortalNetmailMaxAttachLen $ sunPortalNetmailAutoload $
sunPortalNetmailAutosave $ sunPortalNetmailAutopurge $
sunPortalNetmailAutoFolderLoad $ sunPortalNetmailMultipleReadWindows $
sunPortalNetmailSortKey $ sunPortalNetmailViewKey $
sunPortalNetmailComposeWinBounds $ sunPortalNetmailFolderWinBounds $
sunPortalNetmailReadWinBounds $ sunPortalNetmailGridHeight $
sunPortalNetmailGridColWidths $ sunPortalNetmailTextColor $
sunPortalNetmailBackgroundColor $ sunPortalNetmailTextSize $
sunPortalNetmailTextStyle $ sunPortalNetmailHeadersPerPage $
sunPortalNetmailNewestFirst $ sunPortalNetmailNoPrefsList $
sunPortalNetmailLDAPServers $ sunPortalNetmailIMAPUserid $
sunPortalNetmailIMAPPassword $ sunPortalNetmailReplyToAddress $
sunPortalNetmailSignature $ sunPortalNetmailFavoriteFolders $
sunPortalNetmailPersonalAddressBook $ sunPortalNetmailExecutable $
sunPortalNetmailLogMessages) X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

Sun ONE Portal Server 検索スキーマ

デフォルトインストールの psSearch.ldif ファイルは、/opt/SUNWps/export ディレクトリ内に置かれています。

コード例 G-3 検索スキーマ

```

#
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.
#
#

```

コード例 G-3 検索スキーマ (続き)

```
# Sun ONE Portal Server (iPS) Search Service Schema
# Last Modified April 2002
#
dn: cn=schema
changetype:modify
add:attributeTypes

attributeTypes: ( sunPortalSearchInstances-oid NAME `sunPortalSearchInstances'
DESC `iPS Search Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN `Sun
ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalSearchSelectedInstances-oid NAME
`sunPortalSearchSelectedInstances' DESC `iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN `Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalSearchExecutable-oid NAME
`sunPortalSearchExecutable' DESC `iPS Search Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN `Sun ONE Access Management' )

attributeTypes: ( sunPortalSearchAdminExecutable-oid NAME
`sunPortalSearchAdminExecutable' DESC `iPS Search Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN `Sun ONE Access Management' )

dn: cn=schema
changetype:modify
add:objectClasses
objectClasses: ( sunPortalSearchPerson-oid NAME `sunPortalSearchPerson' DESC
`Sun ONE Search Service' SUP top AUXILIARY MAY ( sunPortalSearchInstances $
sunPortalSearchExecutable $ sunPortalSearchAdminExecutable $
sunPortalSearchSelectedInstances) X-ORIGIN `Sun ONE Access Management' )
```

索引

A

- ACI 48, 49
 - 委任管理者ロール 84
 - 設定の定義 85
- amadmin 40, 284
- amconsole 42
- amserver 42
- assign-source
 - ロボットアプリケーション関数 255
- assign-type-by-extension
 - ロボットアプリケーション関数 256

B

- batch
 - dpadmin 304
 - dpadmin のスクリプトファイル 304

C

- channel
 - par 316
- clear-source
 - ロボットアプリケーション関数 256
- cookie
 - 検索 407

- cron ジョブ
 - 検索 412, 422
- csid 339

D

- d または --dn 299
- database-name 340
- database-root 340
- db2ldif 275
- debug-loglevel 340
- DIT 48
- DN 122, 127, 136, 305
 - par 316
- Document Type Definition (DTD) 346
- dpadmin 40, 156
 - add 157, 297
 - available 301
 - batch 304
 - channel 301
 - continue 304
 - dryrun 147, 157
 - file 引数 157
 - list 148, 157, 160, 286
 - modify 157, 160, 167, 288
 - modify、combine 163, 167, 169, 288, 289
 - name オプション 158, 160, 300
 - parent オプション 158, 289, 298, 300
 - property 301

- provider 301
- remove 148, 157, 166, 168, 169, 300
- selected 301
- type 300, 302
- オプションの要約 306
- ガイドライン 158
- グローバル 157
- 削除 165
- 追加 162
- 長い名前の形式 285
- バージョン 306
- バッチスクリプトファイル 304
- ファイルオプション 305
- ファイル引数 290, 298
- ヘルプ 306
- 短い名前の形式 285
- ルート 301
- dp-anon.xml 144
- dp-org.xml 144, 146
- dp-org-final.xml 144
- dp-providers.xml 144
- dryrun 147, 157
- DTD 346
 - 属性 120
 - ディスプレイプロファイル 368
 - リライタルールセット 371
- DTD の advanced 属性 121

F

- filter-by-exact
 - ロボットアプリケーション関数 251
- filter-by-max
 - ロボットアプリケーション関数 252
- filterrules-setup
 - ロボットアプリケーション関数 249
- fuse 129, 132

H

HTML

- リライタ JavaScript トークンルール 186
- リライタアプレットルール 188
- リライタ属性ルール 186
- リライタフォームルール 187
- リライタルール 185

I

iPlanet Directory Server Access Management Edition

- 管理 29, 34
- サービス 46, 345
- 制約 40
- ツリー 47

- ipsadmin 40

J

- jar ファイル 317

JavaScript

- DHTML パラメータ 191
- DHTML 変数 190
- DJS パラメータ 192
- DJS 変数 190
- EXPRESSION 変数 189
- URL パラメータ 191
- 関数パラメータ 190
- システム変数 190
- リライタ変数規則 189
- リライタルール 186, 188

L

- LDAP 111, 122, 127, 136, 140

- 認証 68
- 認証の設定 70

ldapmodify
 ACI の定義 85
ldif2db 276
Line of Business 82
lock 121

M

merge 122

N

NetMail 47, 173, 346
 概要 173
 管理 173
 記述 26
 サービス定義 354
 サービステンプレートの作成 175
 スキーマ 433
 属性の修正 176, 177
 登録 174
 ポリシー 175
 ポリシーの作成 77
 ポリシーの割り当て 175
 リモートアドレス帳の使い方 178
NetMail Lite 173
 新規ウィンドウの表示設定 177
NFS 152

P

par
 auto 314
 auto オプション 311
 channel 316
 class、エクスポートファイルの行プロパ
 ティ 315
 containers 309, 316

 describe 309
 directory 315
 DN 316
 dpnode 316
 entry 315, 316
 export 310
 import 311
 path 314
 provider 316
 root 314
 selected 316
 上書き 311
 クラスファイル 317
 グローバルヘッダー 317
 識別名 316
 自動抽出 309, 311, 318
 avail 316
 静的コンテンツファイル 317
 説明、エクスポートファイルの行プロパティ 315
 操作 315
 置換 311
 追加 310, 311
 ディスプレイプロファイル 317
 長い名前の形式 308
 名前付きエントリのヘッダー 318
 名前の変更 312
 ファイルのインポート 105
 ファイルのエクスポート 105
 ファイルの管理 105
 ファイルの作成 105
 ファイルの修正 106
 ファイルの配置 105
 プロパティ 317
 短い名前の形式 308
 リスト 309
 ルートディレクトリ 318
 ロケール 311
 更新 310
par ファイル 105, 317
priority 122
propagate 122
provider
 class ディレクトリ 338
 par 316

R

RD 200, 218

期限切れ 223

データベースのインデックス再作成 222

データベースの最適化 225

データベースのパージ 223

データベース分析の表示 221

RD エディタ 219

rdmgr 225

query 327

RD サブコマンド 324

RD の置き換え 324

RD の挿入 324

進行状況 326, 330

すべてのデータベースの復元 328

属性ビューリスト 325, 330

データベースの削除 329

データベース保守サブコマンド 328

バージョン 332

ヘルプ 332

マージ 324

文字 326

リソース記述サブコマンド 324

ReadACL

検索 417

remove

チャンネル 135

マジタイプ 129, 130, 135

replace 129, 131

robot-refresh、検索 342

robots.txt 405

rwadmin 40

get 321

list 320

remove 321

store 320

オプションの要約 322

長い名前の形式 319

短い名前の形式 319

S

selected

par 316

sendrdm 332

リクエストファイル 333

server root、検索 342

setup-regex-cache

ロボットアプリケーション関数 249

setup-type-by-extension

ロボットアプリケーション関数 250

SSL

検索 414

サポートする Portal Server の変更 272

スクレイパのためのリライタの設定 194

ディレクトリサーバーの設定 270

Portal Server のインスタンスの設定 273

Portal Server の設定 269, 270

StartRobot 334

Summary Object Interchange Format (SOIF) 200

U

-u または --runasdn 299

UNIX

認証の構成 74

URL

ゲートウェイアドレスの接頭辞として指定 183

検索サーバーの定義 204

収集 182

ポータル 42

リダイレクトログイン 101

URL の収集 182

URLScrapperProvider 182

制限 182

W

-w または --password 299

Web

コンテナ 22

X

XML

タグテキスト 192
リライタ属性 193
リライタルール 192

XML ヘッダー、適切な 157, 288, 297

あ

アクセス制御命令 (ACI) 48, 49
委任管理者ロール 84

アプレット

NetMail 385, 388
リライタルール 188

アップロード

ディスプレイプロファイル 147
リライタルールセット 196

い

イタリックフォント 19

委任された管理者 141

インスタンス

SSL の設定 273
プロキシを使用する設定 278

インデックスの再作成

カテゴリツリー 228
データベース 222

インポート

エージェントのスケジューリング 218
エージェントの作成 216
エージェントの実行 217
エージェントの編集 217

検索 413

検索データベース 215

う

上書き

par 311

え

エクスポートファイル
op 315

か

角括弧 19

確認、デスクトップログファイル 104

格納方法 94

カテゴリ

インデックスの再作成 228

検索 201

更新 226

子の作成 225

削除 227

シブリングの作成 226

設定 225

分類ルールの定義 227

検索 423

監視

検索活動 206

管理

NetMail 173

par ファイル 105

委任 81

委任されたロールの割り当て 88

委任の設定 85

委任のためのモデルの開発 84

- 委任のためのロール 82
- 委任ロールの作成 88
- インタフェース 40
- カテゴリ 225
- 検索 199, 205
- 検索操作 205
- 検索データベース 215
- 検索ロボット 207
- コンソール 29
- データベースの分類 225
- デスクトップ 91, 97
- ユーザー 47
- リライタ 193
- 委任されたロールの制限の設定 89

管理コンソール 41

- ログイン 42
- 移動 29

管理の委任 81

- 設定 85
- モデル 84
- 用語 81
- ロール 82
- ロールの作成 88
- ロールの制限の設定 89
- ロールの割り当て 88

き

キーワード

- ユーザー 136

期限切れ

- データベース 223

起動

- Portal Server 44
- ロボット 207

く

グローバル

- 属性 38, 102, 103
- ディスプレイプロファイル 142
- レベル 157
- ヘッダー、par 317
- クローリング
 - ロボットの制御 210
 - ロボットの属性 404

け

ゲートウェイ

- リライタの変換 183

検索 47, 345

- cron ジョブ 412, 422

- ReadACL 417

- robots.txt 405

- SSL 414

- インデックス作成 409

- インポート 413

- インポートエージェントのスケジューリングを設定する 218

- インポートエージェントの作成 216

- インポートエージェントの実行 217

- インポートエージェントの編集 217

- 概要 200

- 活動の監視 206

- カテゴリ 201, 423

- 管理 199, 205

- 記述 26

- 基本設定 205

- 設定の表示 205

- サーバー URL の定義 204

- サーバーの選択 393

- サーバールート 394

- サービス定義 367

- サイト 398

- 詳細設定 206

- スキーマ 417, 437

- スキーマエイリアス 420

- 設定 202

- 属性の表示 415

- データベース 200
- データベースのインポート 215
- データベースの管理 215
- データベース分析 422
- ドキュメントのセキュリティ 395, 417
- ドキュメント変換 410
- 頻度の高い検索 428
- 深さ 400
- プロキシ 405
- 分類 201, 423
- 分類ルール 424
- 文字セット 416
- レポート 425
- ログ 395, 427
- ログレベル 405
- ロボット 200
- ロボットの管理 207
- 構成ファイル 335
- 構成ファイルのパラメータ 339
- 構成ファイルのプロパティ 339
- 検索構成
 - csid 339
 - database-name 340
 - database-root 340
 - debug-loglevel 340
 - logfile 341
 - robot-refresh 342
 - server root 342
 - [ロボットコントロール] ページの更新 342

二

- 子
 - カテゴリを作成 226
- 更新
 - カテゴリ 226
 - ディスプレイプロファイル 158
- 構成ファイル 335
 - 検索 335
 - 検索パラメータ 339
 - 検索プロパティ 339

- デスクトップ 335
- デスクトッププロパティ 336
- パラメータ 336
- コマンド行
 - プロンプト 19
- コンテナ 92, 110, 143, 149, 155
 - par 316
 - 階層構造 93
 - チャンネル 92
 - 変更 288
 - 追加 297
- コンテンツプロバイダ 95

さ

- サーバーの選択
 - 検索 393
- サーバーリスト
 - Portal Server の追加 278
- サーバールート
 - 検索 394
- サービス
 - iPlanet Directory Server 46
 - iPlanet Directory Server Access Management Edition 345
 - NetMail 47, 346
 - NetMail テンプレートの作成 175
 - 管理 33, 35, 55
 - 検索 47, 345
 - サービスのテンプレートの作成 55
 - デスクトップ 46, 345
 - リライタ 47, 346
 - スキーマ 345
- 最上位組織 47
- 最適化
 - RD データベース 225
- サイト
 - 検索 398
- サイトプローブ 213
 - ロボットの実行 213
- 削除

カテゴリ 227
チャンネル 155, 166
プロバイダ 166
プロパティ 165

作成

NetMail ポリシー 77
par ファイル 105
委任管理ロール 88
検索データベースのインポートエージェント 216
子カテゴリ 225
サービスのテンプレート 55
サブ組織 52, 53
シブリングカテゴリ 226
組織 52, 53
デスクトップサービステンプレート 99
デスクトップポリシー 76, 100
ロール 56

サブ組織 48

作成 52, 53
定義のガイドライン 50

サポート関数のフィルタリング

ロボットアプリケーション関数 254

サンプル

デスクトップ 95

サンプル表示プロファイル

dp-anon.xml 144
dp-org.xml 144, 146
dp-org-final.xml 144
dp-providers.xml 144

サンプルポータル 144

し

識別名 122, 127, 136, 305

par 316

実行

検索データベースのインポートエージェント 217

自動抽出

par 318

シブリング

カテゴリの作成 226

シミュレータ

ロボットの実行 214

シャットダウン関数

ロボットアプリケーション関数 267

集合

追加 164

修正

par ファイル 106

チャンネル 154

デスクトップサービス属性 102, 103

手動によるロード

ディスプレイプロファイル 143, 145

シミュレータ 213

使用可能リスト

par 316

追加 298

変更 289

シングルサインオン (SSO) 35

す

スキーマ

検索 417

データベースの編集 219

データベース別名の定義 221

NetMail 433

検索 437

検索エイリアス 420

サービス 345

デスクトップ 429

スケジュール

検索データベースのインポートエージェント 218

せ

制御

ロボットのクローリング 210

生成関数

ロボットアプリケーション関数 263

- 静的コンテンツファイル 317
- セキュアソケットレイヤー (SSL) 269
- セキュリティ
 - ドキュメントレベル 395
- 設計
 - 組織 48
- 設定
 - LDAP 認証 70
 - NetMail 28
 - UNIX 認証 74
 - 委任管理ロールの制限 89
 - カテゴリ 225
 - 管理の委任 85
 - 検索 27
 - 検索サービス 202
 - ディレクトリサーバーの SSL 270
 - データベースの分類 225
 - データベースへのログイン 279
 - デスクトップ 26
 - 認証 68
 - ファイルへのログイン 279
 - プロキシを使用するインスタンス 278
 - Portal Server の SSL 269, 270
 - Portal Server のインスタンスの SSL 273
 - リライタ 28
 - 匿名認証 71
- セットアップ関数
 - ロボットアプリケーション関数 249
- 選択済みリスト
 - 追加 298
 - 変更 289

そ

- 属性
 - グローバル 38, 102, 103
 - 組織 38
 - デスクトップの修正 102, 103
 - 動的 38
 - ポリシー 38
 - ユーザー 38

- リライタ XML 193
- ロボットのインデックス作成の定義 212
- 属性の表示 415
- 組織 47, 48
 - 最上位 47
 - 作成 52, 53
 - 設計 48
 - 属性 38
 - 定義 36

た

- ダウンロード
 - ディスプレイプロファイル 147
 - リライタルールセット 196
- タグテキスト
 - リライタ 192
- タブ、新規 162

ち

- 置換
 - チャンネル 160
 - プロバイダ 290
 - プロパティ 161
- チャンネル 92, 110, 143, 149
 - remove 135
 - 削除 155, 166
 - サンプル 96
 - 修正 154
 - 置換 160
 - 追加 153, 162
 - デプロイメント 96
 - パッケージ 105
 - 変更 288
 - 追加 297

つ

追加

- コンテナ 297
- サーバーリストへの Portal Server 278
- 集合 164
- 使用可能リスト 298
- 選択済みリスト 298
- チャネル 153, 162, 297
- ディスプレイプロファイル 297
- プロバイダ 298
- プロパティ 163, 297
- ユーザー 55

ツール

- ロボット 213

ツリー

- 階層構造 49
- 平坦な構造 51

て

定義

- カテゴリ分類ルール 227
- データベーススキーマの別名 221
- ロボットのインデックス作成の属性 212
- ロボットのサイト 209

停止

- Portal Server 44
- ロボット 207

ディスプレイプロファイル

- root 113
- プロパティ 110
- 変更 159

ディスプレイプロファイル

- ユーザー 112
- 優先順位 128, 134, 135, 140, 128
- ルート 289

ディスプレイプロファイル

- DTD 368
- par 317
- root 129
- エラーメッセージ 159

階層構造 136

- グローバル 138, 142, 143, 144
- コンテナ 110, 116, 143
- サブ組織 143
- サンプル 144
- 組織 143
- ダイナミック 142
- チャネル 110, 115, 143
- 追加 297
- デフォルト 143
- プロバイダ 109, 113
- 変更 288
- 編集 170
- マージ 127, 128
- ルート 298
- ロード 143, 145
- ロール 143

ディスプレイプロファイルのマージ 127, 128

- fuse 129, 132
- remove 129, 130
- replace 129, 131

ディレクトリ情報ツリー (DIT) 36

データ区画 31

データベース

- RDの最適化 225
- インデックスの再作成 222
- 期限切れ 223
- 検索 200
- 検索のRDの取得 200
- 検索のインポート 215
- 検索の管理 215
- スキーマの別名の定義 221
- スキーマの編集 219
- パーティション 224
- 分析の表示 221
- 分類 201
- 分類の管理 225
- 分類の設定 225
- ロギング 279

適切なXMLヘッダー 157, 288, 297

デスクトップ 46, 92, 345

概要 92

- カスタマイズ 96
- 管理 91, 97
- 記述 25
- グローバル属性 103
- サービス 95
- サービス属性の修正 102, 103
- サービス定義 347
- サービステンプレート 141
- サービスの登録 98
- サブレット 113
- サンプル 22, 95
- デフォルトサービステンプレートの作成 99
- ポリシーの作成 76, 100
- ポリシーの割り当て 100
- 用語集 92
- リダイレクトログイン 101
- ログオン 78, 103
- ログファイル 104
- 構成ファイル 335
- 構成ファイルのパラメータ 336
- 構成プロパティ 336
- 構成プロパティ、provider class ディレクトリ 338
- スキーマ 429
- デスクトップ構成 . プロパティファイル 336
- デスクトップ構成プロパティ 336
- デバッグ
 - ロボットツール 213
 - Portal Server 280
- デバッグレベル
 - 設定 280
 - デスクトップ構成 337
- テンプレート
 - NetMail サービスの作成 175
 - 作成 55
 - デスクトップサービスの作成 99

と

- 動的属性 38
- 登録
 - NetMail 174
 - デスクトップサービス 98
- ドキュメント変換
 - 検索 410
- ドキュメントレベルのセキュリティ
 - 検索 395
- 匿名
 - 設定 71
- 匿名認証 68
 - セッション方式 73
 - ユーザー ID 方式 74
- 特権 48
- ドメイン 36

な

- 長い名前の形式
 - dpadmin 285
 - par 308
 - rwadmin 319
- ナビゲーション区画 31
- 名前付きエントリのヘッダー
 - par 318

に

- 設定
 - 認証メニュー 70
- 認証
 - UNIX の構成 74
 - 管理 33
 - コア 69
 - 設定 68
 - 匿名 68
 - 匿名の設定 72

メニュー 70
メンバーシップ 68

の

ノートプロバイダ 152

は

パーティション
RD データベース 224

配置 110

par ファイル 105
チャンネル 96

破棄

期限切れ RD 224

場所区画 31

バックアップ

Portal Server 275

パッケージ

チャンネルとプロバイダ 105

ディスプレイプロファイルのアップロード 147
ディスプレイプロファイルのダウンロード 147
ロギング 279

構成 335

ファイルのエクスポート
par 105

フィルタ

ロボットの定義 210
ロボットの定義の作成 211
ロボットの定義の修正 212
ロボットのデフォルト 210

フィルタリング関数

ロボットアプリケーション関数 250

フォーム

リライタルール 187

復元

Portal Server 276

プロキシ

検索 405

プロバイダ 92, 109, 149, 151

アーカイブ 97
コンテンツ 114

削除 166

置換 290

追加 298

パッケージ 105

ビルディングブロック 114

プロバイダアプリケーションプログラミングインタ
フェース (PAPI) 93

プロパティ 110, 149

par 317

階層構造 119

グローバル 118, 128

削除 165

参照 120

集合 120

整数 120

置換 161

追加 163, 297

デフォルト 118

伝搬 124

名前をつけない 123, 290

ひ

表示

検索設定 205

製品情報 44

データベース分析 221

ビルディングブロックプロバイダ 95

頻度の高い検索 428

ふ

ファイル

エクスポート 105

- ネスト 123
- ブール型 120
- 変更 289
- 文字列 120
- 分類 201
 - 検索 423
- 分類ルール
 - 検索 424

へ

- ベースドキュメント 136
- ヘッダー、適切な XML 157, 288, 297
- 変更
 - NetMail の属性 176, 177
 - SSL をサポートする Portal Server 272
 - ロボットフィルタ定義 212
- 編集 218
 - RD 218
 - 検索データベースのインポートエージェント 217
 - データベーススキーマ 219

ほ

- ポータル
 - Web コンテナ 22
 - 管理 29
 - 配置プラットフォーム 22
- ポリシー
 - NetMail の作成 175
 - NetMail の割り当て 175
 - NetMail の作成 77
 - 管理 75
 - 属性 38
 - 定義 39
 - デスクトップの作成 76, 100
 - デスクトップの割り当て 100
 - 割り当て 77
 - 管理 35

ま

- マルチノード 152

み

- 短い名前の形式
 - dpadmin 285
 - par 308
 - rwadmin 319

む

- 無効化
 - ロボットフィルタ定義 212

め

- メンバーシップ
 - 認証 68

も

- 文字
 - 検索 416
- 文字セット
 - rdmgr 326
- モノスペースフォント 18

ゆ

- 有効化
 - ロボットフィルタ定義 212
- 有効なパラメータ 248

- ユーザー
 - 管理 47
 - 既存の有効化 57
 - 設計 49
 - 属性 38
 - 追加 55
 - 管理 33, 35
- 優先順位 134, 135, 140
 - 変更 167
- 優先順位の変更 167
- 優先順位
 - 同じ 136
- ユーティリティ
 - par 105
 - ロボット 213

リ

- リソース記述 416, 200
- リダイレクト
 - ログイン 101
- リライタ 47, 181, 346
 - DHTML パラメータ 191
 - DJS パラメータ 192
 - HTML 属性ルール 186
 - HTML フォームルール 187
 - JavaScript URL パラメータ 191
 - JavaScript 関数パラメータ 190
 - JavaScript ルール 186, 188
 - XML コンテンツのルール 192
 - XML 属性 193
 - 管理 193
 - 記述 25
 - サービス定義 366
 - サポートされる URL 184
 - タグテキスト 192
 - デフォルトルールセット 373
 - ルールセット DTD 371
 - ルールセットのアップロード 197
 - ルールセットの作成 195

- ルールセットのダウンロード 196
- ルールセットの編集 196
- ルールとルールセットの定義 184
- SSL の URL スクレイパの設定 194
- アプレットルール 188
- 概要 181
- ゲートウェイ URL の接頭辞指定 183
- デフォルトルールセットの復元 197
- ルールセットの削除 197

る

- ルール
 - HTML リライタ 185
 - カテゴリ分類の定義 227
 - リライタ JavaScript 188
 - リライタ JavaScript トークン 186
 - リライタ XML コンテンツ 192
 - リライタアプレット 188
 - リライタの定義 184
 - リライタフォーム 187
- ルールセット 184
 - リライタデフォルトの復元 197
 - リライタのアップロード 197
 - リライタの削除 197
 - リライタの作成 195
 - リライタのダウンロード 196
 - リライタの編集 196

れ

- 列挙関数
 - ロボットアプリケーション関数 262
- レポート
 - 検索 425

ろ

- ルール 49
 - 委任管理の作成 88
 - 管理の委任 82
 - 管理の委任に対する制限の設定 89
 - 管理の委任の割り当て 88
 - 作成 56
 - 定義 37
 - 定義のガイドライン 50
 - 割り当て 57
- ルール管理者ルール 82
- ルールツリー 36
- ロギング 79
 - 属性 79
 - データベースへの設定 279
 - ファイルへの設定 279
- ログ
 - 検索 395, 427, 341
- ログレベル
 - ロボットのクローリング 405
- ロック 134, 140, 153
- ロボット 200
 - インデックス作成属性の定義 212
 - 開始位置 207
 - 管理 207
 - 起動 207
 - クローリングの制御 210
 - サイトの定義 209
 - サイトプロブユーティリティ 213
 - シミュレーション 213
 - シミュレータユーティリティ 214
 - 停止 207
 - フィルタ定義の無効化 212
 - フィルタ定義の有効化 212
 - フィルタ定義の作成 211
 - フィルタ定義の修正 212
 - フィルタの定義 210
 - ユーティリティ 213
 - クローリング 404
 - コントロール 397
 - ホストから制御 408

- ロボットアプリケーション関数
 - サポート関数のフィルタリング 254
 - シャットダウン関数 267
 - 生成関数 263
 - フィルタリング関数 250
 - 列挙関数 262
 - セットアップ関数 249

わ

- 割り当て
 - 委任管理ルール 88
 - デスクトップポリシー 100
 - ポリシー 77
 - ルール 57

